『PRIDE.14』5秒前!! 高山善廣の言葉を噛み砕け!!

紙のプロレス RADICAL

2001 38

長州戦後の独占咆哮!!
次の襲撃先はどこだ!!
小川直也

『PRIDE』のリング最後の
相手に小川直也を指名!!
髙田延彦

狂乱のプロレス絵巻から
浮かび上がった大命題!!
**「小川直也」は
是か非か!?**

破壊王の人生相談!!
大増量で遂にスタート!!
橋本真也

さまよえる
田村潔司を語れ!!
宮戸優光／田中正志

●ReMix第2弾完了特集
グンダレンコインタビュー
●谷津嘉章が日本マット界の
近未来を叩っ斬る! なっ!

驚愕!

髙田延彦の“忘れ物”の正体は小川直也!!

ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」

ノア'sテポドン
3連発!!
**力皇 猛
杉浦 貴
丸藤正道**

リアルIWGP王者
臨戦態勢!!
藤田和之

ヴォルク・ハン格闘術の秘密
E・ヒョードル

戦慄! 怒濤! 畏怖! 濃密インタビュー2連発!!

“1・4事変”の真実を語る
ジェラルド・ゴルドー

突破者人生を語り尽くす!!
阿修羅 原

パンクラス、タイタンファイトなど
総合格闘技の未来の情報も満載!

紙のプロレス RADICAL NO. 38
〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188

ホント最悪だったな。
まだ俺ブチのめされた
ほうがいいよね。
ハッキリすればいい!
ハッキリすれば!!

"5・5事変"にならない

"5・5事変"

小川組vs長州組から見えたものとは何だ!!

やっぱり強いヤツとやりたい!
誰かが言わなきゃいけない
というなら、俺が
言わせてもらう!!
見りゃあわかる
時代なんだよ!!

U.F.O.

5・5 小川と長州はどちらが孤独だったのか!!

孤独だ
孤独だ
孤独になるのだ!!
草も木もないジャングルに
今日も嵐が吹き荒れる
お互いのプライドがルールの
プロレスラー

力道山
ジャイアント馬場
アントニオ猪木
前田日明
佐山聡
記憶に残るプロレスラーは
みんな孤独と闘った
そんじょそこらの孤独じゃないぞ

だから小川直也よ
もっともっと孤独になれ!
常人なら気が狂うほどの孤独になれ
その孤独を克服した者が真の勇者だ

プロレスは個人競技だ
でも
協力関係で結ばれた
大きな意味での
仲間と一緒に組み上げていく
そういう中で
どうやって孤独になるんだ

そう、お互いのプライドがルールだ!
自分のプライドを
突き詰めれば
孤独になる

【写真右】ゴング前、小川はパンチからスリーパー！　それを凌いだ長州を、小川が張り手で挑発！　いつもより重心を下げ、両手を顔の前に出して構える長州は差し、タックルで小川に接近するが、小川も付き合わない　まさに精神的な間合い地獄を見るような緊迫感溢れる摩訶不思議な展開だ【写真中】パートナーの中西が小川にマウントを取られてるときにカットに入る長州。長州がこの試合でプロレス的な動きを見せたのは数少ない。【写真左】2・18のホームレスが、この日大富豪になって新日本の株を買い占めに来た！　なぜだ!?

揺るぎない
プロレス観を
身に纏えば
必ず孤独になる

耐えろ！
ハネのけろ!!
突き破れ!!!

5・5福岡ドーム
小川直也と長州力
リングの中で
どっちが孤独だったのか？
どっちが孤独になる覚悟があったのか

まだ勝負はついてない
小川直也よ
長州力よ
孤独を恐れない
勝負を見せてくれ！

俺の孤独感に比べれば
おまえの孤独感なんて
どうってことねえよ！

アントニオ猪木 vs ジャイアント馬場
前田日明 vs 佐山聡

まだ見ぬ
ゾクゾクするプロレスは
お互いの孤独感の
せめぎ合いだ！

孤独だ！
孤独だ!!
孤独になるのだ!!!

ところで孤独ってなんだ？

「まだブチのめされた方がよかった」？
覚悟して出てきた奴の目が泳ぐか？

小川直也

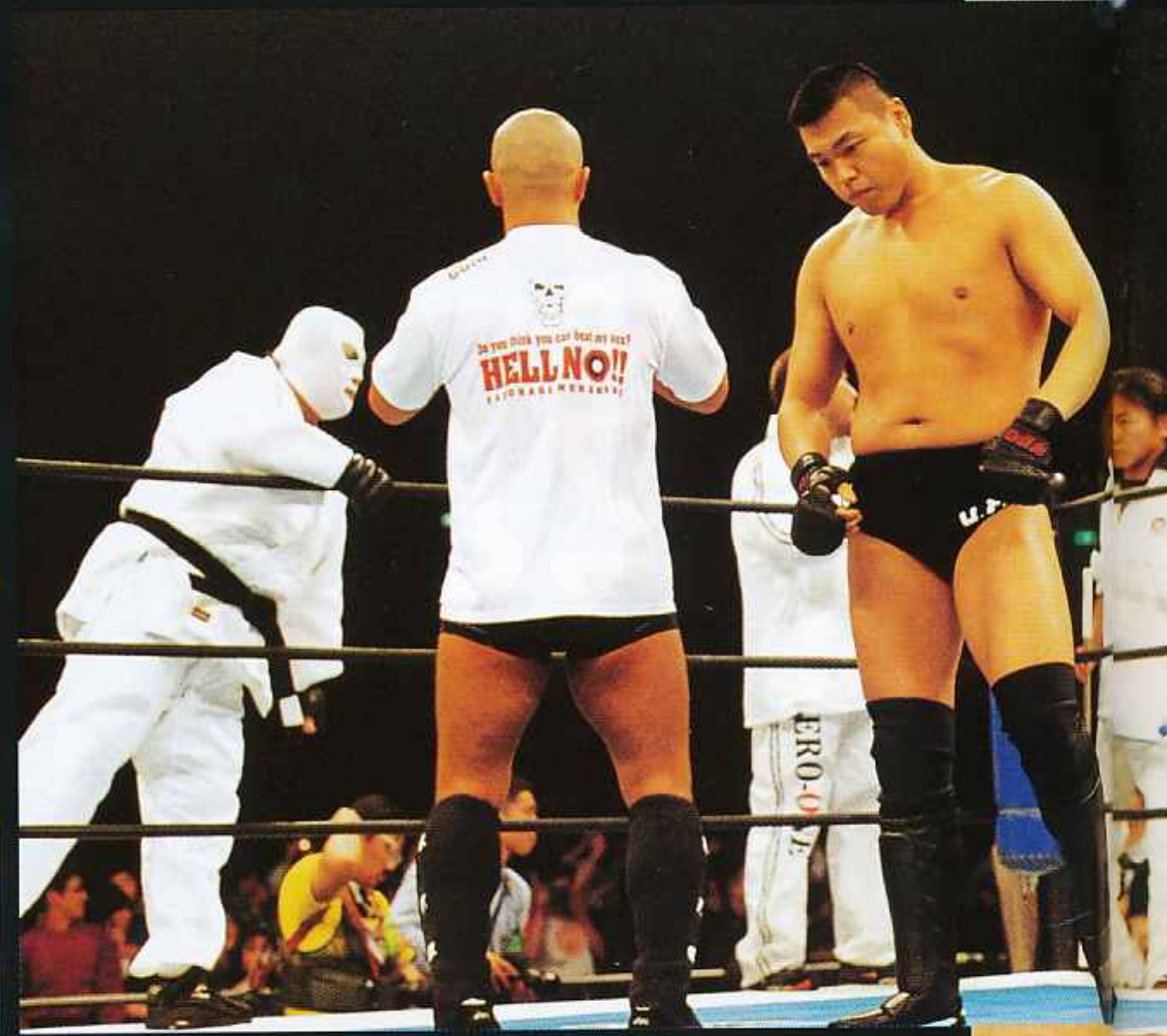
Naoya Ogawa

聞き手／山口日昇
撮影／吉場正和
designed by hisa（Two Three）

5・5長州との“最悪の心理戦”の後、

仰天!!

オーちゃん、五月病にかかる!!

そして陳謝三昧!! その後咆哮!!

5・5福岡ドーム。ゴールデンタイムで時間差中継されたこの日のメインを飾ったのは、やはりこの男だった。

小川直也&村上一成vs長州力&中西学。

99・1・4――。いわゆる“1・4事変”の大乱闘時に勃発したオーちゃんと、新・新日本プロレスの首領・長州力の熱く冷たい因縁。

その後、昨年の5月、ところは同じ福岡ドームで本家・白覆面が現れ両者の2度目のコンタクトがあった。

その後、長州は現役復帰。一騎打ちに流れは傾くかと思ったが、今年の4・9大阪ドームまで、因縁は凍結された。

その4・9で、オーちゃんが「長州、次は勝負だ、オラー!」と叫べば、長州も貫禄たっぷりに「小川! おまえの一番やりたいことやってやるから上がって来い!」と応戦。

何が起こるかわからない感がプンプンと充満したままのデンジャラス対決が、本当に実現してしまったのだ。

いきなりゴングが鳴るか鳴らないかのうちに、パンチからのバックマウント、そしてスリーパーで長州を締め上げる小川。それをなんとかロープブレイクで凌いだ長州は、いつもより重心を下げ、両手を顔の前に出したスタンスで入っていこうとしない。小川が挑発三昧! 長州は戦闘モードというよりは、ガチガチに守りを固める。アマレスの差し、タックルで小川を測ろうとするものの、両者は神経戦、心理戦に終始した。

試合は、村上が中西のアームロックに斬って取られたが、不器用で不自然なプロレスに場内は異様なムードに。

ファン、関係者の間でも侃々諤々の論議を巻き起こすことになった。

試合内容への不満、今後の展開に繋がらないことなど、確かに批判の対象になってもおかしくない一戦だったのだが、この不自然なプロレスこそ、むしろ〝自然〟な状態なのかもしれないという投げかけに対し、いろいろ考えを巡らすのも、プロレスの楽しみのうちだろう。現在の〝完成〟されたプロレスこそが、不自然なのかもしれないからだ。

いずれにしても、リングに上がる度に物議を醸すオーちゃんが、今年後半もマット界の中心になっていくのは間違いない。タイソン戦、高田延彦からの対戦表明、ZERO－ONEとの絡み、ノアへの殴り込みなど、話題に事欠かないオーちゃんの視線の先を、長州戦を振り返りながら探ってみた。

——今日はモーリー（UFO公式出入り禁止カメラマン）がいなくて、イジる人がいません（笑）。

小川　タイミング悪いよねぇ。モーリーのためにわざわざ持ってきたのに。Tシャツあげようと思って。

——あ、それはボクが代わりにもらっときます（笑）。奴はモルジブ行ってるらしいですよ。

小川　そのまま放浪でもしてればいいのにね。ああ見えてカメラマンなんでしょ、奴は（笑）。

——そうみたいですね（笑）。ところで、今日は聞きたいことが腐るほどあるんですよ（笑）。

小川　5・5が終わって、俺はこのところ虚ろな状態だったよ。う～ん、ある意味、五月病だったかな。まず、冒頭に言っときたいのは、ホントにファンの皆さん、申し訳ないッ！

——小川直也がいきなり謝罪！

小川　それだけは言っときたいなぁと。なにはともあれ、福岡まで来てくれた人には申し訳ない（ペコリと頭を下げる）。

——5・5は、いい意味でも悪い意味でも物議を醸す試合になりました。

小川　物議を醸してくれるだけでもありがたいですよ。興味があるから見てくれたんだから。

——興味津々だったでしょうね、ファンは。長州力が試合後に「ホント最悪だったよな」って言ってましたけど、小川さんも試合内容については最悪だと思ってるんですか？

小川　最悪だよね、ホントに。最悪しか出てこないよな、言葉が。プロとして、やりたいことが全然できなかった。

——試合後にマイクで「長州、張り合って来いよ」と非常にやるせない表情で言ってましたよね。

小川　ビジー待ち状態なのか、クリックしてもなんにも動かない！

——何度か試合の中ではクリックしたんですね。

小川　したね。だってあれだけ張り手喰らって遊ばれてたら、ふつう怒るでしょう。以前、天龍さんとやったときは、けっこう来てたんだけどね。最初に俺が仕掛けてるんだから、来りゃあいいんだよ。お互い、リングに入ったときからわかるじゃない。ヤツは目が泳いでたしね。それを見たとき、「ホントに試合する気あんのか、この野郎！」と思ったけどね。

まず冒頭に言っときたいのは、ホントにファンの皆さん、申し訳ない！

——試合後のコメントで、小川さんは「俺たちのレベルで言うと、申し訳ないけど選手としてはちょっと……」と発言してましたけど、長州監督の現在の力は組んだ瞬間にわかったんですか？

小川　瞬間っていうより、感覚だろうね。いままでの恨みつらみがあるけど、それはプロとして、全て試合としてリング上で表現すればいいと思ってたんだけどね。いろんな葛藤もあったよ、それは。客は「ボコボコにしろ」とか言ってるしね。そういう中で「やってやろうかな？」って瞬間に……映画とかで、追い込んだ相手に命乞いされて、「あ、俺はこんなヤツを追ってたのか」と思うようなシーンがあるじゃない。相手に情けをかけてクルッときびすを返して斬らずに帰るというような。そのシーンの感じで言うと、俺が背中を見せた瞬間にピストルでも向けてきたら、こっちもヒットしてやろうと思ってたんだけど、そういう感覚もなかったしね。なんか、ホントに命乞いされちゃったみたいな感じなんだよね。後味が悪いというかさ。

——長州力はピストルは隠してなかった。

小川　いや、一応隠してはあったんだけど、出せなかったんだろうな。1人で来なかったのは、そういうことだったんじゃねぇかって。「出したらやられる」みたいに感じてたんじゃないかな。

——確かにいつもと違うたたずまいでしたね、長州力は。緊張が伝わってきましたよ。

小川　中西はキョロキョロしてたしね。

——2人とも明らかにいつもと顔が違いましたからね。

小川　だから、そういう意味じゃ、あれで目一杯だったんじゃないかなって。2人とも目が泳いでたから！　試合前からそうだからね。

——寂しいっていう感じなんですか？

小川　いや、自分に対してガッカリした！　だって、さんざんプロレスの凄みだとか、「プロレスとはこういうものだ」とか、長州選手の中で定義があったわけでしょ。その言ってることを実行してないんだもん。俺は「来るなら来い、やったろうじゃねぇか！」って言ってるわけじゃない。それで、イザやった瞬間に目が泳いだら、終わりだよね。その段階で「こんなヤツを追い求めてたら、俺はとんでもないことになる」と思った。

——戦前の期待感は大きいですからね。長州力が4・9の大阪ドームで「お前がやりたいことやってやるから上がって来い！」と言ったり。〝なんだろう、小川さんのやりたいことって？〟と、こっちが考え込みましたよ（笑）。

小川　そんなこと言うから、いつ来るのかと思ったんだけどね。失礼だよな、「やっ

てやる」って言ったクセに。でも、結論としては、リング上で表現できない4人全員のせいです！　特に、一番悪いのは俺！

――け、謙虚だなぁ。

小川　ダメなもんはダメなんですよ！　悪いときは悪いってこと！　これで奢ってたらね。でも俺が一番腹立ったのは、長州力の笑顔！

――ああ、試合後、花道を引きあげていくときの謎の笑顔ですね。

小川　謎でもなんでもないよ、あんなの！　あの試合して笑顔はないだろう!!

――それは三沢選手も言ってましたね。

小川　「あんな試合しといて、なに考えてんだろ？」と思ったよ。それで雑誌パラパラと見て、あの笑顔見た瞬間にね「この野郎、逃げ道作ったな！」と思ったよ。命乞いしたくせに、バカ野郎!!　会長（アントン総帥）のように、思いきり「バカヤローッ!!」とガナりたい気分になったよ。

――ガナってスッキリしてください（笑）。長州力は「足腰は強いよな」って余裕の感じで言ってましたよね、小川さんのこと。

小川　あんたのレベルで俺に対して評価をしてもらいたくない！　いつから俺の上になったんだよ！　そりゃあ人生の先輩かもしれないけどさ、マズイ試合して、そのセリフはねぇだろ！

――でも、その後に記者が「小川をなんらかの部分で認める気持ちはありますか？」って聞いたら、「いや、しちゃいけないでしょ」とも言ってました。プロレスは難しいですね。

小川　20何年か、30何年か知らないけど、それが積み重ねてきた価値観なんだろうね。いや、気持ちはわかるんですよ。要するに、携帯電話に例えると、10年前の携帯電話は、肩からブラ下げてたわけじゃない。デッカイのを。

――バックくらい大きくて重いやつですね（笑）。

小川　そのうち徐々に小さくなってきて、バッテリーの性能もよくなってきて1日中保つようになった。軽量化して、いまやインターネットまでできるようになった。そういう歴史があるわけでしょ。

――進化ですよね。

小川　だけど、携帯がまだ普及してない国に行って、携帯を普及させようとしたら、もう1回肩から下げるところからスタートするの？　しないでしょ。一番進化したところからスタートすればいいわけじゃない。で、進化したものを基準に次になにしようか考えてるわけでしょ。要するに、30年間やってて、いままでの歴史の重みはそりゃ凄いけど、次に進化していくのに当てはまるのかっていったら全然違うじゃない。俺たちは、インターネットができる携帯からスタートしちゃってるんだから。「俺たちがこんなに進化させたんだから、お前ら一からやれよ」って言って、肩から下げる携帯持たされても困るんだよ。歴史を重んじるという気持ちもわかりますけどね。そういう歴史があったと認識してればいいんじゃないですか。おまけに長州は、「プロレスと格闘技、どっちで来るのかハッキリしろ」とか試合後に発言してるし。それ言っちゃ終わりじゃんって話でしょう。

――言ってましたね。「ハッキリしてほしいよな、ハッキリ」って。

小川　日頃、会長が「みんな、俺の可愛い弟子だ」って言ってるんだよ。同じアントニオ猪木の弟子としてみたら、兄弟子になるのかもしれないけど、許せない発言だよね。「プロレスと格闘技は違うんだよ」って言った瞬間に、俺たちは「それは違う

小川を前にした長州＆中西は、明らかに普段の物腰とは違った。内容的には、確かに不評を買っても仕方ないが、プロレスを考える材料が、この一戦にはゴロゴロ転がっている

Naoya Ogawa

よ、兄貴！」ってなるじゃない。30年の歴史を語り出すのが兄貴なのかな

――「ちょっとそこに座れ」みたいな（笑）。

小川　誰が座るか、バカヤローーーッ！　とガナったらスッキリしました（笑）。それも猪木さんから隠れて言うからね。

――もう一つ、長州力のコメントで印象に残ったのは「まだ俺はブチのめされた方がいいよな、自分の力がわかるから」という発言です。ここから、長州はある種の「覚悟」を持って出て行ったんだという深読みもできるわけですよね。

小川　それはいいよ。でも、ファンに冷静な目で見てもらいたいのは、目が泳いでたんだよ。覚悟したヤツが目が泳ぐか？　そんな気持ちがある人間が、相手を見た瞬間にそんな顔しないでしょ。三沢選手の目つきと、長州の目つき見りゃ、違いがわかるよ。三沢選手を褒めるわけじゃないけど、例を挙げればね。どっちが闘魂の継承者なんだっていう感じだよ。

――三沢光晴には闘魂がありますからね。

小川　人間ハッタリでもいいじゃない、見せてくれれば。

――ハッタリも張り付いていけば個性になっていきますからね。

小川　頭痛くなっちゃうよね、ホントに。ノアを褒めるわけじゃないけど。

――そういうことが五月病の源だったりするんですか？

小川　なんかね、悪いものに取り憑かれちゃったみたいで。

――それが長州力の怖さかもしれない（笑）。

小川　いやね、弁解したくないけど、ファンのみんなを満足させられなかった部分で、「あちゃ～、やっちゃった……」みたいな感じなんだよ。早く次の試合をして、取り消したいっていうのがあるよね。

――試合前には「小川は、何が言いたいのか、何をやりたいのか、これからどうしていくのかがわからない。正直言ってもったいないよな」ってコメントしてますね、監督は。

小川　それがわかんないようじゃ、30年前の携帯電話を肩から下げてプロレスやってろ！　長州の昔の試合をテレビで見たら、全然違うよ！　気迫が。昔のファンはあれが好きだったんだろ？

――ボクも好きでしたよ。革命戦士と言われた頃の長州力は。

プロレスなのか格闘技なのかハッキリしろ？ それを言っちゃあお終い!!

小川　「なにが言いたいのかわからない」って、いつのまにか自分が眠っちゃってるじゃん。昔は、猪木さんが受け止めたから、ああやって革命戦士として光ったんだよ。自分が受け止めるようなスタイルだったら、受け止めろよ。俺が行きそうになったら怖いんだろ？　橋本さんだって、あの人は来たんだから。やろうとしてるから、俺がやるだけで。「やるか、やられるか」っていうのは、やろうとするから成立するんだろ、そこで競り合うから！

――長州力からすると、あれが「おまえ、そんなんでこの先プロレスをやれるのか？」っていう投げかけだったのかしれないですよね。小川はプロレスができないっていうところに持っていきたい人たちもいるだろうし。

小川　俺、逆に聞きたいよ。俺のことを否定するのは構わないけど、じゃあいまのプロレス界って一体菜なにをしたいの？

――小川さんから言わせると、それがわからない。

小川　そう。新日本プロレスがこれから先に望むことってなに？　やればやるほど小っちゃくなっていくしかないんじゃねぇかな。

――三沢戦、長州戦と連戦で、「とうとう小川が馬脚をあらわした。小川はプロレスができない」っていう方向を武器にする見方もありますよね。藤波社長も大会直後は「小川は『PRIDE』に行ったほうがいい」とコメントしてましたし。

小川　プロレスっていう部分で見てもね、三沢選手の方がプロレスがわかってるんじゃない、長州より。ホントどっちが猪木イズムなのかわかんないよ。三沢さんが「俺たちは質の高いプロレスやってる」と言っても、ついつい納得させられちゃうからね。片や新日本プロレスは「プロレスはプロレスなんだよ」で終わっちゃう。おかしいじゃない。アントニオ猪木という絶対的な創設者が目指してるものは、近未来のプロレスなのに。会長の「プロレスは闘いだ」という路線は冒険すればするほど大きくなっていって、ジャイアント馬場さんの「プロレスはプロレスだ」っていう路線は守んなきゃいけないから、だんだん小さくなっていった。そういう歴史があるにも関わらず、いつのまにか逆転現象が起きて、新日本が「プロレスはプロレスだ」路線で、ノアが「プロレスは闘いだ」路線になってるよ。

――でも新日本の中でも小川さんたちに共鳴する選手が出てきてもおかしくないんですどね。

小川　福岡の試合の夜に、会長と新日本のフロントの若い人と食事会をしたんだけど、やっぱり若手社員が一番わかってるんだよ。だからホントに選手とフロントに国境みたいなのがあるんだろうね。

――その国境でウロウロしてるのが藤波さんなんですかね？（笑）。

小川　国境でウロウロしてるのは誰かわかんないけどさ（笑）。若手選手はパスポートをもらえないという状態なんだろうね。

――なかなかパスポートを手にする順番が回ってこないんでしょうね。UFOだったらパスポートいらないですからね（笑）。

小川　いらない！　神出鬼没！　パスポートはいらないし、逆に偽造パスポートいっぱいあるから（笑）。

――ダハハハ。長州力戦とは離れた部分でもいいんだけど、純プロレスは難しいって感じますか？

小川　要するに、過去から未来に向かって行くのに必要なら取り組んでいきたいけど、わずかな人のニーズに応えるのか、世界中を相手にしてニーズに応えるのかって

Naoya Ogawa

いうことだよね。現に世界はWWFという
プロレスが全て食い漁ってますからね。あれに勝るプロレスをやれと言われても、日本じゃできないでしょ。

――エ！　小川さん、WWFを見たことあるんですか？

小川　ウチ、ケーブルテレビ、WWF見れるんですよ。それで「バカらしいな」と思いながら見てたら、ハマッちゃってんだよね、最近（笑）。「次、どうなっちゃうんだろう？」みたいな。

――実はボクもハマッてるんですよ！（笑）。あれは、プロレスを越えたプロレスですよね。「プロレスを超えたものがWWF」だっていう感じですよ（笑）。

小川　あれを先にやられちゃってるわけでしょ。日本のプロレスはあれを目指していくわけ？

――あれは出来ないですよ！

小川　日本の国民が納得しないよ。人種や感覚も文化も違うからね。やっぱり世界のニーズを統一させていくものを考えなきゃいけないっていうね。それで世界格闘技連盟ってものを立ち上げてるわけですから。

――イコールUFOですね。それは猪木さんがよく言ってる「日本発世界」ってことですよね。

小川　日本人にしかできないもの。だから、純プロレスの10年先のようなものは、既にアメリカにWWFっていうものが存在してる。マイク・タイソンをああいう形で絡ませたりさ。それの後を追うわけ？　それはいけないでしょ。

――WWFがWCWを買収したんですよ、この前。その買収される前の末期のWCWを新日本の上層部は視察しに行って、「やっぱり凄い」って言ってるんですよね（笑）。

小川　感覚がズレてるんだよね。真似しようと考えてるんだったら真似すればいいよ。

――しかも、WWFに目が行ってるんだったらまだいいけど、WWFに吸収されてしまったWCWに視察に行ってるわけですから凄いですよ（笑）。

小川　だから新日本プロレスも、なにしたいのって話でね、よくわかんない。去年は電流爆破路線で行くのかと思ったら、やらないし（笑）。なにを目指してやってんのかなぁ？　だから人のやることを否定して回るんだろうね。そんなことしかできないんだろうね。

――でも、福岡ドームに出場して、武藤選手とユニットを組んだ馳浩が「猪木軍団はプロレスをまるでわかってない。プロレスの敵」とまで言ってますね。

小川　馳先生にも、いまの新日本をあの状態にした原因があるよね。まだ馳さんもわかってないんだろうな。ガン細胞の1人なんだろうな。

――馳先生がガン！（笑）。

小川　「が」じゃなくて「も」だよ！「も」！

――馳先生もガン（笑）。

小川　馳さん1人じゃないから。馳さんが人間的にどうのじゃなくて、闘魂プロレスに関して、「プロレスは最強の格闘技である」っていう路線が新日本プロレスであるとすれば、路線が外れたのは馳先生にも一因はあったんじゃない？

――90年代になって、新日本の中にいつのまにか「プロレスはプロレス」路線ができちゃいましたからね。ある意味、その象徴は馳先生ですから。

小川　それが反猪木派なんだろうな。だから馳さんも反猪木派ってことだろうね。

――プロレス観に関してはそうでしょうね。

小川　プロレスの先輩でもあり、国会議員の先輩でもあるのに、なんてこと言うんだ、馳浩先生っていうのは！　何十回転も回すのは凄いと思うけどね。

――出た！　ジャイアント・スウィング！（笑）。小川さんとしては、そういうプロレスに付き合う気は全くないですか？

小川　いや、凄いことやってると思いますよ。だけど、人それぞれの役割ってあるからね。やっぱり力道山時代から受け継がれた闘魂がないよな。あのクルクル回すのに闘いがあるのかといったらね。

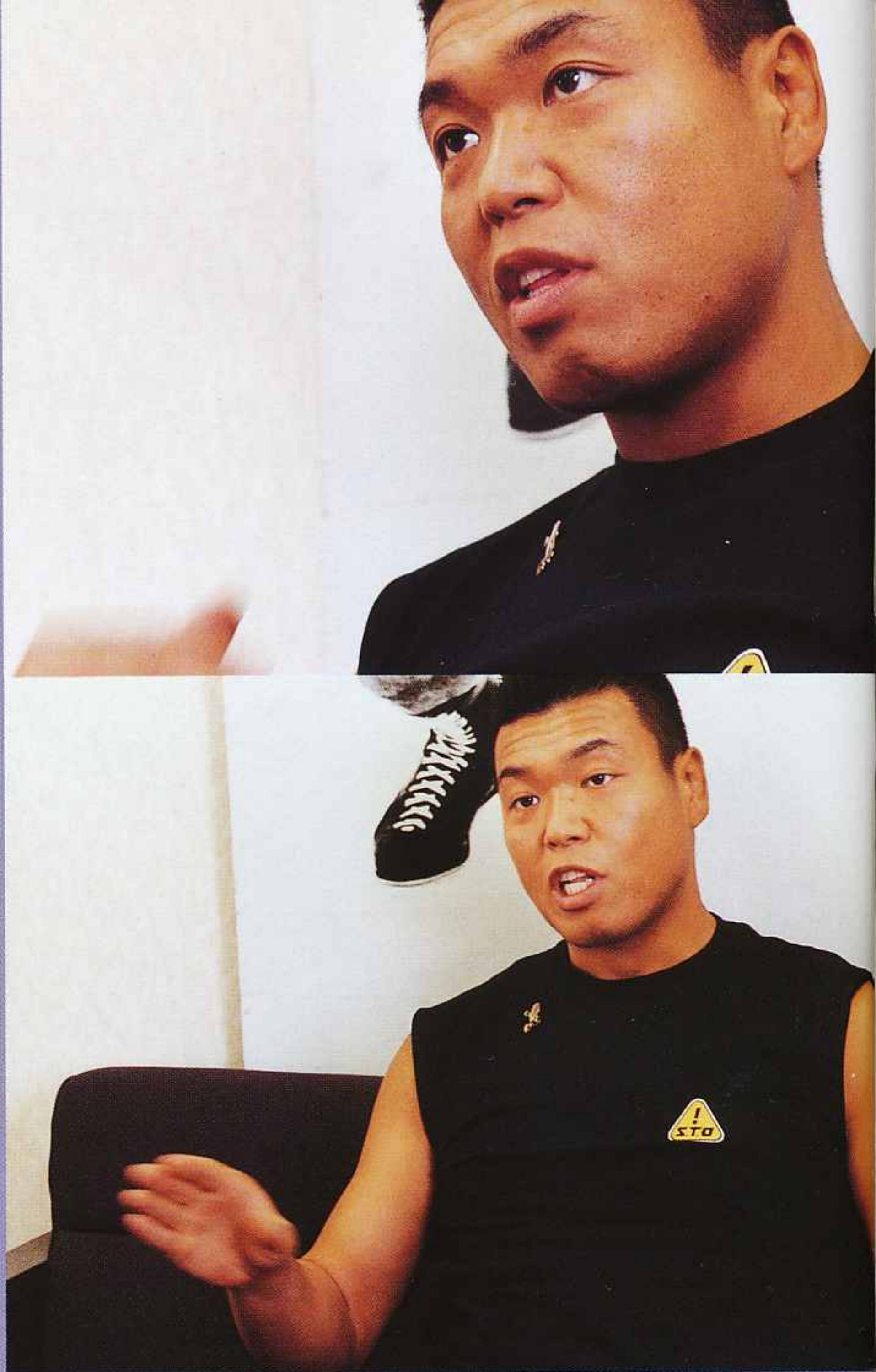
――あれだったら、ボクはWWFに軍配を揚げますね。

小川　俺も！　俺もWWFに行って学びたい。

――ガハハ！　なにを学ぶんですか？

小川　そういうプロレスをやるんだったらだよ。馳先生には悪いけど、馳先生もWWFで学ぶこといっぱいあるよ。自分がまるでプロレス界のトップにいるようなことおっしゃるけど、もっとトップの選手はいっぱいいますよ。

――福岡の試合に戻りますけど、「中西選手はいい選手だ」って試合後にコメントしてましたよね。

小川　今回可哀想だったのは、長州にいろいろ使われてたからね。要するに闘う者っていうのは、自分がなんのために闘うのかっていうのが重要でしょ。勝ったってなにも残んなきゃ意味ないんですよ！　試合に臨むのは、なにかがあるからで、試合のための試合じゃないんだから。そういう意味では、中西選手には今回はなにも残らなかったんじゃないかな？　長州力の護衛

で来たにすぎないんだから。彼も目が泳いじゃってたから。

——その中西選手が試合翌日に『週プロ』のインタビューに答えて、小川さんの「長州の力が組んだときにわかった」っていう発言を受けて、「じゃあ潰せって。潰すこともできんで、プロちゃうぞ」と言ってますね。

小川 最近殺人事件多いじゃない？

——はあ。

小川 被害者の肉親が、加害者を刺すのかと。そりゃブチ殺したい気持ちはあるでしょ。でも刺しに行ったらそいつのレベルなんだよ。敢えて刺すのも表現かとは思ったんだけど、俺自身の気持ちが萎えたっていうか。たとえば刺した人間がこっちに歯を向けてくればやるかもしれないけど、無抵抗なヤツは刺せない！ 刺したら俺まで殺人犯になっちゃうからね。そんな心境だったな。それは普段「プロ」と言ってる以上、俺らしくねぇのかなっていう自問自答はしたけどね。

——中西選手は「マスコミのみんなも、あいつの言うことばっかり聞いてないで、いい加減目を覚ましてほしい」とも言ってますね。

小川 試合終わったあとにホッとしてくだらねぇこと喋るなよ！ 負け犬の遠吠えじゃないんだよ。試合でガンガン来いよ！

——いや、負け犬って、試合に負けたのは小川組ですよ（笑）。

小川 あ？ ……俺が負けたんだ！ ゴメン！言い直す。試合やってる最中に目を泳がしてるヤツの言う言葉か！ 終わってから言うな！

——「小川は客が見たいものを見せるって言ってたけど、あれをやったらなにごともなく、怪我もなく、自分だけまっすぐ家に帰りたいって、そんな感じで試合してたんか？ 試合にならへん、あれはプロちゃう」

Naoya Ogawa

中西？ 宣言するよ！ 俺の前でドンドコ跳ねたら、行くよ！ 俺は！

とさらに力強く中西選手は言ってます。

小川 ふ〜ん。あいつ、バカ正直だね。自分の本心言っちゃってるよ。後で訂正効かないよ。試合にならへんって、テメエだって戦前のビデオ見たら、なんか飛んでたじゃん。「あぁ〜、強そうだな」って違った意味で思ったけどね（笑）。

——なんですか、飛んでたって？

小川 なんか飛んでさ、「ワーッ」ってやってるじゃん。

——あ、ドンドコ跳ねるヤツ。

小川 俺とやったとき、ひとつもそんなことやらなかったじゃない。やったら当然行ってたけどね。宣言するよ、俺の前であれやったら、行くよ、俺は。

——戦前に、中西から飯塚にパートナーを変更しろ、と言ったときには「小川は中西から逃げてる」という声もあがりました。

小川 昔のタイガーマスクと猪木さんのコンビだったらわかるよ。その相手がデカいヤツでも、「タイガーマスクがなんかやってくれるんじゃねぇかな」っていう期待感があるから。村上はタイガーマスクまでいってないでしょ。

——小川さんはパートナーとして村上を信用してないってことですか（笑）。

小川 たまには勝ちてぇよ！ 俺だって出る以上は勝ちに行きたいじゃない！

——ガハハハ！ タッグは弱いからなぁ。そういうことか（笑）。それはわかりやすいですね。

小川 タッグ全敗だもん！ いっつも「お前ら、覚えとけよ！」で終わっちゃうんだから。板についてきちゃったよ、この頃（笑）。勝手にカード発表して「文句言うな、俺たちの言うこと聞け！」ってそりゃねぇだろって思うよねぇ。

——そこから「中西から飯塚に変更しないんだったら出ない」っていう部分だけ抜き出されて、報道されちゃったから、また小川さんがゴネてるという話になるんですね。猪木さんは5・5前に開いたマスコミとの懇親会で「小川も煽りとして『出ない』と言うのはわかるけども、本当に出ないとかいうのはいただけない。ファンあっての俺たちという部分をみんなでもう一度考えてほしい」って言ってたんですよ。

小川 会長は、今回の試合に至るまでのいきさつは知らなかったからね。だってさ、やる以上はファンも期待して見るわけだから、マッチメイクってなんなのって話ですよ。俺たちはプロである以上は、いいマッチメイクをしなきゃいけないのに、自分たちのご都合主義ばっかりでさ。そりゃあ勝

髙田選手？〝忘れ物〟っていうのはカッコイイけど夢のあることとしましょう!!

ちたいのはわかるけど、そんなんで勝ってなにが残るんだよって話だよ。

——猪木さんは「小川と村上のタッグは解消した方がいい」っていうようなことを試合後に言ってましたね。

小川　この間も来た白覆面がなかなか使えるから、いいかなぁと思ってね（笑）。

——ダハハハ！　あのまま試合してほしいですね（笑）。そういえば村上選手が、猪木さんからの「タッグ解消」を受けて、こないだのバトラーツの興行（5・10駒沢）で、「小川超えを目指す」と宣言しました。

小川　いきなりネジ曲がってるね（笑）。

——「3年5年10年かかろうが超えてみせる」と言ってます。

小川　5～6年あったらそういう可能性もあるけど、ヤツは俺の練習量の10分の1の練習量だから。そうすると5～6年の10倍って50～60年かかるよ。誰も客来ねぇよ。ヤツは1回フリーになった方がいいかもしれない。

——いきなり解雇宣言ですか！

小川　解雇じゃなくて、「1回外を見てきたら?」と。UFO公認でね。

——あ、さっきの話じゃないけど〝パスポート〟をあげるということですか。

小川　彼には常にパスポートあげてるんだけどね。違ったとこばっかり見てるみたいでね。あんな試合になったばかりか、最後中西にも取られてるんだからさ。

——でも、こないだの小川さんと長州との絡みは、ボクは面白かったですね。

小川　あ～れはつまんないよ。いいよ、気を使わなくて（笑）。

——いや、ホントに（笑）。いつ点火するかっていうのは、あれはプロレスにしか出せない緊張感ですよ。でも、猪木さんも「小川もあのスタイルだけじゃキツくなってくるかもしれない」って言ってたんだけど、その点については同感なんですよ。

小川　確かにキツイ部分はキツイんだけど、やらなきゃいけないことは、プロレスがある。片や『PRIDE』という存在がある。それを融合させるにはっていうことだよね。プロレスが食われてる現状っていうのがあるよね。無視して、純プロレスということで割り切っちゃうのも一つの手だよ。でも、その割り切り方っていうのがいけないじゃないですか。猪木さんの場合はプロレスの存在価値を世間にアピールしたいってことで異種格闘技戦をやったりした。俺らも「なんだ、プロレスは強いんじゃん」と植え付けなきゃいけない。だから、いまファンが望んでるのは「プロレスが一番強いんだ」ということを証明してくれってことでしょ。あと、別の角度でプロレスはこんなに素晴らしいものだよっていうものをやんなきゃいけない。そう考えると……あ、ヤベェ、また五月病になってきたなぁ（笑）。

——ガハハハ。難しい話になっちゃいましたね。

小川　いや、福岡でかかった五月病が残ってるからね。

——五月病の原因となった長州がヒクソンとやるという話が浮上してますね。

小川　あー、そうか、そうか。なんか『FLASH』の記事に出てたね。読み上げようか?……。

——いえ、けっこうです（笑）。長州vsヒクソンってやるんですか?

小川　『FLASH』によると、長州さんが借金あるんだから、やるしかないんじゃないの?

——ダハハハ。もし長州vsヒクソンがホントに決まっちゃったら、小川さんは悔しくないんですか?

小川　次、やるときにもっとギャラが上がるから困ったなぁ。結果は見えてるからね。俺はこないだ長州とやったからね。でも客は入るのかなぁ?

——入るのは入りますよ。

小川　よし、ボクは方向転換しますよ。

——意外とアッサリ諦めますねぇ。

小川　これは運だと思うから。なるようにしかならないからね。ヒクソンの息子さんが亡くなったばっかりで、喪に服す時期だから。もし長州がやるんならルールも考えた方がいいのかもしれないね。3分保ったら長州の勝ちとかね。

——ダハハハ。それから猪木さんが、猪木軍団vsK—1・10vs10というのをブチ上げましたね！

小川　それ、やった方がいいよ。面白い！　やるべきだよ！　やれるもんなら。

——これが実現したら、昔の新日本vs極真空手になぞられて、潰し合いになると言うマスコミもありますね。ファンからしてみても、潰し合いになるような緊迫感の中で見たいでしょうからね。

小川　それはプロとしてやらなきゃいけないというかね。会長が「ノールール」って言った瞬間、さすが会長と思ったもん。

——ノールールは石井館長が受けないでしょうね（笑）。

小川　K—1って必ず「K—1のリングで」っていうのがあるんだよね。「あいつに挑戦する！　ウチのリングだ！」って、なんでいっつも自分のリングなんだろうと思うよね。

——そういえば「俺のリングに来い」って言わないの、小川さんだけですね（笑）。

小川　そう！　ウチにはリングないから（笑）。だってケンカで「自分の陣地に来い」とか言うヤツいないじゃん。そこがズレてるよね。

――そうか、単純に考えて、「おまえにいまから喧嘩仕掛けるから、こっちに来い」っていうのはないなぁ。

小川　昨日の高田選手の話を聞いても、「場所はどこでもいい」っていうんなら「男気あるな。でも可哀想だから、こっちが『PRIDE』に出ていってもいいかなぁ」って言いたくなる部分もあるけどさ、自分で決めちゃうんだもん、凄いよね、高田大先生。

――高田さんの〝忘れ物〟は小川さんだったというのが、遂に高田さんの口から出てきましたね！

小川　で「ちょっと俺んとこ来い」って、俺も小僧じゃないんだから。なんでみんな「来い」って言うの？　俺だってできるなら自主興行でやりたいよ！　でも、みんな結局「オラが大将」みたいでさ。俺みたいに融通の利くヤツいないよ。ファンのみなさんは「生意気だ」とか言うけど、「ちょっと待て、これだけ融通利いてんだから言わせろよ」って感じですよ。俺は出て行くだけなんだから。俺は宅配格闘家じゃないんだからさ。

――宅配格闘家！（笑）。ボクもいま気がつきました（笑）。それは小川さんの性格なんですかね？　むしろ行く方がラクっていうのは？

小川　ラクなんじゃなくて、ファンの見たいカードを提供するには俺が行くしかないでしょ。「じゃ、俺んとこでもやる？」って言った瞬間に「それならいいです！」って言われるんだから。だから、俺はUFOだからパスポートいらないけど、みんなはパスポートが必要だから手続きが面倒らしいよ。外に出ると病気にかかっちゃったりするから予防検診とかもしなきゃいけないらしいし。

――でも、かつて執拗に追っかけた高田さんから、小川さんの名前が出たのを聞いたとき、どうでした？

小川　別に嬉しくはないけどね。〝忘れ物〟はカッコいいんだけど、「どこでもいいからやってやるぞ」みたいな、夢のあるものがほしいんだよね。たとえば会長じゃないけど、観客なしで巌流島とかさ。そういうのも面白いじゃない。いきなり自分のとこでやるとかじゃなくて。そういうのはあとで決めればいい話でね。「モンゴルの草原でやろう」とか、「なんでこんなとこでやるんだよ！」っていうようなとこでもいいじゃない、夢があって。

――モンゴルの草原！（笑）。『PRIDE』は高田さんのホームリングっていう感覚なんですね。

小川　どう見てもホームリングじゃん（笑）。

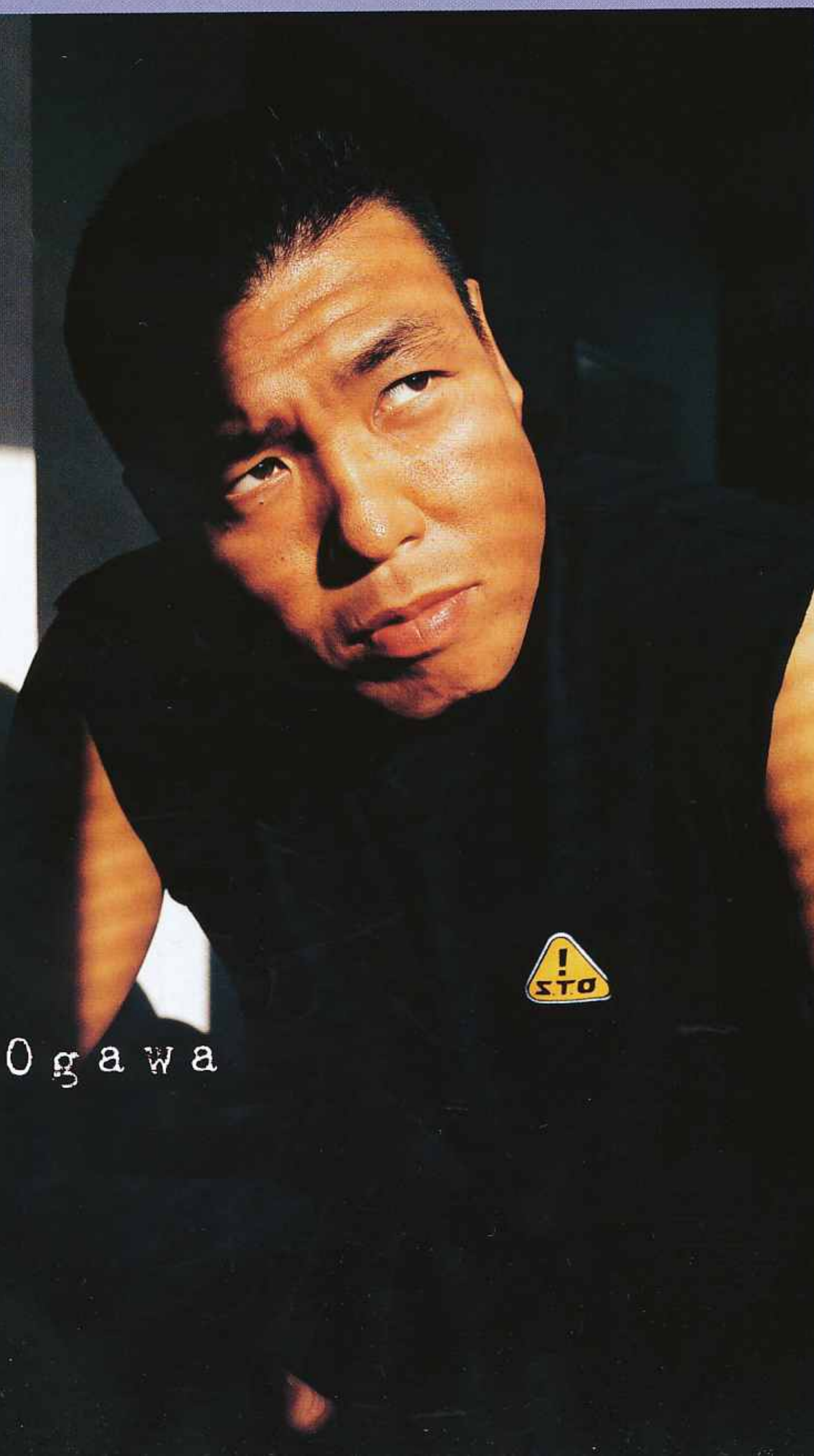
――『PRIDE』は中立のリングっていうことを打ち出してますけどね。

小川　だって俺が出たときも「絶対メインだけは譲れねぇ」って言われたから。そう言われた瞬間にグレちゃいますからね。そう言うってことはホームグラウンドでしょ。

――高田さんは、小川さんに対する憎しみの感情はないって言ってますね。「この数年プロレス界を引っ張ってきたのは小川の存在。最強という呼び声も高いし、ファイターとして、純粋に強い男と闘ってみたい」というコメントが新聞に載ってます。

小川　持ち上げてくれてますねぇ。でもまだ信用できねぇぞ！　俺、過去何回かあるからな。決まってから俺は言いたいよ。高田選手を信用する、しないじゃなくて、過去2回の、ちょっと腑に落ちない点があるから。〝俺は騙されねぇぞ、やるまでは！〟って心境ですね（笑）。『PRIDE』でやるとか、次元の低い話はしたくないですよ。高田さんレベルだったら、夢のある場所でやりたいよね。平和の祭典の平壌スタジアムでもいいし。あとは、富士山の頂上で『日本頂上決戦』とかね。……富士山の頂上はキツイなぁ。

――登るまでがキツイですね（笑）。

小川　でもホント、なんで場所を限定されちゃうのかなぁ？　それこそ高田vs小川だ

Naoya Ogawa

ったら、ドリームステージじゃなくても、テレビ局の指定する場所だとか、どこかのお金持ちの人が名乗りを挙げて、そのスポンサーが指定する場所でもいいわけでしょ。そりゃプロだから、より条件のいいとこでっていうところがあれば、もっと面白くなると思う。それでもなおかつ『PRIDE』が一番条件がよければ、『PRIDE』でもかまわないけどね。それができないってことは、高田さんは『PRIDE』に繋がれちゃってんのかなって。ファンは癒着なんか見たくないじゃないですか。

――癒着（笑）。

小川　いつも「自主興行はいつやるんですか？」って聞かれるんだけど、他に聞いてくれって言いたいよ。みんな「テレビ局に縛られてますから出れません」とか、そんなケツの穴の小さいことばっか言ってるから。

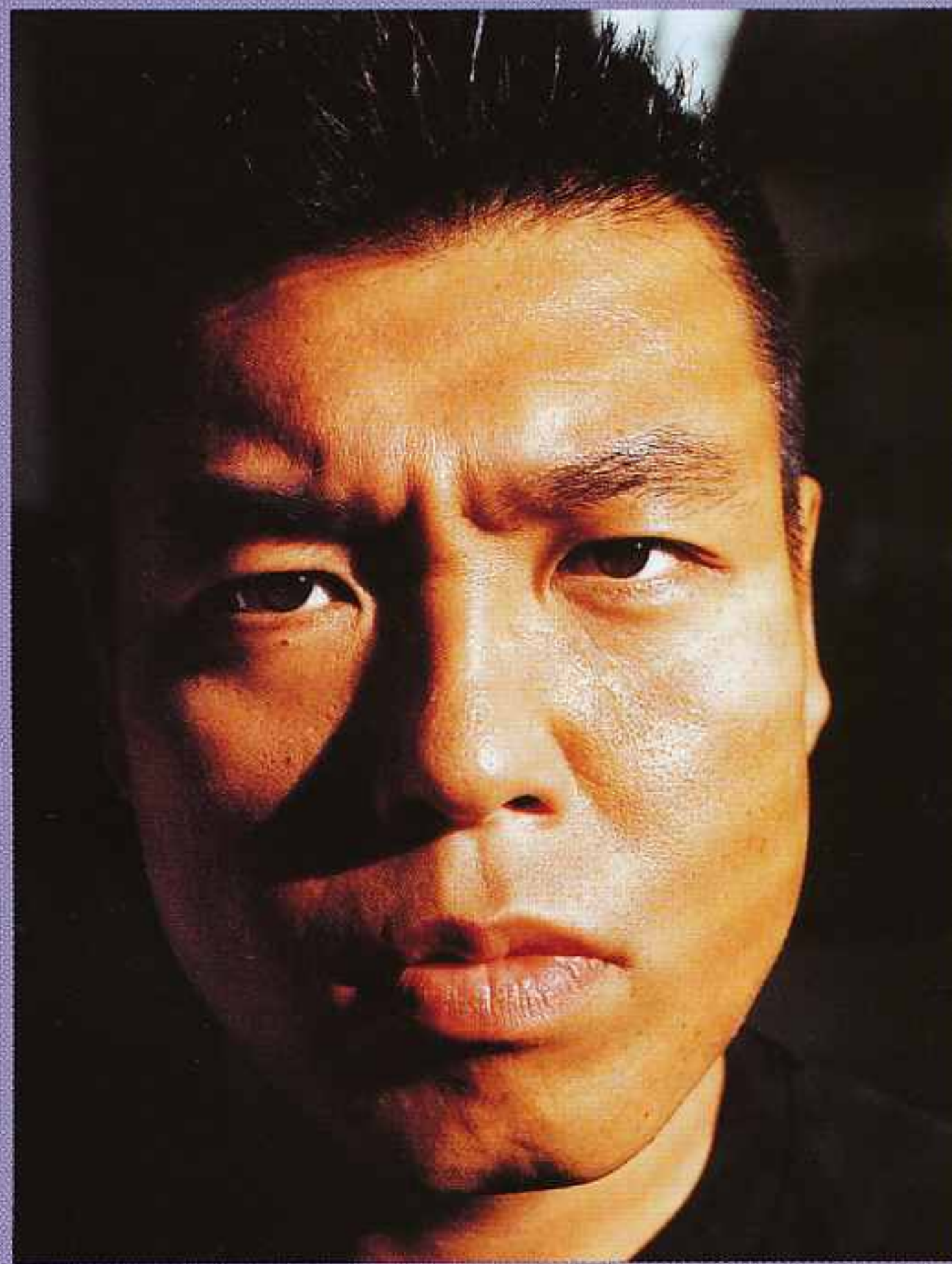
――高田さんはあくまでもバーリ・トゥードで闘いたいみたいですね。

小川　バーリ・トゥードって何？　俺は『PRIDE』にも出たけど、「プロレス」の試合しかしてないよ。だから、俺がやるものはすべてプロレスですよ！

――小川vs高田戦は、『PRIDE』側としては今年の秋ぐらいに実現させたいと言ってますね。

小川　そんなの関係ないよ、俺は『PRIDE』に囲われてるわけじゃないから。夢のあるものをやっていきたいだけだから。これぐらい言ったら、高田さんはわかってくれるだろうっていう部分はありますからね。最終的に『PRIDE』になってもいいけど、でも、それより面白くてお互いに条件のいいところに行くのがプロなんじゃないのかな。高田さんにしてみりゃ、これまで『PRIDE』で認知されてるかもしれないけど、俺にしてみれば、「プロってなんなの？」っていう部分で考えて、業界の発展のためになっていけるプランがあれば面白いと思うしね。最初っから「これしかないんだ」みたいになるより、他の可能性もゼロじゃないんだというところから始めてもいいんじゃないってことですよ。

――WWFで小川vs高田戦が実現したら仰天ですけどね（笑）。

小川　ダーッハッハッハ。そんなビックリする話ないよね。ホントに「やる前から負けることを考えちゃいけない」って猪木さんによく言われるけど、WWFより凄いものをアメリカで見せるっていうのは難しいよね。「プロレスっていうものはこういうものだ」って定義づけられちゃってるから。かといって格闘技っていうものも、こっちほどマニアックじゃないから。唯一、日本に残された力道山から受け継いだプロレスっていうのを残していくにはどうしたらいいかなっていうのを俺は考えていきたいんで。猪木さんがプロレスを壊してるって一部の人に言われてるけど、結局、猪木さんが守ってるんですよ。

Naoya Ogawa

――最後に、これは東スポ情報なんですけど、三沢さんが「小川選手がノアに出場するなら、橋本と一緒じゃ話にならない」って言ってるらしいですね。小川直也の実力とキャラを認める太っ腹の三沢さんに対して、橋本さんはいったいなにをやらかしたんですか？（笑）。

小川　橋本さんもね、三沢さんとは違う部分で太っ腹だけどね（笑）。最近嫌われてきてるよね（笑）。ファンには好かれてるんだけど、なんで選手に嫌われるのかなぁ？　新日本プロレスに嫌われて、ノアにも嫌われて、なんでなんだろうね？

――それを小川さんに聞きたいんですよ（笑）。

小川　俺も聞きたい！　なんなんだろうね？　ZERO―ONEが成功してるから嫌われてんのかなぁ？

――出る杭は打たれるっていうヤツですか？　打ってもヘコみそうですけどね、いまは（笑）。

小川　脂肪で跳ね返しそうだけどな。しばらくは、ノアに行くのにも白覆面でも引っ張って行くかな？　それしか手はないか（笑）。橋本さんが嫌われてるなら、白覆面呼ぶしかねぇのかな。

――白覆面はずっとあのままやってほしい気もしますけどね（笑）。ノア出撃という可能性はどうなんでしょうか。

小川　行きたいんだけど、三沢さんのとこを否定するんじゃないけど、数で来るじゃない！　こないだも（4・18ZERO―ONE）、袋叩きされそうになったときに、橋本選手に救ってはもらったけど、俺1人が行っても、あれがオチじゃねえかと思ってさ。いくらバカでもあんな人数いたら、1人じゃ乗り込めねぇよ。なんか作戦考えないと。ZERO―ONEのリングであれをやられたんだから、ノアの本拠地のリングでなんて誰も助けに来てくれないよ。みんな結束固そうだし。ノアの中で誰か味方してくんねぇかなぁ。

――なぜだ（笑）。

小川　昔の新日本には藤田選手とか、石沢選手みたいなのがいてくれたからありがたいんだけど、ノアにはいそうもねぇし。

――それをノアに望むのは酷ですよ（笑）。

小川　そんな中に1人で行ったら、生きて帰れると思えないからな。「1人で乗り込んで来い」って言うけど、生きて帰れなかったらやだよ（笑）。俺が三沢さんと刺し違えて共倒れすりゃいいんだな。でも、それじゃ終わっちゃうじゃねぇか（笑）。

――でも、今年後半もいろいろ動きがありそうですね。

小川　いろいろあるっていうか、待ってるだけじゃ面白くないんで、なにか仕掛けていかなきゃいけねえのかなと思ってますよ。

――期待してます！　ああ、いつもだったらこっからモーリーとのやりとりが始まるんですけどね（笑）。

小川　ダッハッハ。もうヤツはモルジブだっけ？　そっから帰ってこないでほしいね。UFOだけじゃなく、日本国出入り禁止にしよう！

【5月12日／東京・白金台・UFO事務所にて収録】

5・5 長州戦でまたもや問題提起
そして髙田延彦が対戦表明!!
いつ何時でも騒乱罪!
「新プロレス」のエースの未来はどこに!!

「オガワナオヤ」は是か非か!?

『SRS・DX』軍団が再度来襲!!

座談会出席者

山口日昇(「紙プロ」編集長)
吉田豪(「紙プロ」スーパーバイザー)
サダハルンバ谷川(「SRS・DX」編集長)
柳沢忠之(「SRS・DX」発行人)

山口　さ、今日はカラオケもあるパーティールームみたいな部屋なんで、まずサダハルンバに一曲歌ってもらいましょうか（笑）。普段はなにを歌うんですか？
谷川　流行り歌が好きなんですよぉ。椎名林檎は好きだなぁ、会ってみたいなぁ。
豪　会ってなにするんですか！（笑）。インタビューしたいんですか？
谷川　インタビューはしたくないんだけど、ただ知り合いになりたい。
豪　なんですか、それ（笑）。格闘技以外で誰と知り合いになりたいとかあります？
谷川　小泉首相とか。あ！ あと田中真紀子さんに怒られてみたい。（真顔で）田中真紀子さんと（骨法の百子）局長はどう違うの？
一同　んあ〜！！！
山口　谷川さんの中では局長と田中真紀子は一緒なんだ（笑）。
谷川　うん。一緒、一緒。
豪　局長に怒られるのはダメなんですか？
谷川　それでもいいですよぉ。で、今日のテーマはなんですか？
山口　「小川直也は是か非か」。なんでこういうテーマを設けたかっていうと、ZERO―ONEでの三沢との絡みや、新日本での長州との絡みは実に面白かったけど、小川直也が選手として、いわゆる純プロレスを覚えていくのか、いまのスタイルでやっていくのか、それとも違う道があるのか。これからどこに軸足を置いたらいいのか、いま考えどころだと感じたんですよ。で、サダハルンバという日本一の格闘技評論家をお呼びして、そのオーちゃんの軸足について勝手に喋る会を設けたってことです。
豪　谷川さんは、小川は「非」なんですか？
谷川　1回インタビューしたことあるんだけど、（ターザン）山本さんか誰かが『SRS・DX』の座談会で小川選手のことを悪く言ったのかな？ それがあんまり気に入らなかったみたいで、ボクらのことはよく思ってないみたいなんですよ。そこが「非」ですね。あとはみんな「是」ですけど。ボクはオーちゃんと仲良くやれる自信はあったんだけどなぁ。オーちゃんはB型でしょ？ ボク、BとBなんですけどぉ。
山口　なんだよ、「ボク、BとB」って。日本語になってないよ（笑）。
谷川　話し合わなくても、心は通じてるつもりなんですけどねぇ。
山口　格闘技評論家のサダハルンバとしては、オーちゃんに『PRIDE』に出てほしいんですか？
谷川　出てほしいですね。
山口　オーちゃんのプロレスを見る気はしない？
谷川　そんなことはないですよ。偉いと思いますけど。だってプロレスで言えば、オーちゃんって完全にヒクソンになってるじゃないですか。

漂ってくる匂いがとってつけたようでなんか物足りない〈柳沢〉

豪　ここ何年か無敗ですもんね。
谷川　橋本選手をやっちゃってから。そういう意味では、よく頑張ってヒクソンみたいな存在を貫き通してるなって思いますけどね。
豪　社長（柳沢忠之のアダ名）的にはどうなんですか？ 小川直也は。
山口　社長は小川が嫌いだからね（笑）。
柳沢　うん！
豪　男らしいですねぇ！
柳沢　全部、「是」だけどね（笑）。
山口　ガハハ！「是」だけど嫌い。小川を嫌いだって言う人は、業界的には「わがまますぎる」っていう理由だよね。なんだかんだとゴネるし、試合数も少ないしというイメージで語る人が多い。
谷川　でも、わがままやってるだけ偉いですよね。
豪　正直言って、ボクなんかは全面的に支持するわけじゃないけど、いま小川以外いないでしょうっていう言い方しかないんですよね。
山口　そこだよね。いま小川ってブレイクしてるし、実質トップだけど、それが小川の持ってる地熱によるものなのか、繰り上がり当選でこうなってるのか、モヤモヤと霞がかかって見えにくくなるときがあるでしょ。それが絶対的な信頼感に繋がらないと感じる人が多い原因かもしれない。
谷川　繰り上がり当選なの？
山口　そのへんはどう思いますか？ 格闘技評論家としては（笑）。
谷川　ボクは……「大物現る！」ですよ。地上に降りた最後の天使っていうか。
豪　『君の瞳は10000ボルト』（笑）。
山口　ちょっと社長、このファスティング野郎、なんとかしてよ（笑）。
柳沢　面倒くせぇよ、これで進めようよ（笑）。
山口　社長がオーちゃんの一番引っかかるところはどこなの？
柳沢　プロレス観というか、格闘技観というか、漂ってくる匂いがとってつけたようで、なんか物足りないんだよね。〝生き様〟に見えない。それが「嫌い」の理由。でも、やってることそのものは認めちゃうんだよね。その精神的背景は別にして（笑）。それが「是」の理由。
豪　ただ、昔の選手でよかった人って、結局みんな元プロレスファンじゃない人ですよね。馬場、猪木や前田にしても。しょうがなく入ってきちゃった人の方がいい選手になるわけじゃないですか。
谷川　小川って〝しょうがなく〟じゃないですもんね。
柳沢　そのコンプレックスが見えないから嫌なんだよ。
谷川　小川がしょうがなく入ったのは中央競馬会だもんねぇ（笑）。
山口　マイクアピールやらパフォーマンスを見てると、ああいうことがやりたくて入ってきたんだろうなぁって感じは漂ってるね。
谷川　（急に）あ、会長！（山口日昇のアダ名）、髪切ったねぇ。
一同　ガハハハ！
山口　ど、どーも（笑）。
谷川　でもオーちゃんは、最近は頑張ってるんじゃないの？ 自力でなんかしようとしてる感じはあるよね。長州とのタッグマッチとか、あ〜れは面白かったですね。
山口　長州との絡みはバツグンに面白かったですよ。あれを消化不良のひと言で片づけるファンを多く産み出した、90年代のプロレスはホント、

サダハルンバ絶賛!!
「小川はまだまだ伸びるよ〜」

見てみ、このビジュアルっ！「季菜」名物（なのか？）の稲庭うどんにも負けないサダハルンバの脳味噌のシワの伸びっぷりは、もはや全盛期を迎えてる

5・5福岡ドーム。小川が仕掛けなかったのか、長州が仕掛けさせなかったのか？　長州が仕掛けなかったのか、小川が仕掛けさせなかったのか？

ダメだね（笑）。

谷川　ＺＥＲＯ―ＯＮＥで気持ちよくやってる小川よりも、全然面白かったですね。

豪　それは凄いわかるんですよ。だからいまは不自然なものを楽しむ土壌がなくなってるんじゃないですか。

谷川　あとは「負け方」っていうか。『ＰＲＩＤＥ』で負けるのと、プロレスで負けるのと、どっちがいいのかって問題なんですけど、負けるなら先に『ＰＲＩＤＥ』で負けてほしいですね。

山口　「負け方」ひとつでオーちゃん神話の質はグッと変化するからね。超一流と一流の分かれ目は、相手云々は別として、「負け方」に色気が絡むかどうかだよね。

谷川　だから、そこだけ気を付けてほしいですね。

豪　ダハハハ！　それだけは言っておくと。

谷川　中西に負けたらちょっと嫌だなぁ。

豪　いまの長州に負けるのは、もっと嫌なんですけどね。

山口　オーちゃんは、まだ〝残酷〟な局面を経験してないでしょ、純プロレスの世界で。昔のプロレスって、「勝ち」にも「負け」にも価値があったけど、いまは勝っても負けてもどうでもいいような勝ち負けばっかりだからね。たとえば高田も橋本も、ヒクソンや小川に価値ある「負け方」をしたから踏み出せたわけでしょ。6～7年前みたいに、高田がＵインターで「最強」とやってたり、橋本が「俺は新日本のトップだ」なんてあのままやってたら、いまごろ２人とも尻下がりになってるよ、絶対。

豪　それはそれで見たい気もするんですけど（笑）。

山口　まあね（笑）。でも、そういう価値ある「負け方」は選手にとっては、凄く残酷な局面だよね。こないだ、なんかの話で社長が「勝ち負けを超越する」っていう言い方をしてたけど、それは残酷な局面をいかに克服するかってことだと思うんだよね。いまの純プロレスのシステムじゃ、そういう局面は生まれにくいでしょ。猪木さんがバリバリの頃は、試合スタイルはプロレスだけど、ホントに弱肉強食だったから面白かったんだけどね。

谷川　いまオーちゃんに残酷に立ち向かえる人が誰もいないんでしょう。

山口　だからいまだったら、『ＰＲＩＤＥ』のほうが、そういう残酷な局面は生まれやすいから、そっち方面に小川に出てほしいっていう声が上がるのは当然だよね。でも、純プロレスでも本気で「小川を食ってやる！」っていうヤツがもっと出てきたら面白くなると思うんだよなぁ。〝残酷〟な局面を克服するオーちゃんが見てみたいなぁ。

豪　誰がジェラシー抱くかですよね。

山口　オーちゃんは、純プロレスでも『ＰＲＩＤＥ』でも、なんかいきなり養子として家庭に入ってきた他人みたいに、まだ思われてるでしょ（笑）。「あいつにジェラシー抱くだけ損だ。すぐいなくなるんだから」みたいな感覚っていうの？　「小川には腕１本折られてもいい」っていう信頼感がないっていうか（笑）。

谷川　それはでも、小川は『ＰＲＩ

「オガワナオヤ」は是か非か!?

「オガワナオヤ」は是か非か!?

オーちゃんが〝残酷〟な局面を克服するところをもっと見てみたい〈山口〉

DE』のエースみたいになったら信頼感を得るでしょ。

豪 いまの藤田みたいな立場ってことですか？

谷川 そうそう。

豪 だけど、いまの藤田に信頼感ないじゃないですか？

谷川 え、誰の信頼感？

山口 ……しっかし、豪ちゃんとサダハルンバは噛み合わないなぁ。今度シングルマッチ組もうか（笑）。

谷川 ボク、藤田には信頼感あるんですよ。

豪 全面的に乗れるか、乗れないかって話ですよ。

谷川 あ、乗れるか、乗れないかなのか。はっは〜ん。オーちゃんはなにを目指してるかっていうときに、プロレスでトップを取るってやり方は、凄い可能性はあるとけど、新しくない感じがするんですよね。

豪 そんなにプロレス覚えてっちゃいけないタイプなんでしょうね。

谷川 そうそう。で、新しくないじゃない、プロレスでトップを取るっていうのは。それこそ猪木さんやジャイアント馬場と比べられたり、ジャンボ鶴田と比べられたり、いろんなのがあるじゃないですかぁ。やっぱり総合の場でエースみたいになったときに、凄く新しい感じがしますよね。でもオーちゃんは、そうじゃなくて、一生懸命プロレス界の中のトップを取ろうとしてるでしょ？ ホントに意地悪なこと言わずに、『PRIDE』でトップを取ってたら……。

山口 意地悪ってどういうこと？ 『PRIDE』に出ないとか？

谷川 あと「長州は知らねぇよ」とか、『PRIDE』に限らず、意地悪なことを言いがちじゃない。

山口 文句言わずに働けって？（笑）。

谷川 文句っていうか、意地悪なこと言わずに。な〜んか、らしくない感じがするんですよね。そんなことでは引っかからないぞっていうか。

豪 そういえば、小川ってインタビューが難しいタイプじゃないですか。自分の言いたいこと言うだけで。タチ悪いこと言おうとしてるんだけど、桜庭の方がよっぽどタチ悪いんですよ（笑）。

谷川 ホントそう！ それは思う。だから、いままでにない新しいタイプのスターになってほしいなぁ。プロレスでトップを取るんじゃなくて、『PRIDE』みたいなとこでトップを取る方が……いいのかなぁ？

豪 自分の中でも全然踏ん切りついてないじゃないですか！（笑）。

谷川 いや〜、いまから考えようかと思って。2〜3日考えさせてくださ〜い。

一同 ガハハハ！

豪 ちょっと急すぎちゃいましたね（笑）。社長、そろそろ出番ですよ！

柳沢 え〜っとね、Fの118番、『黒の舟歌』入れてくれる？

豪 誰もカラオケの話してませんよッ！

柳沢 『紙プロ』の座談会は、サダハルンバ主役で行けよ。

山口 『SRS・DX』の座談会だってサダハルンバが主役だよ（笑）。

豪 で、どうですか、社長的にオーちゃんは？

柳沢 俺が、小川に関して知りたいのは、なんであんなに嫌われてんの？

豪 ファンに？

柳沢 じゃなくて、プロレス業界。それ以上に、昔の柔道界とか。

山口 それはよく聞くなぁ。

柳沢 それがわかんないんだよ。そこにオーちゃんの謎の全てがあるんじゃないかと思って（笑）。

谷川 そうだ、そこだ！ それを解き明かしてみよう！ 別にオーちゃんを嫌う必要なんかないのにねぇ。

柳沢 柔道関係者で小川のことをよく言う人って、ホントいないじゃん（笑）。

谷川 たぶん可愛げがないんだよね。全然嫌な感じの人ではないんだけどねぇ。

山口 いい方に解釈すればレベルが高すぎるんだろうね。一般的に解釈すれば、協調性がなくて、意地悪でっていうレベルになっちゃうよね。

柳沢 「人間的に嫌だ」っていう言い方する人が多いよね。

山口 必ずそうなるよね。「あの人は強いけど、人間的に嫌だ」って（笑）。みんな、そっちに逃げるしかないのかなって感じもするけど。

柳沢 俺、プロレスの中では、ある意味でオーちゃんの方向性っていうのはわかりやすいし、全然わがままだと思わないんだよ。無理なこと言われて、オーちゃんが「ノー」って言うのもわかるし。でも人間的にそこまで嫌われてるっていうのはなんでだろ？

豪 業界で好きな人を探す方が難しいですからね。オーちゃん的にはい

座談会 PUTIT REVIEW

右端が、またも素人ヌードを撮られた女子高生のように顔出しを嫌がる柳沢忠之。5・5福岡ドームに現れた白覆面の正体はこの男だという説もある

本誌スーパーバイザーの吉田豪。ターザン山本に「大好きだよ〜」と言われ、本誌巨女・ジャイ子にも求愛される。なぜかキ●ガイからのラブコールが続く金髪鬼

最近は会社に来ないで、1日中WWFのビデオを見まくっている本誌鬼畜編集長・山口日昇。カート・アングルとリーガルがお気に入りだが、なによりもビンスにゾッコン

『SRS・DX』の編集長であり、日本一の格闘技評論家であり、日本一の心ない男でもあるサダハルンバ。「実はボク、面白いと思うことがないんですよ〜」。んあ〜

つまでも中途半端と言っちゃ悪いけど、いまみたいなポジションでいたいんですかね？

柳沢 中途半端な立場でいたいのかなぁ？

山口 「中途半端な立場でいたいのかな？」と思わせちゃうところが、小川に絶対的な信頼感が生まれないとこでしょ。「プロレスを覚える気もないし、巡業には出ないし、総合格闘技もやりたくないし、それでいいギャラ取って、マイクでガナって、お茶濁すつもりなんじゃないの？」っていう誤解を持たれてるんだよね、オーちゃんは（笑）。それが誤解だっていうのは、俺は身近で取材してると感じるけどなぁ。

谷川 小川はなにをやりたいの？

山口 そう聞かれると、イマイチ俺もうまく答えられない（笑）。

柳沢 だから「いまのままがいいんだろうな」って見えちゃうんでしょ。

山口 そうだろうね。

豪 でも、あれだけ練習してるっていうことは、実戦の想定はしてるわけですよね。

柳沢 ガチンコ大っ嫌いでしょ？

豪 だけど、やるべき相手、たとえばヒクソンとかであればやるってことなのかと認識してたんですけど。

山口 でも、『PRIDE』なり総合なりから逃げてるって一時期言われてたけど、それは違うと思うよ。『PRIDE』を"団体"だと思ってるからでしょ。たとえば高田にしても誰にしても自分のモチベーションが上がる相手を選んでやりたいって言うでしょ。それはオーちゃんでも一緒だと思うんだよ。いきなりヒース・ヒーリングと「来月やってくれ」って言われてもさぁ（笑）。

谷川 あ、ボクはヒーリング対小川は見たいなぁ。メチャ見たい！ それは信頼感に繋がると思うけど。

山口 立ちはだかる相手、提示された相手は全てなぎ倒すって感覚ね。

オーちゃんは総合の場で エースみたいになったら 凄く新しいと思うなぁ〈谷川〉

柳沢 俺が「小川はアブダビに出たほうがいい」って言ってたのも、そういう話だよ（笑）。

山口 そのプランは面白いよね。「ちょっとアブダビ王子と友だちになりたいから出てみるよ」って言って、チャッチャと勝って、王子と友だちになって、日本に帰ってきたら、家の前にもうBMWが置いてあるっていう感じね（笑）。

柳沢 それでこそ初めて、全然いままでにないパターンだし、スケール感だよね（笑）。

谷川 ヒース・ヒーリングとか、ああいうタイプを一番スターにできそうなのが小川なんですよね。『PRIDE』の世界っていうか、新しいものをもの凄く豊かにできる才能はあるよ。ヒーリングが小川に勝ったときに、小川ってもの凄く評価されると思うんですけど。

山口 「こんなヤツを光らせられるんだ」っていう。ヒース・ヒーリングにオーちゃんがムキになってるっていうだけで、メチャいいですね。長州とか中西にムキになるよりも、「ヒース・ヒーリングとちょっと1回やってみたい」とか言い出したときに、ちょっとドキドキするんですけどね。ヒーリングにも、オーちゃんにも。

柳沢 それで「ヒース・ヒーリングより、三沢さんの方が強かったな」って言えばいいんだよ（笑）。

豪 それ、勝ったら光るだけですよね？

谷川 負けても、ヒース・ヒーリングをバッと上げられる。それこそ結果的に桜庭がシウバを上げたより、もっと上がると思うんだよね。

豪 それ、オーちゃんに全然メリットないですよね。

柳沢 そのメリット感なんだよ。そのメリット感が、我々がオーちゃんと同じ土俵に立って考えちゃってる。それが従来のプロレスなんじゃない？

山口 うん。だから、オーちゃんのレベルになると、桜庭も高田も猪木さんでさえやったことのないことを望まなきゃしょうがないということでしょ。まだ誰も見たことがないものでしょ？ いま望んでるのは。

谷川 そうそう。ヒーリングを上げるっていうのも、猪木さんが名もな

もう本当に書くことはない。吉田豪はサダハルンバの呑気さに飲み込まれないように必死で突っ込むが、その巨大な脳天気さに大笑いさせられてしまう

『SRS・DX』ではタニー＆ノビーとして活躍中のサダハルンバ＆山口日昇。お互い話を聞いているようで、まったく聞いていない。摩訶不思議すぎるコンビだ

こんな同じような写真ばかりでは、もう書くことはないのだが、右端の顔出しを嫌がってる男は、福岡ドームに現れた白覆面の正体と見て間違いないだろう

い外人を上げてったぐらいの感じと思うんですよね。

山口　いまの純プロレスがダメなのは、その感覚がないことだよね。ホント勝っても負けてもシーソーゲームだから。猪木さんが、まだ無名といっていい頃のシンやハンセンに負けたときはショックだったけど、記憶に残ってるもんなぁ。シンやハンセンもスターになったし。

谷川　それをオーちゃんがガチンコを前提としたリングでやったら凄いよぉ。ヒース・ヒーリングがスタン・ハンセンぐらいになっちゃうよぉ。で、ヒース・ヒーリングvs小川直也が田園コロシアムのメインになっちゃう。

山口　田園コロシアムなんて、もうとっくにないよ（笑）。

谷川　んあ～。ないんですか？　そういえば最近行ってなかった。

一同　だ・か・ら、ないから行けないって！

谷川　んあ～。でも、そういうオーちゃんはボクは好きな気がする。だから、『PRIDE』って場じゃなくても、たとえば他のリングでも全然いいけど、いわゆるガチンコが前提なんだろうなぁ。だって、オーちゃんはね、『PRIDE』ではホントにいい試合やってるよ。グッドリッジ戦も佐竹戦もね、あんな面白い試合ないよ！

柳沢　俺も一昨日ぐらいにDVDもらったから、たまたま見たけど、グッドリッジ戦はたまらんなぁ。

谷川　たまらんでしょ？　猪木の全盛期ぐらいの試合やってると思うよ。

柳沢　あのオーちゃんの悲しそうな顔っていうかさ、「ホントにこのプレッシャーが嫌なんだろうな」っていうのがわかるけどね。

豪　あれは絶品ですよね。

谷川　佐竹との試合もメチャいいよ。佐竹も頑張ったしね。

リスクを背負えない。その壁を破ってほしいわけですよね、単純に〈豪〉

柳沢　変な話、桜庭以上だと思うからね。

谷川　ボクもそう思う！　それを思うと、オーちゃんの手にかかれば、相手はスタン・ハンセンになれる可能性があるっていう。そういうところにボクは可能性を見てますね。

豪　小川は、いまリスクを背負えない状態になってるわけじゃないですか。そこの壁を破ってほしいわけですよね、単純に。永島（勝二＝新日本プロレス取締役）さんの本を読んでカチンときたのが、「勝敗にこだわる選手がいると、すぐに前座に追いやります」みたいなことが書いてあって。

谷川　そんなこと言ってんだぁ。

山口　だから、そこまで組織論を押しつけるんだったらWWFにしてみろって話だよ。いま言ってる小川に望むことというのは、いまのプロレス界に対する閉塞感でもあって、小川個人に対しての問題というより、プロレスが抱えてる問題だよね。

谷川　ボクがオーちゃんに対して持ってるのは、いい試合やって、相手を光らせて、負けてもいつかは取り返せる強さを持ってるっていう信頼感なんですよ！　それは桜庭にもあるんですけど。オーちゃんが一生勝てないヤツってそんなにいないだろうっていう。だからオーちゃんの持ってるスケール感のある選手って、『PRIDE』とか『コロシアム』とか見ても、見当たらないもんね。キッチリいい「プロレス」ができる気がするんですよ。表現としては『PRIDE』方式みたいな闘いっていうのは、凄くいい感じがしますね。

豪　リスク背負って、そういうふうに出ていく選手がいいっていうのはわかるんですけど、いま具体的にそれやってるのって、たとえば近藤（有己）とかですよね。

谷川　はぁ～ん。………近藤って誰でしたっけ？

豪　パンクラスの！　リスク背負っていろんなところに出てるんですよ。でも、そんなに乗り切れないのはなんでだろうって？

山口　近藤の場合はリスク背負うって感覚より、腕試しだもんな。

柳沢　小川とはリスクのスケール感が違うからでしょ。

谷川　オーちゃんをどんどん普通の選手にしてっちゃうんだったら、新日本プロレスはオーちゃんを追放せずに、どんどん上げることだね。何回も出てもらうのが一番いいと思いますよ。

豪　年間契約とかして？　田中稔とかと試合して？

谷川　そうそう。ムタとか蝶野とかとたくさんやればいいと思いますよ。

山口　そういえば、オーちゃんにインタビューしたら長州戦の内容を謝ってたよ。

谷川　あれは、いっぱいいっぱいだったと思うけどね。だって、あれ以上なにをするの？

豪　みんないっぱいいっぱいでしたよね。

谷川　だから面白かったんだと思うよぉ。

豪　あんな不思議な緊張感が漂う試合なんか、最近ないですよ！

谷川　オーちゃんは、どうすればよかったと思ってるんだろうな？　ボクは謝る必要ないと思うけどなぁ。

豪　むしろ「長州が悪い」とか言い張った方が面白いと？

谷川　長州が悪い？　う～ん、長州もよかったもんなぁ。謝るってこと事体がわからんなぁ。ボクだったら謝らないよ（キッパリ）。ボクだったら「いい試合だったろ？」って言い張りますけどねぇ。「これがわかんないのか！」って言い張りますよぉ。

一同　ガハハハ！

柳沢　それはどうかなぁ？（笑）。

谷川　「いいもん見ただろ？」って感じで。

山口　それは昔のプロレスの方法論なんじゃないの？　でも、長州との絡みは面白かったけど、オーちゃんのスタイルが「これが俺のスタイル

不評と言われる小川組vs長州組の一戦だが、試合翌日のスポーツ新聞の一面には「小川」の文字がデカデカと躍った。オーちゃんが動けば、マスコミも動くのだ

昨年の10・31『PRIDE.11』で行われた、究極の異種格闘技戦。オーちゃんは、圧倒的な存在感と試合内容を突き刺し、佐竹を撃破！
やっぱりオーちゃんのリングには『PRIDE』のリングが一番似合うのだろうか

「オガワナオヤ」は是か非か!?

だ」って言い張るには、『PRIDE』と、レベルの高い純プロレスに挟まれたカッコになっちゃって、そのどっち側から見ても中途半端に見えちゃうというのはあるよね。

谷川　どんどんプロレスの試合をさせられたら、ダメになっていくでしょ。

柳沢　ノア相手でもなんでも、ダメになっていくだけでしょ。

豪　あれだけをやってたらってことですよね。

柳沢　あれだけっていうか、あれをやってたらダメになると思うよ。

豪　でも、あれもアリだって幅を見せないと、オーちゃんもキツイと思うんですよ。

柳沢　逆だと思うよ。戻すべきだと思う。幅を狭めた方がいいでしょ。オーちゃんの真の成功の道はそっちじゃないかと俺は思う。だから、ガチンコの選手がプロレスに出てくってことを基調にした方がいいと思う。

谷川　そう、それですよ！

柳沢　一番最初の小川直也の成り立ちっていうのが、柔道から新日本に上がって、その時点ではガチンコの選手がプロレスをやるって方向性でしょ。だけど、そのときにはガチンコってものの価値観が柔道の元世界チャンピオンであろうが、一般認識として低いんだよね。だからそれを自分が背負って出ていくってことがメリットになってないわけ。だからオーちゃんの発想として、〝プロレスラー〟として認められなくちゃダメなんだってなるのは、その時点ではわかる。だけど『PRIDE』っていう新たな形態が出てきて、ガチンコの世界で自分の価値観を上げる場が柔道とは違った形で出てきたわけでしょ。

山口　以前はなかった、ガチンコを基本にした〝新プロレスラー〟になれる場があるじゃないかと。

谷川　でも、みんなそう思ってるんじゃないんですか？

柳沢　『PRIDE』なんてオーちゃんのやりたいことの、ほんの一部の、小指の先ぐらいのもんだと思うけど、たとえば柔道と、『PRIDE』みたいなバーリ・トゥードと、プロレスっていう三つの職種があったとして、オーちゃんの中での価値観としてはプロレスを第一にして、バーリ・トゥードと柔道だったら、オーちゃんはまだ柔道の方が上だと思ってるんだよね。その感覚の持ち方が、だったらもっと柔道を上げろよって話じゃん。もっと柔道を上げる努力をいますればいいんだよね。柔道衣を着て、それこそドゥイエに挑戦したり、「篠原、あんなんじゃ許せねぇ」みたいなさ、もっと柔道を巻き込むようなことをしてけばいいし。

負けてもいつかは取り返せる強さを持ってる信頼感はあるよね〈谷川〉

でも、それをしないわけでしょ。プロレスだけの価値観を持たせよう、持たせようとしてる。それ、普通の選手の考えなんだよね。非常にもったいないと思うんだけどね。

豪　プロレスを背負おうとしてるけど、プロレスラーじゃないですからね。

柳沢　そこを割り切っちゃった方が、小川が上昇する上では全然ラクでしょ。自分がプロレスを軸足にして、プロレスってものを全身に纏って生きていくんだって決めたときの、そのプロレスって彼の認識が俺は嫌なんだよね。「それがプロレスなんだ」と思うと嫌だなっていうか。

豪　だけど、そのプロレス観を教えたのは猪木さんなわけですよね？

柳沢　だろうね（笑）。

豪　問題はそこにあるような気がするんですけど。

柳沢　猪木さんは人を育てられんからさ。

豪　この人と同じで（と、山口を指さす）。

山口　なんで俺が出てくる！

柳沢　猪木さんは「自分だったらこうする」とか、「自分が表現する」って前提でものを喋ってるからさ。でも、いままでの歴史の中では小川が一番猪木さんが言ってることを芯で捉えてるのかなって気はするけどね。

山口　もの凄いハードルの高い話だよね、いま小川に希望してることは（笑）。

谷川　でもオーちゃんで、それを解決することが大切ですね。

柳沢　小川にとってガチンコやれっていうのは、ハードルが高いことなんだろうか？

山口　いや、それはいいんだけど、そのガチンコをいかにドラマティック

「負け方」を高いレベルで問われる位置にいるってことだよね〈山口〉

に継続していくかってことは、まだ誰もやったことがないわけだから。それ自体のハードルは高いよね。

豪　こないだの長州との試合でも、オーちゃんが仕掛けることを誰もが期待してたわけじゃないですか。そんなこと期待されるレスラーって、まずいないですよね。

谷川　でも、ボク、それは誰も期待してないと思うな。だっていい子だよぉ。

山口　なぜ言い切る（笑）。1回インタビューしたことあるだけってさっき言ってたじゃん。

柳沢　豪ちゃん、Hの22番、「私の彼は左きき」入れてくれる？

豪　知りませんよ、そんなの（笑）。

谷川　彼はいいヤツだと思うよぉ、ホントに。前田日明が悪い子とは思ってないんだけど、前田日明みたいなことはオーちゃんには期待できないでしょ。できないというか、しないでしょ、最初っから。だって、あれほどルールを守ってきた人間だから、破ることはないと思うけどね。

豪　自分から踏み外すタイプではないと。

柳沢　考えてみたって、こないだの長州のときだって、やっちゃう小川が見たかったかっていったら、全然そんなことないもんね。やられる長州は見たかったけど（笑）。やる小川を見たいわけじゃない。そんなレベルの低いやり方を小川には求めてないでしょってこと。

山口　ガチンコの世界に小川が上がったときには、小川がメタメタにやられるところも見たいわけでしょ？

柳沢　それも見たいよね。それを見れるチャンスとしてはバーリ・トゥードしかない。

山口　それくらいの高い位置にいるってことだよな、「負け方」が問われるくらいの。

谷川　逆に、オーちゃんが勝つのも見たいでしょ。ホントにベビーフェイスだよ、『PRIDE』では。

柳沢　なんであんなにベビーフェイスなんだろうね。

谷川　ボクね、佐竹選手とは付き合いが長いんですよ。でも、オーちゃんの方が正義の味方に見えたもんね。久しぶりに空手家が黒い道衣を着てるなって思った。

一同　ガハハハ！

山口　黒い空手家・佐竹雅昭（笑）。でもやっぱ小川だけの問題じゃないんだよなぁ。いまのプロレスのシステムの問題と直結してるもんね。

柳沢　でも小川だってことで考えてるから、いまみんな、こういうことを思うんだよね。

山口　小川のレベルだからこそ？

柳沢　中西学には思わないもん（笑）。オーちゃんは、格闘家としてのストイックさみたいな部分とか、アマチュアリズムとか、そういうものに関する信頼感は、俺はメチャメチャ高いんだよね。

谷川　ボクもある！

柳沢　それが中西にはないから（笑）。

山口　今度高田とやったとしたら、高田がベビーフェイスになるのかな？

豪　高田は完全にベビーですよね。みんな高田に思い入れを持って見るでしょ。

谷川　初めてオーちゃんが『PRIDE』でヒールになるんじゃないの？

豪　ボク、高田の入場で泣いちゃうかもしれないですよ（笑）。

谷川　でも難しい試合だなぁ。

柳沢　だから、オーちゃんのギリギリのラインを見るために『PRIDE』とかがあるっていうかさ。みんなオーちゃんのギリギリのラインを見たいってことじゃないの？

山口　たとえ負けてもひっくり返せるかどうかっていう綱渡りが見たいわけね。それならわかる。

柳沢　ガチンコに軸足を置けば、こんな簡単なことはないと思うんだけどね。そうしたらあんなにプロレスで活きる人間もいないんだからさ。こないだのZERO—ONEでノア勢が素晴らしかったのは、新日本ってものに対してもそうだけども、小川に対して「格闘家」って位置づけを勝手にして、リングに上がってるからいいわけじゃん。

山口　新日本は小川を「プロレスラー」として上げようとするからね。

柳沢　だからダメなんだよ。

豪　ちゃんと外敵として捉えたスタンスがあればいいんですよね。

柳沢　こないだの長州も同じことだよ。だからよかったんじゃないの？　小川が外敵であり続けるためには、ガチンコに軸足を置くしかないんじゃないの？

谷川　オーちゃんは佐竹戦とか、グッドリッジ戦のあとは嬉しくなかったのかなぁ？　あれがプロレス界に入ってから一番嬉しかったと思うんだけど。別の意味で三沢とやったときも嬉しかったと思うけど。

柳沢　最初の人間性の話につながるんだけどさ、オーちゃんて孤独は好きなの？

谷川　好きでしょ。

豪　仲間はいないですよね（笑）。

柳沢　オーちゃんがプロレスをやりたいっていう前提は、やっぱ仲間がほしいんじゃない？　そういう人間性に根ざした問題だと俺は思うんだけど。プロレスっていうのは仲間うちで、仲間の信頼感を持ってやる競技じゃない。橋本とああいうことになって、橋本とある種の信頼感を結びつつ、やってきたわけでしょ。そこに非常に大きな喜びがあったと思うんだよ。それがZERO—ONEとかに繋がって、フロントの背広組が関与するわけでもないし、自分たちで興行とか試合を作り上げていくっていう楽しさってものに目覚めてるっていうのはわかるんだよね。それがプロレスだと思ってるっていうかさ、思いたいっていうか。

豪　楽しくてしょうがないと思いますよね。

谷川　そうやって考えると、橋本は偉いなぁ。橋本だから通用したんだよね。

「"忘れ物"は小川」と明言し、オーちゃんに対戦表明をした高田。『PRIDE』の礎を築いた高田は、もしかしたら"エース"の座を伝承するために小川と闘いたいのか？

「オガワオヤ」は是か非か!?

柳沢　だからオーちゃんはガチンコが嫌いだって俺が言ったのは、試合自体が嫌とか痛いとか怖いとか、そういう次元じゃなくて、孤独が嫌なんじゃない？

山口　一本ッ！（笑）。その〝孤独〟っていうのは、いいキーワードだね。

柳沢　小川って、佐山が側にいたとき、佐山を仲間だと思うとなんか物足りなさを感じてただろうし（笑）、佐山がいなくなってオーちゃんは変わったよね。ホントに孤独に追い込まれたっていうか。俺はオーちゃんのポイントは、孤独に耐えられるか、耐えられないかだと思う。

山口　それは凄いよくわかるんだけど、オーちゃんは柔道時代に孤独すぎたんだよ、ホントに。

豪　ガチンコは孤独なものだっていう悟りが。

山口　っていうか、ひとつの競技で頂点に立つには、それぐらいの孤独を味あわなきゃいけないんだってことは誰にも言えないタイプなんでしょ。「俺は孤独で、これだけ一生懸命練習した」って表に出すのは小川の価値観の中にはないじゃない。そういう意味では新しいタイプの格闘家なんだよね、やっぱり。

柳沢　だから、猪木さんから学ぶべきことは孤独だよね。

山口　猪木さんはどこまで行っても孤独だもんな。

豪　力道山、馬場、猪木、前田ってみんな孤独ですからね。

柳沢　その孤独に耐えられるかどうかが、やっぱ小川のポイントでしょ。

山口　レベルの高い孤独感ね。

豪　離婚でもすりゃいいんですかね？　そういう追い込まれ方がないと辛いじゃないですか。

谷川　でも、もしも橋本が食い過ぎて死んじゃうこととかあったら、オーちゃんは辛いと思うよぉ。

柳沢　は？

谷川　は、は、橋本が食べ過ぎて死んじゃったら大変ですよ！

豪　そりゃ大変でしょうけど（笑）。

谷川　そういうときのオーちゃんって可哀想すぎるもんねぇ。

豪　橋本の方が可哀想じゃないですか、食い過ぎで死んだら（笑）。

谷川　それはでも、橋本は自分を全うした感じがするじゃない。

一同　ガハハハ！

谷川　オーちゃんはそのとき可哀想だよ。誰がオーちゃんのことを助けてあげるの？

山口　オーちゃんってサービス精神の角度が違うんだよね。ホントはプロレスには向いてない人なんだけど、なんとかプロレス的世界を理解しよう、理解しようとするじゃない。「プロレスなんてわかんねえよ」っていう開き直り方ができないところが人のよさかもしれない。まともなこと言えば、オーちゃんがもっと高度を上げるには、ファンがダメ出しをし続けることだよ。

谷川　あ〜、それは重要ですね。

豪　いまダメ出ししてるのって、『東スポ』の桜井さんとGKぐらいじゃないですか（笑）。

山口　あのレベルじゃ全然ダメだよね。マスコミが政治的な絡みで批判するレベルじゃ。いまネットやってるマニアのレベルでもないし。だから、高いレベルで批判機能を持ったファンをつくり出してこなかった90年代のプロレスの罪は大きいんだよ。いまはファンがダメだから、小川もウルトラスーパースターになれないんだよ。

柳沢　プロレスっていうのは選手の中での信頼関係とか協調性が大事だけど、選手から総スカンされるくらいじゃないとなぁ。でも小川はそのスケールの孤独に耐えられそうもないって感じちゃうんだよね。

山口　でも、オーちゃんのレッドゾーンが見れるのは、まだまだこれからだよね。純プロレスで見れるかどうかは、プロレス界が残酷な局面を作り出せるかどうかだけど。

谷川　やっぱキーマンは橋本だな。

豪　橋本がいきなり「嫌い」って言い出すとか（笑）。

柳沢　そこで協調しちゃったみたいな匂いがある限り、小川は小川のアイデンティティーを失うでしょ。だから小川のプロレスっていう角度が違うんだよね。違うし、わからないっていう。

谷川　ボクね、オーちゃんに言いたいことはさ、孤独なんて別にいいじゃんって思うんだよね。

山口　プロレスラーとか一流の格闘家たちは「俺の方が孤独だ」って勝負をしてるもんね。「なに言ってんだ、お前の孤独なんて、俺の孤独に比べりゃどうってことねぇよ」って勝負をしてるような気がするなぁ。

豪　前田は確実にそう言いますよね（笑）。

山口　佐山にしたってそうじゃん。「どうでもいいで〜す」とか言いながらね。

豪　佐山は確実に孤独ですよね。ところで社長は孤独なんですか？

柳沢　俺は孤独に慣れてるよ。

山口　カッコいいなぁ（笑）。

谷川　ボクは孤独を感じたことないからなぁ……あっ！　わかりました。たぶん、みんながボクのこと好きだと、ボクが思ってるからですよ！

一同　パチパチパチ（あきれながら拍手）。

谷川　あっれえ、今日のテーマはなんだっけ？

山口　「小川直也は是か非か」！

谷川　あ、そうなの？　ボク、興味あるよ。

山口　いま興味が出てどうすんだよ！（笑）。

谷川　これはいいテーマだったなぁ、ちぇっ！　今度の『SRS・DX』の座談会のテーマ、なににしよっかなぁ。

山口　橋本の食い過ぎは是か非か？でいいんじゃない（笑）。

【5月15日／渋谷・「季菜」にて収録】

オーちゃんが猪木さんから学ぶべきことは〝孤独〟だと思うね〈柳沢〉

いい返答待ってるよ!!

延彦

20th Debut Anniversary

「もう一丁ッ！」――この5月でデビュー20周年を迎えた髙田延彦が〝究極のもう一丁〟をブチ上げた。

昨年10月のイゴール・ボブチャンチン戦を終えた後、「『PRIDE』のリングに〝忘れ物〟を取りに行く」と、あと1試合限定＆相手限定でバーリ・トゥードをやることを宣言した髙田。

その〝忘れ物〟の正体は、さまざまな憶測を呼んだわけだが、遂に髙田本人の口から「小川直也」という仰天の事実が明かされた!!

かつては、散々小川に挑発され、記者会見の席上では白菊の花束まで投げつけられた髙田は、小川のことを「チンピラだよ、チンピラ！」と憤慨しながら無視していた経緯がある。

その髙田が、なぜ「小川直也」という存在を視野に入れたのか？

既に新聞紙上では、「指名するなら指名料を払ってくれ！　俺は高いよ」と小川が挑発をすれば、髙田は「俺はクラブでもお姉ちゃんを指名しない消極的な男。そんな俺が逆指名しているんだから、ありがたく対戦を受けてくれ」とやり返し、早くも開戦？　という雰囲気も漂ってきている。

深秋の東京ドームで実現か？　と言われるこの一戦が実現する可能性が俄然、真実味を帯びてきたわけだ。

というわけで、今回は、デビュー20周年記念インタビューをジックリと行う予定だったが、急遽予定を変更。

デビュー20周年の話はそこそこに、髙田延彦の小川戦への思いと、今後の方向性を聞いてみた。

仰天!!
“忘れ物”は小川直也だった!!
究極の「もう一丁ッ!!」は実現するか!?

髙田

本誌が言うところの「新プロレス」の扉を自ら切り開いてきた髙田延彦は、この5月で、プロレスラーとしてデビューしてから20周年を迎えた。その髙田が再び動き出した！「“忘れ物”を取りに、もう一度だけ『PRIDE』のリングに上がる」と言ってから半年。遂に“忘れ物”の正体が、髙田の口から発せられたのだ！

聞き手／山口日昇
撮影／斉藤ユーリ
designed by hisa (Two Three)

――髙田さん、この5月でデビュー20周年ということ、知ってます？（笑）。

髙田　知ってるよ。

――実に淡々としてますね（笑）。

髙田　別になんてことないでしょ。この世界、30年40年とかいるじゃない。20年なんかヒヨッ子だよ。

――「え、もう20年なのか？」って感じですか？

髙田　そう。自分自身あんまり変わってないし、基本的な自分というのは10代後半から、あんまり成長してないと思うんだよね。

――せ、成長してないっていったら語弊がありますよ、髙田さん！　せめて、初心は忘れてないとかにしましょうよ（笑）。

髙田　そうしようか（笑）。でもホントに基本は変わってないでしょ。そこにいろいろ肉付けはされてるけど、あのときの気持ちっていうのは、まだまだ新鮮だよね。随分遠い昔って感じはしないからね。

――でも、様々な経験をして、変化してきた部分もありますよね。

髙田　それによって、人間が成長したというよりも、汚れてきたのかもしれないね。いろんなものを見すぎて（笑）。

――また自虐的な（笑）。でもこのキャリアで、髙田さんほど汚れてないというか、なん

プロレス界は動いてるよ。確実に新日本はファンを裏切り続けてるなってね

かキラキラしたものを秘めてる選手はいないですよ。

髙田　腹は黒いから。真っ黒！

――ガハハ！　自分で言いますか。デビュー戦は昭和56年5月の焼津スケートセンター、対保永昇男戦（新日本）ですね。

髙田　うん。シリーズの前に「シューズを作っとけ」と言われてね。これが一つのサインだから。いつも諸先輩方がシューズを換えたり修理したりするときに、シューズ屋さんっていうのが出入りしてたんだよ。お爺ちゃんなんだけどね。新弟子の頃は、そのお爺ちゃんをいつも遠巻きに見てたんだけど、初めてお爺ちゃんのとこに行って、サイズ合わせてね。色は当時は全て統一されてたから。デビュー時はシューズは黒、タイツは紺。

――シューズやタイツを作れと言われるのがデビューの合図なんですね。

髙田　そう。シリーズの前に「作っとけ」って言われてね。

――誰に言われたんですか？

髙田　誰かなぁ？……ハッキリ覚えてないけど、（ヒロ）斎藤さんとか、そのへんの人じゃないかなぁ？

――それから数えて20年ですよ！

髙田　早いね、ホントに。

――今日は、紆余曲折あったその20年を振り返ってもらいたいのは山々なんですけど、〝忘れ物〟が公けにされたというビッグニュースが飛び込んできたんで、そちらの方面の話を聞きたいんですけど。

髙田　予定通り行こうよ（笑）。

――いや、こんなときに20年振り返ってる場合じゃないです（笑）。

髙田　それはそれだよ（笑）。

――（強引に話を続けて）前回、髙田さんに話を聞いたのは『猪木祭り』の後だったんだけど、そのあとに、ZERO―ONE旗揚げや、ノアと小川直也が絡んだりとか、いろいろ動いてますよね。最近のプロレス界にはどういうイメージを持ってるんですか？

髙田　あんまり見てないね。新聞紙上でしかわかんない。

――プロレス界自体が遠い感じ？

髙田　そうだね。あんまり身近な出来事って感じではないよね。

――「なにかが動いてるな」って感じもないですか？

髙田　いや、動いてるよ。確実に新日本はファンを裏切り続けてるなっていうね。

――ダハハハ。お見事です（笑）。

髙田　橋本のところでも、新しい流れが出てきそうだっていうのはわかっても、それが持続するかどうかっていうのが一番大事なところだから。これがいい形で完全な突破口を開いて、より大きな渦になって一つの動きになっていけばな、と思うけどね。ただ、新鮮さが引力を発揮してるのか、ホントに勝負の中身で引っ張ってるのか、これがまだ、いかんせん掴みきれない。

――まだわからないですよね。

髙田　だから、回数を重ねていく中で、リングの中の闘いにみんなが引きつけられてるのかどうかということが自ずとわかってくると思うんだよね。新鮮さだけでは、長続きするもんじゃないから。小川vs三沢っていうのは、お互いがアンタッチャブルなポジションにいたからこそ、インパクトがあったわけでしょ。そう考えると沸きあがる期待感っていうのは大きくて当たり前だからね。その歓声がスーッと萎んでいくのか、より大きくなっていくのかっていうのが一番のポイントじゃないかな。ただしプロレス界全体に関しては、決していい流れではないよ。やっぱり今年に入ってからの新日本のドーム大会3回を見ても、確実にファン側は薄れてますよ。その薄れてるっていうのが、〝関心〟なのか、〝愛情〟なのか、〝期待〟なのか、わかんないけどね。それにうまく対応できない主催者側のアンテナの鈍さというか、風を感じ取れないというのは、決していい状態とはいえないよね。

――逆にZERO―ONEの場合、すべて偶然ですからね（笑）。

髙田　でも偶然が大きなものを生み出すんだよね。俺らもいままで、UWFから始まって、上がマッチメイクしてくれるわけでもない、上が会場押さえるわけでもない、上が対戦相手を呼んでくるわけでもない。全部自分らでやる。そのときに提供できる、よりいいものを全力で掻き集めるというのは、すべて偶然の賜物みたいなものだから。それを重ねていくうちに偶然じゃなくなって、より大きなものになっていく。橋本がやっていることも、現時点では大きくなっていくのか萎んでいくのか、まだまだ未知数だけど、期待感はあるよね。

――一方、『PRIDE』も様変わりしてきてますよね。ルールの問題も含めて。いま髙田さんは、『PRIDE』の状態に関しては率直にどういう感想を持ってるんですか？

髙田　去年から一つのキーワードになった「膠着」というものがあるけど、俺から見ると、膠着もいいなっていうね（笑）。

――いい膠着、悪い膠着がある（笑）。

髙田　そう。見ててつまらない膠着状態と、面白い膠着状態ってあるんだよね。それをパッケージで「膠着が全て悪い」ってなっちゃうと、バーリ・トゥードが本来持ってる面白さっていうものも消さなきゃいけないことになる。一概に膠着が悪いとは思えないし、マスコミの膠着に対する事情説明が足りないんじゃないかなって気がするね。でもそれがよくも悪くも突破口になって、今回膠着をなくすためのルールというものができたと。で、『PRIDE.13』では、4ポイント絡みの試合の終わり方がいくつかあった。それがたまたま強豪同士の試合で、あっけない終わり方になったってことで問題提起があったわけだよね。

――コールマンvsゴエスとかですね。

髙田　でも、さっきの話じゃないけど、これも偶然かもしれないしね。回を重ねてみなければ、あのルールが是か非かっていうのは言えないよ。ダン・ヘンダーソンvsヘンゾ戦の1シーンでもあったけど、ヘンゾがタックル

に行って、ガブられて、首を抜いてすぐにガードの体勢を取るっていう展開。この事実を選手が明確に捉えて、今後対処していく練習をすれば、そんなにあの4ポイントの状態が即、結果を導くとも思えないしね。様子を見てみないとわからないよね。

——髙田さんの中では、桜庭さんの敗戦は新ルールとは全然関係ないと思ってますか？

髙田　まったく関係ないよ。

——「今後、『PRIDE』がこうなっていったらいいな」というのは、ありますか？

髙田　まず、確固たるルールの完成。もう少し時間がかかると思うけど、それがまず第一。試合のたびにルールが変わるとか、行くたびにルールが変わるとか、それはプロのスポーツとして致命傷になりかねないからね。ルールのコロコロ変わるスポーツは栄えないよ。だから、太い部分の土台になるルールは、早く固めるべきだよね。それからチャンピオンベルトの設定。防衛戦システムにして、ランキングをつくって、階級を二つか三つに分ける。で、各階級にチャンピオンベルトをつくると自然に各階級にスターが生まれてくる。そうなればデカいのと小さいのが潰し合うということがなくなってくるしね。これは前にもどっかで言ったんだけど、年に1回、お祭り的な大会で、凄い重いのと小っちゃいのが対戦するというのがあってもいいし。

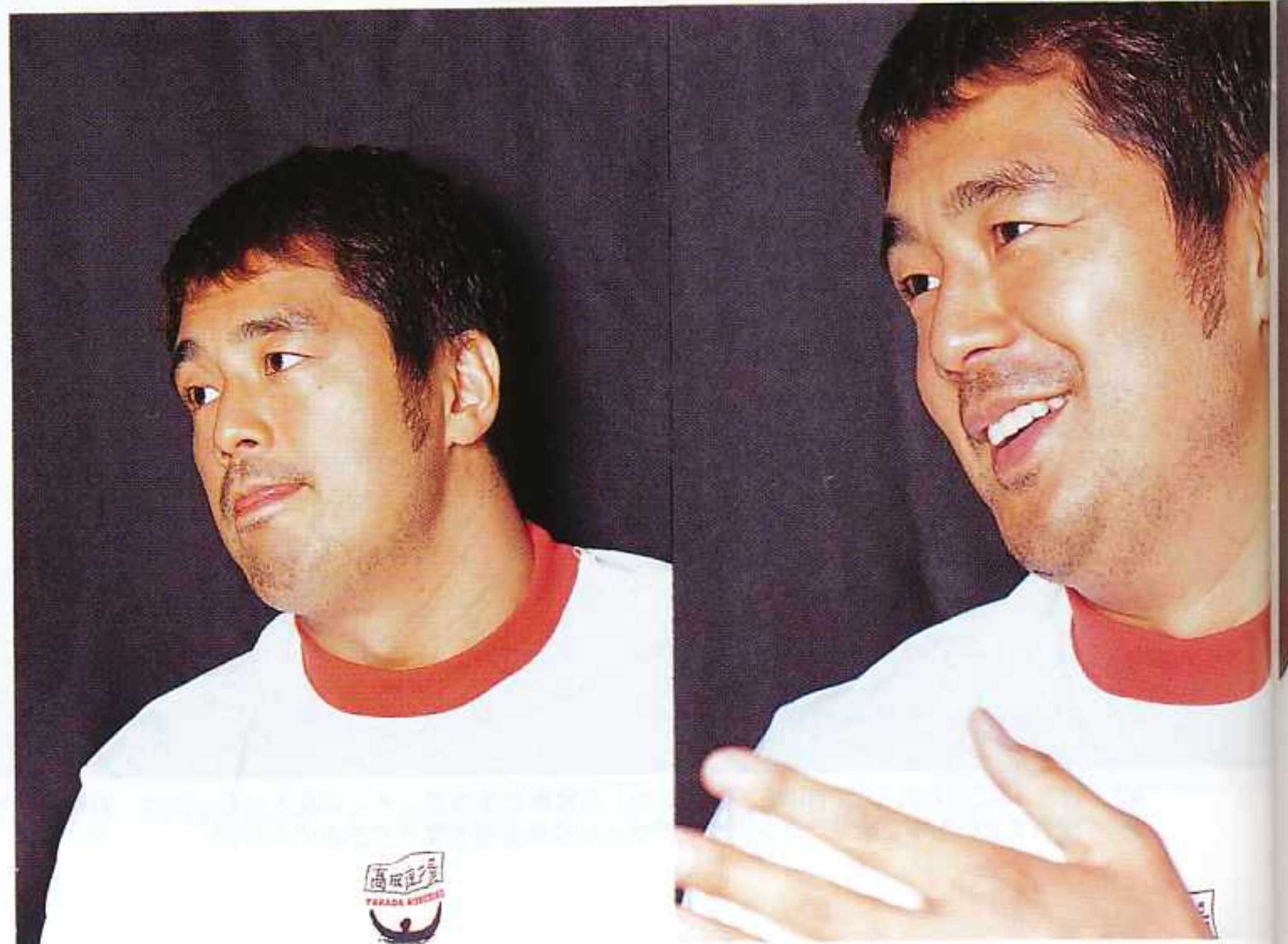
——ああ、宇野薫vsコールマンとか（笑）。

髙田　例えばね（笑）。それに関しては、リアルファイトではあるんだけど、試合を面白くするために、若干ルールをいじってもいいと思う。

——重い方だけに禁止事項を増やしたり。

髙田　そうだね。

——それは面白いですね。でもその前に各階級の整備が必要だということですか。

髙田　選手層に関しては、選手が足りなくなっちゃうってことはないと思うんだよね。とにかく強い人をリングの中に持って来ちゃえばいいんだから。

——むしろ「上がりたい」っていう選手がどんどん増えてくるでしょうね。

髙田　増えてくるだろうね。選手不足ということは、この世界に関してはないよね。あとは、いかに主催者側が面白い選手を引っ張ってくるか。選手側としては、面白い試合ができるのか、オリジナリティを持ってるのかっていう、高いレベルでの競い合いも含まれてくるだろうね。

——たしかに『PRIDE』は面白いし、可能性は腐るほどあると思うんですよ。でも、さっきのZERO—ONEの話じゃないけど、プロレス界の今後の明確な方向性が見えないように、『PRIDE』の今後の方向性というのも、まだ明確に提示されてない気がするんですよね。

髙田　方向性？

Nobuhiko Takada

——えーっと、たとえば、UFCのように、純粋なバーリ・トゥードという世界の出来事にしていくのか、それとも、様々な格闘技やファンの潜在的な夢を取り込んで、「世界一強い者を決める場が『PRIDE』だ」という打ち出し方をしていくのかっていうことです。

髙田　やっぱり、『PRIDE』に望まれてることは、〝世界最高峰の総合格闘技の闘いの場〟だと思うんだよね。だから、ファンのニーズに応えるってことは絶対に外せない。たとえば、ボクシングにしてもそうだけど、これからも夢のカードを実現させていくことは必須だよね。

——どの競技も、いいカードは実現したいでしょうね。

髙田　うん。それは当然のことだよ。

——で、方向性として、ボクシングみたいにシステムを確立して競技化していくのか、天下一武道会じゃないけど、夢のような世界を実現していく方向なのか。

髙田　え、天下一？

——天下一武道会っていうのが『ドラゴンボール』っていう漫画に出てくるんですよ。いろんな格闘技の猛者が集まって、最強の人を決めるっていうのが（笑）。

髙田　あるんだ（笑）。

——例えばそういう場として機能させていくのか、ランキングなどを設定して競技化していくのか。二つの方向があると思うんですよ、大雑把に分けると。

髙田　それはいっぺんにやらなきゃダメでしょ。両方外せないね。競技化していきながら、その……天下一？

——天下一武道会です（笑）。

髙田　うん。そういう見ている者がワクワクするようなものもふんだんになければね。贅沢に。それが『PRIDE』だよ。

——キーワードは「贅沢さ」ですか（笑）。

髙田　いい意味のね。マッチメイクの贅沢さと激しい闘い。で、ひと目でわかるランキングと、チャンピオンの防衛戦システム。プラスアルファ、メディアをフルに活用して、一人でも多くの人に見てもらって総合格闘技を広めていく。日本だけじゃなくてね。いま、アメリカでも『PRIDE』は、総合系では世界ナンバーワンと言われてるけど、もっともっと大きなものになっていけると思うよ。だから、いま言った競技化と……天下一？

——天下一武道会です（笑）。

髙田　どっちかが欠けても、『PRIDE』を確立したことにはならないだろうね。

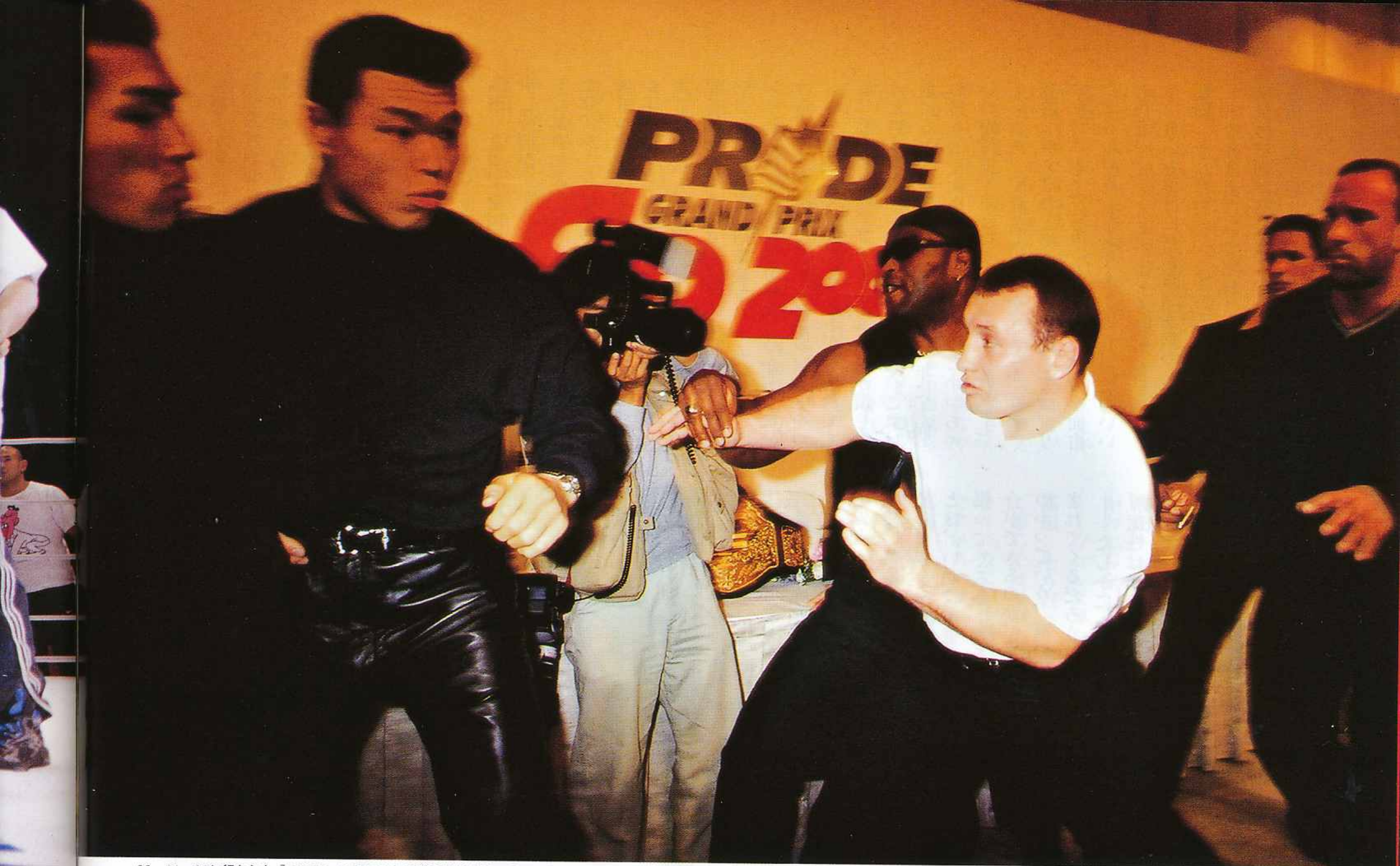
——なるほど。髙田さんは、あと1試合しか『PRIDE』のリングには上がらないということですけど、その最後の試合で小川直也と闘いたいというのが、遂に髙田さんの口から出てきましたね。

髙田　前に1回、やるやらないっていう話が出たことあったでしょ。でも、自分では〝闘いはもうないだろう〟と思ってた。ただ、ファンに一瞬でも「見たいな」と思われたものを見せることができなかったっていう思いが〝忘れ物を取りに行く〟という表現になったんだよ。一人でも多くの人に見てもらいたい、いいものを見せていくっていう。

——もの凄い憶測呼びましたからね、あっちこっちで（笑）。それこそ小川直也も含めて、前田日明から、田村潔司から、桜庭和志から、モーリス・スミスから（笑）、いろんな人の名前が出てきましたよね。

髙田　モーリスね（笑）。ナイガイ（内外タイムス）だったっけ？

——ナイガイは、つい最近も「〝忘れ物〟は（アレキサンダー・）カレリン」とブチ上げてくれましたよ（笑）。

髙田　いいね、ナイガイ（笑）。発想が突き抜けてるよね。でも、そ～んなに大騒ぎするほど大層なことじゃないよ。

99・11・23に行われた『PRIDE・GP2000』の発表記者会見。そこに乱入した小川は、対戦を受諾しない髙田に白菊の花束を投げつけ挑発。“慣れてない”ボブチャンチン、グッドリッジらが血相を変えて止めに入った

Nobuhiko Takada

——いや、ファンは喜んでますよ。あの強い小川直也に向かっていくモチベーションを髙田さんが持ってるというのが届いてますよ。〝格闘登山家〟の髙田さんとしては、「小川直也」という高い山を登ってみたいという意識なんですか。

髙田　いや、今回の出発点はそういう発想じゃないよ。

——2年くらい前には、小川直也に散々挑発されてましたよね。

髙田　散々されたね！（笑）。

——記者会見で白菊の花束を投げつけられたり（笑）。その頃はズバリ言って「見たくもない」って感じでしたよね？

髙田　うん。

——そういう気持ちが、どこで変わったんですか？

髙田　いや、全く変わってないよ。きっかけもなにもなかったんだけど、去年の10月の試合（イゴール・ボブチャンチン戦）が自分の中では打ち止めのはずだった。〝もうないだろう〟というつもりでイゴールに向かって行った。で、イゴール戦が終わって、リングを降りるか降りないかってときに、「もう一回やってくれ」っていうファンの応援メールをたくさんもらってね。俺も調子に乗りやすいほうでしょ？

——振らないでください（笑）。

髙田　で、「相手を探さなきゃあな」という気持ちになった。俺自身、ヒクソンから始まって、闘いがいのある相手に呼び込まれてリングに向かって行きたい。でも、ファンのそういう声を聞いて考えたときに、「ちょっと待てよ？　1人いたか」って浮かんだんだよね。

——なんで浮かんできたんですか？　練習仲間の佐竹さんが小川直也に負けたから、リベンジするという意識？

髙田　いや、そういうんじゃなくて、自分の中でも宿題として残ってたんでしょう、そうやって浮かぶということは。自分の中では既に忘れかけてた存在が、〝忘れ物〟というイメージとしてリングの中にある。それをもう一回取りに行くんだという気持ちだね。それがなければ、俺は『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がる意味はないわけだから。で、彼に照準を合わせたときに、このカードを客観的に聞く方も「なるほどな」と合点が行きやすいんじゃないかということだね。

——いまは、小川直也を『ＰＲＩＤＥ』に上がってるファイターとして認知してるってことですか。

髙田　そんな細かく考えてはいないよ（笑）。もっと大雑把に捉えてる。

——「小川は自分が挑発された頃に比べると、いろんな意味でスケールアップしてる」みたいなことを言ってましたよね。

髙田　やっぱり彼の功績は、盛り下がる一方のプロレス界を盛り上げようとする働きっていうのかな。そういう部分では絶大なる力を発揮してるからね。これは誰もが認めることだと思うんだ。「小川」って他のスポーツに負けないぐらいの大きな活字で出てるんだからね。それは桜庭もしかりだけど。そういう意味では、確実にスケールアップしてるし、確実にプロレス界を支えてきてるんだよね。2年前に俺を挑発してきたときと、いま現在の彼では、やってきたことで彼に染み付いてるものが違ってるよ。

——挑発三昧っていうやり方は変わってないですけどね（笑）。

髙田　うん。そういう面でもスケールアップしてるかもしれないね（笑）。前からやり方は変わってないんだけど、そこは大いに認めざるをえないというふうに俺は感じてる。

——髙田さんが闘ってみたいのは、プロレスラー・小川直也？　それとも元柔道世界一の小川直也？

99・4・29『PRIDE. 5』。メインでマーク・コールマンを撃破し、歓喜の雄叫びを挙げる髙田に、かねてから対戦表明をしていた小川がリング上に乱入し挑発！ 無視して引き揚げる髙田の背中に「逃げるのか、根性なし！」と痛烈なひと言を浴びせた

いろんなアイディアを〝公開交換日記〟でやりたいね（笑）

髙田　そういうのもないね。まったくそういう細かい捉え方はしてない。

――しっかし髙田さんは、ヒクソン、ケアー、ボブチャンチンと、ホントにやるときはやりますよね。他の人が様子を見ているときに、自ら手を挙げる。そこが凄いよなぁ。

髙田　結果は付いてこないけどね。

――ボクは何も言ってません（笑）。

髙田　最近また空耳がヒドイんだよ（笑）。

――ちょっと前に、小川vsヒクソン戦というのも浮上してましたよね。その小川直也を破って、桜庭vsヒクソンに流れを向けたいっていう気持ちはないですか？

髙田　うん？　いま初めて聞いたよ、そんな考え。それはまったく考えたことなかったね。そんなこと忘れてたから。確かに、2ヶ月ぐらい前かな？　このことは言わないで、墓に持ってこうと思ってたんだよね。

――墓にまで（笑）。それは、1回小川直也と関わると、またうるさいからですか？（笑）。

髙田　小川自身もタイソンだったり、ヒクソンだったりっていう状況の中だったから、そこにズカズカ入って行ったって、アホみたいだしね。

――あ、小川直也が忙しそうだから（笑）。

髙田　取り合ってもらえないんじゃないかってね（笑）。

――小川戦は、『PRIDE』以外では嫌なんですか？

髙田　それ以上のものがあるなら「乗った！」となるかもしれない。でも俺が、広く世の中を見渡してみると、『PRIDE』以上のリングはいま現在、存在しないと思うからね。他にグッドアイディアがあれば、そっちに手を挙げるかもしれないけどね。

――一昨日、小川直也にインタビューしたときに、髙田さんのことを聞いたんですよ。そうしたら『PRIDE』じゃなくてもいいんじゃないか」「なんか面白いことしようよ」みたいな言い方をするんですよね。

髙田　例えば？

――いや、細かく覚えてないけど、巌流島で観客なし映像アリでとか、例としてあげてたかなぁ（笑）。

髙田　巌流島ね（笑）。まぁ、いろいろ聞く耳は持ってるよ。いろんなアイディアを公開交換日記でやっていきたいね（笑）。

――公開交換日記（笑）。

髙田　いろいろ間接的にディスカッションしながら、最終的には闘いの場に立つということを前提に、どっかで折り合いというか、妥協点を見つけられればね。『PRIDE』しかり、巌流島しかり（笑）。

――小川さんとしては、「なんで俺ばっかりが敵地に出て行かなきゃいけないんだ」っていう思いがあるみたいなんですよね。

髙田　ホームリングがないなら、出て行くしかないでしょう。たとえば向こうの興行で、と言うんなら、それは『PRIDE』でまずやってから考えるよ。ほら、俺は全方位型だから（笑）。

――プロレスのリングで小川直也とやるということは考えてない？

髙田　う～ん……、いま彼はプロレスの中でもトップの中に入ってるわけだから、俺がプロレスやるとすれば、接点が出てくるだろうなという思いはあったけどね。だから今後も、この試合が実現したら、接点が生まれるかもしれないし、一切接点がなくなるかもしれない。10回20回と、プロレスのリングの

（プロレス界で）俺ができることがあるなら、入って行くことはゼロではない

上で相まみえることもあるかもしれないよね。それこそ誰もわからないよ。

――偶然になにかが生まれるかもしれないと。

髙田　そういうことだね。

――いま純プロレスも、髙田さんが言うように持続するかどうかはわからないけど、賑やかにはなってきてますよね。そういうところにパッと入って行こうっていう気持ちはないんですか？

髙田　自分から「ちょっと入れてよ」っていう感覚はまったくない。それこそZERO―ONEだよ。

――は？

髙田　ゼロワンじゃなくて、「ゼロ」のみか。「ゼロ」か「1」かって言われたら、ゼロ！

――ガハハハ！　そういう意味ですか。

髙田　でも、俺みたいなものでも力になればいいという気持ちは持ってるよ。

――6・14の『真撃』への出陣要請も橋本さんのほうから出てるみたいですね。

髙田　俺ができることがあるなら考えて、面白くできるのか、できないのか。自分自身が必要なのか、必要じゃないのか。無理矢理つくったもんじゃなく、そういう流れの中で、接点が生まれるならば、入って行くことはゼロではないだろうね。

――ところで話は変わりますけど、髙田さんから見て、桜庭さんの回復具合はどうなんですか？

髙田　順調。ただ、ここ2年以上の疲れもあるだろうし、彼自身のためには、焦らずにしっかりとオーバーホールしてもらいたいね。リングに上がりたくてしょうがない、闘いたくてしょうがないという状況が、復帰のモチベーションとしてはベストかなと思うね。

――じゃあ7月に予定されてる『PRIDE．15』に照準を定めてるわけでもないんですか？

髙田　まだ練習も全開でやってないから。ハッキリ言って、まだ未定だよね。

――小川戦という当面の目標ができたから、髙田さんの、アテネ五輪に向けてのグレコ（レスリング）へのチャレンジというのは、いまのところ凍結ですか？

髙田　練習はするけど、大会に出る出ないに関しては凍結だね。延期。

――もし小川戦を終えたとしても、やることはいくつもありそうですね。

髙田　だからよかったよね、楽しくて（笑）。道場に来て練習して、そこそこ体を動かして、ただ平和に家に帰るだけっていうのには、まだ早いよ。パンツ一丁になってリングに上がれるっていうのは、やっぱり一番緊張感が持てるからね。

――小川戦が実現したら、プロレス界にとっても重要な一戦になりますね、バーリ・トゥードとはいえ。その一戦によって流れが大きく変わるかもしれないですからね。

髙田　そうかもしれないね。

――デビュー20周年を機にプロレスでも暴れてほしいですけどね（笑）。

髙田　でも、あんまりオッサンに頼るようじゃね。若くて凄くいい選手がたくさん出てきてるわけだから。ただでさえプロレス界というのは、非常に回転が遅い世界だから。なんらかのシステムがもうちょっと出来上がってきて、上の人間を排除していくとかじゃなく、もう少し早い回転で、気持ちよく世代交代ができればと思うね。やっぱりいまの状況は見てて痛々しいよ。

――髙田さん自身は、まずはバーリ・トゥードでの小川戦だということですね。

髙田　いい返答待ってるよ。

【5月14日／東京・武蔵小山・髙田道場にて収録】

Nobuhiko
Takada

【写真1】97・10・11『PRIDE.1』。プロレス界にとっての“黒船”だったグレイシーのボスキャラ・ヒクソンの前に、髙田は完敗！　しかし、ここからすべてが始まった。【写真2】98年にはヒクソンに再戦を挑むも、敗れた髙田。99・7・4『PRIDE.6』では、当時“霊長類ヒト科最強の男”の異名を取ったマーク・ケアーに挑んだ。玉砕したものの、ケアーをして「髙田はライオンのハートを持っている」と言わしめた。【写真3】00・1・30『PRIDE・GP2000』の1回戦では、“より高い山に登りたい”という格闘登山家ぶりを発揮し、ホイスに挑んだ髙田。判定負けを喫したが、挑んでいく勇気は称賛される。【写真4】00・10・31『PRIDE.11』では“北の最終兵器”ボブチャンチンに向かっていった髙田。ローキック、テイクダウンと、爽快な追い込みを見せた

髙田が望む『PRIDE』のリングでのvs小川戦が実現するのかはわからない。掲載してない部分でも髙田は、いろいろと語ってくれたのだが、いまは「殺るか、殺られるか」というより、「やるか、やらないか」という段階である。対戦決定前なので当然の話だ。

しかし、「小川直也」という存在が、髙田のバーリ・トゥード最終出陣への闘志を掻き立てているのは確かだ。

もしも決まったら、これは非常に〝残酷〟な組み合わせになる。

「新プロレス」の扉を開いた髙田の『PRIDE』最終戦となれば、これまで髙田の道程と功績を見続けてきたファンにとってみれば、有終の美を飾らせたいのが心理。だが、相手が小川となると、そういう思いも木っ端微塵に吹き飛ばされる可能性がある。

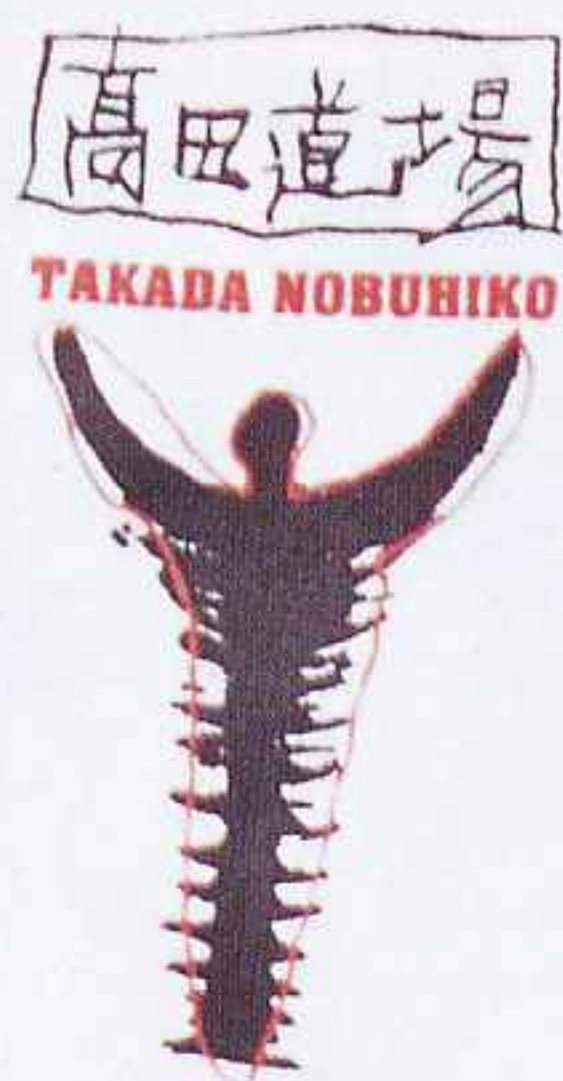
逆に髙田が勝てば、「あと一戦」の人間に、小川直也がその日の出の勢いをストップされることになる。

どちらにしても、リアルファイトの〝残酷さ〟が浮き彫りになるはずだ。

しかし、この2人が相まみえれば、その〝残酷さ〟を真っ正面から見据えつつも、人々の記憶に残るワクワクドキドキの勝負になる可能性の方が高い。

デビュー20周年を迎えた年に、髙田延彦は〝忘れ物〟を取りに行けるのか？　小川直也はこの勝負を受けるのか？――これからの動向に注目せよ！

“忘れ物”を取りに行く!!
20th Debut Anniversary

高田道場
TAKADA NOBUHIKO

リングス離脱か、残留か!?
決断の時来る!

なんでもいいから、凄ぇ田村が見たい!!

いまこそ本性を見せろ 田村潔司!!

田村潔司、遂にリングス離脱か!?　4・20代々木大会でのvsグスタボ・シム戦。田村は左手中指の負傷を捺して出場するも、2・24ババル戦に続きまたしてもファンの罵声を浴びながら判定負けを喫してしまった。そして試合後、遂にリングス離脱とも取られるコメントを激白。逆風吹きすさむ中、田村はどこへ行こうというのか!?　そして、いまファンの目に届いていない、田村潔司の本性とは一体なんなのか?

構成／堀江ガンツ
試合撮影／吉澤晃
designed by hisa (Two Three)

ついに来るべき時が来たのか？

4・20代々木第2体育館で行われた、新シリーズ『ワールド・タイトル・シリーズ』。リングス初の階級別王者決定トーナメントの開幕戦。田村は1回戦でブラジルの実力者、グスタボ・シムと1回戦で激突。

『アブダビ』前の練習中に左手中指を負傷した田村はグローブなしで登場。スタンドでの最大の武器である左のパンチが使えない田村は、トータルバランスに欠け、タックルは切られ、左ミドルはガードされる。

結局、田村は最後までシムにペースを握られたまま5分2Rを終えてしまった。

田村判定負け。

これでリングス公式戦は10月にノゲイラに敗れて以来、3連敗。この6日前に行われた『アブダビ』でのリボーリオ戦も含めれば4連敗。田村の負けがすでにニュースにならないところまで来ていること自体、大問題である。

2月のババル戦に続き、またもや突破口が見いだされぬままの判定負け。観客には指の怪我は分からない。直前に『アブダビ』があったことも関係ない。

観客の目には覇気がないように映った田村に対し、試合中から容赦ない野次が飛んでいた。

敗れてリングを降りようとする田村。その階段を下りきる途中で振り返り、寂しいような、名残惜しいような、思い詰めたような表情でしばらくリングを凝視。

よし。と一息ついてから、再びリングにもどり、四方に向かって礼をする田村。まばらな拍手と声援。そしていくつかの野次が飛ぶ。控え室に戻る途中で、野次の主に一瞬向かっていこうとする田村の姿が悲しい。

控え室の前で記者に囲まれて、田村が口を開いた。

「契約してもらえるんであれば多分リングスになると思いますけど、契約してくれるかも分からないし、ボクを必要としてくれるところがあれば……」

驚きはしなかった。

残留か離脱か!?

おそらく田村はある条件を持ってリングスとの契約交渉の席に着き、それを飲んでくれれば残留。飲めなければ転出という考えなのだろう。

いずれを選択するにせよ、このまま連戦を続けていくことだけは反対だ。このままでは田村潔司のバリューを落とすだけ。ファンにとっても、田村にとっても、リングスにとってもよくない。

ただ、救いは田村は決してやる気を失っているわけではないこと。

『強くなりたい』という気持ちがまだあるんで。見返してやりたいです」

その気持ちの表れこそ、実は「やる気がない」ように見られたガード・ポジションだったのだ。

田村の試合を多く見ている人ならわかると思うが、田村はこれまで下からの攻めというものをあまりしなかった人。誤解を恐れず言えば、下からの攻めは得意ではないのだ。

アブダビでの合同練習でも、下からの攻めについて、TK、宇野薫そして菊田らに積極的にアドバイスを受ける田村の姿が何度も見られた。

おそらくシム戦での引き込みは、自らの課題を克服しようとしている姿だったのだ。

とにかく一度、田村は休んだ方がいい。

前田、田村直接対談
第1回は決裂!!
次回、5月下旬に持ち越し

注目の田村とリングスの契約更改は、ゴールデン・ウイーク明けに行われた。

前田と田村の直接会談。

ここでどんなことが話されたのか伺い知れないが、この日は結局結論が出ず、少し時間をおいて後日改めて交渉の席を持つこととなった。

ところが、田村の第1回と2回の交渉の間にとんでもない激震がリングスを直撃。

なんと、リングス生え抜きの山本憲尚と成瀬昌由が退団してしまったのだ。

しかも現時点でリングス主力選手で契約を更改したのは金原と滑川のふたりだけ。

ハッキリ言って、いまリングスは10周年を前に旗揚げ以来最大の転換期に来ている。

いや、転換期などという生やさしいものではなく、存亡の危機といってもいいだろう。

はたして、ここで田村はどんな結論をだすのか？

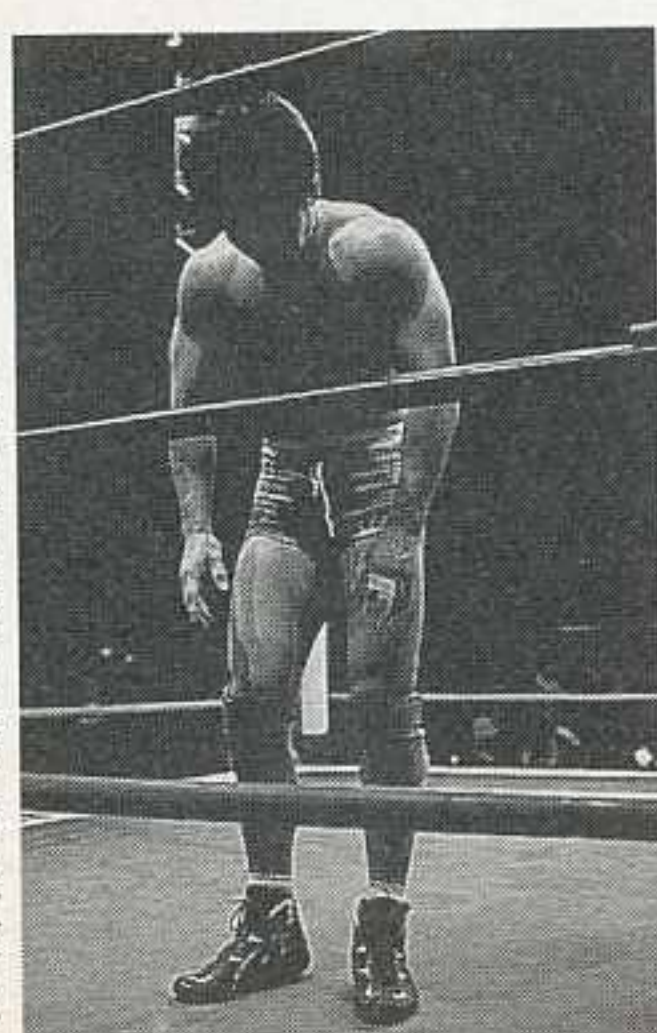
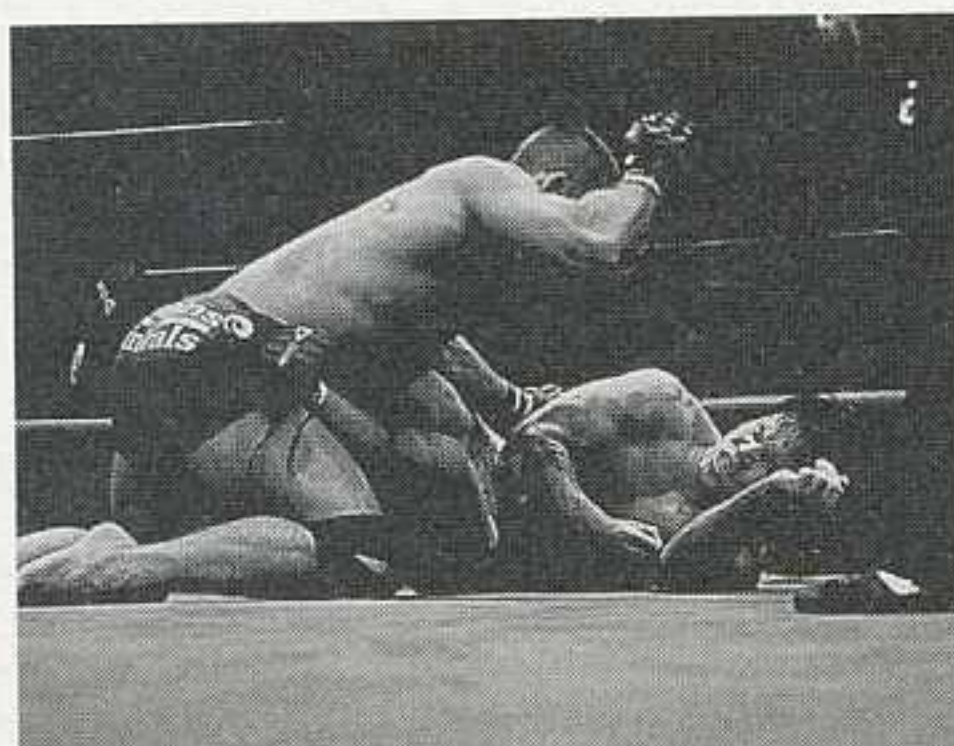
田村と前田の第2回直接交渉は5月末に行われるという。

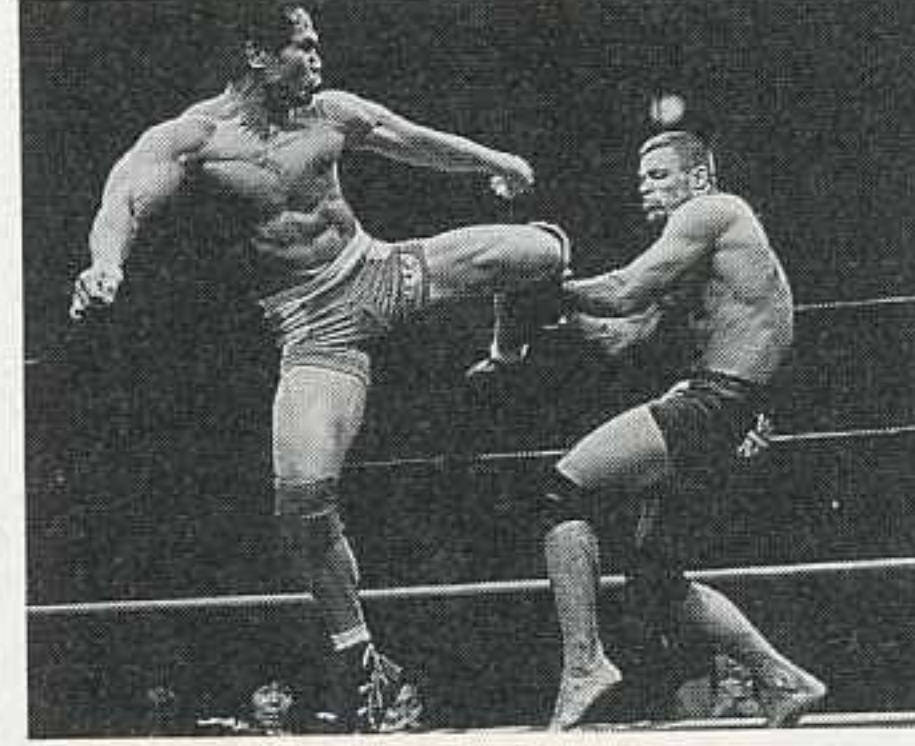
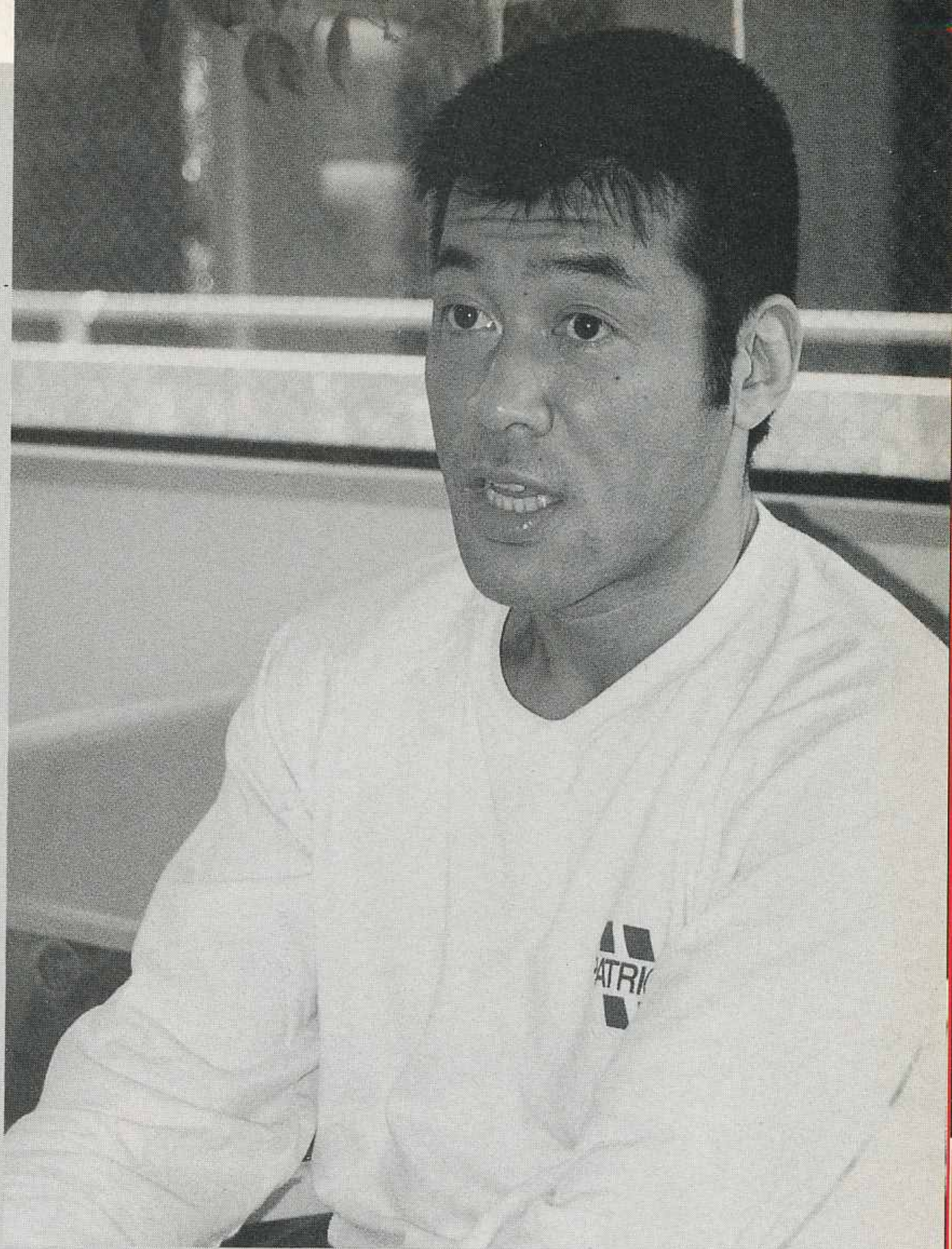
おそらくここでなんらかの結論はでるだろう。

残留か、退団か!?

ああ、田村というストーリーはなんとドラマチックなのか！

田村、シムに敗れ1回戦負け!
はたしてこれは無気力ファイトなのか?

【4・27代々木第2体育館】
グスタボ・シム（ファス・バーリ・トゥード）（2R 判定2-0）田村潔司（リングス・ジャパン）

一度リングを降りた後、もう一度リングに上がり、四方に礼をする田村。はたしてこれは、負けたことに対するファンへのお詫びなのか、それともリングスファンへの別れの挨拶なのか……。

2Rになるとさらに田村がガードポジションを取り膠着気味の展開が続く、それを打破するためか、負傷した田村の指に向かって鉄槌を振り下ろすシム！田村の顔が苦痛で歪んだ！

なかなかタックルでのテイクダウンが奪えない田村は後半、引き込みを多用。これまでアンダーからの攻めをほとんど見せなかった田村が、新たな境地を切り開こうという意欲は見て取れた。

左手中指の負傷によりパンチが打てない田村は、"伝家の宝刀"左ミドルをひたすら連発。しかし、スタンドでのバリエーションが使えないために、ほとんどがガードされてしまい、有効打が打てなかった。

“Uインターの頭脳”が語る田村潔司の本性

宮戸優光

［U.W.F.スネークピット・ジャパン］

タムちゃんは普段おとなしいけど、非常にギラギラしたものを持ってるんですよ

その日の心理状態が、リング上にモロに反映されてしまうため、「いじけてるのか、やる気がないのか」など言われがちな、このところの田村潔司。しかし、そのポーカーフェイスの奥には煮えたぎったマグマが確実に蓄積されているハズだ。はたして田村の本性とは何なのか？　その辺りをUインターの頭脳と呼ばれた、宮戸にうかがってみよう。

聞き手／中村カタブツ君
撮影／堀江ガンツ
designed by hisa (Two Three)

――今日はUインター時代にフロントとして田村さんと接した宮戸さんに、いま色々と渦中の人である田村潔司選手の魅力をお聞きしたいと思って来ました（笑）。

宮戸　うん、タムちゃんっていうのはね、ロビンソンなんかも言うんだけど、気が入った時はホントに怖いタイプというのかなぁ。

――怖いっていうのは具体的に言うとどんな感じですか。

宮戸　絶対に自分が勝つことしか考えてないっていうね、そういう意味でハートの強い選手ですよ。ただ最近の不調みたいな感じを見てもわかるように気が入ってない時は精神的なモノがモロに出てしまって、それがファンにもわかっちゃうところがあったよね。

――そういうのは宮戸さんとしても困ったわけでしょ？（笑）

宮戸　困りますよねぇ。会社としても多少問題ありましたよ。多少というか、十分問題ありましたけどね（笑）。

――ワハハハ！　ありましたか（笑）。

宮戸　ただ、当時はまだメインイベンターじゃなかったからね（笑）。だけど、いまは事実上のリングスのエースと言っていい立場だから。そういう立場の人がそうやって見えちゃうってことは、タムちゃん自身にとって悪いとともに、お金払って見に来てくれるファンにとっても辛いものはあるよね。

――たぶん、リングス側も、そこをなんとかムチ打ったりしたいと思うんですよね。

宮戸　それは無理ですよ（キッパリ）。

――宮戸さんでもダメだったんですか（笑）。

宮戸　ダメです。無理です。

――面倒臭い男ですね（笑）。

宮戸　面倒臭いというか、それが彼のいいところでもあるからね。タムちゃんっていうのは普段おとなしいけど、非常にギラギラしたモノを持ってるんですよ。崖っぷちに立った時はそれは凄いですからね。

――実際、パト・スミ戦にしてもヘンゾ戦にしても崖っぷちに立った時の田村さんは必ず前に踏み出して結果を出してますからね。

宮戸　そう！　リングスに行ったばかりの時もここで孤立無援でやっていくんだっていうのでギラギラしてたからね。あのリングスに入った1年目、あれがタムちゃんのピークだとボクは思うんですよ。

――いきなりピークなんですか（笑）。

宮戸　そこがピークっていうと寂しい話だけどね（笑）。そういうものが必要なんですよ。

――例えば、Uインター時代、リング上で高田さんに向かって「真剣勝負してください」と言った時はギラギラしてましたよね。

宮戸　う〜ん、真剣勝負っていう言葉うんぬんは関係なくてね、皆さんはなんか変に騒いでましたけどね。

――「凄いなこの人」と思いました（笑）。

宮戸　だけど、高田さんっていう先輩にあんな公の場で口を開いたってことが僕はびっくりしましたよね。やっぱり熱いものがあるんだなっていう部分で。つまり、あの時のタムちゃんの立場は新日本との対抗戦が進行してる中で自分は反対してると。そういう孤立してる時に、高田さんという当時の

本当に理想とするものを、外に出てでもやるぐらいの気持ちでやれば、また燃える田村潔司が見れる

エースに「自分の立場を賭けて勝負してくれ。負けたら辞めますからそれだけのものを賭けてください」と、そういう意味だと思うんですよね。だから、あの真剣勝負という言葉はガチンコであるとか、シュートであるとかいうそんな軽いもんじゃないんですよ。もっともっと重いもんですよ！

——あの発言はホント格好良かったですよ。あの時って流れの中でやれるものならやらせてみたいと思いませんでした？

宮戸　いやあ、だって、あの時、僕は客席から見てたんですよねぇ。

——そうだったんですか（笑）。

宮戸　いや、まだ居たんですよ、会社には。だけど、セコンドにもつかず、控え室にも行かず、僕は客席にいたんですから（笑）。

——お客さんのごとく（笑）。

宮戸　まあ、ユニフォームは着てましたけどね。そのぐらい気持ちは冷めちゃってましたから。なんていうのかな、あのことも自分の身近なことに思えなかったですね。なんか、ボーっと見てたっていうかね。

——お互い対抗戦に反対する立場ってことで話とかはしなかったんですか。

宮戸　しなかったですね。東京ドームに出る出ないって話も一切してませんしね、ただ、東京ドームが行われた日にたまたま一緒に道場に居たっていうね。その時もあまり多くは語らなかったし。みんなが試合してるだろう時間に練習して、そのあとに食事したっていう、そういう静かな晩でしたよね。

——当時の田村さんのあの頑固さって凄く乗れましたよね。

宮戸　だからね、タムちゃんはハートが強いんですよね。僕はゲーリー・オブライトとの試合の時もそれは強く感じたなぁ。ゲーリーがずっと上に乗ってて「これは田村が負けるかな」って思ったけど、彼は試合を投げないもんね、じっと堪えて最後はスリーパーで仕留めたっていうね。あの試合は、日頃おとなしいけど非常に強いモノを持ってると初めて気づいたというかね。まあ、気づくのがちょっと遅いというかね（笑）。

——かなり遅いですね（笑）。

宮戸　「そんな後半に気づいたの？」って感じなんだけど（笑）。けどね、僕が思ってる以上に、折れない芯を感じたのは両国のあの試合ですよ。ほかの選手にない強さを感じましたよね。

——そんな田村さんがいまやる気が見えないのが歯がゆいんですよ。

宮戸　だから、『PRIDE』だとか、ほかの舞台にいまのこの精神状態で出ていっても解決するとは思わないし、そういう舞台がセッティングされたとしても、下手すると決定的に評価を落としてしまうような気がしますね。

——ただ、Uインターを辞めた直後のパト・スミ戦の精神状態って気合いが入ってたと思うんですよ。

宮戸　あれは負けたら辞める気でいましたからね。選手生命をあそこにぶつけましたから。だから、精神状態で言えば、その前のドームの時がいまの状態でしょうね、きっと。

——あの当時、田村さんを新日本のリングに無理に上げてもダメだったんですかね。

宮戸　ダメだと思いますよ。それにあの状況で、やる気のない人が上がっちゃったらおかしなことになるから。それこそ非常に危険でしょう。要するに当時のUインターの幹部たちの思惑とは違う方向にいきかねないから。はっきり言うと、あの興行を仕組んだ人間がUインターを叩き売りしたんだから！

——叩き売り（笑）。

宮戸　そうでしょ。そういったものがオジャンになる可能性もあるから。Uインターを愛する人間からすればいい意味でオジャンになったかもしれないけど、やっぱりそういうことは避けたかったんじゃないの。だから、無理に上げようっていう動きは絶対になかったと思うんですよ。

——フロント的にはホント、使いにくいですね（笑）。乗せるにはどうやったら乗るんですかね。

宮戸　う〜ん、苦労しましたよねぇ……。

——その苦労話を聞きたいですね（笑）。

宮戸　いやいやいや、結局、もうあきらめましたよ（笑）。

——あきらめるしかない（笑）。だけど、乗る時だってあるわけでしょ？

宮戸　だけど、こっちが乗せて乗ってたってわけじゃないからなぁ。自分で見つけて乗ってただけで、僕らが乗らせたって感覚はあんまりないですよ。ゲーリー戦もこっちが乗せたわけじゃないしね。

——最後の方の田村VS桜庭戦にしても乗せようとしたわけじゃないですしね。

宮戸　あのときボクはUインターにいなかったけど、要するに幹部たちが手を焼いてたわけですよ、結局。

——たしか、あれは第1試合でずっとやらされてたわけですよね。

宮戸　完全に嫌がらせだよね。だから「俺を追いやるつもりか、この野郎！」って気持ちがいい方に出ていたと思うんですよね。

——嫌がらせがあんな名勝負になったと（笑）。

宮戸　サクにしてもタムちゃんにしてもレスリングが出来る選手だからね。だけど、幹部たちにしたらホントは出したくなかったぐらいだと思いますよ。けど、給料払ってるから

出さなきゃ損っていうセコイ考えだから。そのセコイ考えで東京ドームをやっちゃってUインターを潰しちゃったっていうね。そりゃ、潰す気はなかっただろうけど、そんなセコイ気持ちで舵を握れば、それは潰したのと同じことですよ。それがわからないのが怖いところだったね、あの当時のあの辺の輩！

——Uインターが築き上げたものをすべて壊してしまいましたね。

宮戸 ホント、叩き売りの大安売り！ こっちは決定事項になるまでずっと知らなかったですもん。ファンの人たちと一緒で僕は新聞で見て知ったんだからね。

——藤波社長みたいに（笑）。だから、そういう荒れた状況でも田村さんは絶対に志を曲げない、いい意味で頑固な男ですよね。

宮戸 そういう男なんですよ！ Uインターの沈みをバネにしてきたわけですよ、結果として。本人は大変だったはずですよ。

——でも、現時点での田村さんは試合スタイルにしても環境にしても自分の思う通りにならないからイライラしてる、悪い意味での頑固者に見えちゃうのが残念ですね。単純にKOKルールの中で実力を発揮すればいいでしょ、って思うんですよ。

宮戸 いや、それがもう面白くないんですよね、たぶん。本当はタムちゃんが理想とするものをね、可能であるなら外に出てもやるぐらいの気持ちになってやればまた燃える田村潔司を見れるかもしれないですね。

——と思います。あとは桜庭さんと比較されることも気に入らないと思うんですよね。

宮戸 だから、力的には差があるとは思わないんですよ。もうタムちゃんはどちらかというとスピードと爆発力系の選手なんですよ。サクはじっくりとチャンスを狙っていくっていうね。その辺のタイプは多少違いますけど。ただ現実的にはね、いろんな意味で桜庭の評価が高いじゃないですか。でもタムちゃんとしては後輩の桜庭とじゃあ、もう一歩燃えられないんじゃないのかなぁ。

——なんだろう、桜庭さんにしても、田村さんにしても、「（試合を）やりたくないです」みたいなことを言うのは同じですけど、リング上は違いますよね、いま。

宮戸 桜庭はね、どんな状況でも目の前にきたらそこに全力を入れるんですよ。これはやるしかないんだからと。だけど、タムちゃんの場合は周りがどうのっていうんじゃなくて、自分が入らないと入らないんですよ。これはもうタイプが違うんですよね。

——そこがいまファンが理解しにくい点ですよね。東京ドームの時には乗れたけど、いまは乗りにくいという。

宮戸 だから、ホントは自分で場を作りますって言ったらまた違ってくると思うんですけどね。

——いくらでも協力しますよと（笑）。

宮戸 いやいや、そういうことを言うとまた問題になっちゃうから（笑）。ただ、まわりがそうしてくれないんだったら、自分で作るしかないでしょう。

——ですよね。いまの主張はUファイルを基点にリングスとかパンクラスとか自由に上がれる場所にしたいと思ってるみたいですが。

宮戸 う〜ん。ただね、それがうまくいったとしてもタムちゃん自身の解決策になるとは思えないんですよね。

——モチベーションの部分が問題だと？

宮戸 じゃないのかなって気がしますよね。この前のアブダビもなにかの解決策になるんじゃないかなぁって思って行ったと思うんですよ。だけど、全然気持ちが入ってなかったでしょ？ だから、そのUファイルっていうのを拠点にしてどうのこうのっていう話も同じで、自分を満たしてくれるような解決策になるのかっていうと、僕はならないような気がしますよね。逆に試合から離れたりすると落ち着いちゃうんじゃないですかね。

田村vsヒクソンはいま話題になってないけど見たいよ。高田さんの敗北を誰より悔しがったのが彼だから

——ヘタしたら引退しちゃうとか。

宮戸 そう。道場の代表として、そっちの方に入っていっちゃう可能性がありますよね。

——それはホント嫌ですよ。

宮戸 うん。例えば、田村vsヒクソンなんかいまは話題にはならないけど、僕は見たいよ！ やっぱり、彼のUへの思いっていうのは極端に言えば桜庭より強いわけだから。高田さんの敗北についても誰よりも悔しがってたわけだし。

——あの時、田村さんは泣いてましたしね。

宮戸 やっぱりね、こんなもんじゃねぇって思いは一緒に見ててわかってるからね。そういう意味で言えばヒクソンvs田村なんかは彼は凄く燃えると思うよ。だって、いまサクがやっても、Uをテーマにしてリングに上がらないですよ。だけど、田村はそういうテーマを背負って絶対に臨みますよ。

——たしかにそうですよね！ やっぱりそういうテーマのある闘いが一番燃えますよね、見てる方も。

宮戸 タムちゃんはテーマがあって、崖っぷちに立った時に必ず力を発揮する人間だからね。これははっきり断言できますよ！

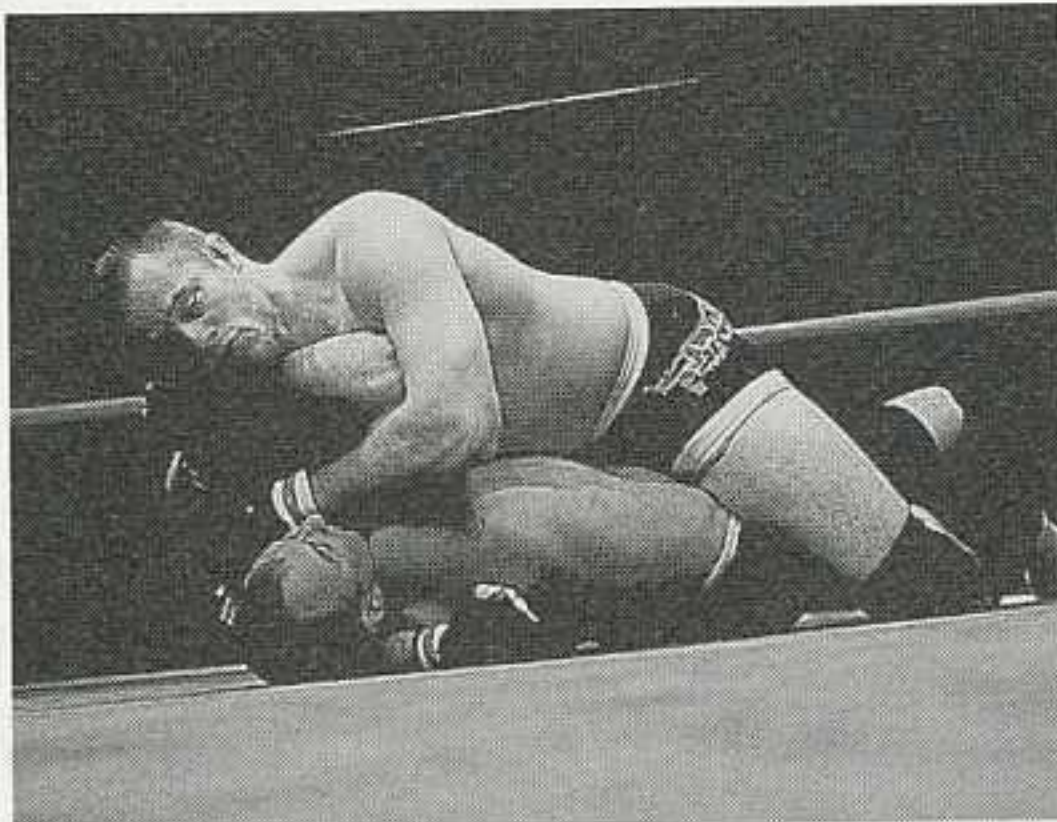
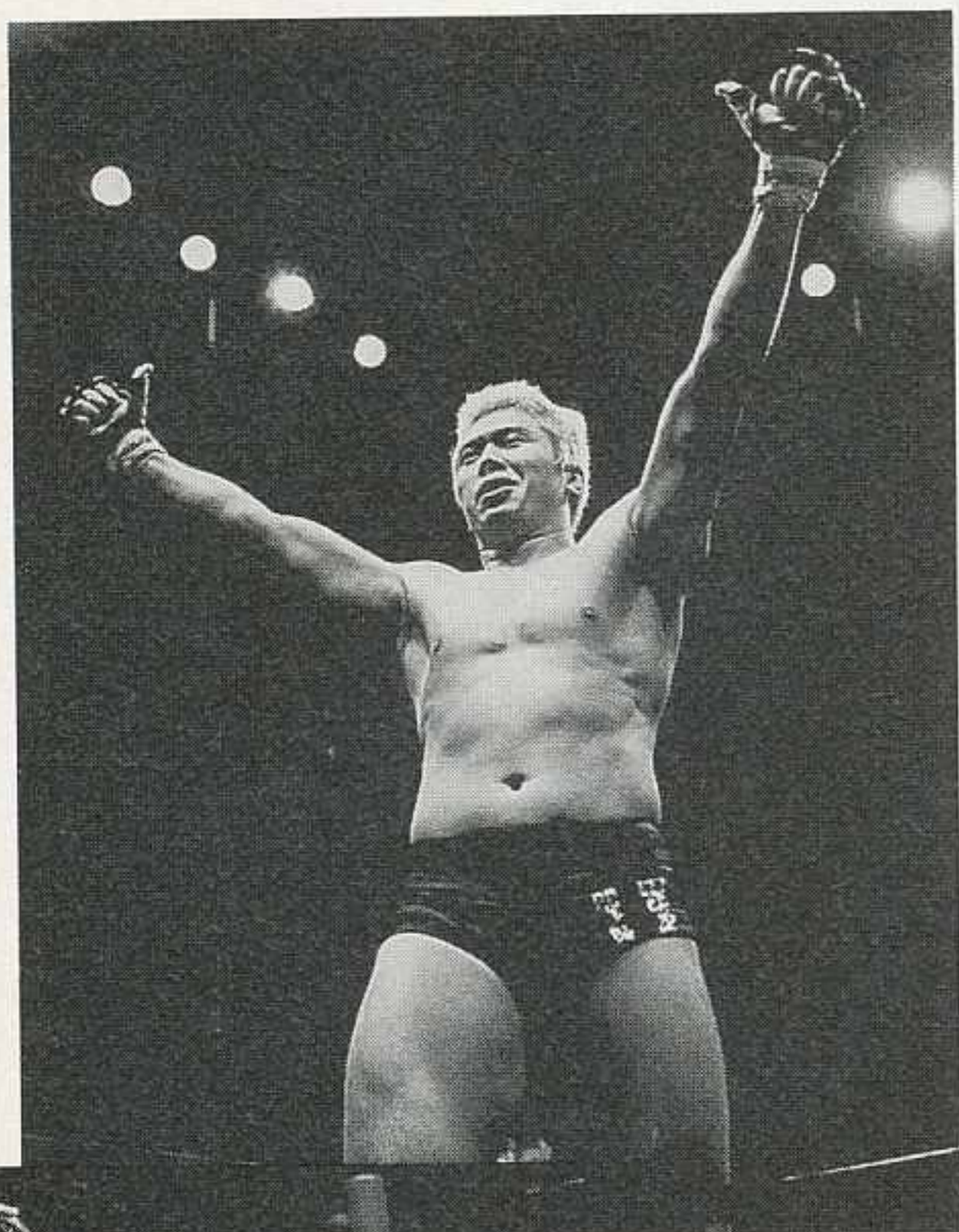
——大仕事が残ってたんですねぇ。

宮戸 あの時、東京ドームに行かなかった人間がね、今度は自分の意志で向かっていってほしいですよ。うん！

——今度こそ、Uを背負って東京ドームに乗り込んでいくと（笑）。

宮戸 そう！ これしかないでしょう！

4・20リングス代々木第2体育館ダイジェスト

ジェレミー&ホフマン"ミレティッチMACコンビ"揃って、決勝トーナメント進出!

ミドル級の優勝候補、ジェレミー・ホーンはリングス・ロシアの極真空手家ユーリ・ベキシェフと対戦。開始早々、ベキシェフのスピード抜群の後ろ回し蹴りの交わすと、グラウンドに持ち込み、わずか1R50秒、肩固めで盤石。

リングス・ジャパンでいまもっとも乗っている男、滑川康仁。これまでのガチガチぶりがうそのように、次々と技を仕掛け、秒殺一本勝ち。リング上で風格さえ漂わせていた。■滑川康人（1R1分48秒 ヒザ十字固め）今村洋

サンボの強豪・若林次郎が突如リングスに参戦。アマリン、ライト級トーナメント、リングスUSA大会と着実に実績を挙げる小谷とスピィーディーな攻防を展開。試合は判定（1-0）でドロー（若林が1）となった。

昨年のKOKでヴォルク・ハンに判定負けを喫し、露骨に判定に不満を露わにしたホフマンが、4ヶ月ぶりにリングス登場。K－1ファイターでもある柳沢とスタンドでも渡り合い、結局パワーと圧力で終始ペースをにぎり、(3-0) で判定勝ち。柳沢は2・24両国での坂田戦に続いて、またしても不完全燃焼に終わった。

遂に禁断のシュート活字によるUWF論公開！

田村を正当に評価するためには

シュート活字しかないのか!?

なぜだ!?

田中正志

田村を大絶賛!!

現在『PRIDE』、リングスなど「新プロレス」では、どんなに実績がある選手でも、一度の敗戦で「弱い」というレッテルを貼られガチでにある。サクがシウバに負ければ「弱い」。田村がノゲイラに負ければ「弱い」。そんな風潮に真っ向から反論するのが誰であろう、シュート活字提唱者、田中正志！　「シュートにおいても勝った負けたではない」と主張する氏が、「田村はなぜ素晴らしいか」をレクチャーします。

田村潔司のストーリーが90年代シュート革命なんです！

――さて、今回は田中さんが田村潔司を非常に高く評価していると聞きまして、いつものアメプロ話を一回お休みして、シュート活字による田村の評価について伺いに来ました！

田中　はい。ホントは田村みたいな選手は日本の業界人が正当に評価しなきゃいけないんですけどね。もう、日本のマスコミは間違ってますよ！（ドンとテーブルを叩く）。

――間違ってますか（笑）。そのお話はのちのち聞くとして、アメリカでの田村選手の評価というのはいかがなんでしょうか？

田中　やっぱりVTをやっていないので、知名度が高いとは言えませんね。でも、MMA（ミックスド・マーシャルアーツ）の専門家やマニアの間では「日本のフランク・シャムロック」と呼ばれてるんですよ。

――「日本のフランク」ですか。それは誉めてるんですよね？

田中　もちろん誉めてるんです。フランクはアメリカのMMAでは神様みたいな存在ですからね。

――神様ですか！　ということは、知る人ぞ知る存在なんですね。

田中　そうです。例えばジョー・シルバっていう、UFC新しいマッチメーカーは田村の大ファンなんです。こないだ宇野を呼んだのも彼なんです。だから専門家の評価は非常に高いんですよ！

――でも肝心の日本で田村選手が正当な評価を受けてるとは思えないんですよ。そんな中で田中さんは、田村選手を昨年のMVPに挙げてましたけど、どのようなところを評価してるんですか？

田中　ボクがあの格闘技界の2・26事件を評価し、去年のMVPは田村かっていうのは「UWFは真実だった」ということが田村の勝利によって本当に証明されたからですよ！

――UWFの証明ですか！

田中　グレイシー相手に腹固めが出て、そして勝利を奪い、Uのテーマが流れた。これによって1993年、UFCとパンクラスの出現によって始まったシュート革命は、2000年2月26日武道館にて「完結」したんです！　UWFは真実であって本当の格闘技であったと、天下に証明されたんですよ！

――つまりプロレスから格闘技へというUWF運動のアプローチが実を結んだということですね。

田中　そうです。プロレスの道場でやってることをお客さんに納得してもらおうというような形でUWFをやってきて、最期に生まれたのがあのシュートマッチで、それを結実させたのが田村なんです！　やっぱり昔からの流れをわかってるファンにとってはこれは感慨深い試合だと思うんですよ。

――プロレスを見続けてきた人間こそ、正当に評価しなければならない試合ですよね。

田中　そうなんですよ！　それをね、本来一番評価しなければならないはずのターザン山本なんかが、ルールがどうだとか、判定だとか言ってたじゃないですか。いままで何を見てきたんだと！（ドンとテーブルを叩く）。

――見るべきところはそこじゃないだろうと（笑）。

田中　あの大一番でヘンゾも田村もあのルールに納得して出てきたんだから、ルールが違うとか判定だとか言うのはおかしいですよ！　しかもみんな忘れてるのはヘンゾはちょうど1週間後に『アブダビ』で優勝していて、あの時期が一番のピークだったんです！

――グレイシー最強の男とも言われてましたよね。

田中　そうだったんですよ！　グレイシー最強の男を相手に、プロレスをやってた田村があそこまでやったんですよ！　ボクは先駆者が一番偉いんだということを必ず強調してますから、桜庭がいくらヘンゾの腕を折って勝ったってね、最初にやったのは田村ですよ！　最初にやった人が一番偉いんです。あの試合がすべてなんですよ！　あともうひとつ忘れられないのは山本（宜久）と99年に後楽園で20分フルタイムやった試合です。

――試合後にリングスコールが起きた、伝説の一戦ですね。

田中　あの試合はボクの考える99年のプロレスベストマッチ1位ですからね。

――プ、プロレスのベストマッチ！

田中　99年はプロレスのベストマッチ、2000年はシュートのベストマッチ。最期の7分間の死闘なんてね、あんたやってみぃって！（ドンとテーブルを叩く）。世界で出来る人何人もいませんよ！　そんな他に誰がいるんですかと！　そして感動のリングスコールね。あれはホント涙ですよ。ひとつの様式美の頂点に達したんです！

――様式美ですか！

田中　ハイ。デイブ・メルツァー（ア

メリカの業界紙『オブザーバー』編集発行人）なんかは昔のビル・ロビンソンvs誰々とか、伝統的なプロレス名勝負物語の頂点が田村vs山本戦だったという言い方までしてるんです。

——ある意味UWFスタイルの完成形ですよね。そしてUWFの完成形を見せた翌年に、ヘンゾ戦でUWFの最後の答えをだした、と。

田中　そうです！　そう考えると田村のストーリーこそが90年代シュート革命なんです。だから20世紀のシュートファイト・オブ・ジ・センチュリーは田村でいいんですよ。過去10年間のシュート革命の中で誰か1人あげろといわれたら、田村の美学こそが本当に人の心をうったんですよ！

——文字通りUを背負ったわけですからね。

田中　そうなんですよ。勝った負けたではなくて、そういった田村の〝人生〟を僕らは見てるんだと。だからボクがいつも言っているのは、シュート革命っていうのは開かずの扉を鎖を引きちちぎって開けて見たら、最後の結論はあまりに衝撃的だった。

——どういうことですか？

田中　つまり、やっぱりシュートでも勝った負けたは関係なかったという、驚異的な結論！　シュートが見たいんだ、見たいんだ、見たいんだ！と開けてみたら、そこは底なし沼だったんですよ！　やっぱりシュートにおいても勝った負けたじゃなかったんだ。という結論なんですよ！

——プロレスもシュートもどちらも、その人の人生を見ていくものだったと。

田中　そうです！　だからいま田村が4連敗してるとかいうのは関係ないよ、と。逆に肉体的にピークだったヘンゾに勝ったあのときは勝ち負けだよ、と！　ボクはそういう風に思ってるから。

——勝ち負けは関係ないといっても、連敗中のいまの状況はキツイですよね。

田中　今のことで言うならば、やっぱり試合に出過ぎですよね。それと田村をわかってないファンが多いんですよ！

——いまのファンは勝ち負けだけで評価する人が多いですからね。

田中　だからガチ馬鹿は困るんですよ！

——ガチ馬鹿！（笑）。

田中　田村が負けるところを見ると、すぐインターネットの連中が「ホラ、弱いって騒いで」ね。もう、違うと！　そんなの関係ないと！

——でも、このままリングスにいると、この状況は続いてしまうんですよね。

田村vsヘンゾはマット界の2・26事件。あの勝利によってUWFは真実であり本物の格闘技であったと、天下に証明されたんです!!

田中　それじゃあ『PRIDE』に出ればいいのか、パンクラスに合流すればいいのかっていったら違うわけで。リングスの田村なわけだから。でもリングスにいれば変な名前もわからないブラジル人とやらせて。前田も何も考えてないのかなと！

——もうちょっと考えてほしいですよね。

田中　フランク・シャムロックが「オレみたいになると試合は1年に1回でいいんだ」と言ってるんですよ。だから「オレのワンマッチの値段は高いよ」と、強気の姿勢を崩してないんですよ。それでK−1しかギャラが払えなかったんだから。それを考えたら田村もそうなるべきですよ。1回、2回で高い金もらってそれでいいんだと！

——このままじゃ田村が消費される一方ですよね。

田中　だからね、前田さん、田村の価値をわかってますか、と！　アメリカではリアル・ダイアモンドとまで言われる男ですから。そういえば田村は92年にアメリカで伝説を残してるんですよ。

——え!?　どういうことですか？

田中　PPVでUインターの中継があったんです。92年というと、UFCが出現する前年なんですけど、そのときにやったUインターの田村対マシューサード・モハメッド（プロボクサー）のシュートマッチが放送されていて、結構衝撃を与えたんです！

——あの北尾vs山崎と同じ日に行われた試合ですね！

田中　あの試合はマニアから非常に評価されてるんですよ。だから田村というういと「あいつか、あのときの男か」と。

——あの試合はそれまでの格闘技戦とは違って、いきなりタックルで倒して秒殺で関節を極めたんですよね。

田中　そうなんですよ！　グレイシーが打撃系の間合いを潰してやってるっていいますけど、その前に田村はやってたんだよと！　しかもその試合がビデオでアメリカにまで紹介されたんだよと！

——ある意味先駆者なわけですね。

田中　そうですよ。その他にも田村はK−1のリングでアルティメットもやってるんですよ！

——しかも素手のアルティメットだったんですよね。

田中　あれも凄い衝撃でしたよ！　あと田村vsモハメッド戦が放送されていた頃、Uインターの前座では金原や桜庭いて、その試合もアメリカに紹介されてたわけですからね。キングダムの金原対桜庭なんて評価高いんですよ。デイブ・メルツァーに家でフランクがそのビデオを見て、一言「俺には絶対出来ない」って言ったっていう話があるんですよ。

——へ〜、そうなんですか。

田中　だからいまになってようやくUインターの時代が評価されてきたんですよ。

——ということは、田村がUWFにこだわり続けてきたのは正しいということですね。頑なにUを守るっていうにがありますよね。

田中　そうなんですよ。田村の頑固なまでのうどん職人ぶりは当たり前のことなんですよ。グレイシー柔術がいつまでもグレイシー柔術であるように、田村もUを守るってことですよ。それをボクらは見たいんですよ！

——だから、ここ数年のマット界はUWFを見てた人達が見るのが一番面白いですよね。

田中　そうですよ。我々が見てたのはやっぱり正しかったんだと！　二宮清純は間違ってたんだと！（笑）。

——ガハハハ！

田中　いまUWF知らないファンがいるから紹介しないといけない時期ですよ。だから若い読者の皆さん、田村が歩んできた歴史に注目してください！

【01年5月12日／新宿・中村屋にて収録】

紙のプロレス RADICAL

2001 No.38 CONTENTS

No.38 Main-Event

No.38 Semi-Final

Scandal & Scoop

Radical Fight

Columns

Another

RADICAL特製ピンナップ
アントニオ猪木&春一番
●
丸藤正道

※真樹日佐夫先生の『無比人』は今回はお休みです。次回をお楽しみに。

よりによってこんな忙しい時期に入社するなんて——フリテンくん

Art Director
出田さん●San Ideta
Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツくん●Kun Matsu
村松さん●San Muramatsu
グッチー●Gutty
ミネ●Mine
Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae
あっちゃん●Atchan
ZERO graphics
海老沢勇●Isao Ebisawa
古賀ゆきえ●Yukie Koga
Cover Model
髙田延彦
Cover Illustration
中川画伯

※RADICALとは何か?「根源的」、「根本的」って意味。知ってても金にならねえよ!!

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

Inoue mode

5・5新日福岡ドーム緊急拡大版スペシャル

―さて、井上さん、今回は拡大版です。インターネットなんかでも、ここにきて井上さんの言動が注目されてきてますからね。張り切っていきましょう！

井上　はい。

―で、テーマは5・5福岡ドームの長州と小川のタッグマッチです。では、いきなり井上さんの感想からお聞きします！

井上　まず、今回の長州と小川は、タッグという形式で、どこまでシングルの色合いを強くできるかがポイントだったんだよな。

―ふむふむ。

井上　ただ、結論から言うと、**ダメだった**な。やっぱりな、最初から水と油だっていうことはわかっておったんだよな。噛みあわないっていうことが。

―ただ、その噛み合わなさが僕は面白かったですねえ。

井上　噛み合うわけがないんだよ、あんなもんは！（ドンッとテーブルを叩いているはず）。プロ格対純プロレスなんだからな！　ハッキリ言ってね、**八百長じゃないんだから**、面白い流れになるわけないんであってね。**長州が小川をロープに振って、**帰ってきたところを**ラリアットで倒す**なんて、そんな展開になるはずないことはわかっとるんだから、こっちは！

―それは観てみたいなあ（笑）。まあ、試合の序盤に小川が長州をチョーク・スリーパーに極めたじゃないですか。あの時点で実質タップを奪っているんじゃないですかね、プロ格的展開としては。

井上　ポイントはそこなんだよ！　そこが**核の核の核**なんだな！　あの瞬間に二人ともお互いの力の差がわかってしまったと思うんだよ。それはやっぱり**長州がトシ**なんだよな。

―結局そこがリアリティなんですよね。逆に長州は昔はムチャクチャに強かったんだろうなって思いましたもんね。

井上　でもな、ハッキリ言って、トシには勝てないんだから！　俺だってな、今、**階段を上るのに息切れするんだから！（ドンッ）**。

―知りませんよ（笑）。

井上　**立ち上がれなくなる時もあるもんな！**

―気をつけてくださいよ（笑）。

井上　しかしな、あの試合を観て改めてわかったけど、ああいう展開になるとプロ格が有利なんだな、やっぱり。プロレスラーは弱いんだよ！

―マット界最後の砦がなんてこと言うんですか！

井上　それはプロレスラーが長い間譲り合いをしてきたことに繋がるんだよな、ハッキリ言って！

―譲り合い！

井上　**互助会**だと言ってもいいな。

―互助会！　厳しいですね、井上さん。

井上　やっぱりな、藤原なんかが言ってたけども、プロレスラーは急所を外す習性が身についてしまっているんだよな。

―そうですね。

井上　ところがな、小川なんかは急所を本能的に攻めてくるんだよ！　そういうのはな、意外と効いてないように見えて効いてるんだよな。俺は**プロ空手を観てわかった！**　プロ空手はプロレスでいえば何でもない技でもそれでノックアウトになったりしたんだよ！　**あれがケンカ**なんだな！

―プロ空手ですか（『プロ空手の真実は中村カタブツ君著『極真外伝』に詳しい）。

井上　とにかくな、小川とは手加減なしにやってくるヒットマンなんだから、今の長州じゃ無理なんだよ、ハッキリ言って。**ローランド・ボックを観て御覧なさい！**　ガチガチの受身の取れない技を平気で掛けてくるだろう？

―確かにシュッツトガルトの惨劇なんてみると、とんでもないですもんね。

井上　あんなのな、木の板の上におがくずをパラパラ撒いて、その上にシートを被せているだけなん

今月のお題

長州vs小川のシングルはやるべきなのか？

毎度毎度コアなプロレス者から平成のデルフィンたちにまで好評の喫茶店トーク。今回は5・5福岡ドームの長州と小川のタッグマッチが近年まれにみる〝変な試合〟となったので、緊急拡大版としてI編集長にこの一戦をズバリ解き明かしていただきます。

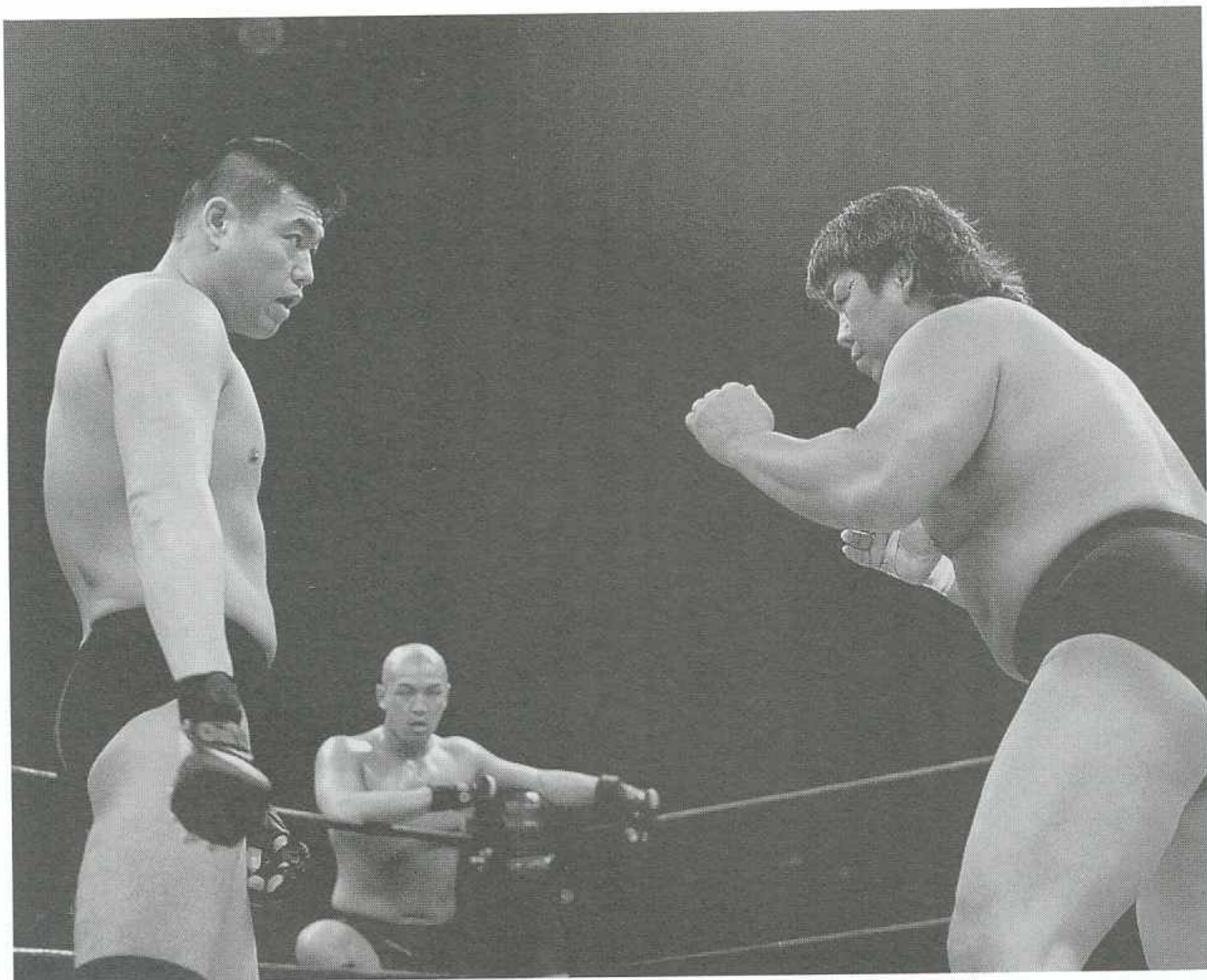
聞き手／原一博（元タコヤキ君）

だから！　あれを見て「やっぱり**猪木は受身がうまいなあ**」と思ったな、俺は。どこの団体とは言わないが、あんな**トランポリンみたいなリング**な、俺はあれをリングだなんて認めんよ。

――やっぱりあれですね、小川は相変わらずプロレスがヘタですけど、純プロレスの中に入るとそこが凄く説得力を生むじゃないですか。前田なんかもそうだったし。あれは逆に言うと、小川の才能ですよね。

井上　ハンセンでもブロディなんかにしてもそうだったからな。あういうのは、ハッキリ言ってプロレスする気がないんだから！　ケンカするつもりでリングに上がってるんだからな。

――で、試合の話に戻りますけど、長州対小川はシングルでやるべきだと井上さんは思いますか？

井上　俺？　俺は思わん（キッパリ）。プロレスとプロ格は違うんだよ。答えはそこにある！　あれはタッグだから、合間に**中西がワーワー言うて**時間を稼げるけど、シングルだとそうはいかんもん。

――確かに中西はワーワー言うてますね（笑）。

井上　シングルだったらアンタ、あの試合でもチョーク取られた時点で終わりだよ。

――あの足のバタバタを見てもそうですよね。

井上　ハッキリ言ってね、あの長州があんな惨めに足をバタバタさせる姿なんて俺は見たくない！

――うーん。

井上　小川がマウントで長州に放ったパンチなんかでも、本気で殴ってなかっただろう？

――挑発の意味合いが強かったですね。

井上　そんなバカにされたようなパンチを喰らう長州なんてね、誰が見たいと思う？　俺は長州対ヒクソンだって観たくないよ。そりゃ**ラリアット合戦**でもあるんなら別だよ。

――長州対ヒクソンのラリアット合戦！（笑）。メチャ観たいですね、それは。意外とヒクソンがうまかったりして（笑）。ただ、ああやって小川と闘っただけでも現場の責任者としての意地が見て取れたんじゃないですか？

井上　そういう気概だけで十分なんだよな。だから**長州は川田と闘ってほしいな**。そんで思い切り純プロレスでやればいい。そこそこ名勝負になるだろうから。

――でもやっぱり、ああいう長州は魅力的ですよ。

井上　今の長州に小川とシングルでやれってアンタ、そんなもん、**暴論**ですよ！　長州がボロボロになる姿をね、ファンが見たいかってことだよ。

――長州の話から逸れますけど、あの試合では中西はもったいなかったですね。小川対中西の絡みなんて本当はもっと注目されていいはずですからね。

井上　俺はそこを言いたいわけだよ！　今のままじゃあね、**中西なんて小結なんだから！**　このまま上に長州だ藤波だ、そんで蝶野だ武藤だ言うてたら、中西も永田もずっとあのポジションなんだから。ハッキリ言うけどな、三沢だ秋山だ言うてもな、今一番強いのは、中西であり、永田であり、**天コジなんだよ!!**

――えーっ!?　天コジも入るんですか？

井上　**そんなもん、アンタ、猛牛なんだから！**

――なんですか、それは（笑）。ただ、今は藤田対高山で盛り上がっ

ているじゃないですか。それを考えると、団体の一所属選手というスタンスでどれだけのことができるのかって思いますよね。

井上　そういうことを俺は言いたいんだよ！　**もう団体プロレスはダメなんだから！（ドンッ）。**

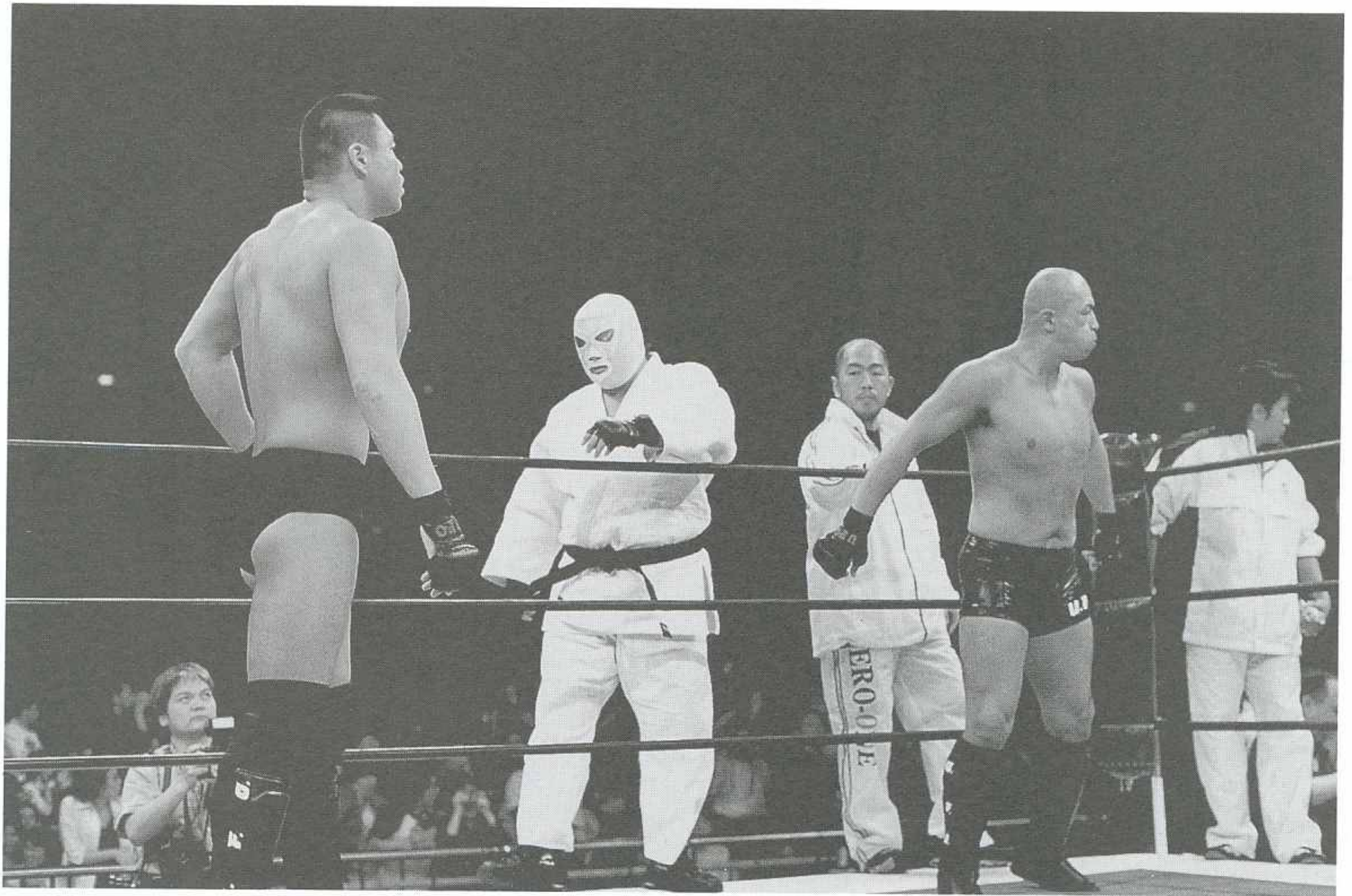
――これから新日本はどうしたらいいんですかねえ？

井上　やっぱり発展的解消しかないだろうな（キッパリ）。やはり所属選手は抱えずに興行会社として機能するしかないだろうな。

――今の『プライド』がそうですもんね。会社もそうですし、社長のあり方もこれから変わっていくんでしょうねえ。どうですか、最近ズレッぱなしの藤波社長は（笑）。

井上　確かにな、**藤波はズレてる**かもしれんけども、でもな、社長というのは利益を優先させるものなんだよ。そのためには思っていることも言えないもんだから。その時の気分で喋ったりできないんだよ。

――でもマット界で一番気分で喋ってるような気がしますけど、藤波社長は（笑）。

井上　主義や主張より利益を優先させるもんだよ、社長は。藤波は言うと思うよ。「そんだけガタガタ言うんだったら、お前、**社長になってみろ**」って。社長というのはね、ドブの中に手を突っ込んで金を掴まないといかんのだから。

――逆に社長という立場の凄味を見せ付けるのはそこでしょうからね。

井上　ただね、藤波もやっぱりマスコミやファンの意見を聞かんとダメだな。「皆さんの協力が必要なんです」って訴えかけないと。

――もっともっと意見を掬い上げろと。まあ、今の団体のあり方が問われている中で、井上さんが最近またまた編み出した新語がありまして（笑）。〝母艦プロレス〟というね。これは凄いですね！　母艦なんてどっから出てくるんですか？

井上　それはやっぱり**戦争体験**だな（キッパリ）。

――その前が裏原宿でしょ？　その言語感覚や凄まじいですね、マジに。やはり団体内での順列組み合わせではなくて、ちゃんと基盤はありつつも外へ打って出るっていうのは、現代的ですよね。

井上　やっぱりな、コップの中の嵐じゃダメだってことを俺は言いたいんだよ！　ただな、この**母艦プロレス**の最大の障害はテレビ局なんだよな。

――ああ、いわゆる〝契約固め〟ですね。テレビ局がバックにつくということは、安定収入を得られる代わりに、自由度がぐっと下がりますもんね。

井上　それは三沢なんかにしたってしょうがない決断だと思うよ。

今一番強いのは中西であり、永田であり、天コジなんだよ！

三沢は言うよな、「じゃあ『紙プロ』さんが**1億出して**くれんのか？」ってね。

――『紙プロ』は500円でも苦しいです（笑）。

井上　そこはだから責められないというかな、現実なんだよ。ただ、**今の団体プロレスは間違いなく終わる。**そうじゃなくてこれからは母艦プロレスという形態にならざるを得ないんだよ！

――いやあ、そういう井上さんの感覚っていうのは新しいですよ。井上さん、モーニング娘。って知ってますか？

井上　ん？　知らん。

――ご存じないですか？　10人やそこらの女の子の集団なんですけど、そっからプッチモニとかミニモニ。とか色んなユニットが飛び出して、でも基盤はモーニング娘。っていう形なんですよ。そっか、ご存じないですか。

井上　まあ、**リーダーが抜けて**これからどうなるかが気になるところだな。

――ワハハハハ！（爆笑）。知ってるじゃないですか、井上さん！

喫茶店トーク MODE

井上　そんなもん、アンタ、このぐらいのことは知っとるよ！（ちょっと自慢げ）。

——井上さん、今おいくつですか？

井上　今？　66ですよ！

——ハッキリ言って、昭和一桁でモーニング娘。の今後を考えているのは井上さんだけですよ（笑）。

井上　そんなもん、スポーツ新聞に書いてるだろうが。俺はな、スポーツ新聞でも読売新聞でも、全部プロレスのために読んでるんだから！

——全部プロレスのため！

井上　世の中の出来事も、俺にしたら全部プロレスを考える材料なんだから。

——さすがやなあ!!　でも井上さん、確かにそうですね。終身雇用も崩れて、いまや雇用形態もアウトソーシングが当たり前でしょ？　これって裏原宿プロレスであり、母艦プロレスですよね？

井上　俺はそういうことを言いたいんだよ！

——ただ思うのは、これまでプロレス界で起こったことが遅れて世間で起こっていたのに、いつの間にか世間の方が先行ってますよね。猪木さんの時代とは全然違うという。これは何なんですかね？

井上　やっぱりプロレスをいじくる人がちゃんと考えてないんだよな。

——うーん、なるほど。それはセンスとかじゃなくて？

井上　センスじゃない。要するに一生懸命考えてないんだよ！　俺なんかな、**朝から晩までプロレスのことを考えてるんだから**。考えて考えて考えて、そんでパッと〝母艦プロレス〟なんていう言葉が浮かぶんであってね。どれだけ考えるかっていう、それだけなんだよ。俺が猪木の原稿を書く時も、朝から晩までずーっと猪木のことを考えて、それからようやくペンを握れるんだから。

——はー、そこの違いなんですねえ。そう考えれば井上さん、さっきプロレスラーが弱くなったっていうのは、練習方法がどうとかじゃなくて、やっぱり人の殺し方を考えなくなったっていうことじゃないですかね。猪木さんなんかも「人を殺す技術がなかったらプロレスラーじゃない」って言ってたらしいし、カール・ゴッチなんかずっと人の殺し方を考えてたんでしょ？　そこがポイントだって気がしてきました。

井上　俺はそれが言いたいんだよ！　昔のプロレスラーはみんな、**寝ないで殺し技を考えてたんだから！**　ゴッチでもロビンソンでもそうだから！　そこが今のレスラーとは全然違う。マスコミでもそうだから！　今の記者でもな、ハッキリ言って何も考えてないよ、言うちゃ悪いけど。俺なんかこのトシになってもずっとプロレスのことを考えてるんだから。センスとかじゃないんだ。ようするにどれだけ一生懸命考えるかなんだから！　みんなもっと考えろと俺は言いたいんだよ!!!（バキッとテーブルが割れる音〈妄想〉）。

——耳がジンジンいってます（笑）。井上さんだけはトシは関係ないですよ。こんなに喋る66はいませんから（笑）。

【5月14日／電話取材にて収録】

言うちゃ悪いけど今月の結論

プロレスラーも記者も、寝ないでプロレスのことを考えろと俺は言いたいんだよ！

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身。若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず。『週刊ファイト』編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。現・ビートたかしのターザン山本やゴングのＧＫ金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる。現在も『ファイト』で鋭すぎる批評コラムを連載中（必読）。

帰ってきた爆裂連載！

『紙プロ』名誉顧問

谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!!

5・5新日福岡ドーム大会編

聞き手／チョロ

designed by matsu (Two three)

谷津　いきなりだけどよぉ、この間の新日本の福岡ドームは、みんな、ガチプロやってたよな！　永田にしたって、つまんねえ試合してさ、普通のプロレスやればいいんだよ。プロレスってのは、50年、100年の伝統で培った素晴らしいモノがあるわけじゃん！

――でも、新日本の全部が全部同じスタイルではないですよね？

谷津　だけどな、上の方がガチプロだったら下もそう見られちゃいますよ。下の連中はTVに映らないんだから。それで今までは、格闘技、総合格闘技、プロレスだったのが、その間に猪木流のガチプロが入っちゃったんだよ。それを新日本もマネてるんだよな。

――ガチプロっていうのは昔からよく使ってた言葉なんですか？

谷津　いや、わかんない。ガチンコとプロレスの間だからガチプロじゃねえの（笑）。

――そうなんですか（笑）。それで、福岡ドームでの小川組対長州組の一戦はどのように感じましたか？

谷津　だってよぉ、UFOの看板スターって誰？

――小川直也さんですね。

谷津　そうでしょう。小川直也はプロレスできますか？　小川っていうのは、「オラッオラッオラッ！」って、ある意味では、ヤクザもんみたいなもんだろ、あれはな（笑）。

――アハハハハ！　突然、因縁吹っかけていきますからね（笑）。

谷津　総合格闘技やってて、プロレスはやってない人間に、いきなりやらせないでしょ。プロレスなんて出来ませんよ、小川は。やったことないんだから。あの首投げの受け身見ればわかるでしょ！

――あぁ、そう言えば長州さんに投げられてましたね。

谷津　受け身の取り方知らないんだから。あんな頭でかくなっちゃってから、いまさら長州とプロレス出来ますかっていってもやれないよ。いまさらイチから坊主頭になって新弟子と一緒に出来るわけねえんだからやっぱ無理だよな。

――さすがに坊主頭にはならないでしょうね（笑）。

谷津　それで、昭和55年に自分が新日本に入った時はガチがなかったわけだよな。だから、純粋にプロレスをやってきたわけだよ。ようするに坊主になってイチから受け身とってな。それが、たまたま総合格闘技が持てはやされた時に、小川直也にプロレスやらしてたら商品価値が下がっちゃうでしょ。そうしたら、ああいう売り方をして、ガチでもないプロレスでもないっていうのをやるしかないでしょ。だから、もしウイリアム・ルスカとかアントン・ヘーシングが今の時代にいたら、もの凄いスターだよ、ガチプロの。

――谷津さんも時代が時代だったらスターですね（笑）。

谷津　俺はプロレス出来るもん！

――いや、小川さんと同じような時期に入ったとしたらですよ（笑）。

谷津　まあ、小川のそれだけの度胸ってのは認めるけどな。でも、それはやっぱり、猪木さんがいるから度胸がつくんであって、猪木さんに「お前は大丈夫！」って言われれば「大丈夫ですね！」ってなるだろ。安田だってそうだろ。「お前は大丈夫！」って言われれば「はぁはぁ」ってなるよ。

――橋本さんもそうでしょうね。

谷津　だから、ZERO－ONEは1つのガチプロのステージなんだよ。ガチプロの中で、ガチも入る、三沢みたいなプロレスも入ってれば一番いいんだよな。それだけじゃなくて、なおかつUFOは、それより大きいのを作るんだよ、今度は！

――それは未確認情報ですか（笑）。

谷津　俺の想像！　俺の想像は大体当たるから（笑）。

――アハハハ！　そうなんですか。

谷津　先を読まなくたって、そうなるだろ。やっぱりプロデュースするのが一番金になるんだから。プロモーターやるのが。でしょ？

――たぶん。逆に、今はガチプロの舞台っていうのがお客さんに受け入れられる土壌があるでしょうね。

谷津　そりゃそうですよ。猪木さんがやってんだもん。影響力があるし。コールマンだってグッドリッジだって、結局ガチプロがしたいんだよ。猪木さんの日本マット界における影響力、パブリシティの影響力も含めて、外人もその辺は知ってるわけですよ。

――外人選手も猪木さんを利用し

ようと思ってるんですかね。

谷津　そりゃ当たり前ですよ。それがビジネスだもん！

――猪木さんは、最近マット界だけではなく世間でも、ちょっとしたブームになってますからね。

谷津　だから、それは当たり前なの！　猪木さんを持ち上げれば、みんな金になるんだから。マスコミだって同じ。お前も逆らうなよ！

――はい（笑）。そんな猪木さんにケンカを売ってる長州力さんっていうのは、それ相当の覚悟を持ってやってるってことなんですか？

谷津（即座に）長州さんはケンカなんか売れません！（キッパリ）。

――また断言しますね（笑）。

谷津　猪木さんの会見で何か言ったか？　言ってないでしょ！「猪木さんは猪木さんですから」って言うのが精一杯なわけだよ。

――藤波さんも誌面上では猪木さんには言ってますけど、面と向かっては言えないんでしょうね（笑）。

谷津　言えないよ、そんなの。なんだかんだ言ったって新日本作ったのは猪木さんなんだから。藤波さんなんかは、リング上の後継者として近くにいただけで、ポンと役員になっただけの話だろ。俺だってそこにいたらそうなってたんだからな（笑）。

――谷津さんはロマンを求めたわけですね（笑）。それで小川vs長州戦に話を戻しますけど、ウチの編集長に電話をしてきて「やっぱ、小川は強いな」って言ってたらしいですね。やっぱり、そう映りましたか？

谷津　そりゃ映りますよ。ていうかね、長州さんは橋本の二の舞は踏みたくないんだろうな。それで中西はそういう経験を積んでない。俺は中西はもうちょっと頑張ると思ったんだけど、いまいち、ちょっと臆病だったな。それに、トンパチな部分もなかったでしょ。やっぱり、そういう経験をしてるかしてないかだよな。中西とか彼らは芸術を追求してるわけだからな。本来やるってこと事態おかしいんだよ。昔のUインターの時と違うんだから。あん時は相手が安生でしょ。そりゃあ役者が違うだろ！　柔道の世界王者と安生じゃ！　何度も言うけど、小川はプロレスが出来ないんだから、ある意味では馬の耳に念仏みたいなもんでしょ（笑）。小川がヘタにプロレスやっちゃったら、もっとボロが出ちゃうよ。かといって小川はどう

長州さんは橋本の二の舞いは踏みたくないんだろうな

いう風に来るのかなって思っちゃうと、殴り合っちゃまずいなって思うから、長州さんだって腰引くわけだよ、そりゃあ。

――でも試合前とか試合後のコメントひとつでも、いろいろな深読みができる試合ではあったんですけどね。

谷津　長州さんからしてみればな、ドームのメインイベントであんなしょっぱい試合して凄い印象が残ってんじゃないの（笑）。

――試合後のコメントでも「最悪だったな」って言ってましたね。

谷津　そりゃそうですよ。でも、逆にな、タッグなんかやんないでシングルでやった方がまだ良かったな。まあ、やんないだろうけどな。

――長州さんは試合後、どうせやるんだったら、ぶちのめされた方が良かったみたいなことを言ってましたけど。

谷津　それも出来ないんじゃないの。小川は悪い子じゃないもの、あの子は。

――あの子は（笑）。

谷津　性格は悪い子じゃないもの。ただあういう売り方してるからね。プロレスが出来ないったって、プロレスというのは、どういうモノなのか知ってるわけだし。長州さんも1発2発受けるっていう、プロレスラーとしてのサービス精神が見たかったよな。プロレスってのは、ある意味ではサービス業だからね。

――サービス業ですか！

谷津　そうだよ。お客さんに満足して帰ってもらうことをプロレスラーは心掛けてんじゃん。そしたらな、1発2発喰らったって伸びないって。逆にね、もっとグチョグチョな試合にした方が良かったんだ。

――実際、ファンが期待してたのもそこだったと思うんですよ。

谷津　当たり前だろうが!!　だから1発2発3発喰らったって痛くも痒くもないし、ちょっと顔が腫れるだけでしょ。それくらいやんないとファンは納得しないよ！　プロレスラーは打たれ強いんだから！

――谷津さんは打たれ強すぎますけどね（笑）。

谷津　2、3発ぐらいでなぁ。いつも打たれてんのにおかしいだろってファンは思っちゃうよ。そんなことやるんだったらよぉ、俺とやらされろっていうんだよなっ！

――突然の対戦表明ですね（笑）。

どっちとやりたいんですか？

谷津　どっちだっていいよ、そんなの！　結局、長州も出る幕ないって一歩引いたわけでしょ。

――小川さんも「長州力の力は見切った」とか言ってますからね。

谷津　だから今度は、中西を藤田のように『PRIDE』に出さなくったっていいから、新日本の中で、対小川を想定した練習をしなくちゃ無理。中西はそうなってくると思いますよ。あんだけ狼煙上げてんだから、猪木さんが今度主催するXデーには絶対、中西はガチプロやりますよ。

猪木さんは、小川とか藤田とか安田っていう選手のおもりみたいなもんだよなっ

――今度のXデーですか！　まあ、中西選手もプロレスが決して上手い方ではないですからね。

谷津　でもね、中西もプロレスってモノを必死にやって来て形が出来はじめてきたからな。彼は彼なりにいろんな修羅場をくぐってきたわけじゃん。俺はそれは評価するわけ。だけど、まだ中西は若いんだから。ガチプロ行けばいいんだよ!!

――でも中西さんも30歳過ぎてますし、ガチプロの方にっていう踏ん切りは簡単につくもんなんですか？

谷津　ガチプロの方が楽じゃんかよ！　当たり前だよ。

――楽ですか、ガチプロは！（笑）。

谷津　ガチでもない、プロでもないんだから。ガチプロは、その間なんだから楽だよ。

――そうなのかなぁ（笑）。でも、やっぱり長州さんは年齢的にはキツイ部分があるんでしょうね。

谷津　やっぱり年齢的なハンディもあるわけだし良くやったと思うよ。

――これまで長州力っていうプロレスラーは弱さっていう部分はさらけ出してこなかったですよね。

谷津　でもね、長州力自身が一番年を感じで、一番寂しい思いしてんじゃないの。だけど、しょうがないよな、猪木さんの要請じゃ。ようせんよって感じだよな（笑）。

――アハハハ！　でも、長州さんはヒクソン戦があるんじゃないかっていまだに言われてますよね。動きを見る限りでは年には勝てそうにないと思ったんですけど。

谷津　おい、そんなことマスコミの人間が書くなよな。前も言ったけど、ヒクソン戦っていったって新日本のリングでやるんでしょ。『PRIDE』のリングでやるわけじゃないんだろ。

――ヒクソンは中立のリングじゃないと上がらないっていう人ですけどね。

谷津　無理だよ。それよりも、俺は永田とか中西あたりが、やっぱり小川に刃向かっていってもらいたいよな。長州さんは現場監督やりながらプロレスだけやってればいいんじゃない。でも、やんなくなっちゃうと寂しいもんがあるから、レスラーは。大体引退なんてこと言うなってんだよな！　馬場さんみたいに生涯現役って言った方がよっぽどいいよ。

――ある意味、試合後のコメントが一番ガチンコでしたよね（笑）。

谷津　そうだよなぁ（笑）。

――それで福岡ドームは全体的な評価はどうでしょうか？

谷津　福岡に限らずね、あまりにも新日本プロレスはつまんな過ぎ！　なんかカビ臭いんだよな！　ストロングスタイルがカビ生えちゃってんだよ。ノアの方が、よっぽどまだプロレスだよ。プロレスには醍醐味というか面白さがあるわけでしょ。ガチにしてもガチプロにしても、そっち方面は『PRIDE』とか猪木さんに任せとけばいいんですよ。プロレスは、もうちょっとWWFのように演出したりして、万人が面白いと思う娯楽番組にしないとな。そうしたからといって「あれは嘘だ」なんて誰も言わないでしょ、そんなことは。天下の新日本なんだから。だから、マッチョマンとか作ってな、CCガールズみたいなオネーチャン連れてきてな。そんでさぁ、葉巻でも吸ってやんないと。

――アハハハ！　マッチョマンにC.Cガールズに葉巻ですか（笑）。

谷津　俺たちみたいな小さい団体じゃそれはできないだろ。金も掛かることだし、パブリシティーもないしな。でも、新日本だったらできるわけでしょ。武藤とか小島とか天山、あの連中はプロレスがうまいわけじゃん。この間も1番面白かったよ。うまくなったなぁ、アイツらな。だから、もうちょっとな、エンターテインメントの方に力入れないとアイツらが可哀相だよ。

――天山さんとか小島さんはエンターテインメントの方が活きるんでしょうからね。

谷津　まあ猪木さんが作った伝統は脈々と生きてるわけだから、ストロングスタイルを捨てることはないんだよ。それを中心にしながら、エンターテインメントをやればいいんですよ。ところが上の方はガチプロやっちゃってるからなぁ（笑）。でも、ある意味で、それもしょうがないんですよ。猪木さんは、小川とか藤田とか安田っていうプロレスではしょっぱい選手を抱えてるからな。結局、今はおもりみたいなもんなんだよな（笑）。だから、早く猪木さんは独立して『PRIDE』の外人のお兄ちゃんたちを連れてきて、総合プロデュースをやるべきですよ。そうじゃないと、小川も可哀相。猪木さんの秘蔵っ子ということで名前だけ先行しちゃってるわけだよ。だけど、小川がガチで、これからズーッとやっていくっていったらね、やっていく場所いくつある？

――ん～、まあ小川さんもプロレスを中心にやっていきたいとは思ってるでしょうからね。

谷津　当たり前ですよ!!　今の段階では『PRIDE』しかないわけじゃん。それだって何回もできるわけじゃないんだから。年間で、やったとしても1、2試合、下手したら1試合もやらなくなるぞ。今はやる場所がないから逆に可哀相だよな。

――小川さんも今年もまだ2試合しかしてないですからね。

谷津　だろ？　だから、何度も言うけど、ガチプロとエンターテインメントと分けてやらないとダメなんですよ。俺が長州さんの立場なら、エンターテインメントの方はWWFみたいにするよ。あれは面白いぞ！　ハマっちゃうからな（笑）。

――谷津さんもハマってるんですか（笑）。

谷津　ハマってるよ（笑）。それは

なぜかっていったら、WWFはレスラーだけの考えでやってないわけだよ。いろんな演出家が付いてるから。そこまで追求しないと、もうダメだろうな。俺たちはやりたくてもできないからな。それをできる可能性があるのは新日本なんだから。まあ冬木のとこもやってはみたけど資金力がないからな（笑）。中途半端な資金力じゃ結局ダメなんだよな。ある程度、金掛ければガーッと転がって行くんだからよ。それが出来るのは地上波を持ってる団体だよな。

――同じく地上波を持っているノアなんかはどうですか？　三沢さんは小川さんとやってもレスリングで翻弄してみせましたけど。

谷津　だから、俺は三沢はプロ中のプロだと思うんだよな。常に惑わされてないでしょ。一点に向かってるだろ。でもな、社長業の方は俺から見たらまだまだだな。日テレが付いてんだから、日テレの衣装屋から演出家から全部総動員してキチッとしたエンターテインメントをやった方がいいと思うよ。プロレスのクオリティーは高いんだから、あとは演出っていう肉付けだよな。俺がノアの社長だったら絶対WWFやるぞ！

――マッチョマンにCCガールズに葉巻ですね（笑）。

谷津　それで営業で全国に回ってな。俺は永源のオヤジなんかより、よっぽど営業うまいよ、悪いけど。

――永源さんを越えますか！　谷津さんもハマってるみたいですし、WWFの影響っていうのはこれからドンドン日本のマット界にも及んでくるんでしょうね。

谷津　ただね、日本には日本の伝統があるんだから、100％マネすることはないんだよ。海の向こうの話なんだから。例えば日本のテイストを入れて女衒（ぜげん）の親父作ってみたりさ、花魁（おいらん）作ってみたりな（笑）。

――アハハハ！　でも、それが日本式なテイストになるんですか。

谷津　ドンドンやってかないとな、日本のプロレスがダメになっちゃうよ。前に新日本がバラエティー化されて山田邦子が出たことあっただろ？

――『ギブアップまで待てない』ですね（笑）。

谷津　あれはバラエティをそのまま入れちゃったからいけないんだよ。あくまでもプロレス中心にして演出しないと受け入れられないからな。

――山田邦子さんは、馳さんに思いっきり怒られてましたからね（笑）

谷津　あれじゃ怒られちゃうよ（笑）WWFのようにうまくやらないとな。イメージ崩れちゃうからな。

――もうアメリカはWWFの一人勝ちですからね。

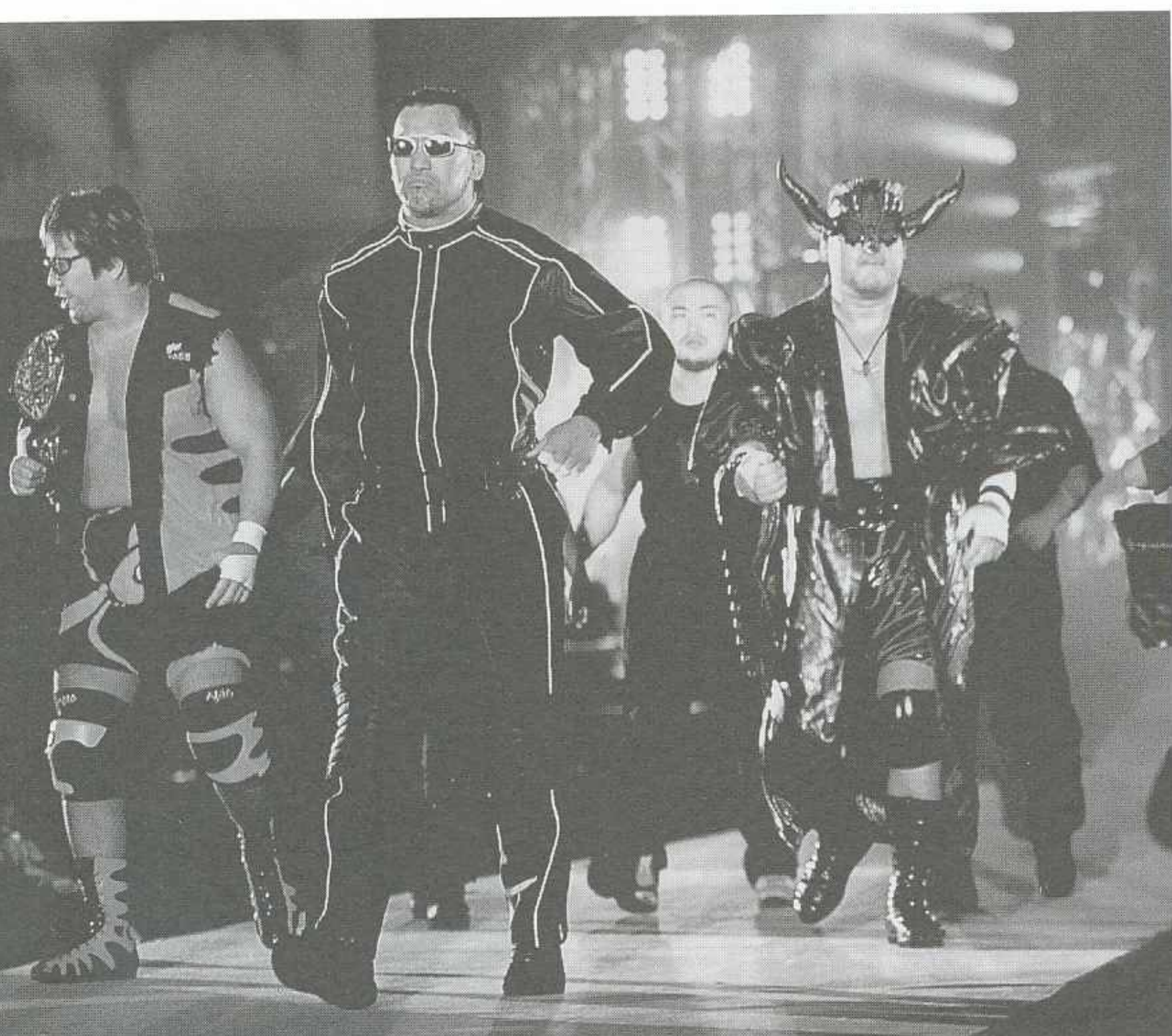
谷津　なかにはアマレスのチャンピオンもいればさ、2m20cmのデカイ動けるヤツもいるしさ。ありゃ、凄いと思うよ。

――ストーリーだけと思われがちですけど、試合も見せますからね。

谷津　そう！　あれがプロレスの神髄っていうか、日本のプロレスに足りないモノっていうかね。まWWFやるにしても何度も言うけど、プロレス・ガチプロ・ガチと3つに分けることだな。その中で、プロレスの中にルチャがあったりストロング・スタイルがあったりしてエンターテインメントをやっていけばいいんだよ。三権分立みたいなもんだな。

この間の福岡ドームでも1番面白かったのが天山とか小島の試合だよな

――谷津の三権分立論！　一番可能性があるのはどれですかね？

谷津　それはプロレスですよ！　猪木さんが亡くなったら、おしまいだよ、ガチプロは。

――谷津さんがガチプロの試合は楽だって言ってましたが、ガチプロをやりたい人は多いわけですよね？

谷津　ガチプロやるのには、まずガチをやんなくちゃダメなんだよ。ガチでつらい思いしなくちゃガチプロには行けないんだよ（笑）。そういう意味では大変だな。

――それはアマチュアで実績がある人間でもそうなんですか？

谷津　アマチュアの人間もまずはガチの洗礼を受けなくちゃダメなわけ。ガチで名前を売らなくちゃガチプロには入れないわけよ。リアルファイトには作られてないドラマがあるんだよ。そこでドラマを作れない人間がガチプロではできないから。それを体験してこないと説得力が出てこないんだよな。そういう意味ではガチプロっていうのは秘められた聖域なの（笑）。でもな最終的に10年20年後にはプロレスしか残んないよ。ガチだって残んないよ。カードだってドンドン行き詰まってくるし、ルールだってイマイチ不透明で変わっていくでしょ。近代スポーツにもなんないし、エンターテインメントにもなれないし、娯楽にもなれないのよ。今は勇気だけ称えるだけだもんな（笑）。俺なんか勇気がナンボのもんじゃって思うんだよな。そう考えると将来性があるのはエンターテインメントしかないんだって！

――谷津さんがそこまで言うんだったら、日本のプロレスもエンターテインメントで行きましょう！（笑）。

【00年5月11日六本木ボディプラントにて収録】

〝プロレス活字〟代表
ジミー鈴木が〝シュート活字〟に宣戦布告!!

前号で予告のとおり、シュート活字に宣戦布告した“プロ”のプロレスマスコミ代表ジミー鈴木。アメリカテキサス在住で『ゴング』『東スポ』『ファイト』『激本』等を中心に活躍のフォトジャーナリストである。さらにアメプロの第一人者を自認するアメリカ通信員の元祖、ジミーが咆吼!「あっちがシュート活字なら、こっちはプロレス活字だよ!」

プロレスっていうのは夢の世界なわけだよ。その夢をブチ壊して何が楽しいんだ!

ドーン!!!

“シュート活字”代表
田中正志

聞き手/スモーノブ(千秋楽)
構成/チョロ
designed by matsu (Two three)

——ジミーさん、シュート活字に何か言いたいことがあるみたいですね?

ジミー あのね、いいですか? プロレスっていうのはファンタジーの世界なんですよォォォ! 例えば、レスラーの年収はいくらだとか、なんでそういうことを書く商売だとか、レスラーは食えないんだって! 俺から言わせれば0を二つぐらい余分に足して書けばいいんだよ!

——アハハハ! そういったことより、マット界の内幕を公開してプロレス界に夢がなくなることの方が罪はデカイわけですね。

ジミー そう、その通り! 俺だって、それなりの道を踏んでこの商売してるわけだから。俺は竹内宏介さんとか、ウォーリー山口っていう先輩方と、まあ先輩って言っても年は1つしか違わないんだけど(笑)、夜中に電話かかってきて、「新宿にいるんだけど迎えに来いよ!」って言われれば、「イエッサー!」って迎えに行ったからね。

——イエッサーですか(笑)。

ジミー それで、寝る時間が45分しかなくなっちゃったってことや、さんざん飲まされた後にブッ続けで12時間働いたこともあったし、写真失敗して頭を坊主にさせられたこともあるんだよ。そういった手順を踏んでないのにシュート活字だなんだって言って知ったかぶりしたって、俺はそいつらよりプロレスのこと百倍知ってる自信あるよ、ハッキリ言って!!

——ヒャッ、百倍ですか!

ジミー そう、百倍! それにね、人の足引っ張って原稿料稼いで何が幸せなのって言いたいよ! ハッキリ言って寂しい人たちだと思うね。まあシュート活字ということ自体、俺は好きじゃないからさ。

——一番気に入らない部分っていうのは、どういったところなんですか?

ジミー あのね、いいですか。プロレスっていうのは夢の世界なわけ。さっきも

言ったけど、ファンタジーの世界なんですよォォ！　その夢をブチ壊して何が楽しいのって思うんだよ。

——確かに夢をブチ壊してると言える部分もありますからね。

ジミー　そうでしょ。だって、俺が好きになったプロレスっていうのは、山田隆さん、桜井康雄さん、竹内宏介さん、菊池孝さんという4人の大先輩たちが築き上げてきた業界だからね。

——プロレスマスコミの大御所ですね。

ジミー　俺はその4人を凄く尊敬してるんですよ。それは、その人たちが自分が子供の頃に夢を与え続けてくれたからなんだよね。馬場さんは寿司は100個がレコードだとか山田隆さんが書いた『プロレス入門』とかで読んだ記憶っていうのは、いまだに残ってるからね。

——『プロレス入門』とか、子供の頃に読んでてワクワクしましたからね。

ジミー　そうでしょ。馬場さんはハワイに別荘があって、特製ジャイアントスープが一杯3万円だったか1万円だったか、よく覚えてないけど、凄い夢のある世界なんだよ（笑）。

——夢がありますよね。それが最近はインターネットが普及してそういう感じが無くなりつつあるわけですけど。

ジミー　佳境に立たされてるんだけど、そこでシフトチェンジしなきゃいけなくなってきたよね。だけどそういう時代の流れの中でも夢っていうのはあると思うんだよ。表現の方法が変わってきてるのかもしれないけど、そういう中で俺らが頑張って踏ん張っていかなきゃとは思ってますよ。ファンに夢を与えてなんぼの商売だからね。

——そうですよね。で、彼らがシュート活字というものを生み出すきっかけとなったのは、WWFが89年の裁判で「我々がやっているのはエンターテインメント」と、公の場で宣言したことが発端と言われてますけど。

ジミー　まあアメリカでそれをやるのはいいと思うよ。ただ、日本では新日本が掟を守ってやってきてるわけだし、まあ、新日本だけじゃないけどさ。

——全日本もそうですよね。

ジミー　そうそう。プロレス業界の人間が誰一人エンターテインメントだと言わずに守ってきた世界なわけだよ。言うは易しで、プロレスラーだったら誰でもそういうこと言えただろうし、インディーの選手にしても誰でもそういうこと言えたと思うわけよ。

——それを言わずに守ってきたマット界の長い歴史があるわけですよね。

ジミー　それをさ、田中正志っていう人はプロじゃないんだよ。なんでかっていうと、彼は他の仕事もしてるっていうし、ハッキリ言って副業でしょ？

——今は他の仕事はしてないみたいですけどね（笑）。

ジミー　こっちはプロレスに人生賭けて命懸けでやってるんだから！　もう後戻りなんてできないし、潰しだってきかないですよォォ！　それだけ賭けて人生やってきたわけだから、やっぱり憤りを感じるよね。

——ポッと出てきたような人間が、マット界の内幕を公開するっていうやり方が気にいらないわけですね。

ジミー　だってさ、俺なんかが読んでたら、凄い知ったかぶりの部分もあるんだよ。それがちょっとね。

——ジミーさんは、田中さんの本を読まれたりするんですか？

ジミー　最近のは読んでないけど、前に何かで読んだら、天山がステロイド使ったって書いてあって、アレは相当頭きたね！　俺は、ずっと天山の側にいたから使ってないの知ってるしね。本人に接しもしないで何でそんなこと書けるんだって思うよ。だから俺はそのことを「バカヤローッ！」って『ゴング』に書いてやったんだよ！（怒）。

——ああ、その記事は読みましたよ。

ジミー　だいたい姑息なんだよ！　本人に取材もしないでさ！　俺は机の上で講釈考えるだけっていう人は姑息だと思うね。それで、そういう噂を聞いたら、それを自分の意見として断定的な書き方しちゃってるでしょ。ホント、バカじゃないかって思うよ！

——田中さんに直接会って、言ってやりたいこととかありますか？

ジミー　彼には会ったことあるんだけど、本人の腰が低いから俺はあんまり言わなかったよ。俺を先輩として、その場では立ててくれたしね。それに、俺が直接被害を被るようなことだってしてないわけだからさ。

——でも実際に、プロレスマスコミが今後どういった方向に行けばいいのかっていう部分はありますよね。

ジミー　それはいろんなものがあっていいと思うよ。でもね、いいですか。一つだけ言えるのは、人の足を引っ張るのはやめようよってこと。やっぱり、そこに愛がなきゃいけないんだよ！

——武藤さんじゃないですけど、「ラブ」ってやつですね。

ジミー　『ゴング』で竹内さんが馬場さんのゆかりの地を尋ねたのがあったでしょ？　あれって素晴らしい企画だと思うわけ。ああいう企画っていうのは美しい愛があるわけよ！

——ジミーさんもジャンボ鶴田さんが亡くなった時に凄い愛に溢れた原稿を書かれてましたよね。

ジミー　あれはシュートだからね。

——シュート活字ですか（笑）。

ジミー　実を言えば（鶴田）保子夫人に「何で書いちゃったの？」って怒られちゃったんだよ（苦笑）。でも、俺が言わなきゃ他に全部書かれると思ったからドーンと出したわけ。ギリギリの線まで自分の情報網を駆使してね。

——ジミーさんぐらいになると情報網も幅広いんでしょうからね。

ジミー　あの時は、講談社の『フライデー』が「こんなネタを捕まえましたよ」とか、情報が入ってきたんだよ。

——確かに『フライデー』は鶴田さんの情報は早かったですからね。

ジミー　締め切り寸前で飛び込んできたから、今やらないと次の朝の朝刊に全部出ちゃうぞってことで『東スポ』でドーンって出したんだよ。『ゴング』だってそうだよ。『ゴング』は表紙差し替えたんだから。次の週になったらスクープにならないじゃん。ほんの少しでもタイミング逸したら散々あちこちで書かれるでしょ。それに、鶴田さんは「最初に書かせるのはジミーにやらせてくれよ」って保子さんに言ってたらしいからね。

——そうだったんですか！

ジミー　そうだよ。だから俺は、そういった言葉を踏まえて書いたんだけど、保子さんは鶴田さんを亡くしたショックで取り乱してたんで物事を冷静に考えられなかったと思うよ。自分はマスコミで一番鶴田さんに近い人間だったんで俺に対して腹を立ててたんだろうけど、自分は自分なりに考えてやったことだから。別に俺はそこで金儲けしようとか全く考えてなかったしね。

——俺がやらずに誰がやるんだと？

ジミー　そうそう。それでね、俺が今までこういう仕事してきて、一番幸せを感じさせてもらったのは西村（修）選手なんだよね。

——そういえば、西村さんは一時期フロリダに行かれてましたよね。

ジミー　その当時、西村選手を追ってたんだよね。西村選手のおじいさんが『ゴング』を読んで近所に自慢して回ったらしいんだよね。ハヤブサも同じようなこと言ってたけどね。

——「うちの孫はこんなに頑張ってるんだぞ」って感じで、おじいさんが『ゴング』片手に近所を回ったと。

安田の練習見たら大概の人は心を打たれると思うよ

ジミー　そうそう。そうやって人が幸せになるのを手伝って、俺も原稿料貰ってるわけだからね。

――それは気持ちいいですよね。

ジミー　それがホントの理想ですよ。そこに嘘はないんだから！　嘘書かないで、その人のいいところを見つけてあげて書いてるわけですよォォ！　それが俺のスタイルだから。

――ジミーさんはレスラーの悪い部分とかは一切書かないんですか？

ジミー　絶対書かないかって言ったら、そんな自信はないよ。ある選手が、ある闘いの場で、一目でステロイドを打ったっていうのが分かる身体で出てきたことがあったんだよね。

――ある闘いの場っていうと？

ジミー　ある闘いの場ってUFCなんだけどね（笑）。だって、UFCはシュートを売り物にしてるとこでしょ？

――そうですね。

ジミー　だから俺もシュートで書いてやったんだよ！（キッパリ）。

――お前らがシュートでやってるんなら、こっちもシュートで書くよと（笑）。

ジミー　そう、そういうこと（笑）。

――そのスタンスの取り方は非常に気持ちがいいですね（笑）。

ジミー　だってシュートでやってるんだからシュートで書いたって悪くないじゃん。でも夢の世界であるプロレスに関しては夢のある書き方したいんだよ。選手の良いところを見つけてあげるのもプロとして大事な仕事だと思うし、だいたいシュート活字みたいに荒探しするっていうのは簡単だからね。

UFCはシュートを売りにしているんで俺もシュートで書いたんだよ！

――これほど荒がほったらかしになってる業界もないんでしょうけど（笑）。

ジミー　まあ、そりゃそうだ（笑）。でも、人の荒探しなんて面白くもなんともないよ！　そんなの誰も幸せになんないだろ！　それに俺がこの仕事をやってるのは金のためだけじゃないし、人生金だけだとは思ってないから……でも、お金は好きだけどな（笑）。

――まあ、そりゃそうだ（笑）。

ジミー　ただ、金だけのためにやってなっていうのは自分の中で凄い持ってるつもりだから。

――田中さんはいま食えてないみたいですけどね（笑）。

ジミー　人の足引っ張って、それで食えてたらバチが当たるよ！

――おっしゃる通りです（笑）。田中さんも最近は選手とよく話をして、選手の方からそういう情報をもらう方向に持っていってるみたいですけどね。

ジミー　それはいいことなんじゃない？　俺が一番嫌いなのは取材しないで勝手に先走ることだから。

――最近はシュート活字を楽しむようなマニア層と言われるファンが結構増えてきてるんですけど、それに関してはどう思いますか？

ジミー　俺もそうだったよ。シュート活字で覚えたんじゃないけどな（笑）。

――その当時は『ファイト』がその役割を果たしていたと思うんですけど。

ジミー　そうだよね。でも、『ファイト』だけじゃなく、『ゴング』や『週プロ』読んで、そこからいろんなスタンスに別れていってもいいと思うし、それこそ自分の想像力張り巡らしたら、プロレスっていうのはとっても楽しいし、もの凄く深い世界だからね。

――そうですよね。しかも、それが海外にまで飛び出した日には、もっと面白いわけですよね？

ジミー　そう！「プロレスファンなら一度はアメリカおいで」って言いたいよね。もっともっと視野が広がるから。やっぱりテレビで見るのとは全然違うし、ナマで見ればプロレスの本場がアメリカであるということを身をもって感じることができると思うよ。

――やっぱりそうなんでしょうね。

ジミー　俺が今の仕事を始めて一番最初にギャラ貰ったのはアメリカだからね。79年に馬場さんとブッチャーがシカゴでやった時の取材なんだけどね。

――初仕事が馬場対ブッチャーなんですか！　話は変わりますけど、今回は、安田さんの『PRIDE』での試合を見に自費で来日したんですよね。

ジミー　そうなんだよ。今年は3度目の来日になるんだけど、今回は安田選手の練習を間近で見て心を打たれたんで、応援しようと思ってね。それがさ、デルタ航空で来たんだけど、アラスカの68人の人口の所に緊急着陸して、1日到着が遅れちゃったんだよ（苦笑）。

――それで、結局、安田さんの試合は見られなかったみたいですね（笑）。

ジミー　そうそう（笑）。でもね、安田選手の練習見たら大概の人は心打たれると思うよ。必死だったからね。

――安田選手のアメリカでの特訓風景は、写真だけ見ても凄くいい表情してるなって伝わってきましたよ。

ジミー　あそこに偽りは何もないわけよ。全てを失った男が、崖っぷちから落ちた男が必死に這い上がろうとして、人生諦めらんないっていう姿に感動するわけ。あの練習に安田忠夫っていう人間が全部凝縮されてるんだよ。

――試合がつまんないとか、どうとかいう次元の話じゃないわけですよね。

ジミー　そんなのは二の次、三の次よ！　俺は、この仕事22年してるんだけど、ここまで心を打たれたことは今まで一度もなかったからね。というわけで、今年3回目の来日をしたわけなんだけど、試合は見れなかったと（笑）。

――見事にオチが付きましたね（笑）。

ジミー　まあ、そういうこともあるけど、読者の皆さんも、もっともっとプロレスを愛してくださいよ！

ジャンボ、藤波、マスカラスという人気絶頂の3人がタッグを結成した夢のオールスター戦。セコンドには大仁田、客席には梶原一騎先生などの姿も確認できる。

【じみー・すずき】アメリカテキサス州在住で、アメリカを本拠地としてアメプロ撮影、取材を続けている。アメプロに一番近い日本人と言えるだろう。かつてはブッカー的な役割を果たしたこともあり、故・ジャンボ鶴田や武藤敬司、世界各国の外人レスラーなど、その交流関係もワールドワイドである。

紙プロ

インターネット野郎に送る
リング外情報ページ

リング外襲撃

悪魔の機械に
書き込む
バカドモめ!!
くやしかったら
行ってみやがれ!!

喰い合わせ良し!!

エンセン! 菊田・グラバカ! 大日本!
1度で3つおいしい!!

大和魂

狂猿

WORLD・SPORT・PLAZA KINGS 吉祥寺パルコイベント
格闘トークライブ&サイン会開催!!　5・26

たまらないイベントを連発するが KING がまたもやってくれる。パンクラス、大日本、大和魂と、異色の組み合わせを一回で味わえるのはこのイベントだけ！　失神覚悟で参加するしかないぞ。　まずは井の頭公園でボートにでも乗ってを落ち着かせてから突撃だ！

【第１部】14：00　菊田早苗・佐々木有生・石川英司（パンクラス・グラバカ）
【第２部】16：30　MEN'Sテイオー・葛西純・登坂レフリー（大日本プロレス）
【第３部】18：30　エンセン井上

【場所】吉祥寺パルコ７F　【開催日】５月２６日（土）
【参加方法】入場は無料。（人数制限あり）
サイン会のの方はKINGS吉祥寺店及びトークライブ会場にて格闘技グッズをお買い上げの方、先着70名様に購入商品1点につきサイン会参加チケットをお渡し致します。

言うちゃ悪いけど
喫茶店トーク
なコーナー。

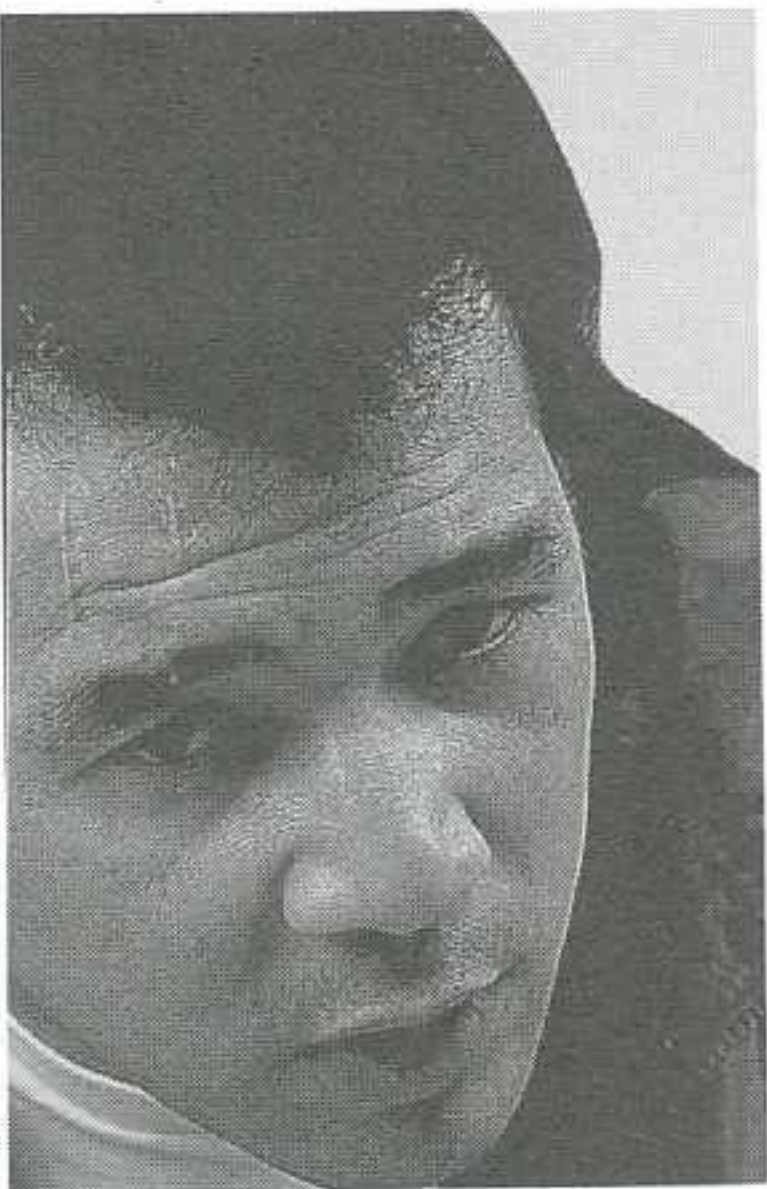
水道橋で 語れ!! 六本木で

水道橋にファイティング・カフェ『コロッセオ』がオープン!

後楽園ホールの帰りには絶対寄って語るんだ!!　オーダーに「いつもの頼むよ」と言えるぐらいに通い詰めよう。
【アクセス】ＪＲ水道橋駅西口（カラオケ・ニューヨークの看板目印）
TEL.03-3512-0522

格闘技BAR『Grapple』4月16日NEW OPEN!

格闘技のビデオ・ＤＶＤが大型スクリーンで見れ、スタッフも格闘技マニアだから最高だ!　君の格闘技の思いをここでぶちまけろ!!
【営業時間】　5：00～5：00
【場所】東京都港区六本木3-3-18
生雲ビル2Ｆ　03-5114-1974

ジョージも語ろう!!

ジョージ高野の居酒屋「居酒屋伝説」に飛ぶんだ!!

福岡からジョージが動きだした！ジョージ高野が居酒屋「居酒屋伝説」を福岡でオープンした。先日ZERO-ONEのリングにコブラとして上がり久々に表舞台に現れたジョージ。　そんなジョージの今を知りたい方、当然コブラ時代やマシンとの烈風隊などの懐かしい話をしたい方もみんなお店に集合だ!!
【場所】福岡県九州市八幡西区熊手1-3-19
TEL.0393-644-1288（ジョージがいるかどうかは要確認）
【コブラマスクを被って神輿に担がれよう!(妄想)】
「コブラのマスクが好きなんです！」とモジモジしないで早く電話で伝えよう！いまならカタログ無料発送中だ！
【販売問い合わせ】TEL.03-3559-3358

ジャンボを語ろう!!

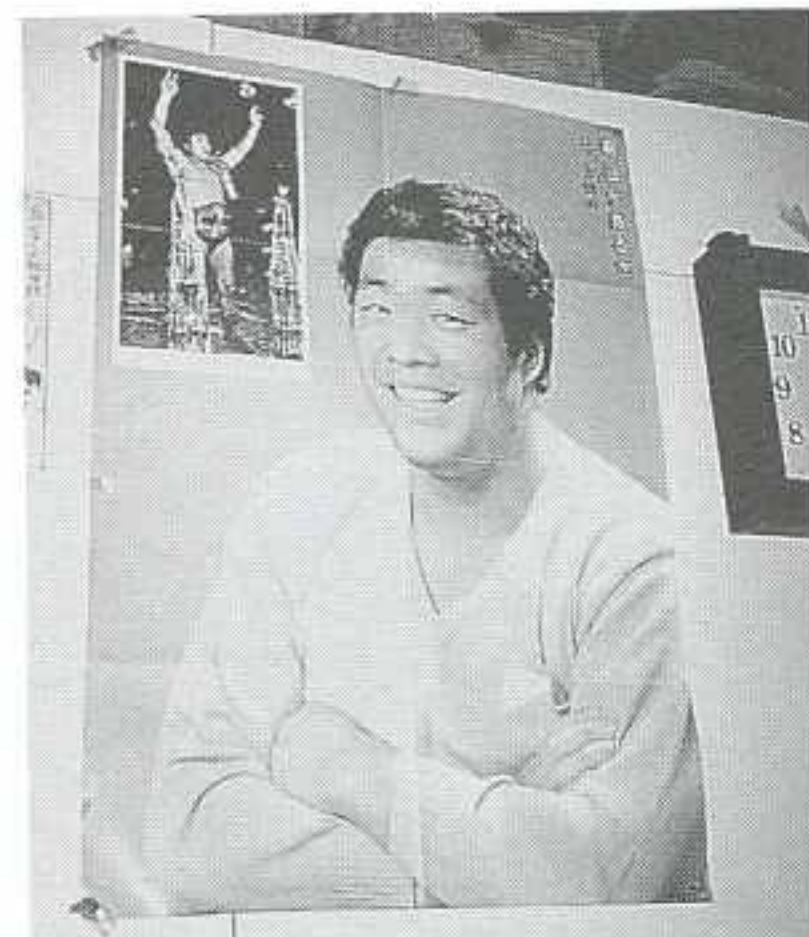
ローリング・ドリーマーを唄いながら行け!!

ジャンボ鶴田1周忌追悼興行観戦ツアー

ジャンボの前にジャンボなし、ジャンボの後にジャンボなし今またあなたの名を叫ぶ！

故ジャンボ鶴田さんが生まれ育った山梨で、ノアによるジャンボ鶴田1周忌追悼興行が行われる。このツアーはそのジャンボ鶴田追悼興行の観戦の他に、ジャンボ鶴田さんの墓参り、ジャンボ並にジャンボなお兄さんの恒良さんと、三沢などノアの選手達が参加して行われる故ジャンボ鶴田を偲ぶ会を開くなど、ジャンボマニアならもうたまらないジャンボづくしな追悼ツアー!!　「天才」「怪物」「若大将」などの言葉では入り切らなかったジャンボの魅力とはなんだったのか？　俺の道を辿りながらみんなでジャンボを語るぞ!!　1、2、3、オー!!

【興行場所】山梨・アイメッセ山梨（15：00）
【期日】6月10日・11日（1泊2日）
【料金】29800円（行程中の交通費、宿泊費、食事代、S席チケット込み）
【問い合わせ】
アップルツアーズ　TEL.03-3362-4717

【『紙プロ』の追悼岩石落としクイズ】
下記のレスラーをジャンボ鶴田試練の十番勝負で戦った順に書きなさい。
F・F・エリック／ビル・ロビンソン／A・ブッチャー／ボボ・ブラジル／大木金太郎／バーン・ガニア／クリス・ティラー／テリー・ファンク／ラッシャー木村／ハーリー・レイス
わかった人から手を挙げて！　オー!!

おもわず微笑み返してしまうたまらないこのジャンボの笑顔!!　ちなみにこれはジャンボブドウ園に貼られたあったポスター。最高だ。

鶴田・谷津の五輪コンビ！　何があろうと、先日福岡に登場した某団体の五輪組の様に腰が引けてしまうことはないのだ。

若き日のスモーノブ（169cm）を軽く頭1つ越えるジャンボのお兄さん！　笑顔もジャンボ同様たまらない。会いに行かねば！

ブッ込み情報

ボクも欲しい、私も欲しい！「トクホン」特製・桜庭グッズを手に入れろ！
「トクホン」が「トクホンVダッシュ」新発売キャンペーンとして特製のサクグッズをプレゼント中だ。特製サクマシンマスクやサクTシャツ、今月の読者プレゼントにも出ている桜庭ショット満載の桜庭読本などサク・マニアなら何がなんでも手に入れたいグッズばかり。町内のハガキを買い占め、家族総動員で徹夜で宛名書きまくり応募しろ!!　期間限定ホームページも開設しているのでこちらの方も要アクセスだ！
【応募先】103-0023　東京都中央区日本橋元町4-1-2
トクホン「トクホンVダッシュ」新発売キャンペーン係　hhp//www.sakutoku.net

桜庭和志トークショー
千葉・幕張プリンスホテル開業8周年を記念して桜庭和志のトークイベントが行われる。最近は露出が少ない桜庭だけに元気な姿を見に行こう!　元気があればなんでも出来る！　桜はまた咲く!!
【日時】5月29日　18：30〜20：45　【料金】12000円（プレミアムグッズ付き）
【お問い合わせ】　幕張プリンスホテル宴会予約係　TEL.043-296-1111

バトラーツと行くタイツアー
バトラーツの選手とタイにドーンと行ってみよう！
初　日【ムエタイ観戦】賭けの胴元と揉めても、バト勢が一緒だから安心♥　遠慮なくナンクセを付けよう!!
2日目【パタヤビーチ】パラソル貸し屋にからまれても、バト勢と一緒だから安心♥　ジャパニーズ・マフィアキックを叩き込め!!
3日目【コーラン島】ハッシシでバックパッカーが幻覚を見ていても、バト勢がいるから大丈夫♥　本当に天国に逝かせてあげよう!!
どーですかー!!　行きたくなったでしょう!!　それでは行きますか!!
【料金】こんなに盛り沢山で109800円
【お問い合わせ】ワールドリダー　TEL.03-5362-5292

一揆！一揆！みんなで一揆を起こすんだ!!
『ターザン山本の一揆塾』
あのターザン山本によるプロレス・格闘技ライター養成講座【一揆塾】が開講する。そしてターザンが認めた優秀な塾生にはライターとしての活躍するチャンスが与えられる。40名限定今すぐ電話だ！【お問い合わせ】ロックウエスト　TEL.03-5459-7988

春一番ホームレス登場！ビガロイベント報告

「洋服屋がプロレス興行？」と周囲を驚かせた上、なぜか大好評に終わった初興行からはや8カ月。新作商品を作るのも忘れ、『バンバンビガロ』がまた興行やっちゃいました。前回はセコンドで盛り上げたビガロ勢（当然ただの洋服屋）が今回はプロレスラーと試合するという、識者の方には非常に無謀で失礼な大会だったんだけど、ビガロ勢は案の定コテンパンにやられて、翌日は温泉で湯治するハメになりました。春さんのホームレス姿あり、カミナリボーイズのライブ、キャットファイトあり＆Tシャツ付きで、お得感溢れる大会でした。次回は10月で〜す。

（ジャイ子）

「お

小川戦を終えた長州にまたしても災難ボッ発!?

アイツ(長州)はオレに言ってはならない事を言ったオレを誰だと思ってるんだ!?
ジェラルド・ゴルドーだぞ!!
どうなるかわかってるんだろうな!

前田戦、長井戦、アルティメット中井祐樹戦、猪木戦、そして……
1.4事変を遂に語る!!

ジェラルド・ゴルドー
死神降臨

聞き手/堀江ガンツ
撮影/丸山剛史
スーパーバイザー/吉田 豪
通訳/ポール徳永
designed by matsu (Two three)

88年8月13日有明コロシアム■新生UWF初のビッグイベント「真夏の格闘技戦」で前田と対戦。打撃で追い込むも最後はハイキックを、本邦初公開の裏アキレス腱固めで切り替えされ敗れた。このムーブはいまや純プロレスの定番だ。

――ゴルドー選手には聞きたいことが山ほどあるんで、今日はよろしくお願いします！

ゴルドー　ああ、なんでも聞いてくれ。オレは何でも話すから。

――お言葉に甘えて根ほり葉ほり聞かせてもらいます（笑）。ゴルドーさんは数え切れないほど来日してますけど、やはり日本には思い入れが深いんですか？

ゴルドー　深いなんてモンじゃないよ。日本は心のふるさとだからな。1984年に極真世界大会に出場するために初めて日本に来て以来、オレが〝思い出〟と呼べるようなモノは日本にしかないよ（笑）。

――そこまで深いですか（笑）。その中でゴルドーさんが日本の格闘技ファンに有名になったのは、第2次UWFでのvs前田戦からだと思いますけど。

ゴルドー　88年8月13日だな。

――日にちまで覚えてますか（笑）。やっぱりゴルドーさんにとってもあの試合は思い入れが深いですか？

ゴルドー　そうだな。あの試合で総合的な闘いに目覚めたし、現在のオレのファイトスタイルを作るためのきっかけになってくれたからな。

――UWFに上がったのは、どんないきさつがあったんですか？

ゴルドー　あの頃UWFがオランダのキックボクサーを招聘しようとしていたようなんだが、当時はミックスドファイトを喜んでやるキックボクサーなんかいなかったんだよ。もちろんオレも打撃の試合しかやったことがなかったんだが、自分のスタイルにもっと色んなモノを取り入れるために参加したんだ。でも相手もルールもよく知らなくて、行ってみたら、相手がデカイ日本人だったんで結構大変だったけどな。

――デカイ日本人！　いまはもっとデカくなってますけどね（笑）。それにしても、なにも知らなくてよく闘えましたね。

ゴルドー　それができたのは、オレが極真魂を持っているからだよ。極真魂を持ってれば、例えどんなスタイルであろうと心では絶対負けない。だからオレは自信を持って試合に挑むことができたんだ。

Gerard Gordeau

――当時は〝総合格闘技〟っていうのは、世の中に存在しないようなジャンルでしたけど、その頃から総合的な闘いには興味はもっていたんですか？

ゴルドー　フリーファイトなんて考えたこともなかったな。そいつはリング上ではなく、ストリートでやるもんだと思ってたよ（笑）。

――そっちのフリーファイトのキャリアは実に豊富らしいですね（笑）。

ゴルドー　まあな（笑）。ただ当時のUWFはストリートファイトというより、空手に関節技をプラスしたようなものだった。だからオレはストリートでの自信というよりも、極真空手家としての誇りを持って闘ったつもりだよ。オレの極真は、どの格闘技とやっても勝てるという自信があったんだ。その気持ちはいまもまったく変わらない。いつ何時でもオレは極真を信じて闘っているんだ。

――UWFというのはジャンルで分けると「プロレスリング」のカテゴリーに入ると思いますが、ゴルドーさんはプロレスというモノに対してどういうイメージを持ってましたか？

ゴルドー　実際にやってみるまでは簡単なものだと思っていたよ。というのも、当時オレが知っているプロレスは

オレが闘った中で最もいいハートを持っていたのは長井だ！

91年12月7日有明コロシアム■Ｖ・ハンが初出場した記念碑的大会。ゴルドーは当時の〝リングスナンバー2〟長井と対戦。首に爆弾を抱える長井に対し、何の躊躇もなくネックロックで絞り上げるゴルドー。戦慄が走った。

「お

プ結ス

バーリ・トゥードは決して スポーツなんかじゃない 残酷な見せ物なんだよ!

ハルク・ホーガンのアメリカン・プロレスだけだったんだ。だから正直、「あんなもの誰でもできるだろ」とバカにしてたよ（笑）。

――ホーガンなんてオレにでもなれる、と（笑）。

ゴルドー だが実際にやってみてそれが間違いだと気づいた。特にUWFは違ったよ。オレはこれまでいろんなスタイルで闘ってきたが、思い返せば一番難しかったのがUWFだ。

――どこが難しかったんですか?

ゴルドー 言葉では言い表しにくいが、極端にいうとオレのやってた極真は相手に怪我をさせればよかった。だが、UWFはそれだけじゃダメだ。トータル的な技術も必要だし、何よりも頭を使う。簡単に出来るもんじゃないよ。だからUWFで闘った経験があるからこそ、いまオレはプロレスをもの凄くリスペクトできるんだ。ただ、UWFは素晴らしいイベントであるに違いないが、その反面格闘技界への悪影響も少なからずあったと思う。

――どんな悪影響ですか?

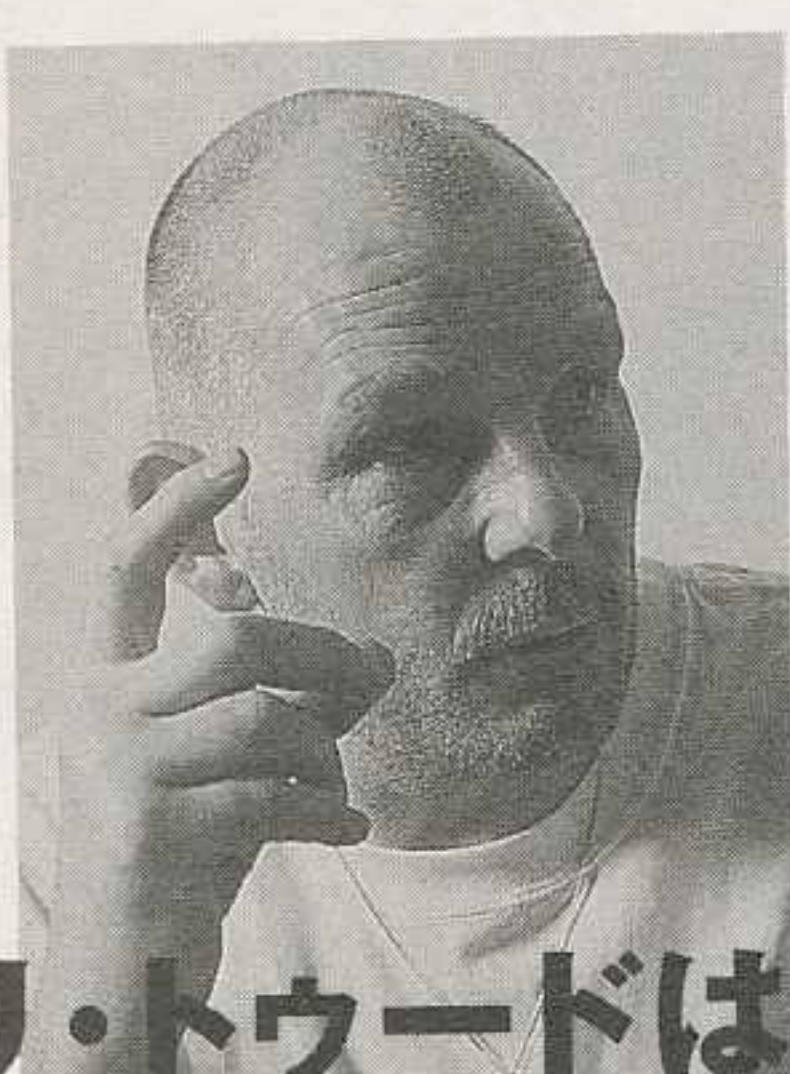
ゴルドー UWFの成功が今日のK―1や『PRIDE』のような、プロ格闘技の道を作ったことは間違いないだろう。だが、それによって武道の芸術がビジネスに汚されてしまった。今はグレイシーの連中を初めとして、明らかにビジネスを優先し過ぎている。オレなんか極真の世界大会で日本に来たときは飛行機代は自分で出したんだぜ! いまはそういった心を持った選手なんて絶滅状態じゃないか。もちろんハートのあるヤツもいるが、真の意味で〝格闘家〟と呼べるのは少なくなったよ。

――ではゴルドーさんが対戦した中でいいハートを持った選手というと誰になりますか?

ゴルドー （即座に）ナガイだ。

――な、長井! 中井ではなく、元リングスの長井ですか?

ゴルドー そう、ミツヤ・ナガイだ! 彼はオレがいくら殴っても蹴っても真っ向から向かってきたし、彼のウイークポイントである首を絞り上げても決してギブアップしなかった。リスペクトしている格闘家は他にもいるが、ハートの強さではナガイが一番だったな。

――確かにあのゴルドー選手と長井選手の試合はファンの間でも語り草になってますよ。

ゴルドー ナガイは極真魂を持ってるよ。やっぱりオレはソーサイ・オーヤマ（大山総裁）やカンチョー・マツイ（松井館長）みたいなハートの強さをもった選手こそリスペクトすべき存在だと思うんだ。

――その心の強さが極真魂だと。

ゴルドー イエス。フランシスコ・フィリォを見てみろよ。極真魂を持っているからこそ、自信を持ってK―1という外の世界に出ていけるんだ。逆にピーター・アーツやホーストは極真の大会には出ないだろ? やはり心の力では極真が一番だよ。日本のプロレスラーにも極真と同じ心を持った選手が結構いるよな。自分のやってきたことに自信を持って外に出る男がね。柔術の連中は強いけど、自分の苦手なルールに出るヤツなんていないだろ? そういう奴らはあまり尊敬できんよ。

――そういった意味では、ゴルドーさんは第1回目のUFCにも出てるわけですから心の強さを持ってるということですね。

ゴルドー そうさ、自分の中の極真魂がアルティメットにチャレンジさせたんだ。それにあの時オレは1回戦で拳と足の指2本を骨折してしまった。普通ならそこで棄権だよ。でも極真の世界大会では骨折くらいで棄権するようなヤツはいない。だからオレも極真の世界大会に出場したときの気持ちを思い出して決勝まで闘ったんだ。

――決勝のホイス・グレイシー戦は手も足も骨折しながらの闘いだったんですか!?

ゴルドー ああ。だから周りはみんな「やめとけ」って言ってたよ。でも自分のハートがそれを許さなかったんだ。

――格闘技に『もし』という話は禁物だとおもいますけど、もし骨折してなかったらホイス戦の結果は違っていたとお思いですか?

ゴルドー モチロンだ。間違いなくオレが勝っていた（キッパリ）。

――ホイスは「強い」という感じはありませんでしたか?

ゴルドー ホイスは「強い」というより、クレバーだな。

――クレバーですか。それはどの辺りに感じますか?

ゴルドー もともとホイスとは1回戦で闘うはずだったんだよ。

――え!? そうだったんですか?

ゴルドー 第1回のUFCが実はグレイシーの主催だったのは知ってるかい?

――そうらしいですね。

ゴルドー UFCに出場した選手は各自プロフィールビデオを主催者に送ったんだが、オレはあまりいい試合のビデオが送れなくてね。恐らくそのビデオを見て、ホイスの1回戦の相手をオレに決めたんだろう。

――グレイシー側がゴルドー選手を「カモ」だと思った、と。

ゴルドー そうだ。ところが開催地のデンバーに着いたら日本のプレスやファンがたくさん来てたんだよ。オレは彼らに囲まれて、インタビューを受け、たくさん写真を撮られた。それを見たグレイシー陣営が『なんだ、アイツは!? 危ないヤツなのか?』となって組み合わせが変わってしまったんだ。

――日本人のせいでジェラルド・ゴルドーの〝正体〟が分かってしまった、と（笑）。

ゴルドー そういう点で奴らはクレバーだよ。あの大会はいろんな面でグレイシーのトーナメントだった。いたるところに〝罠〟が張り巡らされていたんだ。

――組み合わせ以外に、どんな〝罠〟があったんですか?

ゴルドー これはほんの一例だが、オレは一回戦で右の拳を骨折してしまったから、準決勝では右のパンチが全く打てなかったんだ。だが、ホイスとの決勝戦の前に、最後の一試合だけ右手が使えるようにドクターに拳の骨をはめ直してもらった。

――整体の要領ですね。

ゴルドー　だからオレの拳がとりあえず使える状態になったことは、ドクターしか知らないはずだった。ところが、これはビデオで確認すればわかると思うが、知らないハズのホイスがオレの右パンチを警戒してガッチリガードしてるんだよ。こんなこと情報が漏れているとしか思えないだろ！

――ドクターまでグルだった、と（笑）。

ゴルドー　オレはグレイシーの実力を否定してるわけではないんだ。ホイスはいい選手だと思う。でもあのときのUFCはフェアじゃなかった。グレイシーを優勝させるために仕組まれた大会だったんだよ！

――まぁ、そういうこともあって優勝はできませんでしたけど、当時はあんな大会が開かれるのは初めてで、誰もが闘い方っていうのがわかってなかったと思うんですよ。でもゴルドーさんは躊躇なく顔面殴るし、蹴るし、心構えっていうのは他の選手より出来ていた気がするんですが。

ゴルドー　それは場数の違いだな。素手で顔面を殴られ馴れてないヤツというのは、顔面を殴られるとパニックになって身体が硬直してしまうんだ。だから、とりあえず顔面を殴ることしか考えてなかったよ。

――とりあえず顔面！（笑）。

ゴルドー　これはストリートの知恵なんだ。ストリートでは、いくらサブミッションで腕を折っても折れてない方の腕で武器を持って追いかけてくる。でも顔面を殴って立ち上がれなくすれば追いかけてこないだろ。だから顔面を殴るのが一番なんだよ。

――ということは、UFCはストリートファイトのつもりで闘っていたわけ

なぜ試合を止めないんだ!?
このままでは、オレはコイツを殺してしまうぞ！　いいのか!?
そう思いながら闘っていたよ

Gerard Gordeau

ストーリーばかり考えてる今の『PRIDE』はレッスルマニアに近いな

ですね。

ゴルドー イエス。バーリ・トゥードは格闘技の技術がない人間が勝てるものではない。だが技術だけでもダメなんだ。格闘家であり、なおかつ心の中はストリートファイターでなくちゃならない。なぜならアルティメットは決して"スポーツ"なんかじゃなくて、バイオレンス・エンターテインメントだからな!

――バイオレンス・エンターテインメント!

ゴルドー そうだ。UFCはメディアから「残酷すぎる」という批判もあったが、それは競技だと思うから出てくるんだ。UFCはスポーツマンが出場したものだが決して競技なんかじゃない。残酷な見せ物なんだよ!

――暴力を見せるエンターテインメントなんだから、その点について文句は言うな、と。

ゴルドー ただ、勘違いしてほしくないのは、他の格闘技は決してバイオレンスではないということだ。UFCの出現によって、格闘技を知らないメディアは、空手やカンフーなど他の競技までバイオレンスのレッテルを貼った。これは問題だ。空手や修斗はあくまでスポーツ。アルティメットはバイオレンス。見せるべきものがまったく違うんだよ。

――そんなUFCも当時とは違い競技化が進んでいますけど、そのことについてはどう思われますか?

ゴルドー UFCは限界だろうな。

――限界!

ゴルドー みんなあのルールで勝つセオリーを知ってしまったんだよ。しかも選手の頭のレベルが低いからか、全員が同じ闘いかたしかやろうとしない。これじゃつまらんよ。

――UFCと同じようなルールの『PRIDE』はどう思いますか?

ゴルドー なんとも思わないな。まあまあじゃないか。

――まあまあですか(笑)

ゴルドー 『PRIDE』がやらなくてはいけないのは、新しい選手に機会を与えることだ。『PRIDE』は同じ選手ばかり試合していて、選手はおろか観客でさえどういう展開になるのかわかってしまうだろ。

――確かにそれはありますね。

ゴルドー 初期のアルティメットが面白かったのは、誰もなにも相手のことを知らなかったからだ。新しいファイトスタイルも見れるし、観客もそういう方が面白いだろう。今のままだと進歩しなくなってしまうぞ。ビジネス的には今の選手を使い続けた方が安全なんだろうが、新しいモノを作る為には新しい選手が絶対必要なんだ。ハッキリ言って今の『PRIDE』は『レッスルマニア』に近いんじゃないか。

――『レッスルマニア』に近い!(笑)。それはというのはどういうことですか?

ゴルドー 選手が負けるたびに「リターンマッチだ」「リベンジだ」って、そんなストーリーばかり考えてるだろ。

――確かに(笑)。

ゴルドー だいたい今の選手は相手の研究ばかりしている。本当のファイターっていうのは、相手のデータがなにもなくても闘うもんだよ。だから『PRIDE』は確かにテクニックに優れた選手が多いと思うが、初期のUFCのような相手の情報が全くない場に出場するハートの強い選手はいないだろ。

――初期のUFCに出た選手といまのバーリ・トゥーダーはハートの強さが違う、と。

ゴルドー ああ。これもグレイシーの悪影響なのかな。対戦相手は選ぶ、ギャラは吊り上げる、相手を研究する時間はたっぷり取る。(吐き捨てるように)ファイターのやることじゃないな。

――ゴルドーさんグレイシーに対して厳しい言葉が多いですけど、ホイスに敗れてから「打倒グレイシー」という気持ちは常にあったんですか?

ゴルドー そういった考えはないな。グレイシーは一つの戦場で勝っただけで、大きな意味の戦争に勝ったのはオレだから。

――どういうことですか?

ゴルドー トーナメントを制したことでファンやメディアは彼らに寄っていったが、リアル・ファイターとして見られていたのはオレの方だったという自信がある。負けたという気持ちはまったくない(キッパリ)。

――でもあのトーナメントに勝ったことによって、「グレイシー最強」というイメージが広がりましたよね。そのことについては何とも思わないんですか?

ゴルドー 大会に優勝するということは、「一夜の王」というだけのことだ。それ以上でも以下でもない。それはグレイシー本人達も知ってるはずだよ。だからUFCを制したのは事実だし、チャンピオンだというのは認めなければならないと思うが、世界一のファイターではないよ。本当に世界一のファイターを名乗るのであれば、オレのように相手やルール、スタイルを選ばず闘うことだな。

――それでは95年の『バーリ・トゥード・ジャパン』は、ヒクソンを倒してやろうと思って参加したわけではないんですか?

ゴルドー ああ、それは違う。あの時オレとしてはバーリ・トゥードはもうやりたくなくて、違う新しいことがやりたかったんだ。ファイトマネーも安かったし、オレ自身乗り気じゃなかったが、マネージャーが決めたことだから仕方なく出場したんだよ。

――以前ゴルドーさんはインタビューで「バーリ・トゥードをやるときは相手を殺すつもりでやる」と言っていたので、ヒクソンを殺すつもりで出場したんじゃないかとも思ってたんですけ

95年1月4日東京ドーム■猪木の対戦相手にキモが噂に上るなど、当時UFCファイターを上げたがっていた新日にゴルドーが初登場。猪木、スティング、そしてT・ペテーラという、デタラメなメンバーのトーナメントに出場した。

ミスター・イノキに「小川に何かあったら守ってくれ」と言われた。オレは自分の仕事を全うしただけだよ

ど。

ゴルドー 特にヒクソンを意識はしてないよ。対戦相手は誰でもいいんだ。ただ、バーリ・トゥードに出たら「相手を殺さなきゃならない」そういう考えになってしまうのは確かだ。

――では中井祐樹選手との対戦もそういう気持ちで闘ったと……。

ゴルドー ナカイか。あの試合はオレが最も深く印象に残ってる試合だよ。

――それはどういった印象ですか？

ゴルドー この試合の最中オレは、「何でレフェリーは試合を止めないんだ？」と思っていた。このままレフェリーが止めなかったらオレはこいつを殺してしまう、いいのか？と思って試合をしてたよ。

――非常に聞きにくい質問なんですけど、あの試合で中井選手は失明してしまったんです。

ゴルドー それは知っているよ。

――ゴルドーさんとしては、そうなる前にレフェリーに止めて欲しかった…と。

ゴルドー そうだ。ナカイはハートが強い選手だ。絶対あきらめることはしないだろう。だからこそ早くレフェリーが止めるべきだった。日本のレフェリーは「スポーツのレフェリー」であって、「ファイトのレフェリー」じゃなかったんだ。ファイトのレフェリーだったら、オレの顔を見ただけで止めるだろ！

――……。

ゴルドー 「スポーツ」と「ファイト」は違うんだ。これはハッキリさせておきたい。オレだって殺らなければ殺られる覚悟で闘っているんだ。実際、オレはナカイの関節技でヒザを破壊されたしな。

――この試合以降ゴルドーさんは、バーリ・トゥードを行っていませんけど、バーリ・トゥードから興味を失ってしまったんですか？

ゴルドー それもあるが、オレは真の意味でトータルなファイターになりたいんだよ。それにはあらゆるスタイルを経験する必要がある。だからバーリ・トゥードより、もっと新しいこと、まったく違うスタイルに挑戦したい気持ちの方が強かったよ。

――時期は少し前後しますけど、アントニオ猪木さんとの試合を受けたのも、「新しいことに挑戦したい」という気持ちからだったんですか？

ゴルドー イエス。オレはUWFでは闘ったことがあるが、トラディショナルなプロレスは初めてだった。その初めての相手が尊敬するミスター・イノキだったことは実に光栄だったし、いい経験になった。ただ、やってみた感想を言えば、トラディショナルなプロレスはオレには向いてないなと思ったよ。オレのイメージ的にも合わないんじゃないか？

――それは言えるかもしれませんね（笑）。その後、参戦したUFOはいかがでしたか？ UFOもまた違うスタイルだと思いますけど。

ゴルドー 退屈だったな。

――退屈！

ゴルドー オガワもムラカミも、もっと向かってこないとつまらんよ。

――でも、小川vs橋本戦のときに小川選手のセコンドについていたのはなぜなんですか？

ゴルドー リスペクトしているミスター・イノキに頼まれたからだよ。

――あれはやっぱり猪木さんに頼まれていたんですか！

ゴルドー オレ個人的には、オガワのためにならないから、セコンドに付かない

Gerard Gordeau

“1・4事変”の黒幕はやっぱりアントンだった!? ゴルドーに小川のボディガードを任せて、自分は客席で『1・2の三四郎』マスクを被っていたかと思うと、タチ悪すぎ。さすが、アントン！

「お

5月5日に長州と小川が闘うのか？ 興味ないな。小川だったらオレよりマシだろう。安全だからな

方がいいとは思ったんだ。オガワはもっと修羅場を経験した方がいい。アイツはまだまだヤングボーイだからな。

——オーちゃんはヤングボーイですか(笑)。猪木さんにはどんな風に頼まれたんですか？

ゴルドー 「小川に何かあったときに守ってくれ」ってね。

——はぁ～。あのときのはプロレスの枠を越えた闘いになって大乱闘になってしまいましたけど、そうなると事前に予感していたんですか？

ゴルドー 控え室に入った瞬間に何かおかしい空気に気づいたよ。だからオレはネックレスや時計を外してセコンドに付いた。「今日は絶対になにか起こるな」という匂いがあったんだ。

——試合前から小川陣営はいつもと違っていたんですね。

ゴルドー イエス。オレは子供の頃からストリートキッドとして生きてきた男だ。生きていくために必要なことは全部ストリートで学んだんだよ。そのオレが〝おかしい〟と思ったんだから何が起こっても不思議じゃない。

——では、ゴルドーさんはセコンドというよりも、最初から〝用心棒〟の気構えだったんですね。

ゴルドー ああ、ミスター・イノキが頼んできた意味が分かったからな。オレは何か頼まれたらイエスかノーか、ハッキリ言うんだ。そしてイエスと言

日本の団体はなぜオレを使わないんだ!? そう橋本に伝えてくれ

ったら必ず最期までやり通す男なんだよ。だからニュージャパンの若手が暴れ始めたときも、オレはオレの仕事をするだけだった。

——オレの仕事＝若手をぶん殴るということですね（笑）。

ゴルドー ああ、誰かが動いた瞬間にストリートファイト・モードに切り換えたよ。まぁ、ニュージャパンの若い連中が、次々とリングに上がってきて暴れたが、それは別に悪いことじゃない。ただ、ひとりだけ許せないヤツがいたんだ。

——誰ですか？

ゴルドー ニュージャパンのボス。チョーシューだよ。

——長州は許せない！

ゴルドー イエス。アイツの過ちはニュージャパンのボスらしくないことをやってしまったことだ。トラブルが起きてアイツがリングに来て若い選手は一瞬引いたんだ。アイツはボスだろう。その場を収めるのが役割じゃないのか。また余計な混乱を招いた。観客の前だからってカッコつけやがって。そしてオレに言ってはいけないことを言ったんだ。オレを誰だと思ってるんだ。ジェラルド・ゴルドーだぞ。オレにあんなことという奴は誰だろうと許さない、殴るしかないと思ったよ。

——その場で一戦交えてもOKだったと。

ゴルドー 構わなかったよ。まあ、未だに根に持っているわけじゃないが、アイツの行動が間違いだったことを教えてやってもいい。

——実はそのときの因縁の小川vs長州戦が、ようやくあさって組まれるんですよ（笑）。

ゴルドー どうでもいいな。おそらく何事もないフェアな試合になるんじゃないか。やっぱりチョーシューもオレよりオガワの方がマシなんだろう。安全だからな。

——ガハハハ！ 小川選手の方が安全ですか！（笑）。ところであの大乱闘があった後の小川さんの控室はどんな雰囲気だったんですか？

ゴルドー オレは控室の前で立っていたからよく知らないな。

——え!? どういうことですか？

ゴルドー あんなことがあった後だから、ニュージャパンの連中が控え室に乗り込んでくるかもしれないだろ？ だからオレは鉄パイプを持って、控室の入り口で入ってくる奴を一人一人チェックしていたんだ。

——ガハハハ！ ホントに用心棒というか、門番の役目を果たしてたんですね（笑）。

ゴルドー だから言っただろ。オレは引き受けた仕事は最後までやり通すんだよ。結局誰も乗り込んで来なかったけどな。

——鉄パイプを持ったゴルドーさんに立ち向かう命知らずはいませんよ！（笑）。そのあと猪木さんとは何か話はされたんですか？

ゴルドー いや、そのときのことは全く話してない。オレの役目は終わったからな。任務を完遂したあとに依頼人と話すことなどなにもないよ。

——まるでゴルゴ13だ（笑）。いやぁ、ゴルドーさんは話を聞けば聞くほど最高ですね！ 最近は試合から遠ざかってるみたいですけど、日本での試合の予定とかはないんですか？

ゴルドー オレ自身はリングに上がる準備は万全だよ。逆にオレは聞いたいよ、なんで日本の団体はオレを使わないんだ!?

——怖がらずにオレを使え、と（笑）。どこか出たい団体はありますか？

ゴルドー どこでもOKだよ。オレは何でもできるからな。でも希望を言えば、ミスター・イノキのイベントに出たいと思ってる。

——いま猪木さんはプロレスとバーリ・トゥードを合わせたイベントをプロデュースしたりしてるのはご存じですか？

ゴルドー ああ、知ってるよ。オレにピッタリじゃないか。そう思わないか？

——確かに『猪木祭り』にゴルドーさんが出てたら、緊張感も全然違っていたでしょうね。

ゴルドー それとハシモトも同じようなイベントをやろうとしてるらしいじゃないか。

——「真撃」情報まで入手してるんですか！

ゴルドー ハシモトにも伝えてほしいよ。オレはいつでも出る準備があるってな。でも本当に今一番やりたいことは格闘技以外にあるんだ。

——なんですか？

ゴルドー 日本の映画やTVに役者として出たいんだ。

——ゴルドーさんも「芸能人になりたい人」でしたか（笑）。ちなみにどんな役がやりたいんですか？

ゴルドー オレに悪役以外何をやらせようというんだ？（笑）。

——やっぱり悪役！ ご自分をよく分かってらっしゃるんですね（笑）。

ゴルドー あとオレはアムステルダムで『カマクラ』という道場を経営してるんだが、もっと日本人が来てくれるとうれしいよ。オレはあらゆるスタイルの格闘技を教えることができる。これはぜひ伝えてくれ。

——わかりました。今回のインタビューが逆効果にならないことを願ってます（笑）。

【01年5月3日／『ReMix』終了後、水道橋の焼き肉屋「大門」にて収録】

Gerard Gordeau

Gerard Gordeau■1959年3月30日、オランダ、アムステルダム出身。"死神""墓堀人""地獄の料理人"など、古きよき時代のプロレスラーの異名がことごとく似合う、世界で最も危険な男。第3、4回極真世界大会出場、サバット世界ヘビー級王者、第1回UFC準優勝など格闘家としても確かな実績を持つ。ZERO-ONEへの参戦を熱望。198cm、100kg。

これはマット界の大事件だ!! 純プロレスラーが格闘技経験をベースにしたプロレスラーにガチンコ勝負を挑む!!

「おいしい」と思うから出ていくというのはダメな人の感覚だと思う

TAKAYAMA YOSHIHIRO

高山善廣

聞き手/山口日昇　撮影/吉場正和
design by ZERO graphics

リアル"Uインター VS 新日本"スーパーヘビーの「新プロレス」の扉が開く!!

単なるプロレスでも、単なる格闘技でもない、スーパーヘビー級の「新プロレス」の扉を開く一戦として期待される5・27『PRIDE・14』での高山vs藤田戦。この号が発売される頃には決戦ド直前を迎えてるわけだが、これは藤田戦が終わった後に読んでも、高山のプロレス観が非常にクレバーで力強いことがわかるはずだ。このインタビュー後、ノアのシリーズ開幕2連戦で古傷を痛めた高山は大事を取って緊急入院してしまったが、『PRIDE・14』には出場する。まずは、これを読め！ ノーフィアー!!

——藤田和之戦前には、ノアのシリーズに全戦参加するそうですね？

高山 そう！

——マジで？

高山 マジで（笑）。

——不安は全然ないんですか？

高山 いや、ありますよ！ やっぱりね、万全とは言えないですからね。対策うんぬんより、ノアでいつもトップどころとやるわけだから、大怪我じゃなくても、どっかしら痛めたりとかする。それこそ大怪我しちゃって、「とりあえずリングには立てるでしょ？」っていう状態だったら一番辛いじゃないですか。

——通常のプロレスをギリギリまでやって『PRIDE』に出るという状態を「おいしい」と思う感覚はない？

高山 「おいしい」っていう感覚はホンットにないんですよ！「おいしい」と思うから出るんじゃなくて、僕が行っておいしいものを作るから、お客さんにとっておいしくなるだけであって。逆においしいと思うから出て行くっていうのはダメな人の感覚なんじゃないかと思いますね。

——はっは〜。ダメな人の感覚。

高山 誰とは言わないですけど（笑）。確かに、そこに行けばおいしいものを作れるんじゃないかなっていう感覚は自分の中にはあるとは思うんだけど、ただ、それ自体がおいしいかどうかは、わかんないじゃないですか。

——高山さんの中にも「おいしい」と思う感覚は当然あるけど、小さいスケールでの「おいしい観」はないということですね（笑）。

高山 そうですね。

——おいしいものを食べに行くんじゃなくて、高山さん自身がおいしいものを作りたい。

高山 そう。僕が作って、お客さんが食べる。それが結果的においしいっていうんであれば一番いいと思いますよ！（キッパリ）。僕がノアに全戦参加するっていうのは、スケジュールの問題です！（キッパリ）。

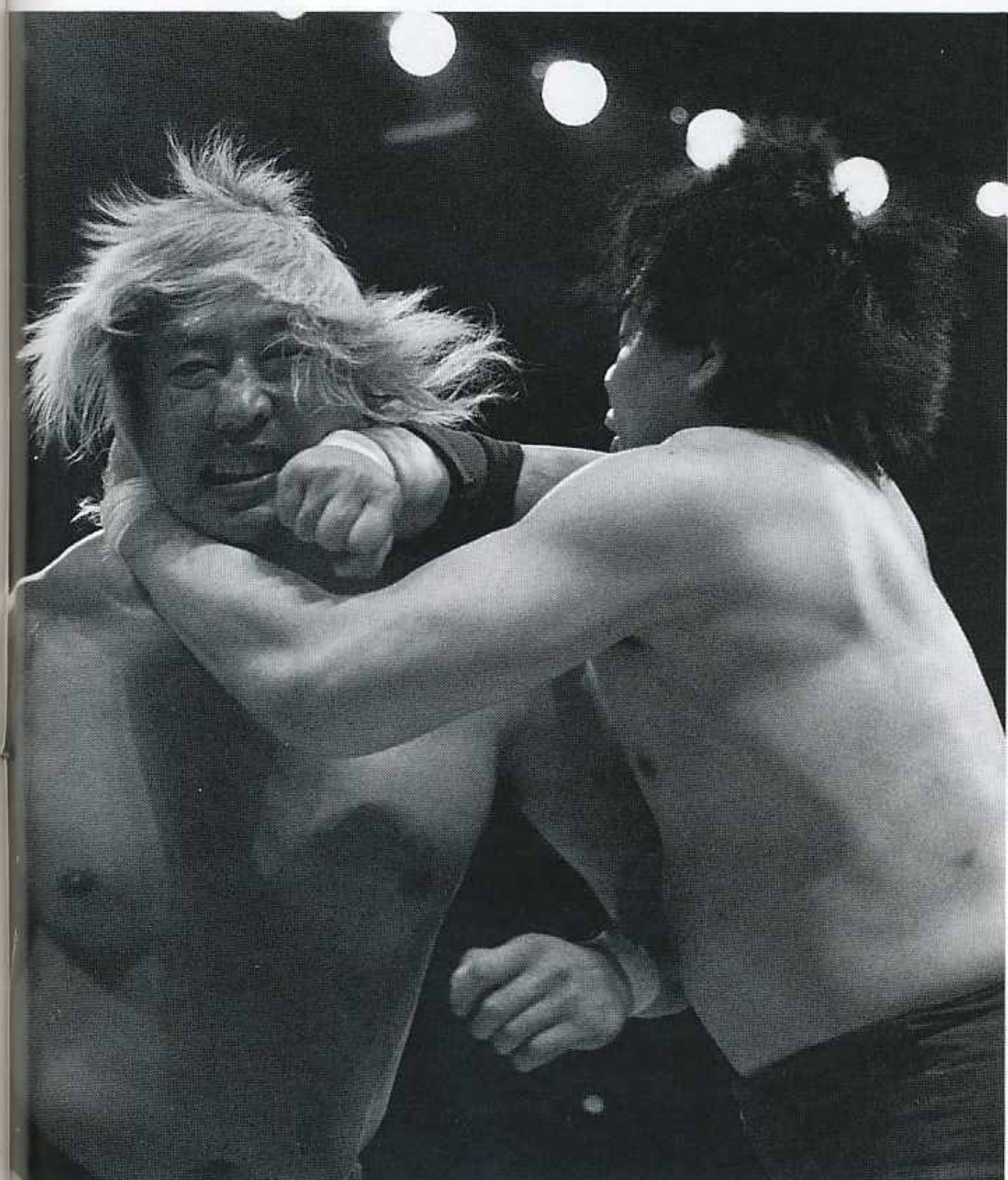
——ガハハハ！ ひと言！

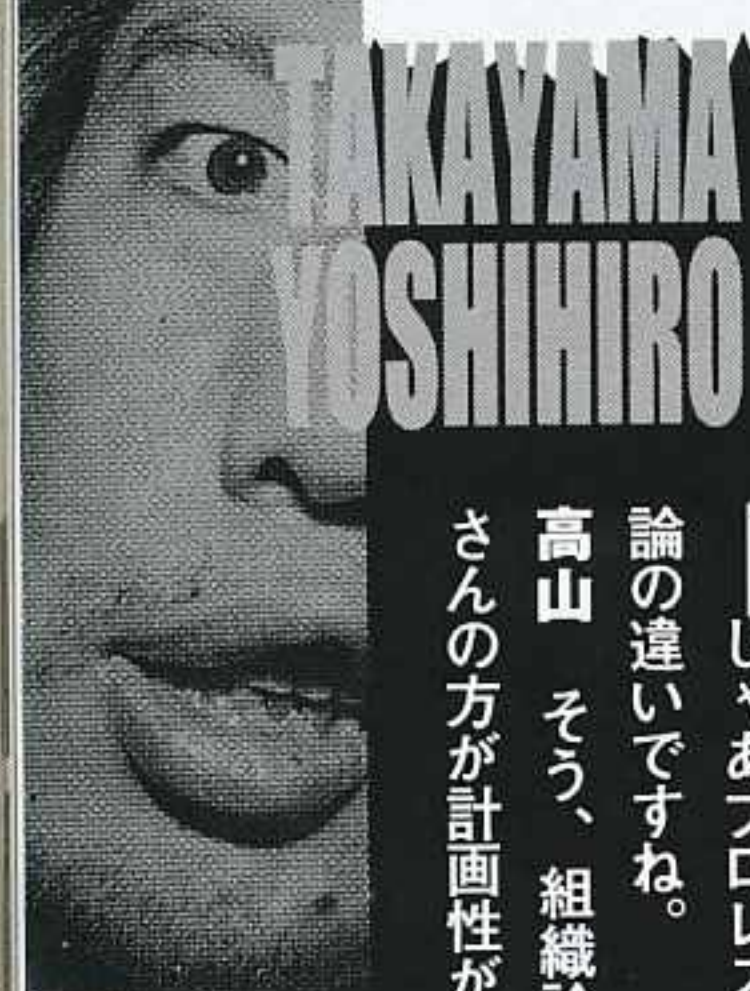
高山 ホントは7月に出るつもりだったから、6月にノアにチョコチョコ出て、直前は全休して練習しようという考えではあったんですよ。だから違う意味でのプロフェッショナル意識（笑）。

——さすが元サラリーマン！（笑）。

高山 決めごとは実行しないと、プロって認められないから。結果がいい悪いは別として、まずは与えられた仕事を、ちゃんとスケジュール通りにこなすっていうのは、最低限のルール。それをやるだけであって。

——そういう意識は、Uインターの頃に植え付けられたもんなんですか？

高山 そういうニュアンスのことは宮戸さんが言ってたと思いますね。ただ、プロレスに対

00・4・15有明コロシアム GHC王座決勝戦での三沢VS高山の激闘は上半期のベストバウトとも言える内容。試合後の高山は「三沢光晴を追わなくちゃいけないし、ベイダーとも決着つけなきゃいけない。ありがたいことにNOAHでの課題はまだまだ、たくさん残っているよ」と鼻息は荒い。

TAKAYAMA YOSHIHIRO

する感覚は宮戸さんに植え付けられたというよりは、宮戸さんが言ってることが、僕がファンの頃から考えてた感覚と似てたんじゃないかなっていう。ちょっと違うと思うこともあったとは思うんだけど、大きく見れば「確かにそうだなぁ」っていう感じで当時は聞いてたと思うんですよ。

——宮戸さんは、ほんとプロレス好きですからね（笑）。

高山　ホント、ファンより好きですよ！　あれは「愛」ですから、武藤さんじゃないけど（笑）。武藤さんは「ラブ」って言ってるけど、宮戸さんは「愛情」ですから。「情も愛」っていうネチっこいヤツ（笑）。武藤さんはカラッとしてるけど（笑）。

——武藤さんはドライですね（笑）。高山さんも宮戸さんに近い部分があるっていうことは、プロレスが異常に好きなんでしょうか。

高山　うん、好きだと思いますね、たぶん。

——たぶん（笑）。宮戸さんと三沢さんっていうのは、プロレスに対する考え方って全然違いますよね？

高山　違うと思いますよ。

——でも二人ともプロレスに対しての愛着はある。

高山　ありますねぇ。三沢さんも、なんだかんだ言ってありますからね。なさそうな雰囲気なんだけど（笑）。三沢さんは、ノアを立ち上げて、テーマは「自由」って言っちゃったじゃないですか。「自分の責任で自由にやってけよ」っていう。宮戸さんは組織を守るタイプ。ある意味、自由をなくす人っていうか。途中まで自由っていうか「いろんなことやれ」って言って、ある一線で「ここまで」ってピタッと止めて、最後に高田延彦を頂上に置くようにしてたんじゃないですかね。

——じゃあプロレス観の違いというより、組織論の違いですね。

高山　そう、組織論の違いですね。で、宮戸さんの方が計画性があったと思う。

——三沢さんの方がないんですか！（笑）。

高山　三沢さんはね、どっちかというと呑気ですね（笑）。

——ガハハハ！　呑気が一番！

高山　本気で考えてることはわかんないけど、傍から見てると、ちょっと呑気に見えますね。

——三沢さんは試合で語るタイプですよね。

高山　それは、凄く大事だと思うんですよ。やっぱり、場外でガナッて客呼んで、試合はつまんないという、どっかのドーム。あれをゴールデンタイムで流されると嫌になっちゃうんですよね。ゴールデンタイムで流れるっていうことは、普通の人が見る。そうすると、「いまのプロレスってこんなもんか」って思われるし。一般論で言うと、あっちがいまのプロレスの代表になっちゃうから、ホンット、「勘弁してくれよ」と思いましたね！

——あれをプロレスだと思われたら困る、と。

高山　でも、三沢さんの、リングの中でキッチリとプロレスリングっていうものを見せるというのは、もちろん大事なことだから共鳴するんだけど、それに目を向けさせるための仕掛けは絶対必要だと思うんですよ。だから、向こうのリング外のゴタゴタみたいのと、ノアの試合内容が一致すれば、凄くいいんじゃないかと思いますけどね（笑）。

——猪木さんの凄いところって、試合以外の仕掛けも当然凄いんですけど、試合内容でそれを上回るようなことを見せてたんですよね、全盛期は。いまは試合以外の仕掛けに、リング内の仕掛けが負けてしまうんですよ。

高山　一番よくないですよね。

——たとえば、小川直也なんかにも、そういうことは感じるんですか？

高山　そうですね。小川選手は凄いなっていうか、迫力があったのは、橋本さんをやっちゃ

三沢組VS小川組は普通に会場で見てたらワクワクしたと思いますね。ただ……

プロレスラーでも格闘家でもいい！本物はいったいどっちなんだ!?

4月25日に新宿・京王プラザホテルにて『PRIDE.14』の会見が行われ、席上でかねてから噂されていた藤田VS高山戦が遂に正式発表となった。決してお互いが視線を合わせようとしない緊張感の中、それぞれが互いの印象を語った。「今日は偉大なるチャンピオンと初めてお会いできるということで、女の子とデートする時もなかなか着ないスーツを着て、かしこまって来ました。ベルトを見せてもらえるのかなと思ったけど、手ぶらで来られたようで、試合当日はガッチリとカッコイイ姿でキラキラ光るものを腰に巻いてボクの前に立って欲しいですね。藤田選手は本当に人間離れした強さっていうか、それはもう尊敬に値しますね。こういう人と闘えるってことはプロレスラー冥利に尽きますね」と、どこまで本気か誉め殺し状態。一方の藤田は『PRIDE』の試合は大分ご無沙汰してたんですけど、まぁ、いつも通りの試合をするだけです。新日本とUが前に対抗戦をしていたとき、ボクがまだアマチュアだったかなぁ……（高山の試合を）見たことあります。とてもダイナミックな選手だと思います」と手の内を見せずじまい。お互いの気持ちはすでに5月27日のリング上に向かってる！　皆さんも行きますか――ッ！

ったとき（99・1・4）ぐらいですね、僕が思ったのは。

――福岡の長州と小川のタッグマッチは見てないんですよね？

高山　はい（笑）。

――4・18の武道館の小川組vs三沢組は試合としてはどう見ました？

高山　たぶん、会場で普通に見てたら、凄いワクワクしたと思いますけどね。ただ……。

――小川がプロレス知らなさすぎ？

高山　知らなくてもいいんですよ。逆に言えば、異種格闘技戦みたくなっちゃった方がもっと面白かったんじゃないかなって。できないくせに、変にプロレスしようとしたっていうのがあるんじゃないですか？

――ああ、なるほど！

高山　あれは小川選手がプロレスをやりたいっていうのが出ちゃってましたからね。『PRIDE』とかではやりたくなくて、プロレスに媚び売ってるようなニュアンスっていうか。橋本さんとやったときみたいな凄さ、迫力っていうのがないですもん。

――受けの凄みというのも出せないですからね、あのスタイルでは。

高山　僕もそれは最初は人のこと言えなかったですから。脳天から落ちてましたからね（笑）。

――ガハハハ。そういえば、こないだの三沢vs高山戦（4・15）では、「プロレスの厳しさを初めて知った」と友人にメールを打ったんですよね？（笑）。

高山　うん、初めて「キツイなぁ」と思いましたよ。確かにいままでもキツイと感じたことはあるけど、試合の翌日に寝込むなんていうのは初めてだから。高熱が出て、下痢が止まんない状態。医者の診断だと背中の真ん中の自律神経がおかしくなったって。カイロ（・プラティック）行ったらだいぶよくなりましたけどね。

――恐ろしいなぁ。三沢さんは、試合のレベルを上げていくことに関しては、やっぱり異常なくらい執着心があるんですか？

高山　それは感じますよ。「絶対ヨソの人より凄い試合をしてやるんだ」っていうなにかはあるような気がする。特に三沢vs小橋戦になると、変にそういうのがあるみたいですよ、あの二人は（笑）。

――意地張り合って（笑）。高山さんの中では純プロレスっていう範囲の中では、自分がどれぐらいのレベルまで行ってると思います？

高山　こないだの三沢さんとの試合でも「これ以上はない」なんて全然思ってないですからね。

――あれがてっぺんだとは思えない？

高山　思えないですねぇ。確かにテレビで見て、久々に自分の試合が面白いと思ったんですよ。でも最高とは言えないですね。なにが最高かっていうのは、凄く難しいですけど。たとえばビル（・ロビンソン）先生が猪木さんとやった試合のような、テクニックの応酬もありながら、スープレックスとかの投げ合い、タフさの競り合い。いろんな要素が、いいとこ取りじゃないけど、全てがいい具合にハマッたのが僕が考える100点なんで。

――高山さんは、試合内容を高めていきたいという意識と同時に、Uインター出身というプライドも持ってるわけですよね。

高山　ああ、その気持ちはいまでもありますよ。だからといって、Uインターの道場以外で育った人が悪いとかじゃないですけどね。僕はホントにあの練習環境で育ってよかったと思いますね。基本的には自由だったから、やりたいことを練習できたし。金原さんが「ムエタイやりたい」ってタイに行っちゃったりとか、俺が「ビル先生んとこ行きたい」って言ってアメリカ行かせてもらったり。

――高山さんもボーウィー（・チョーワイクン）とよく打撃の練習やってたんですよね。

高山　金原さんほどはやってないですけど、やってましたね。

――桜庭さんが「高山さんの膝蹴りは喰らったら死にますよ」って言ってましたね（笑）。

高山　松井（大二郎）が一度死にかけました

サクッと振り返る高山善廣の プロレスラー人生

見てみぃ!!　Uインター時代、デビュー直後の高山と金原の激しいこのシバキ合い!!　掌底だろうが顔面パンチがなかろうが、その凄さが一目でわかる！　写真からでも、その激しさが伝わってくるからホンモノだ!!

画期的だったUインターのダブルバウトでの桜庭とのコンビ!!　今後、サクと高山の絡みは十分考えられる話だ。全ての広がりは『PRIDE』での藤田戦に懸かってるといっても過言ではない。

「U が死んだ日」といわれる新日との東京ドーム（95・10・9）での全面対抗戦。高山はシングルで飯塚に勝利。ぜひビデオなどで確認してもらいたいのだが、試合後の金原や高山、ヤマケンらの吠えっぷりは何回見ても最高だ！

安生、ヤマケンとの伝説のゴールデンカップス。当時は賛否両論だったユニットだが、今になって考えると本当に強い奴がやる分には全然問題ないのである。それにしても凄い写真だ！

衝撃的だった全日・川田のUインター参戦!!　神宮球場で高山が迎え撃った。この一戦がきっかけとなり、高山の全日への参戦、そして現在につながる。高山の最大の転機となる闘いであった

秋山との一連の抗争も高山の外部での動きによって大分変わってくるのは間違いない。高山の『PRIDE』への参戦によって、ノアに、純プロレスに巻き起こすモノは一体なんなのか？　答えはもうすぐわかる!!

TAKAYAMA YOSHIHIRO

僕はホントにUインターの練習環境で育ってよかったです

からね（笑）。

――ありましたねぇ。確かに練習環境としたら、当時のUインターはプロレス団体としては理想ですよね。

高山　そう思います！

――ライガー選手が大一番のとき、戦闘用ライガーとして別のマスク被ってきますよね。Uインターもイザというときには〝戦闘用〟にいつでも変われるよっていう意識で練習してたんですか？

高山　イザとなったらっていうより、常に戦闘を見せなくちゃいけないと思ってましたよ。本来、プロレスはショービジネスとして、レスリングを見せるものなんだけど、そういうのが観客論に悪い意味で振り回されたり、テレビの視聴者を惹きつけるために、闘いの本質からズレたものばっかりが目に映ってくるっていう状況に、昭和の末期からなってきたじゃないですか。そうじゃなくて、闘いを見せるっていうことは、〝闘いを練習しなくちゃいけないんだ〟っていう、そういう当たり前の道場だったんじゃないですかね。

――でも普段から一緒に練習してる仲間とは、試合では闘いなんだけども、本格的な戦闘モードに入りにくくなるっていうのもプロレス界の一つの問題点ではありますよね。

高山　そうですよね。だから、あのまま続いてたら、またちょっと困ったことになってたかもしれない（笑）。

――だから、『PRIDE』のような場ができるのも、必然かもしれないですね。

高山　今回、『PRIDE』でやる藤田選手なんか、全然面識ないからいいですけどね（ニヤリ）。

――その藤田戦では〝飛び級〟をする意識はないらしいですね。

高山　だから、そういう感覚じゃないんですよ。やっぱり、藤田選手は新日本の前座から『PRIDE』に出てボーンと名前が上がったから飛び級だったけど、僕はノアでメインイベントとかビッグマッチでやってるし、ヘタしたら降格ですからね。見てる人の感覚からすれば。

――ノアファンの中には、「あんなとこに出なくてもいいのに」って思ってる人もいるでしょうね（笑）。

高山　だから、これはあっちこっちで言いましたけど、ホント、プロレスと格闘技のボーダーラインを跨ぐだけなんですよ。

――「高田さんがヒクソンと最初にやる当時、『PRIDE』という名前よりも高田延彦という名前の方が全然上だった。高田さんは名前を上げようとしてやったわけじゃない」と高山さんは言ってましたね。

高山　それと一緒なんですよ。ところが世の中の人は、そうは思わないみたいで。特に今度の相手のチャンピオンが（笑）。なんか違うんだよなぁ。

――高田さんは、高山さんのことは「純プロレスラー」と表現してましたね。

高山　純キングギドラじゃなくて？（笑）。

――ガハハハ。同じ怪物でも（笑）、藤田選手と高山さんの違いは、単純にプロレスに入る前に格闘技経験があるかないかですよね。高田さんもプロレスに入る前は野球小僧だから、そういう意味も含んで「純プロレスラー」と言ったんでしょうね。

高山　そういう意味でね。

――Uインターの選手は、新日本がなくした戦闘用プロレスを育ててきたんだよなぁ。

高山　わかった！　プロレス界がダメなのは、山口さんが言う「戦闘用プロレス」って言葉を出させちゃうってことがダメですよね。

――だって、やってもいないのに、カッコだけ〝戦闘用〟って言ってマスク付けてきてる感じなんですよ、ここ数年のプロレス界は（笑）。

高山　それですよね！　いまのプロレスにダメなところがあるとすれば。

――リングの上ではどんなプロレスをやってもいいと思うんだけど、いま高山さんが言ったように「プロレスは戦闘だ」という意識を持ったり、外敵が来たときの戦闘力を高める練習はしてなきゃダメですよね。長州力は、「俺たちはベースが違う」っていう言い方しますけど……。

高山　ベースも錆びるよなぁ、絶対。

――だから、武器を錆びつかせないように磨いてた団体がUインターだと思うんですよね。そのUインターを潰した新日本の罪はデカイですよ！

高山　デカイです！　せいぜい下請けとしてねぇ、続けさせろよ！（笑）。困ったときはUインターを出すとかね。

――ガハハハ！　それも寂しい話ですけどね。

高山　下請けが本社を乗っ取るかもしれないじゃないですか（笑）。

――そうか（笑）。昔の新日本には道場論は確かにあったと思うんですよね、猪木さん全盛期

の頃には。

高山　いまはないんですかね？

――マスコミを通じて出てくる言葉は「道場にプライドを持ってる」なんですけどね。

高山　イメージ戦略なんですかね（笑）。

――ダハハハ。高山さんには、格闘技経験をベースにプロレスに入ってきた人に対する、いい意味でのコンプレックスや意地があるんじゃないかなと思うんですよ。

高山　やっぱり、アマレスとかガンガンやって、オリンピック行った行かないとかいう人は、観客論うんぬんじゃない勝負をやってきてるわけですよ。プロレスから始めた人っていうのは、どうしてもお客があっての試合をしますよね。自分のためだけの試合っていう経験がないと思うんですよ。そこをやってみなくちゃいけないんじゃないかな。

――だから、純プロレスラーが挑むという意味では、高田さん以来ですよね。でも、高山さんは『PRIDE』みたいな試合に専念するって気持ちはサラサラないわけですよね。

高山　専念はないですね。やっぱり、プロレスが好きでこの世界入ったから、プロレスラーの活動の一つとして『PRIDE』があるだけで。

――たとえば、藤田選手とプロレスルールでノアのリングでやってみたいという気持ちは？

高山　全〜然ないですね。

――プロレスラーとして魅力を感じない？

高山　彼のプロレスの試合って全然見てないんですよ。だから、プロレスラーとしてどうなのかってのが、よくわかんないし。強いのは、絶対強いと思ってますよ。ただ、プロレスリングという競技で彼はどうなんだろうっていうのは、わかんないんで。

――ボクも正直言って、藤田選手が『PRIDE』に最初に出てきたときは、プロレスラーが出てきたって感じは、あんまりなかったもんなぁ。新日本ファンは「新日本から藤田が出て行く」っていう気持ちでいたでしょうけどね。

高山　そういう感じではなかったですね。でも、猪木さんの曲がスローバージョンで流れたから、一気にウワーッとなりましたよね。もしあれがなくて藤田選手が出てきたら、全然盛り上がんなかったんじゃないですか？　あの曲と赤いタオルでドームのお客さんの心を掴みましたよね。

――たぶん藤田選手の中では、プロレスと格闘技は全然別ものなんでしょうね。高山さんはプロレスと格闘技は一緒なんですか？

高山　一緒というか、近くて遠いというか。

――遠くて近いというか（笑）。でも藤田選手には悪いけど、高山さん側から見たほうが今回は面白いんですよ。高山さんが勝ったら、いい意味でもっと混沌としてくると思うし。

高山　僕が勝ったら、IWGPどうするんですかね？　タイトルマッチじゃないから僕がもらうわけじゃないけど……ねぇ？

――「こうなるんだろうな」というより「どうなるんだろう？」っていうのがないと面白くないですからね。ところで藤田選手の一番怖いとこって、どんな部分ですか？　神経もズ太そうだし、ふてぶてしいし。

高山　ふてぶてしいですか？　演じてるような気がするんですよね。そこが彼の新日本プロレスで学んだところなんですよ。

――ガハハハ！　凄いこといいますね。

高山　けっこう繊細なんじゃないかと思う。記者会見のときも思ったんですよ。全然僕の方を見ないし。マイク持ったら「心を折ってやる！」とか叫んでるけど、ここでやりとりしたら面白いってとこで、台本がないと喋れないような気がする。自分の役を考えて、どうしていいのかわかんないから黙っちゃったりとか、「ここは言っていいんだよ、藤田君」とか言われたら「高山ァーッ！」とか叫んじゃったりとか（笑）、ああいうところが最近の新日本の先輩たちにソックリなんじゃないかなぁって。

――ふてぶてしさでは、高山さんは全然負けてないもんなぁ（笑）。

高山　それは、ノアのチャンピオンにも評価されましたから（笑）。

――違う競技に上がるという意識はあるんですよね。

高山　それがないとダメですよね。プロレスは「ヤベェ！」って思ったら、ロープを必死になって握れば立たせてくれますからね。

――場外にも逃げてもいいし。

高山　それこそ目をパッと突いてもいいし（笑）。

――反則は5カウント以内ですからね（笑）。

高山　そういうのがないから、全然別ものと考えないと。プロレスは1回へコんでもやり続けなくちゃいけないから。試合の中でリセットしていくのは大変なことなんですよ。

――ああ、なるほど。

高山　だから、「1試合」と言われてる中で、10試合分ぐらいの攻防はあると思いますよ。

――プロレスは試合もそうだけど、存在自体が他の競技と違って、何回もやり直さなきゃいけないからシンドイですよね。

高山　それができるのも実力ですよね。他の競技は1回モチベーションが落ちると、即引退という道があるけど、プロレスラーは、モチベーションが何回落ちても、何回も上げなきゃいけないシンドさがありますよね。何回でも這い上がるというか。猪木さんなんか、その歴史ですからね。私生活でも（笑）。

高山　ふつうの人だったら、何回自殺してもいいような人生送ってますよね（笑）。

――でも、ダメな選手が「別に負けたっていいんだ」って言うと腹立つんですよ。「お前が言うな！」って（笑）。

高山　グワハハハ。その人が負けたことによ

★国産外国人凱旋トークライブ!?★
5月5日（土）神奈川・石名坂温水プール

〈国産外国人……ってオレ歓迎されてる？　5月27日『PRIDE.14』で藤田戦が決まった高山が地元のみんなの元気玉をわけてもらいに帰ってきたぜ〜！〉
『PRIDE』に向けて、練習は詰めの段階に入っているという高山だが「自分はあくまでプロレスラーなんで『PRIDE』に出たからどうこうじゃなく、ボクのやることはプロレスとイコールだと思っています」との発言。気になるルール面でも「有利不利はないけれど、それが勝ちにつながるかは別にしてやりやすいと思う」とリラックスモード。藤田の印象は「記者会見の時も顔を覗き込んだりしたんですけど、こっち向いてくれないんで相当嫌われてんだなって（笑）」と場内を沸かせた。「まぁ、これからもいろいろやりますんでよろしく」。最後はみんなで一緒に「ノ〜フィア〜！」

って、ファンに凄いショックを与えられる人が言うんだったらいいけど、どうでもいい人に限ってそういうこと言うんですよね。

――勝ち負けを超越するって、選手にとって"残酷"な局面をいかに克服していくかっていうことだと思うんですよね。だから、橋本さんは、小川直也にブチのめされても上がってきたから凄いですよ（笑）。

高山　終わりだと思いましたからね、あれで。でも、1回あそこまで落ちたから、いまあれだけメチャクチャなこと言えるんでしょうね。

――ガハハハハ。ホントですよね（笑）。最近の高山さんの発言で感心したのは「新弟子みたいなこと言うけど、やっぱ練習しかないです」っていう言葉ですね。

高山　最近また、そう思ったんですよね。

――しばらくそういう気持ちを忘れてたときもあったんですか？

高山　ちょっとボケッとしすぎた時期もありますよね（笑）。

――ノーフィアーが受けだした頃とか？

高山　その前。ちょっとタルんでて。ほら、ボクらUインター潰れて、キングダム潰れて、生活に追われてたでしょう（笑）。それで全日本に入って「とりあえず、ここにいれば食いっぱぐれねぇな」という、変なホワーンとした気持ちが、正直言ってありましたからね。そこに自分で気づいて「あ、ヤバイ」と思って。忘れちゃいますからね、自分がなんだったか。

――忘れますか（笑）。いま、ノアにはタルみはないんですか？

高山　もし、タルみだすとしたら、そろそろじゃないですか？　もうすぐ旗揚げして1年じゃないですか。大きい会場も埋まったし、テレビも付いた。だから、タルみだすとしたら、これから先でしょうね。

――その団体にとって昇り調子のときがタルみやすい時期なんですかね？

高山　だと思いますよ。Uインターも凄いときになにかがタルんだんでしょうね。そんな気がします。でもUインターで育って、うまい具合に会社が潰れてくれたこと。これが僕にとってよかったんでしょうね（笑）。

――ということは、1回ドン底に落ちないとダメだってことですか？

高山　頭のいい人は、そういうことを経験しなくても、予想とか想像して、「こうなっちゃうから、頑張んなくちゃ」とか思えるんだろうけど。大体の人は、経験しないとホントのところはわかんないですよね。でも、潰れたお陰でサクがああなったし、僕もこうだし、金原さんもリングスで活躍してるし。

――Uインター勢にとっては逆によかったのかもしれないですね（笑）。

高山　あの道場が残ってたら、いくら練習してても僕らは平和ボケだったかもしれないしね。高田さんも「ヒクソンとやる」なんて言い出さなかったかもしれないし。

――プロレスは、いまは「勝ち」も「負け」も価値観が小さくなってますよね。もっと残酷な局面があっていいと思いますよ。

高山　それがあるからプロスポーツは面白いんだと思いますけどね。

――『PRIDE』は勝ったらデカイし、負けたら落ちる。残酷だけど、刺激的ですよね。昔のプロレスにも、試合スタイルうんぬんじゃなく、「勝ち」にも「負け」にも大きな価値があってダイナミックだったんですよ。

藤田選手はふてぶてしいですか？　なんか演じてるような気がしますね

高山　そうそう、ダイナミズムがありましたね。組織の方針として、みんなを均等にしちゃったらダイナミズムがなくなって、面白くないんですよ。昔は、ポンッと頂点の人がいて、なんかの拍子で突き上げる人が一人出てきたと思ったら、それがまた沈んで、またどっかから出てきてっていう、針の振れ具合が刺激になってたんですよね。波でいえば高低差が激しい。それがずっとこうだったら（細かい波を手で描く）、見てる人は寝ちゃいますよ。

――ガハハ！　死んだ人の心電図じゃないんだから（笑）。猪木さんが現役の頃は、もしかしたら猪木さんも喰われる可能性は十分ありましたからね。長州力や前田日明やUWFが台頭してきたり。

高山　あれは面白かったですよね。

――そういう刺激を自分たちで作り出していく、自分の中で発火装置に火を付けていく作業っていうのは大変なことなんだろうけど、やらなきゃダメなことなんですよね、きっと。

高山　僕もそう思ってノーフィアーだったんですけどね、実は。いま思い出しましたけど（笑）。

――ガハハ！　なぜいま思い出す（笑）。プロレスという"場"も、試合スタイルは『PRIDE』なんかとは違っても、本来は残酷なもので弱肉強食の世界なんですよね。それが団体が老朽化していくと、そうじゃなくなってくる。

高山　だから、プロレスを就職と考えちゃダメですね。鶴田さんの名言で「プロレスに就職します」っていうのがあったけど、その当時は凄いブーイングだった。でも、いつのまにか、「そういう考えもいいんじゃない？」みたいな風潮になったじゃないですか。でも、やっぱりよくないと思うんですよ。鶴田さんぐらい、とんでもない才能の持ち主だったらまだいいけど、みんながそう思ったらダメですよね。俺も

TAKAYAMA
YOSHIHIRO

自分でステージ選んで
刺激を作らなきゃダメ
それには実力がないと

今回、デビューしてそろそろ10年だけど、できるのはあと僅かだと思って、『PRIDE』を始めとして、できることは全部やろうと思ってますから。ダメならダメでいいんですよ！　プロレスもダメもとで入ったんで。そういう気持ちがみんなくなるから、「これぐらいでいいんじゃねぇの？」ってなっちゃうんですよ。

——高山さんには、残酷な局面が訪れても、それを直視して乗り越えていこうとする覚悟は見えますよ！　そういえば、ある選手が「プロレスは分裂して当たり前なんだよ！」って言ってましたね（笑）。

高山　グワハハハ。僕にしても、3年周期ぐらいで上がるリングが代わってるからいいんですよ。だからプロレス人生が面白いんですよ。3年周期ぐらいで、ちょうどうまい具合にチェンジしてるから。だから、分裂うんぬんじゃなくて、自分でステージを選んで、行ったり来たりして、刺激を作らなきゃダメなんですよ。それをやるためには、実力がないとダメじゃないですか。要はそこですよね。プロレスラーとしての、ちゃんとしたものをデビューする前に作ってやっていかないと。

——桜庭さんは、前に「関節技はアマレスにないし、道場で習ったことはプロレスですから」って言ってましたね。どこまで本気で言ってるのかわかんないですけど（笑）。

高山　でも、嘘ではないと思うんですよね。彼もあの闘い方は、アマレスのタックルは別として、関節でも、フェイントのキックとパンチでも（笑）、Uインターの道場で身につけたものだから。

——三沢さんなんか、そのへんはどう考えてるのかなぁ？　興味あるなぁ。

高山　どうかなぁ？　あの人の場合は、強い弱いよりも試合のクオリティーを重視してるみたいなんで。昔の全日本の感覚ってそうじゃないですか。プロレスに入る前から強そうな人を引っ張ってきてプロレスラーにするっていう。最近のノアもモロそうですよね。スギ（杉浦貴）とか、リキ（力皇猛）とか。あれはあれで、正しいと思うんですけどね。

——そもそも日本のプロレスの成り立ちがそうですからね。大相撲や柔道出身者がプロレスを始めたわけですから。

高山　ただ、ホントに僕みたいな格闘技やってない叩き上げも強くしていかなくちゃいけないから、そういうのは絶対大事ですよね。

——三沢さんは、それをやろうと思ったらやれる人ですよね。

高山　三沢さんは気が強いから。なんかのきっかけで、そういうのもあるんじゃないですかね。

——昔は「新日本の選手は練習するけど、全日本の選手は練習しない」とか言われてましたからね（笑）。そういうものへの反骨心も凄くあるんでしょうね。

高山　あるんじゃないですか？　俺が全日本に参加し始めた頃、道場行ったら驚くほど練習してましたよ。小橋さんなんか、若手と同じメニューやってましたよ。「ゲェッ！」とか思って。それを見ちゃうと俺もやらないわけにはいかないですからね（笑）。

——凄いな、小橋選手も。最後に高山さん、藤田戦で、ぜひ凄ェもんを見せてください。

高山　あ！　思い出した。昨日、テレビのインタビューに出たんですけど、そこのキャスターみたいな女の子は「高山選手の入場シーンに凄く注目してるんです。桜庭選手みたいにいろんなこと考えてるんでしょ？」って言われて、なんにも考えてなかったぁと思って（笑）。

——で、入場シーンはどうするんですか？

高山　普通に（笑）。

——セコンドは誰が付くんですか？

高山　当日までのお楽しみです（笑）。

【5月10日／東京狛江の某所にて収録】

『PRIDE』での高山vs藤田戦は、プロレスラー同士がボーダーラインを踏み越える、歴史的な一戦といえる。藤田は「格闘家としてプロレスラーの高山を潰す」と後に発言したが、それも藤田の「プロレス観」だとすれば、やっぱり藤田もプロレスラーなのである。

高山へのインタビューを行ったことにより、深い意味で勝ち負けを超越した、スーパーヘビー級の「新プロレス」がこの試合によって提示されるかもしれないという期待感は増した。

ところが！　このインタビュー後、高山はノアのシリーズ開幕2連戦に出場した後の5月14日、腰の古傷に膿が溜まっていることが発覚し、緊急入院!!

大事をとっての入院らしく、大したことはなさそうだが『PRIDE・14』の2日前まで続くノアのシリーズは全休となる。『PRIDE・14』への出場だけは発表されている状況だ。

下馬評では藤田有利という声が圧倒的だが、これによってますます藤田有利という声が動かなくなった感は強い。いったい高山はこういう声に対し、どういうノーフィアーぶりを見せてくれるのだろうか。

風雲急を告げる高山vs藤田戦！　決戦5秒前だ！

文／チョロ
撮影／森鷹博
designed by matsu（Two three）

ほぼ月刊誌なりの
藤田vs高山戦、ド直前情報!

IWGPヘビー級チャンピオン
猪木イズム最後の後継者

藤田和之
（猪木事務所）

PRIDE戦績
○ハンス・ナイマン（1R2分48秒　袈裟固め）
○マーク・ケアー（1R判定3－0）
●マーク・コールマン（1R0分2秒　TKO）
○ケン・シャムロック（1R6分42秒　TKO）
○ギルバート・アイブル（2R判定6－0）

「えげつないものを見せる」と余裕のノーフィアーポーズで制裁予告!

VS

なんだかんだ言ってもNOAHはもちろんプロレスも背負っているぞ、この男!

『PRIDE．14』（5月27日、横浜アリーナ）で行われる藤田和之vs高山善廣の注目のスーパーヘビー級決戦まで残すところ2週間をきった5月14日、猪木事務所において藤田が高山戦への意気込みを語った。「高山戦にむけての特別な特訓は？」の質問に「何の特訓をしたらいいのか今迷っている」と決戦2週間前の発言とは思えないリラックスぶりはまさにリアルーIWGPチャンピオンたるもの。「まぁむこうはいろいろ練習してるんでしょうけど」とさらりと挑発することも忘れない。

そんな挑発を高山がどう切り返すのか注目されたが同日、ほぼ同時刻のリリースで高山の緊急入院（18年前に痛め手術した腰に膿がたまり

スーパーヘビーの決戦前に高山緊急入院。どうする、どうなる怪物大戦!?

微熱がつづく）と同時にNOAHの残りシリーズ欠場も明らかになったのだ。

高山は「今のプロレスファンはチケットで『安心』を買っている、オレは『事件』や『ハプニング』を売りたい」、「金を払って見せるものはすべてファンをダマしてます」と語っていたことからも緊急入院が高山一流の陽動作戦ということも十分に考えられるわけだ。病床からの高山のコメントは「少し体をほぐすいい休暇でもある」。これに噛みつくか噛みつかないかは藤田のセンス次第。お見舞いがてら葬儀用の花を投げつけろ!!　藤田――ッ！（アントン調）。締め切りの時点では花が投げられたかどうか定かではないが、いずれにしても決戦まですぐそこだ！

初代GHCトーナメント準優勝者
殺人ライフセーバー

高山善廣
（フリー）

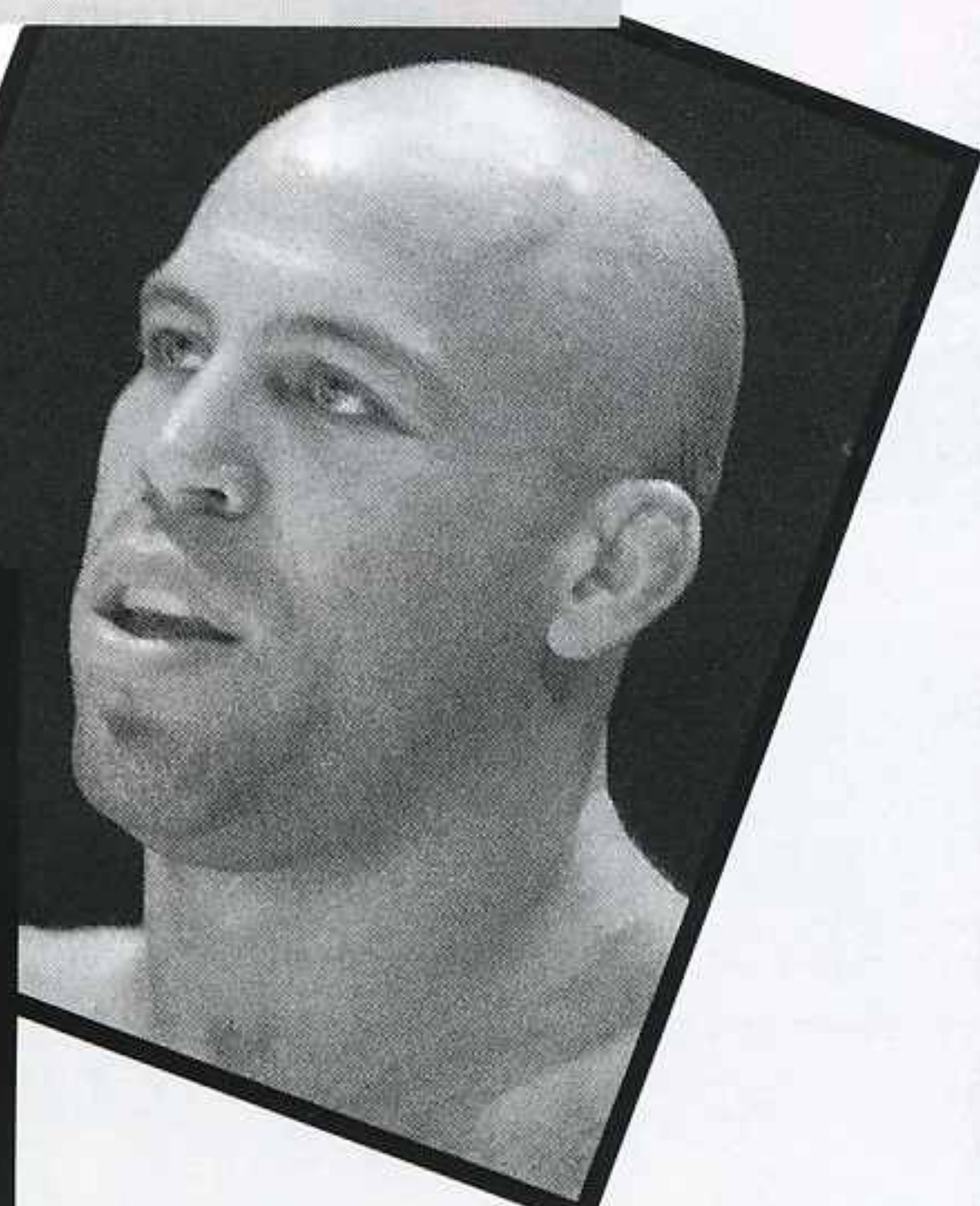
GHCトーナメント戦績
○泉田純（8分22秒　体固め）
○志賀賢太郎（7分16秒　原爆固め）
○ベイダー（9分24秒　反則勝ち）
●三沢光晴（21分12秒　体固め）

『PRIDE』に を構築せよ!!

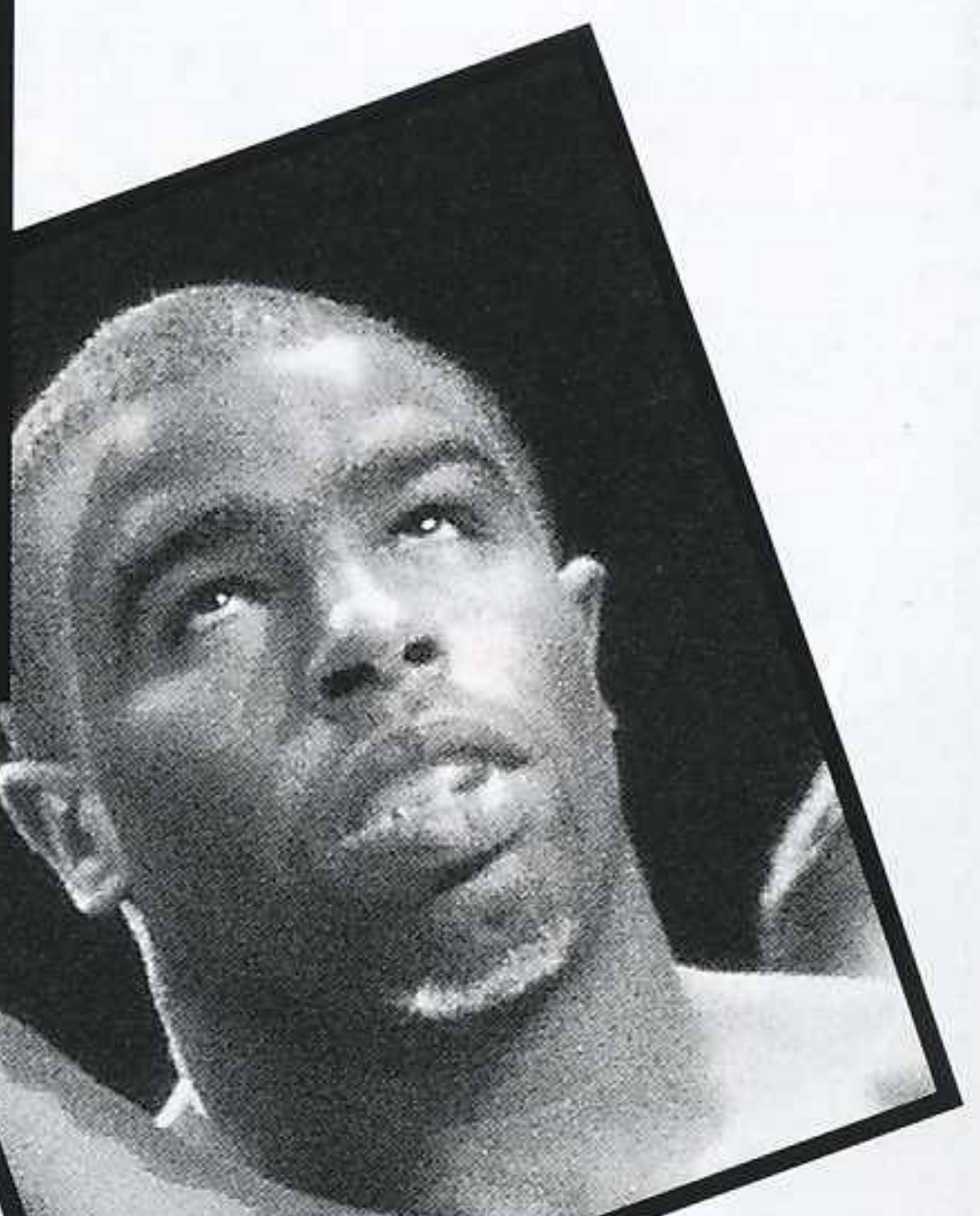
頼むからマグマを感じさせてくれ!!

大山峻護 VS ヴァンダレイ・シウバ

いきなりシウバ戦!!
大山峻護の危険な
『PRIDE』
デビュー戦!

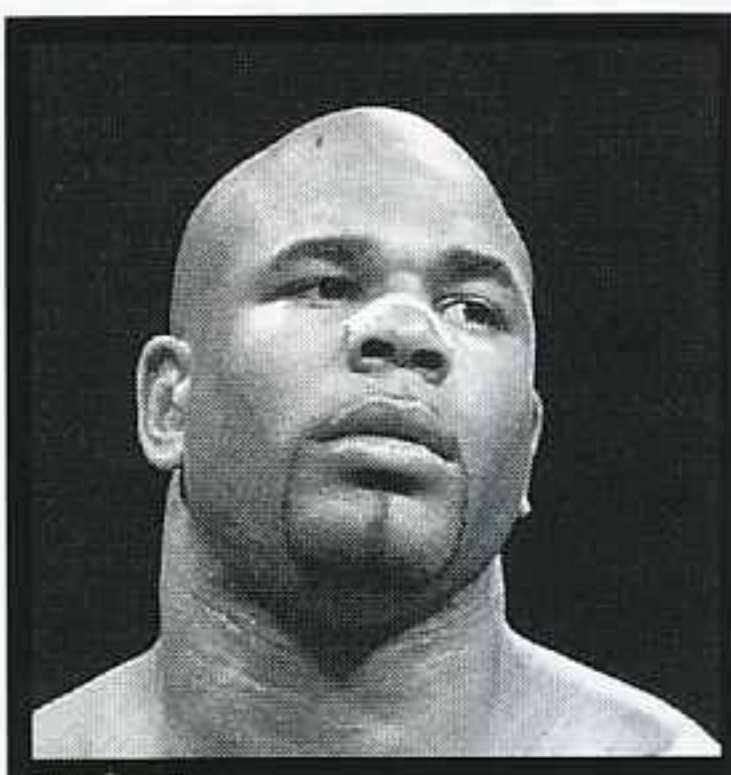
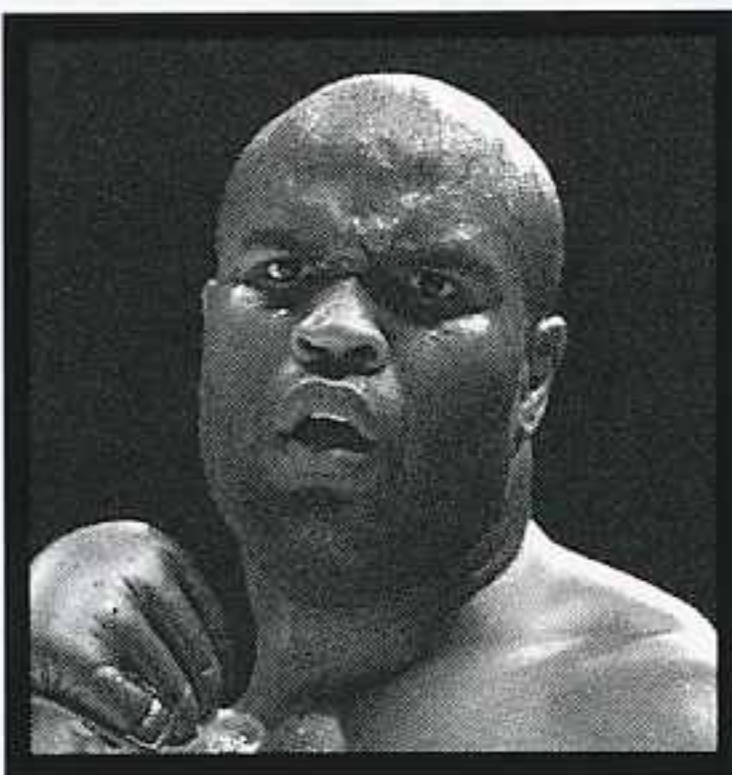
カオスのミドル級戦線に松井と大山がいきなり王手!!

いま対戦希望が殺到のシウバ戦のチケットを手に入れた大山だが、先日のキングオブゲージで敗北を喫しているだけに相手が相手とはいえ2連敗は避けたいところ。はたして新しいドラマは生まれるのか!? 『PRIDE』新世界を構築する大山峻護を凝視せよ!!

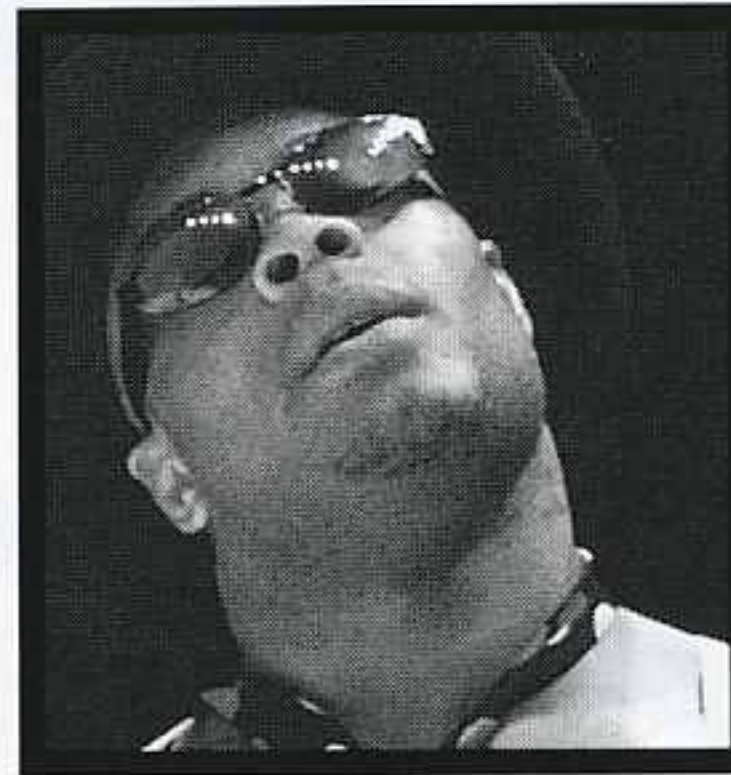
桜庭を倒したことで、一気に『PRIDE』の磁場を狂わせたシウバ。今回の相手が経験の浅い大山だけにいつも以上にシウバの凶暴ファイトが炸裂しそうだ!! シウバが放つ思わず目を背けてしまう『PRIDE.13』を越える衝撃を喰らいやがれ!!

松井爆発5秒前!
純白の
『PRIDE』のリングを
熱い血で染めろ!!

松井大二郎 VS ジョセ・"ペレ"・ランジ

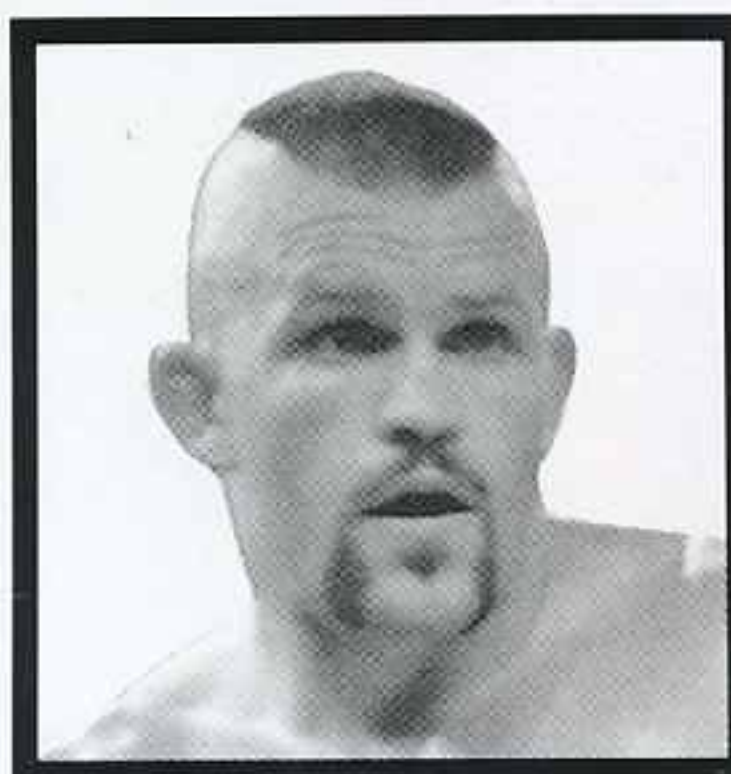
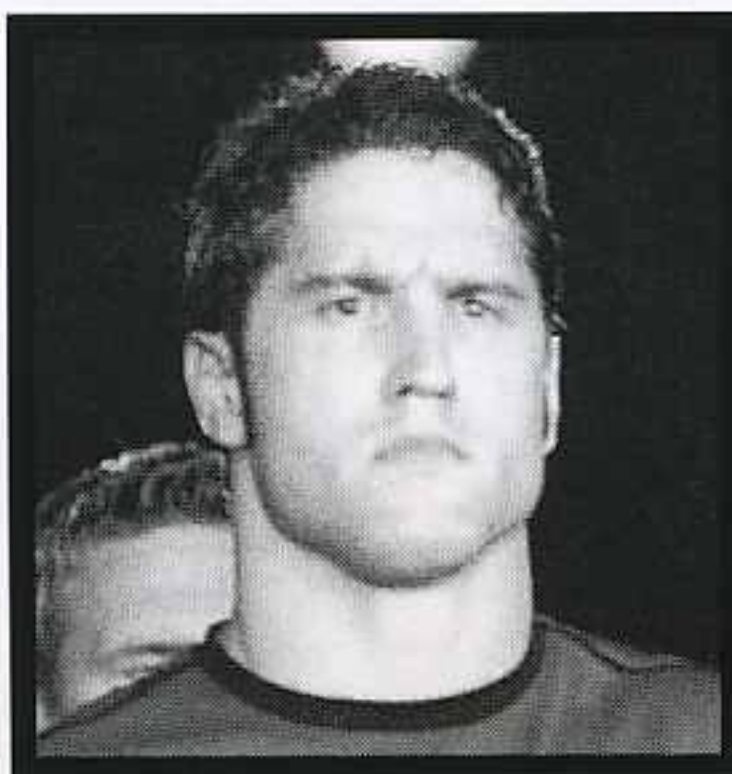
希望していたシウバ戦は実現しなかったものの、相手はあのビックネームのペレ!! しかもこのペレをぶっ飛ばせば、同じジムで友人でもあるシウバが黙ってるとは思えない。松井の王手飛車取りだ!! このペレ戦は松井が上のステージに上がるためのビックチャンス! 獲ったれ!!

噂のペレが遂に『PRIDE』に満を持しての登場!! ブラガ、シウバらと同じ危険な香りを漂わせ、実績、評価は2人より高い危険なペレ。まだKO、一本負けのない松井から簡単に取ってしまってもおかしくない。掣圏道にコッソリ参戦したことがあるが、まだ見ぬ強豪といえる選手だ。

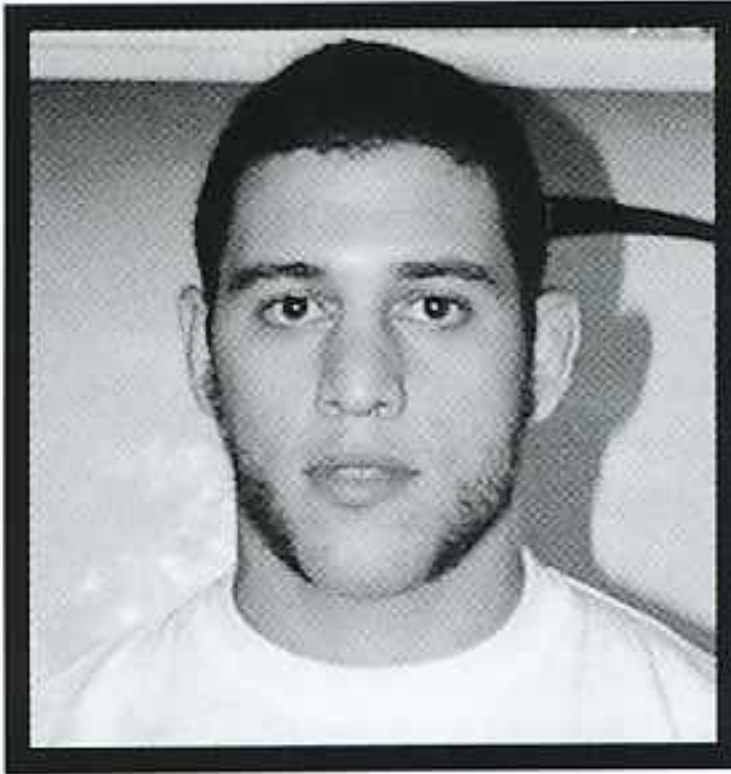
『PRIDE.14』開戦5秒前 桜庭のいない『新しい世界

黒い殴り合い!!

ヴァレンタイン・オーフレイム VS ゲーリー・グッドリッジ

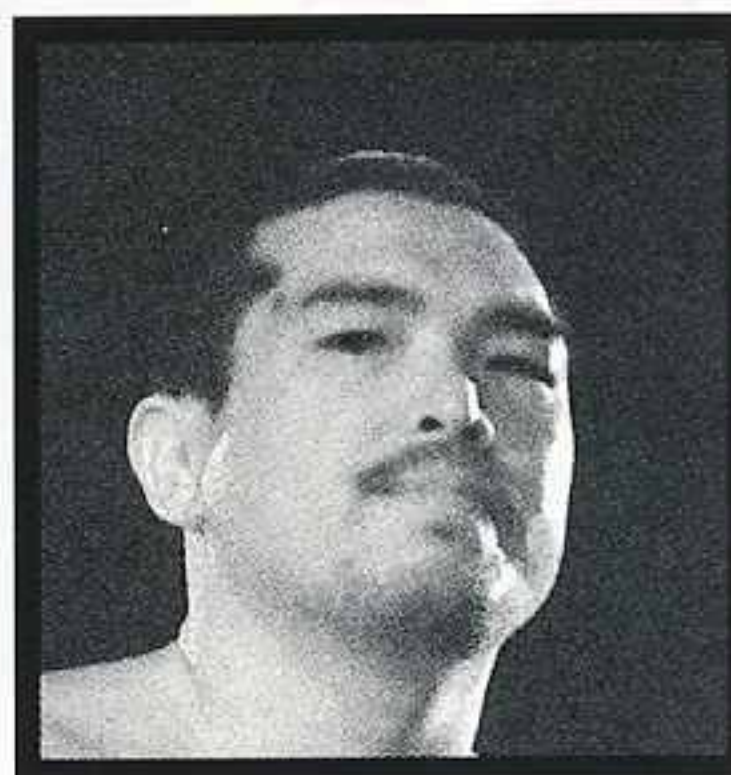
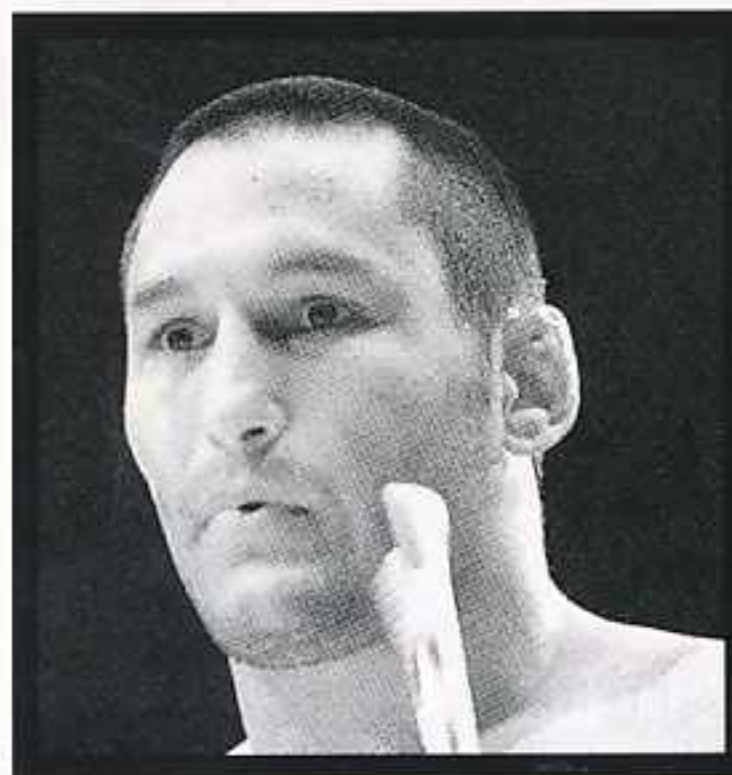
オーフレイムよ、お前もか！？　今年のKOKトーナメント準優勝者オーフレイムが『PRIDE』に登場!!　同じくKOKより登場しているアイブルやヘンダーソンは初戦はいずれもつまづいているだけに同じ轍を踏まないで欲しいところだ。相手は勿論、門番・グッドリッジ様だ！

格闘技世界大戦をもう一度

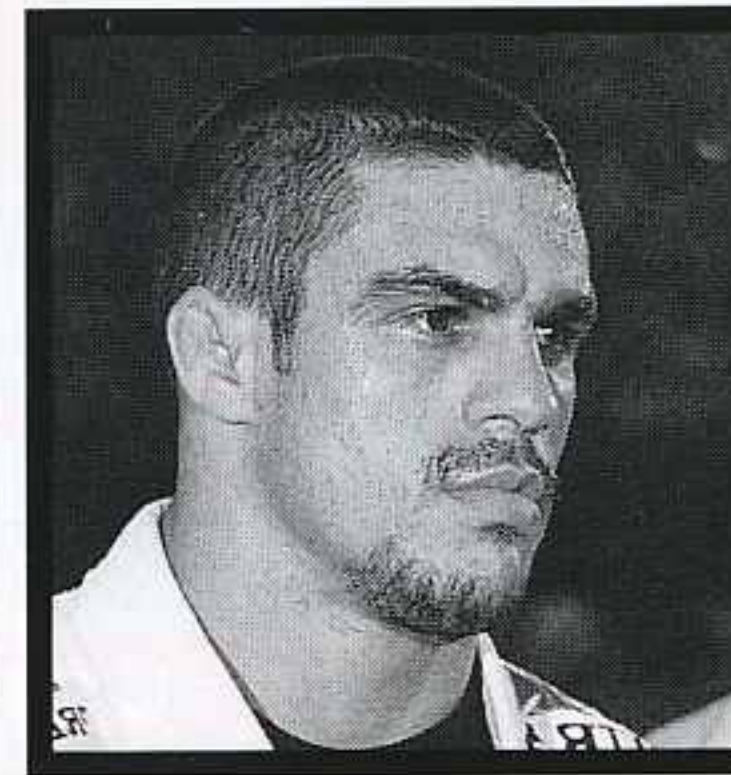
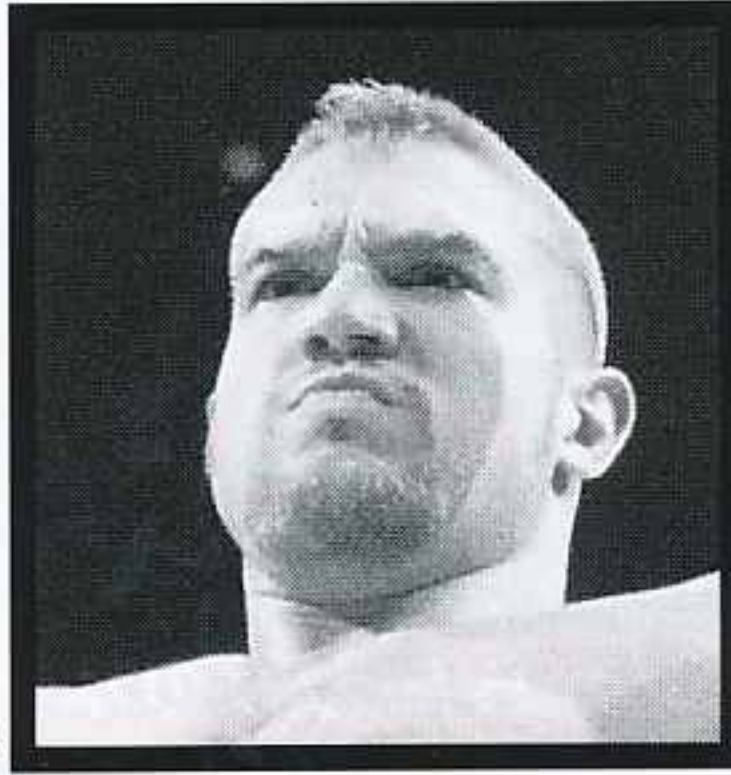
ギルバート・アイブル VS イゴール・ボブチャンチン

桜庭ワールドと猪木ワールドに凌駕されイマイチ先が見えない『PRIDE』ヘビー級戦線。かつて格闘技世界大戦の始まりかと震えさせた雰囲気をもう一度味わいたい!!　この「北の最終兵器」と「ハリケーン」のストライカー頂上対決が新たな戦いの始まりになってくれ!!

「PRIDE」vs「UFC」

チャック・リデル VS ガイ・メッツァー

新体制になった『UFC』より第１の刺客！　先日密林王ランデルマンをぶっ飛ばしたチャック・リデルがオクタゴンより『PRIDE』初襲来！　豪快なファイトスタイルなリデルだけにメッツアーとはアグレッシブな戦いになることは必至!!　『PRIDE』と『UFC』の対抗戦の火種となるか！

格闘技界のホンキー・トンクマン登場!!

ジョイユ・デ・オリベイラ VS ニーノ・"エルビス"・シェンブリ

記者にエルビス・プレスリーの偉大さを説教をする『格闘技界のホンキー・トンクマン』ニーノがやって来る。決してキャラだけではなく、常に一本を極めいく実力は「次のヒクソン」と呼ばれ、多くの尊敬を集めているだけに注目の選手。そしてどのエルビスをセレクトするのか入場テーマも要注目!？

緊急決定!!

小路晃 VS ダン・ヘンダーソン

『PRIDE』に小路が帰ってきた!!　一時は行方不明で、格闘技をやめるとまでいわれていた小路だったが無事復帰！　戦いたくても戦えなっかたリングへの熱い思いを、ヘンダーソンに、マイクにぶつけてくれ!!　ガンガン行ってくれ、ガンガン!!

世界規模のヤング・ライオン杯

ビクトー・ベウフォート VS ヒース・ヒーリング

テキサスの荒馬・ヒーリングと超新星と呼ばれたビクトーの若き獅子たちの潰し合い!!　ビクトーの方はかつての輝きが色あせて久しいが、実力は高く評価されるだけに勝利を越えるインパクトが欲しいところだ。メッツアーの次はビクトー、お前が変わるんだよ!!

【チケット情報】RRS席：23000円　S席スタンド：13000円　スタンドA席：7000円　【お問い合わせ】DSE・03-5775-5700　【日時】5月27日（16：00）　【場所】横浜アリーナ

読んでますよ〜ッ!!

『さくぼん』を読んだ人たちからこんな声が届いてま〜す。

★**読みました！貼りました！組み立てました！**
【保坂圭衣子・女・会社員・25歳】

★まさか自分がこんなに熱中して格闘の本を読むとは信じられない。とても楽しく、当然保存版!!
【岩崎美和子・女・主婦・28歳】

★すごいっ！インタビュアーの予見能力がっ。それがあるから桜庭も他誌の受け答えと違う。あきらかにやる気（？）を感じるもん。ブレイクする前から光をあててきた紙プロにリスペクトを感じました。サクもきっとそう思ってるはずです。紙プロだからつくれた〝さくぼん〟だと思います！
【住吉功・男・会社員・39歳】

★こういう本を出してくれた編集部・出版社の皆様に大感謝！です。俺の宝ものです。大切にします！
【近野哲也・男・フリーター！・30歳】

★地球規模の特製付録がよかった。あとプレゼントもよかった。
【多田益巳・男・フリーター！・18歳】

★紙プロはよく買いますが、まとめて全部見たらすごく良かったです。山口さんとのやりとりもおもしろいし、つっこみがいい所ついてると思いマース！
【天王野紀子・女・主婦・31歳】

★**とても楽しくサクラバしました。**
【長谷川直輝・男・会社員・34歳】

★40歳代には非常になつかしい本の装丁ですね。表紙の絵も、又フロク付きというところも。きっと意識して企画されたんでしょう。一般人にもアピールしますよ。又、私のところのような田舎の書店にもあります。桜庭人気は本物の様ですね。プロレスに興味のない私の近くの人も知ってますから。
【森元博・男・会社員・43歳】

★もう表紙が大笑いで（書店で目立ってた）。家の中で見るたび笑えて幸せです。高田道場近くの●●信用金庫お取引きよろしくお願いします（笑）。職員代表ーッ。
【飯田陽子・女・会社員・31歳】

★**おもしろいけど、シウバ選手に負けた事が悔しい。必ずリベンジしてほしい。**
【三家昭浩・男・会社員・31歳】

★本の作りがかわってて、豪華付録はもったいなくて使えない。だから永久保存版なんだ。
【田口由起子・女・主婦・25歳】

★**桜庭のことがなんとなく分かったような気もするが、よけいに分からなくなった気もする。でも、おもしろかった。**
【松井薫史・男・学生・16歳】

★ファンになったばかりなんで、他の雑誌はほとんど読んだことないけど、一番桜庭さんが心を開いて話してる感じだった。細かいトコも知れたし、買って満足です♥　これからも桜庭さんの奥の方をつっついて下さい。
【田端愛・女・高校生・16歳】

★**「さくぼん」3冊買いました。この本に出逢えて最高にうれしい限りでございます。本当にありがとうございました。**
【大下淳・男・？・29歳】

★表紙の五木田さんの絵はかなりよかった。読む所いっぱいでうれしい。フィクションマンガの〝サクラバの汁〟かわいかった。親子で楽しめる。過去の桜庭さんのインタビュー読めてよかった。安い！
【大橋玲子・女・学生・18歳】

★生（なま）のインタビューなので、とてもおもしろい！
【福永純也・男・？・13歳】

★ぶ厚い、見た目より軽い。
【寺田芳浩・男・大学生・18歳】

★立体サクマシーンは素晴らしいです。内容もよかったし、さがして買ったかいがありました。ありがとーッ！
【岩本慶一・男・会社員・34歳】

★ちょっとおふざけ風なので発売日まで本当なのか不安でした。表紙の絵、気色悪いけど好き。シールもケイタイに貼っちゃった♥
【田中奈緒美・女・看護婦・25歳】

★本屋で見つけてびっくりした。表紙がいいオマケがいい。
【新保栄一・男・会社員・27歳】

★いやおもしろかったです。シールとふろくうれしい。インタビューのあいまのマンガやしやしんがたのしみでした♥
【内田知佳子・女・医療事務・21歳】

なぜかイラストも続々届いてま〜す

【大島智子・15歳・新高校1年生】

【平山裕治・26歳・会社員】

【岩井清一・28歳・公務員】

【楢崎秀美・19歳・学生】

通販も、やりますかーッ!!

全国書店、コンビニにバラ撒いていても、絶賛品切れ中で、なかなか手に入れられないという声が出まくりの『さくぼん』。
そこで地球に優しい（株）ダブルクロスでは、早々と通販を開始します。買いますかーーーッ!!
『さくぼん』（冊数）と、メモ欄に明記の上、郵便振替でお申し込みください。代金は1000円＋送料500円です。

【郵便振替】00130－3－769154　（株）ダブルクロス

※なお、『紙プロ』バックナンバー（P114or128参照）orTシャツなどの『紙プロ』グッズ（P161参照）と併せての注文もOKです!!
送料は、どんなにいっぱい注文しても500円です。サイズ、色、号数、冊数などの記入漏れがないようにお気をつけください。

発売:ワニマガジン社　03・3357・2911　発行:ダブルクロス　03・3403・5188

MATCH of the MONTH

W★ING

2001.4.22
東京・ディファ有明

マット界の中でも最も隅っこにあるはずのW★INGが見せたどこよりもシュートな大乱闘！

TAKE OFF Again！ さあ遂にW★INGが帰ってきたぞ。4月22日のディファ有明には、開場時間の遅れ（W★INGの得意技の一つ）でお客さんの長蛇の列ができていた。聞けば、ノア旗揚戦とタメを張る客入りという。会場内はホントに超満員。潰れて幻となった伝説の団体が、時を越えメジャーを凌ぐ期待感を集めたのだ。当時の面白さはもちろん、所属した選手、ファンがその後もW★INGへの熱い思い入れを持ち続けたことが、これだけのお客さんを呼び寄せてしまったといっていい。なんともめでたいことじゃないか。

人で賑わうロビー全帯の片隅に、徳田選手の遺影が飾られていた…って、今回唯一誘われなかった人へのきついブラックジョークで、いきなりW★INGらしさ爆発だ。

さて、当時毎試合ごとに行なわれ、冒頭から荒れまくるのが楽しみでしょうがなかった選手入場式でW★INGスタート。WE ARE W★ING！『デンジャー・ゾーン』で続々入場するW★ING戦士たち。湧きまくる場内、マイクを握る畑山レフリーの目にはすでに涙が浮かんでいる。『まずはバラ色の未来、三宅綾！』のコールでジーンと来るなんて、あぁ、正常な判断能力がマヒしている自分がいる。そう、あらゆる何かを狂わす磁場をこの団体は放っていたのだ。レザーもフレディも暴れるが、お客の満員ぶりが窮屈そう。この時点で、まだメインのカードが決まってないというメチャクチャぶりもW★INGらしくてオッケー。何もかもが治外法権なのだ。と、ここまではバッチリだったけど、試合に入ると一気に会場のテンションもダウン。この前座のゆるさだって良くも悪くもW★INGらしいのだが、超満員のお客さんは、頭の中で膨らみまくった幻想と現実のギャップに戸惑いを隠せなかったようだ。まあボクも、『レッスルマニア』の後遺症から抜けきれてない状態だけに、正直前半は辛かった。

しかし、過度な期待をしすぎちゃいけないのは、インディ団体にとって当たり前のこと。

打率が低くても、当たりゃ場外みたいな感覚が、メジャー団体では味わえないインディの面白さであるのだから。レッドゾーンを振り切った、ドーパミンが噴射しまくったような興奮が味わえる可能性がインディにはある。その中でも最強のインパクトを誇ったのがW★INGだったのだ。

さて、「まあ同窓会だしな」的なムードをブチ破ったのはやはり、『松永、ポーゴを軸としたデスマッチ』

文／イナズマ★K

designed by matsu (Two three)

とだけしか発表されなかったメイン。

識を覆すW★INGの面目躍如。

W★INGは永遠に不滅だ!
(byポーゴ)

「何がW★ING同窓会だ！　ナメんじゃねぇ。今日からW★ING再スタートだ！　あの茨城が帰ってくる！　俺様たちが必ずW★INGを復活させる」と、絶口調だったポーゴ

休憩時間と大会後のパーティーではレアグッズ満載のオークションが開催された。同窓会に唯一誘われなかった格闘三兄弟の1人、徳田光輝の遺影が、なんと5千円で落札。合掌!?

「肉焼いてるヒマがあったらリングに戻ってみぃ」と松永の喉笛を鷲掴みにして挑発、その後はド派手な大乱闘と、この日は大忙しの同窓会実行員長・金村ゆきひろ。W★ING続行ーッ！

松永W★ING vs 金村W★ING 本物のW★INGイズムはどっちだ!?

とだけしか発表されなかったメイン。時間差月光闇討ち4×4戦、有刺鉄線グルグル巻き男で現れた松永光弘、対するポーゴ組の方に金村がいたことで、期待感は見事にクリアーされた。松永の顔を張った金村の「元々行く道が違ったんや！」マイクアピールで、前号でのW★ING特集の金村と木村浩一郎のやりとりの、伏せ字部分がオープンになったわけだ。試合内容もW★INGならではのメチャクチャっぷり全開。これだけのデスマッチの第一人者たちが揃ったのはいつ以来か。いやこの図式は初めてのことなのだ。外に出てったウィンガーはアスファルトの上でジャーマン。ポーゴも新兵器で三宅をグリグリ。暗闇タイムは満員のディファの至る所で歓声が上がる。そして何よりインパクトがあったのはやはり松永。扉をこじ開け、デスマッチ専用車でディファの中へ突っ込む暴挙に出た。ボンネットの上へのダイビングエルボーをみせる等、さすが破天荒ぶりではミスター・デンジャーの右に出るもの無し！　試合数は減っても、デスマッチ・アイディアの底なし沼ぶりは健在。試合は三宅が捕まりポーゴ組の勝利でフィニッシュ。W★INGは再び封印された。

しかーし、これでW★INGは終わりじゃなかったのだ。ポーゴのマイクで明らかになった。

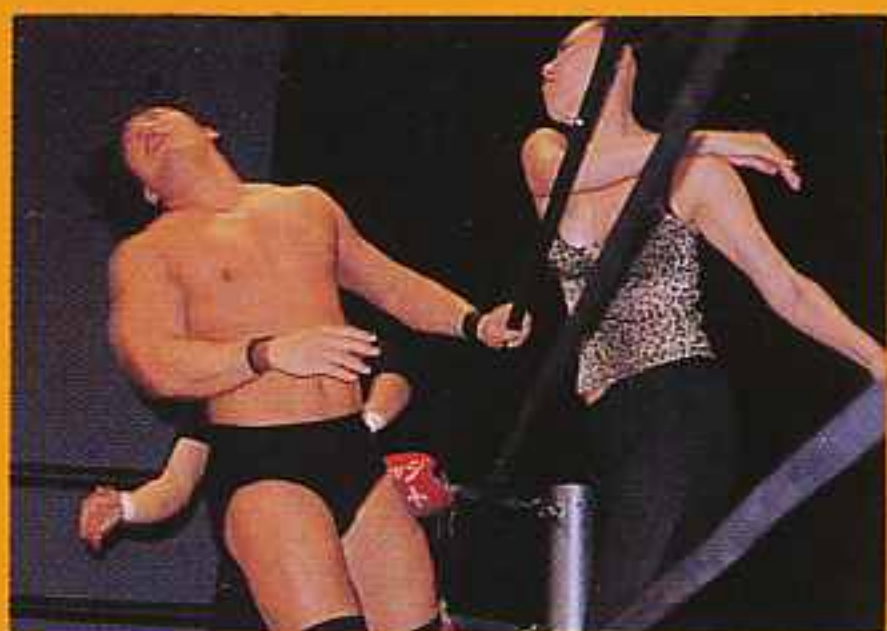
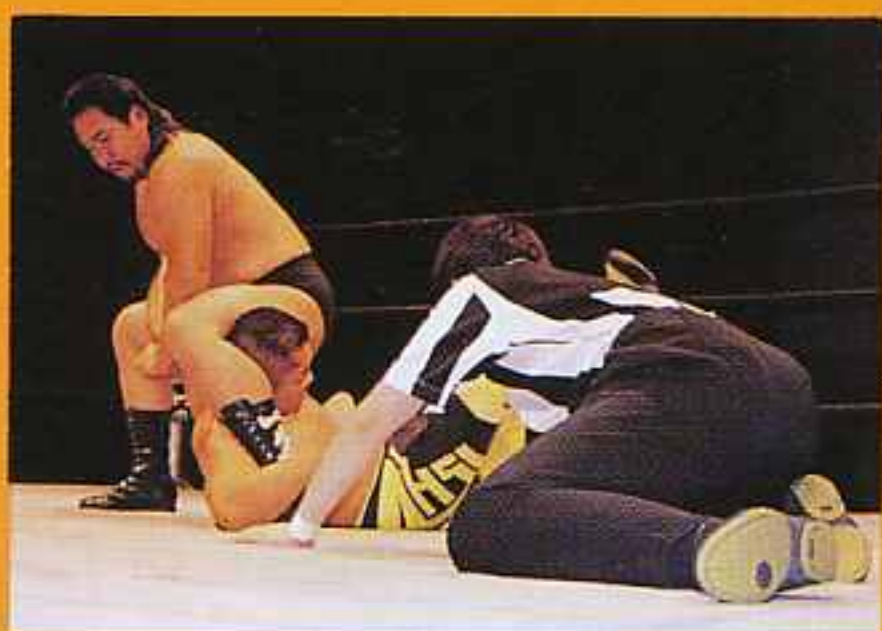
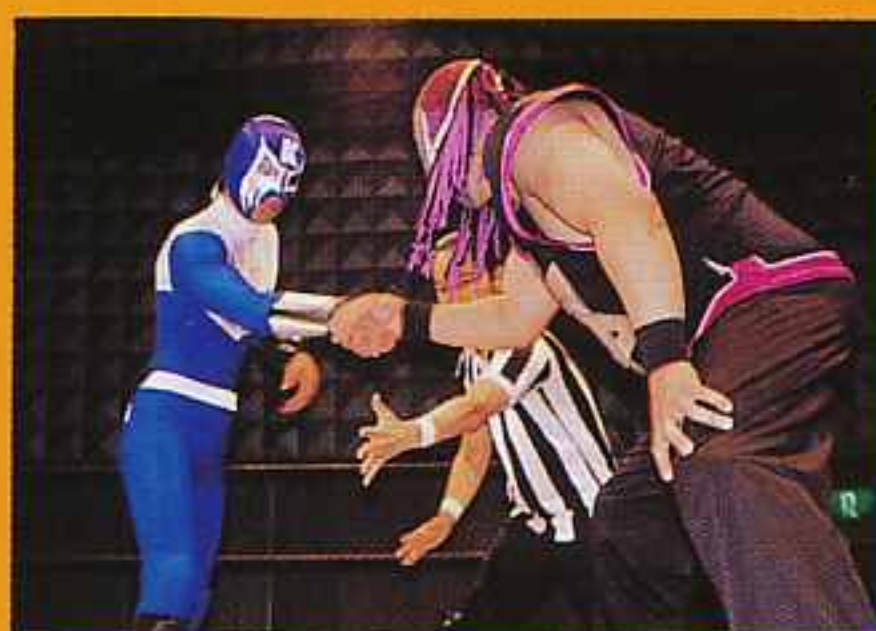
「あの茨城清志が帰ってくる！」

「W★INGが8月に復活する！」

これを受けた松永の「終わりじゃないんだな！　やってやるよ!!」で一気に金村との殴り合い。格闘技やプロレスの中でも最も隅っこにあるはずのW★INGが、一番シュートな展開を見せるなんて。さすが常識を覆すW★INGの面目躍如。

さあ、7年も前に終わったと思われたW★INGがなんと時を越え、TO BE CONTINUEDとはビックリ。過去を振返るだけにとどまらず、こんな前向きなエンディングを見せただけでも、このW★ING興行は意味があった。ここまで来るのに10年。選手ごとの勢いも変わっているわけだ。谷口や菊澤なんてファンや練習生だったわけだし、三宅コールなんて当時はほとんど起きなかった現象まで発生した。そして松永W★ING vs 金村W★INGの『W★INGイズムを競う』という新しい抗争図が展開されようとしている。新団体と言うわけではないが、(不)定期的にW★INGの名の下に選手が集まるのも、今だったら許される状況にある。ここに来て、W★INGは過去のものから、今を生きる集団として昇華したと言っていいんじゃないの。当時のW★INGは、オタクとは正反対の、どうでもいいくらいの暴走魂に溢れかえっていたように思う。邪道・外道は「サイコロジー無しで、勢いだけで突っ走ってった時期」とW★ING時代を振り返っていたが、それをいい意味で『若さゆえのバカ』時代だったとしよう。そこからさらに奥へと踏み込んだ、未知なる『真のW★INGバカ』へ展開していこうというのだ。スバラシイ！

WWFボケから抜けてないボクが「W★INGはもういい」みたいなことを言ったようにジャイ子に書かれてしまったが、そんなんじゃねーんです。やっぱりW★INGは忘れらんないのだ。ではポーゴのマイクで締めようじゃないか。

『W★INGは永遠に不滅だ！』

最近の読者は知らないと思うが、実は本誌大型スタッフ・ジャイ子と写真のスーザンは同日マネージャーデビューの間柄だったりするのだ。

やはり初めて見た人は一様に驚きの表情を隠せない"ひとり新日本プロレス"こと藤沢一生。ストラングルホールドもイッちゃうぞ！

昼興行のメインはスーパー宇宙パワー対コニカマン。コニカマンは見たまんまの特撮キャラだが、この日はシュートの強さを披露。

4・29は北沢タウンホールで昼夜興行を開催したＤＤＴ。しかも昼の部はなんと入場無料。当然、朝からホール周りは大行列となった。

行列のできる団体ＤＤＴ。
いまハジけてます！

MATCH of the MONTH

DDT

2001.4.29
北沢タウンホール

「日本のＷＷＦ化宣言」以降、これまで以上に厳しい目が向けられ始めたＤＤＴ。それに耐えられるのか？

前号での、ＤＤＴ高木三四郎インタビューはインディー団体には珍しくネットを中心に反響が大きかった。

三四郎の「ＤＤＴはＷＷＦを目指す！」という発言に対しては、ＷＷＦファンだけでなく、プロレスファンからも否定的な声が巻き起こった。代表的な声をいくつか挙げてみよう。

「機会があったので、４・29北沢タウンホール大会へ行ってきた者です。ボク個人としては、高木や澤田、各選手のパフォーマンスによる〝お決まりのノリ（のみ）に支配された団体〟といった印象です。とにかくパフォーマンス多用、無意味にノる観客。これに選手たちが勘違いしてる節、大いにありと感じた次第。ＷＷＦをパクるにしても圧倒的に資金と選手のセンス不足だし、で、そのショッパい部分の免罪符として、「激しいプロレス」らしきものが展開しているカンジでした。どちらにしても、中途半端の極致！」

「ＤＤＴはＷＷＦとは全てにおいて比較にならないです。ごっこでも失礼と思います。今、ロウ・イズ・ウォーを見ていますが凄いわ!!　あれだけの大歓声の興奮の中で、自分を表現出来ればもう止められないですよ。金だけではないと思います。いい顔してるもん。選手達の顔にプロレスラーになったことへの満足感が滲み出てるし、大会を成功させる為に考えられる全てのことを注ぎ込んでいることが伝わってきます」

言いたいことは非常によくわかる。確かに現状のＷＷＦとＤＤＴでは、その規模からなにからケタが違いすぎる。それはＷＷＦをそれほど熱心に見ていないファンでも十分理解できる話だ。逆に、三四郎はプロレスファンから、批判の声が挙がるのを覚悟の上、あえて、今こそ「ＷＷＦ化宣言」をしているような気がする。

三四郎は以前から一貫して、「世間一般の層を取り込みたい」という発言をしている。その発言だけ捉えれば、他のレスラーもよく口にするセリフなのだが、実際、一般層を取り込む努力をしている団体、そしてレスラーがどれだけいるのだろうか？

その点、ＤＤＴには、プロレスにさほど興味のなさそうな、それこそ世間一般の層が、他のプロレス団体に比べて明らかに多いのに気づく。

試合後の、その人たちの顔を見れば、今のエンターテインメント路線が確実に届いているということがわかる。ガチガチのプロレスファンより、それ以外の層をターゲットにした方が広がりがあるのは当然の話だ。

ＤＤＴに、これまで以上に厳しい目が向けられているのは確かだが、それ以上に、今のＤＤＴには、かなり強烈な追い風が吹いているのだ。

文／チョロ

designed by matsu（Two three）

聞き手／チョロ
撮影／丸山剛史
通訳／寒河江光徳
designed by matsu (Two three)

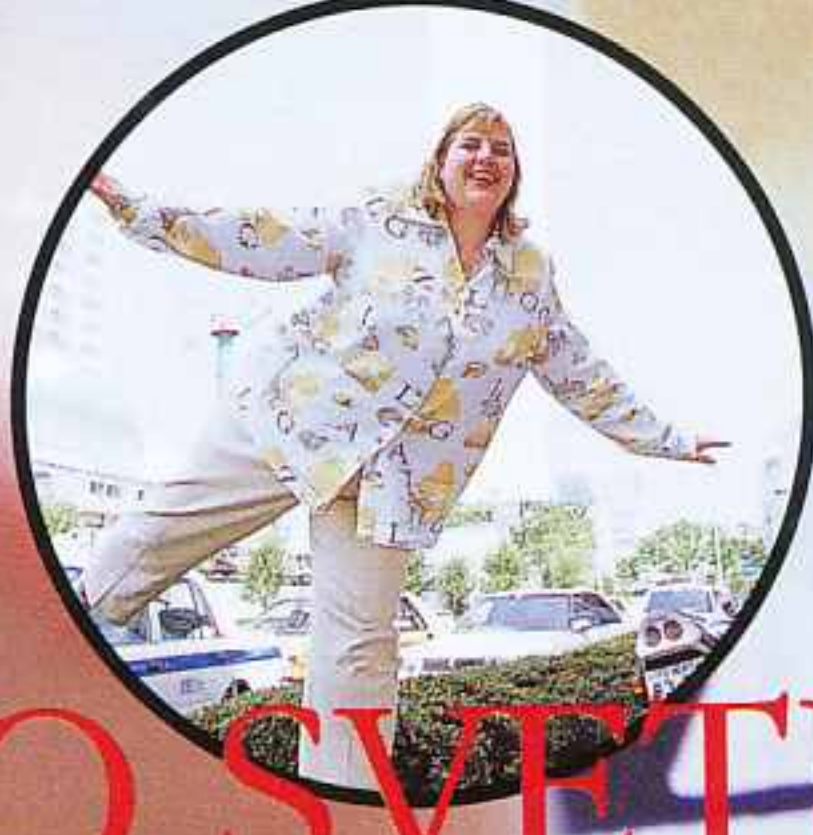
私は柔道だけで十分よ。柔道が最も美しいスポーツだと思ってるの

日本のファンの皆さん
みんな愛してるわ

チュ♥

"女子格闘技界のビッグママ"

グンダレンコ・スベトラーナ

ロシアから愛をこめて、セクシー投げキッス！　どうですか、皆さん？
この可愛らしい女性の名はグンダレンコ・スベトラーナ。
日本マット界では、FMW、L-1、ReMixへ参戦している。
超巨漢女性ファイターとして日本でもお馴染みの彼女に体当たり取材を敢行！

GUNDARENKO SVETLANA

―日本でもお馴染みのグンダレンコさんですが、今回で何度目の来日になるんですか？

グンダレンコ（以下・G）　今回で36回目よ。

―36回！　レスラー並の来日回数ですね（笑）。日本には、どんな印象がありますか？

G　日本は大好きよ！　いつも来る度に、いい思い出ができるの。私は乗ってる車も日本のスバルのものだし、かなりの日本通なのよ。なんでも答えてあげるわッ。

―あ、ありがとうございます（笑）。グンダレンコさんって結婚してるんですか？

G　（急に照れて）してるわよ。

―旦那さんは何をやってる方なんですか？

G　いつもビールを飲んでるわ（笑）。

―アハハハ！　さすがロシア人！

G　ホントはね、バーを経営してるのよ。

―やっぱり、旦那さんはグンダレンコさんより大きいんでしょうね（笑）。

G　いや、私より小さいわ（笑）。でもね、ウチの夫も格闘家なのよ。

―あ、そうなんですか。それじゃあ、夫婦喧嘩とかは壮絶なんでしょうね（笑）。

G　ハッハッハッ！（豪快に）。夫婦喧嘩は、もっぱらグラウンドでやってるわ（笑）。

―アハハハ！　それは意味深ですね（笑）。

G　この間なんか、やりすぎちゃって彼の（指の）骨を折っちゃったの。

―アラララ。でも、おそらく世界で一番強い奥さんなんでしょうね。

G　いえ、それは違うわよ。世界で一番美しい奥さんと言って欲しいわ（笑）。

―そ、そうですね（苦笑）。で、グンダレンコさんといえば、柔道でバルセロナとアトランタと2回オリンピックに出場してますけど、最近は柔道と総合格闘技と、どちらを重点的に練習してるんですか？

G　私は柔道しかやらないわ（キッパリ）。

―打撃の練習は全然してないんですか？

G　（首を振って）全～然。

―全然ですか（笑）。でも、藪下戦や八木戦でも強烈なパンチを出してましたよね。

G　あれは本能よ（笑）。私は柔道だけで十分だと思ってるし、柔道が最も美しいスポーツだと思ってるの。だから、打撃の練習は必要ないのよ。それに私は、柔道が他のスポーツより優れているっていうことを証明したいっていう気持ちが誰よりも強いから。

―ホントに柔道一直線なんですね。グンダレンコさんは今までたくさんの日本人と闘ってますけど、一番印象深い相手は誰ですか？

G　そうねぇ、一番尊敬できるのは神取（忍）よね。あとは誰っていうより、日本の選手って、みんな、ちょこまか動き回るじゃない？　私は重量級だし、あまり、すばしっこく動けないから大変なのよ。

―でも、グンダレンコさんがちょこまか動き回ったら誰もかなわないですよ！

G　私もそう思うわ（笑）。でもね、やっぱり女性には男性にはない女らしさだとか、女性選手特有の良さがあると思うの。単に強いっていうだけじゃなくて、女らしさを持ちつつ強いということが大事だと思うわ。

―確かに技の破壊力とか迫力っていうのは、どうしても男性より劣るわけですから、女らしさとか華麗さっていうのは女性ファイターにとって重要なことですよね。

G　そうでしょ。そういう意味もあって、私は試合の時は、いつも念入りに化粧をするのよ。（可愛らしく）だって、だいたい試合を見に来てくれるお客さんは男性でしょ？　多くの男性に見られるんだから、身だしなみに気を使うのは女として当然よね（笑）。

―そ、そうですね。お化粧じゃないですけど、グンダレンコさんは、スベトラーナとテレチコワと2つの顔を持ってますよね。どういった使い分けをしてるんですか？

G　スベトラーナっていうのは私の本名よ。それでテレチコワっていうのはニックネームみたいな感じかしら。ロシアにはテレチコワっていう世界初の女性宇宙飛行士がいるんだけど、その人の名前にちなんで付けたの。今はもうソ連という国はないけど、旧ソ連邦時代に女性として初めてプロレスという舞台に立ったのが私なのよ。それで、世界初の女性宇宙飛行士とソ連初の女性レスラーを重ね合わせて付けた名前なの。

―へぇ～そうなんですか。やっぱり柔道と違って、プロレスや総合格闘技の試合ではプロとしての闘い方っていうのも意識しますか？

G　プロレスについて言えば、やっぱりショー的な要素も必要でしょ？　だから、私はある意味で女優っていうかアーティスト的な雰囲気を持って闘うようにしてるわ。

―女優の雰囲気を持って闘うと？

G　そうね。柔道の世界では、とにかく勝つだけでいいのよ。でもプロレスや総合格闘技の場合は、プロとしてどうやってお客さんを喜ばせようかって常に考えてるわ。

私は打撃の練習は全然してないわ。だって必要ないもの

【01・5・3ReMix・代々木第2体育館vs八木淳子】先日のReMixでは八木を全く寄せ付けず判定勝利を収めたグンダちゃん。勝利者賞としてメルセデス・ベンツが贈られることが告げられると会場はこの日一番の歓声に包まれた（いいのか？）。それにしても、かつてアンドレは相手に乗っかっているだけで必殺技になっていたが、女子の試合でそれが見れるとは。本当にビックリ！

OSVETLANA

PLAY BACK グンダレンコ 日本マット界での足跡（かなり大きめ）

【91・9・23　FMW・川崎球場vs工藤めぐみ】当時、FMWに参戦していたグレゴリー・ベリチェフ等が所属するプロスポーツ組織『ディラ』の派遣で来日したグンダレンコ・スベトラーナ。FMW来日時は『グンダレンコ・テレコチワ』のリングネームを使用し、ハンディキャップマッチ戦でデビュー後、圧倒的な強さを発揮しFMWマットを席巻した。

【91・12・9　FMW・NKホールvs工藤めぐみ】プロレスを続けていくうちに本当に難しいものだと思ったというグンダレンコ。FMW参戦時の経験はいろんな意味で彼女の糧となってるはずだ。当時のFMWの感想を聞くと「アメリカ的なパフォーマンスの影響があるんじゃない？」とのお答え。2度目の対戦でくどめはリベンジを果たした。

──（小声で）インテリジェンスモンスターって感じですね（笑）。グンダレンコさんといえば、薮下戦後の涙が印象的なんですけど、やっぱりプロレスと総合格闘技では、同じ敗戦でも感情的に何か違いがあったりするんですか？

G　それはプロレスと格闘技の違いっていうより私自身の性格だと思うの。私は感情を抑えることができない方なんで、悲しければ泣くし、楽しければ笑うっていう単純な性格なの……でも本音を言えば、本名のスベトラーナの時は意地でも負けたくないわ。

──あぁ、それはわかる気がします（笑）。グンダレンコさんは、過去にFMWのリングで、工藤めぐみさんやコンバット豊田さんに残念ながら負けてるんですよね。覚えてますか？

G　よく覚えてるわ。でも、あの時はまだプロとして駆け出しだったし、初めて挑戦した世界だったからしょうがないでしょ（笑）。ただ、今は、あの頃のようにはいかないわよ。それは約束するわ（自信たっぷりに）。

──プロレスのリングにも、もう一度上がってみたいっていう願望があるんですか？

G　そうね。いま考えているのは、私みたいな凄く大きなロシアの選手と日本の小さな選手たちとタッグマッチをやったら対称的で面白いと思うんだけど、どう？

──それは見たいですね。でも、グンダレンコさんだったら、井上京子さんみたいに男子レスラーと闘っても面白いと思いますよ。

G　（可愛らしく）怖～い！　ハッハッハッハッ！（と自分でウケるグンダレンコ）

──やっぱり、男とは闘いたくないですか？

G　嫌よ（笑）。でも、やるんだったら負けるつもりはないわよ！（キッパリ）。

──自信アリと（笑）。でも、グンダレンコさんのように格闘技で実績のある選手でも、プロレスは難しいって言う人が多いですけど、やってみてどう思いました？

G　プロレスは本当に難しいと思うわ。柔道でも空手でもいいけど、いくら格闘技の下地があっても、それだけじゃ無理よね。プロレスという舞台に上がるには、そういったバックボーンを最大限に活かすのは当然だけど、その他に特別な訓練というか仕込みをして臨まないと、観客の目を惹きつけることはできないと思うの。難しいスポーツよね（笑）。

──八木戦後のコメントで「次は神取選手と闘いたい。彼女は優れた資質がある」って言ってましたけど、その場合は総合格闘技とプロレスのどちらのスタイルを希望しますか？

G　神取となら、どんなスタイルでも、お客さんも私自身も満足のいく闘いができると思ってるの。神取は日本では凄い有名で人気のある選手なんでしょ？　なんでReMixには出ないのかしら？（ニヤッ）。

──ちょっとわからないです（笑）。グンダレンコさんは何かお仕事はされてるんですか？

G　私は柔道のコーチもしてるんだけど、やっぱりロシアの重量級の代表選手として、より多く練習をして強くなることが自分の仕事だと思ってるわ。他にスポーツ選手のコンサルタントとしての役目もあるし、身体がいくつあっても足りないわ（笑）。

──ReMix終了後のパーティーもそうでしたけど、今日も実にエレガントなファッションをしてますよね。オシャレには、かなり気を使ってるんじゃないですか？

G　私には専門のスタイリストがいるのよ。ロシアではテレビに出る機会も多いから。

──へぇ～、凄いですねぇ。もしかして、タレント活動とかもしてるんですか？

G　私はタレントじゃないわ（笑）。ロシアでは、いま青少年の麻薬犯罪が凄く多くて問題になってるの。だから、私は麻薬撲滅キャンペーンに協力したり、スポーツを通じて国民が幸せになれるように政治的な活動もしてるの。その関係でテレビとかに出てるのよ。

──なんかスポーツ平和党みたいですね（笑）。そういえば、ロシアはもちろん、日本でも有名なアレキサンダー・カレリンも格闘家、そして政治家としても活躍してるみたいですけど、グンダレンコさんはカレリンの影響を受けたりしてるんですか？

G　影響もなにもカレリンは私の友人よ！

──ギョ！　カレリンはお友達でしたか。

G　そうよ。私は彼のことを凄く信頼してるわ。実際、彼が私を国会に推薦してくれたというか、導いてくれた部分も大きいの。

──えっ！　グンダレンコさんは国会議員だったんですか？

G　いや、私は国会議員じゃないわ。カレリンに付いている12人の政策秘書の中の1人よ。カレリンが1人ではできない仕事をサポートしたりしてるの。

──次の来日ではカレリンをセコンドとして連れてきて下さい。逆でもいいんですけど。

G　ハッハッハッ。前向きに考えておくわ（笑）。

【00年5月4日、都内某ホテルにて収録】

私はカレリンに付いている12人の政策秘書の1人よ

GUNDARENKOSVE

【ぐんだれんこ・すべとらーな】
1970年、ロシア出身。身長191センチ、体重150キロ。周りの若い男の子の影響で15歳から始めた柔道。92年バルセロナ五輪ベスト８、96年アトランタ五輪５位と、もう一歩でメダル獲得という成績を残している。日本マット界へはＦＭＷに初登場。その後、L-1に二度出場、そしてReMixへ来日。日本では、工藤めぐみ、コンバット豊田、神取忍、堀田祐美子、井上京子、薮下めぐみといった、有名レスラーと片っ端から闘っている

【00・12・5　ReMix・日本武道館vs薮下】 前回のReMixでの薮下めぐみ戦は、予想を裏切る（いい意味で）薮下の活躍で武道館が震えた一戦だった。そして判定で敗れたグンダレンコは…リング上で号泣したのだった！　この光景が余計にこの試合を際だたせたことは言うまでもあるまい。人間・グンダレンコが剥き出しになった記念すべき日でもあった。

【98・10・10　L-1・両国国技館vs神取忍】 神取との２度目の対戦は、３年ぶり開催されたL-1でのワンマッチ。この試合は神取がフロントネックロックで見事リベンジを果たした。グンダレンコがリスペクトする神取との３度目の対戦はいったい、いつ何処のリングで行われるのか!?　ReMixか？　それともL-1か？　はたまたプロレスのリングなのか？

【95・7・18　L—1・駒沢体育館vs神取忍】 神取とのファーストコンタクトは1995年に行われたL—1決勝戦。六角形の少し狭めの金網で行われた決戦は肩固めでグンダレンコが勝利を収め見事優勝。神取のことをグンダレンコは、格闘技者としてもプロレスラーとしても尊敬の念があると話す。闘った者にしかわからない友情が芽生えたのだろうか。

打撃の先生のランバー・ソムデートM16と勝利後のガッツポーズ　星野の次の試合は5・24スマックガール、そして、6・8白鳥智香子引退興行だーッ！

星野育蒔

これが『ReMix』のやり方か!?

ラーの強さはどこに?

今回の『ReMix～GOLDEN GATE2001～』。終わってみれば、黄金のゲートから飛び出してきたのは、弱冠19歳、なんと、この日がプロデビュー戦となる柔道出身の星野育蒔だった。

試合を見た『紙プロ』読者なら、どこかで見覚えのある顔だなと思っただろう。そう、星野育蒔は『紙プロR』の36号で「東条まい」として登場している女の子なのだ。どっちが本名でどっちがリングネームなのかは、グンダレンコにでも聞かなきゃわからないが（意味不明）、とにかく彼女は抜群に輝いていたのだ。いや、マジで！

対戦相手のコボチノバ・タチアナは、〝格闘家になりたい芸能人〟桜庭あつこの右腕を容赦なくへし曲げた、ロシアの実力派柔道家である。女子格闘技に興味のない人からすれば、単なる柔道家対決ぐらいにしか思わないだろうが、実際、星野は柔道推薦で大学に入ってはいたものの、世界レベルのタチアナ相手に、いくら体重差があるとはいえ、柔道で挑んだら勝ち目は薄い。

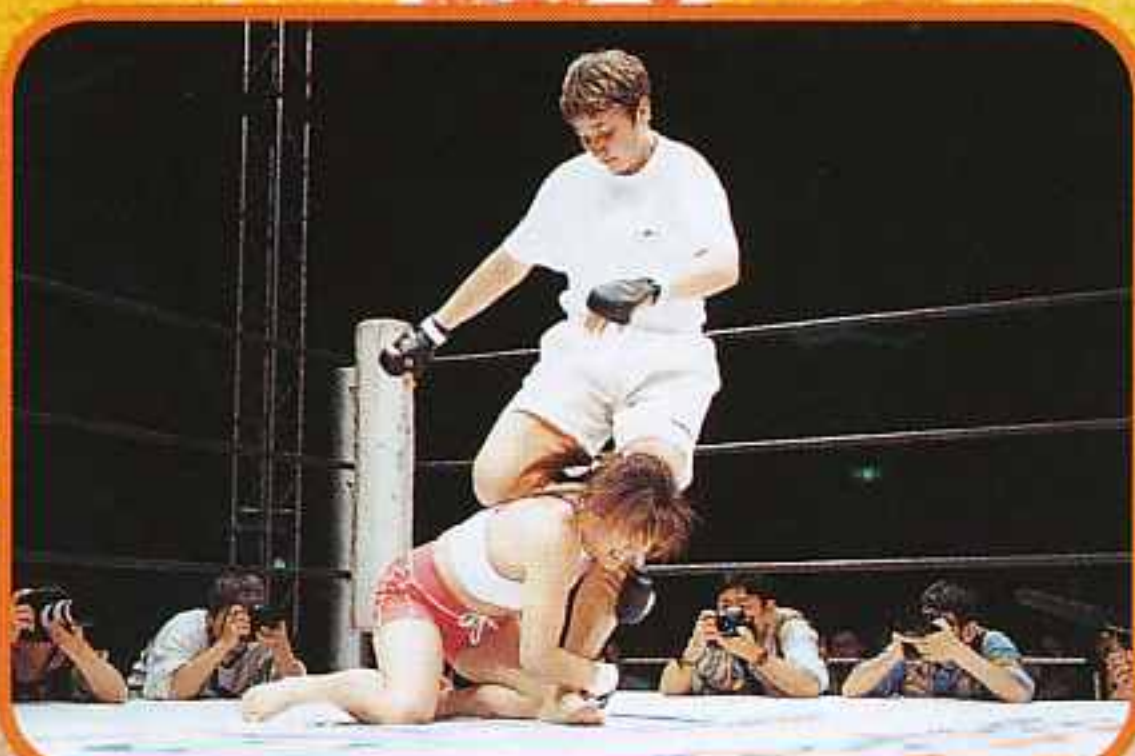
試合前に「今日の作戦は?」と星野に聞いてみると、「相手がタチアナじゃなくても、

第２回目のReMixのヒロインは文句なしに星野育蒔　あまり知られていないが、実は星野はReMix前夜祭として行われた４・26　SHINOKI祭り　のメインに出場していたのだ　紙プロＮＯ36　に登場したナナチャンチンと闘った星野は、強烈なキックで３連続ダウンを奪いTKO勝ち　この娘は凄いッ！

「♪ハイホー、ハイホー」とテーマ曲のリズムに乗り笑顔でリングインの星野　しかし、ゴングが鳴った瞬間、戦闘モードで鬼の形相に切り替わる！　プロデビュー戦とは思えない頼もしい面構えである

本格的に打撃を練習し始めて、わずか１カ月という星野だが、的確かつ強烈な打撃が次々とタチアナに炸裂！　打撃のレベルの差が勝負を決めたと言えるだろう　この娘は眼がいい！（by・SHOW氏）

２ラウンド終了間際に腕十字でタップを奪った星野だが、ゴングと交差する形となり最終ラウンドへ　星野は気落ちすることなく必殺の「コンソメパンチ」を炸裂させてＫＯ！　新たなヒロインが誕生した！

ゴルドーの弟子を蹴りで戦意喪失させた久保田有希。試合後、ゴルドーに「オレを誰だと思ってるんだ」と凄まれたという情報は今のところ入ってきてない。さすがゴルドー、紳士的である。勝利者賞のプレゼンターは、なんと石立鉄夫だった。

押忍!!　あのグンダレンコよりも高い193cmから繰り出される打撃が圧巻だったロシアの極真空手家アンナ・コピリーナ。最後は意外にも腕十字で元ＬＬＰＷの小山亜矢に勝利した。極真幻想が膨らむ一戦だったよ、キミィ（マス大山調）。

１回目のReMixに続き出場の権利をもぎ取った張替。対戦相手はモロッコ出身のジャミラ・メストーン。その顔をよく見て欲しい。さすがジャミラ（意味不明）。入場曲も科学特捜隊（合ってる？）のテーマとなかなか凝った演出だった。

★5・3★

女子総合格闘技

ReMiX

GOLDEN GATE 2001

中山香里

女子プロレスラー全敗! これが『

5・3女子プロレスラ

私は立ち技がやりたい。今は打撃の練習が楽しいから（笑）」

ただ、それだけの理由なのだ。予備知識なしに見れば、タンクトップにキックパンツで闘う星野が柔道出身だなんて、誰も思いはしないだろう。それほど、星野の打撃はしなやかで、力強い。しかも聞いてビックリ、打撃の練習を始めて、まだ1ヶ月ちょっとだというから末恐ろしい。騙されたと思って一度、星野の試合を見て欲しい。きっと何かを感じるはずだ。

テーマ曲の「♪ハイホーハイホー」と口ずさみながら入場、そしてゴングが鳴れば、突如険しい目つきに豹変。タチアナ戦でもレフェリーがゴングを要請しているところを、かまわず殴り続けようとする気性の激しさ。そして、勝利を確認するとグシャグシャに表情を崩し、喜びを爆発させた星野。

まさに〝明るく楽しく激しい〟「馬場格闘技」の申し子と言えるだろう。今後も注目だ！

一方、殴られ蹴られヒザを入れられ、顔面崩壊してしまった中山香里。あなたに、この言葉を贈ろう。もう一丁！

構成／チョロ

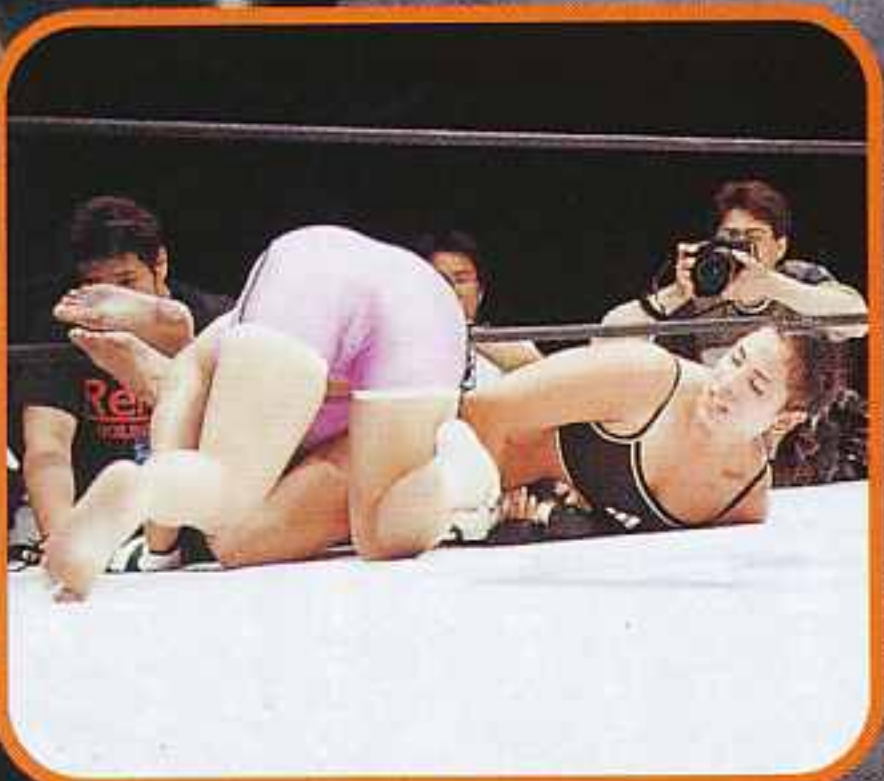
いつもと変わらず竹刀を片手に臆することなくコンプリート・プレイヤーズバージョンで登場したギャングスター中山香里。残念ながら、田中将斗、外道は他団体での試合が入っていたため欠席。邪道が1人でセコンドに付いた。邪道は試合中ほとんどアドバイスらしいアドバイスを飛ばすことはなかった

中山を倒したリー・ヨンファがインタビューを受けているところへ現れたのがキム・ドク。「韓国の選手が総合で勝つのは初めてなんだよ」とニッコリ

組み付いてもなかなか思い通りに投げることのできなかった中山だったが、力任せにリーを叩きつけた。技術的には決して高い試合ではなかったが、それを覆い尽くすプロレスラーの執念を感じるシーンだ。

中山の腕十字の前に明らかにタップの意思表示をしたリーだったが、2回しか叩かなかったという理由で、そのままラウンド終了。ルールを知らなかったことで助かったのは、きっとリーが初めてだろう。

開始早々から、面白いようにヨンファの打撃をもらい続けた中山。スタンデングダウンは何度か取られたが、意地でもマットに倒れなかったその姿はまさしく谷津を彷彿させた。中山、もう一丁！　なっ！

出場全選手の中で唯一、コメント付きで入場してきた藪下めぐみ。それだけ期待感が大きかったわけだが、ＬＡボクシングの強豪エリン・トーヒルの前にあえなく敗北！　試合後、ヒジを破壊されてもヘラヘラと笑顔を絶やすことのなかった藪下。日本の女子総合格闘技の鍵を握ってる藪下だけに、その笑顔を強さに対する嫉妬に変えていって欲しいものである。

ReMixへ参戦したいがために署名運動までして強引に参戦を決めた高橋洋子（実際かなりのハガキが届いていた）を、桜井マッハ速人仕込みの技術でアッサリ極めてしまったクーネンちゃん（格通調）。たとえ「相手は見た目は強そうだった」と誤解を招くような発言をしてしまっても可愛いくて強ければノー問題！　でしょ？

PANCRASE HYBRID WRESTLING

強者(ツワモノ)はここにいる。他団体選手よ、なぜ上がらない？

「菊田アブダビ優勝」という好ニュースを受けて5月の2連戦をむかえたパンクラス。まず行われたのが毎年新参戦団体が話題になる「ネオブラッドトーナメント」予選会5・5大田区体育館大会だ。今年は過去最高の16人の参加、出場選手も既参戦団体にU－FILE－CAMP、P'sLAB東京、ストライプル、ロデオスタイル、³A、パワー・オブ・ドリームを加えた、まれに見る大交流戦。セコンドだけ見ても慧舟會から宇野・廣野・高瀬、ストライプルの平、PODのヤマケンと実に豪華。また、セコンドにはつかなかったが田村潔司も2階席から愛弟子の姿を見守ってたりと、彼らの指示＆解説だけで銭が取れそうな豪華陣容だ。試合も熱戦続出、他団体組の注目は右ストレートKOで圧勝した梁正基（POD）と、飄々かつトリッキーな動きの佐藤伸哉（P'sLAB東京）。

さて、昨年遂に他団体日本人に優勝をさらわれたパンクラス勢。今年は3人が出場し佐藤光留と中台宣が本戦出場を決めた。鮮やかな打撃秒殺を決めた中台に比べ、もともと打撃に課題が残る佐藤は苦戦。しかし記憶より記録より「トラウマになるレスラーになる」（『週プロ』選手名鑑より）は口先だけで無し！　1Rにはガード状態の相手選手をボム気味に叩きつけたり、バックドロップからサイドを取るなどのトラウマ技を連発！　ともかく他選手との試合の比較もされる今大会で「強い試合」「楽しませる試合」を見せた若手二人が担う未来のパンクラスは明るい！　と言い切ってしまおう。

しかし、一方じゃまだまだ、「楽しませて強い試合」はこういうもんだッ！と先輩たちが見せつけるような試合が続

「演出世界一」ではない「世界統一の世界一」が所属するのがパンクラスだ

出したのが5・13後楽園大会。第3試合登場はキャッチレスリングルールで前戦デルーシアに完敗と後のない鈴木。だがその不安を振り払うような逆エビ気味のアキレス腱固めで、まさに「帰ってきたぜぇぇ！」な快勝！　噂の橋本戦に向け弾みをつけた。そして何よりメインイベント美濃輪vs佐々木。アマ修斗以来の再戦という意味合いもあるが、今やメインイベンターとグラバカNO2の対決。試合はあえて「鉄柱攻撃」と言いたいコーナーポスト突撃や、相手がガード状態なのを利用したスパインバスターでプロレスラー魂を見せる美濃輪。しかし3R、タックル失敗で亀になった状態の美濃輪に対しバックチョークを狙った佐々木。その瞬間！　美濃輪がくるりと前転して相手の脚をキャッチ。ガッチリ極まったリバースアンクルホールドに佐々木あえなくタップ！『週プレ』や『週プロ』のインタビューでのプロレスバカぶりと有言実行のこの試合！　試合後のコメントも「（スパインバスターに対し）格闘家は受け身取れないでしょ？　横浜道場勢なら効いてないですよ」と素敵すぎ！　いまやアレクサンダー大塚から『リアル1・2の三四郎』の座を奪い取ったといえよう。本人は『北斗の拳』派らしいが。

これまでの他団体交流路戦が結実したネオブラ予選。そしてこの5月2連戦で知らしめた、外敵を跳ねのけるだけの体力を持つパンクラス本隊。〝場〟であり〝団体〟である以上、このバランスが良好でなければ「他団体に乗っ取られた弱小団体」又は「確実に自団体より弱い選手しか連れてこない腰抜け団体」という印象を与えてしまう。そこを緊張感バッグンに楽しませてくれる所に今のパンクラスの魅力がある。

また外への出撃体制も万全で、UFCに再出撃する近藤、コンテンダーズで宇野・高瀬組とタッグ対戦する鈴木・伊藤。8月のDEEP横浜大会には現在のパンクラス3本柱、近藤・美濃輪・菊田の名が既に上がっている。そして自団体への新規参入もまだ続くようで、6月大会には、なんと現在DDTマットに上がっている〝番長〟こと橋本友彦の出場がほぼ内定状態だという。DEEPでは大刀光と対戦させ、「真撃」にも参戦決定と、これも昨年から「プロレスとも交わる」と言っていた船木プロデュース効果？　ともかく、この修斗やリングスにはない「プロレスへのコンプレックスの無さ」は、プロレスの幻想を光らせも打ち砕きもする、危険で甘い魅力に溢れている。

参戦候補なら幾らでもいる。元ニーハオこと宮沢誠、キングダム・エルガイツの入江秀忠、キャプチャーの北原光騎、JPWAの木村浩一郎・佐藤耕平など、プロレスと総合の狭間を彷徨っているレスラーは数多い。もちろんフリーの格闘家だって可能性は十分、最も現実的な線で、修斗を離れた郷野聡寛、ヤマケンや小路・村上だって今のパンクラスの勢いならアリだろう。

また、菊田のホームリングがココ、というのも選手にとっては魅力のはず。別に桜庭やヒクソンが弱いというつもりはないけども、現在最も権威がある組み技大会、しかもトーナメントでの優勝は「リアル最強」の名にふさわしい。「自称世界一」「演出上世界一」ではない「世界統一の世界一」が所属している団体は他にそうはない。そうでなくてもUFC王座挑戦歴ありの癒し系レスラーや、カリスマパンクス、2mオーバーの大道塾王者と獲物は十分。強者はここにいる。他団体選手よ、なぜ上がらない？

（文・大坪ケムタ）

極真仕込みの打撃と溢れる覇気、そしてAV男優ばりの黒さが一度見たら忘れられない中台。同じく打撃中心の近藤スタイル継承者か。

テーマソングの「ギンガマン」が表すように、渋谷・山宮ら今までのアマレス出身選手とは一線を画す明るさが魅力の佐藤光留。

試合後は4方向にOi！Oi！Oi！（not大仁田）のコール＆レスポンス。究極のレスラーを目指し美濃輪のサーチ＆デストロイは続く！

試合後は「闘いたいプロレスラーが二人いる」と意味深発言の鈴木。一人は橋本として、あとは健介？田村？もしやアポロと精算マッチ？

現在は生徒会の一員として闘う橋本友彦。その実力は柔道3段、JPWAではトム・バートンから一本勝ち。パンクラスのセコンドに佐々木生徒会長とタノムサク鳥羽・仲村萌え萌えが揃う日は来るのか？

ヤマケンの一番弟子

PANCRASE
ネオブラッド・トーナメント予選
右ストレートで突破!

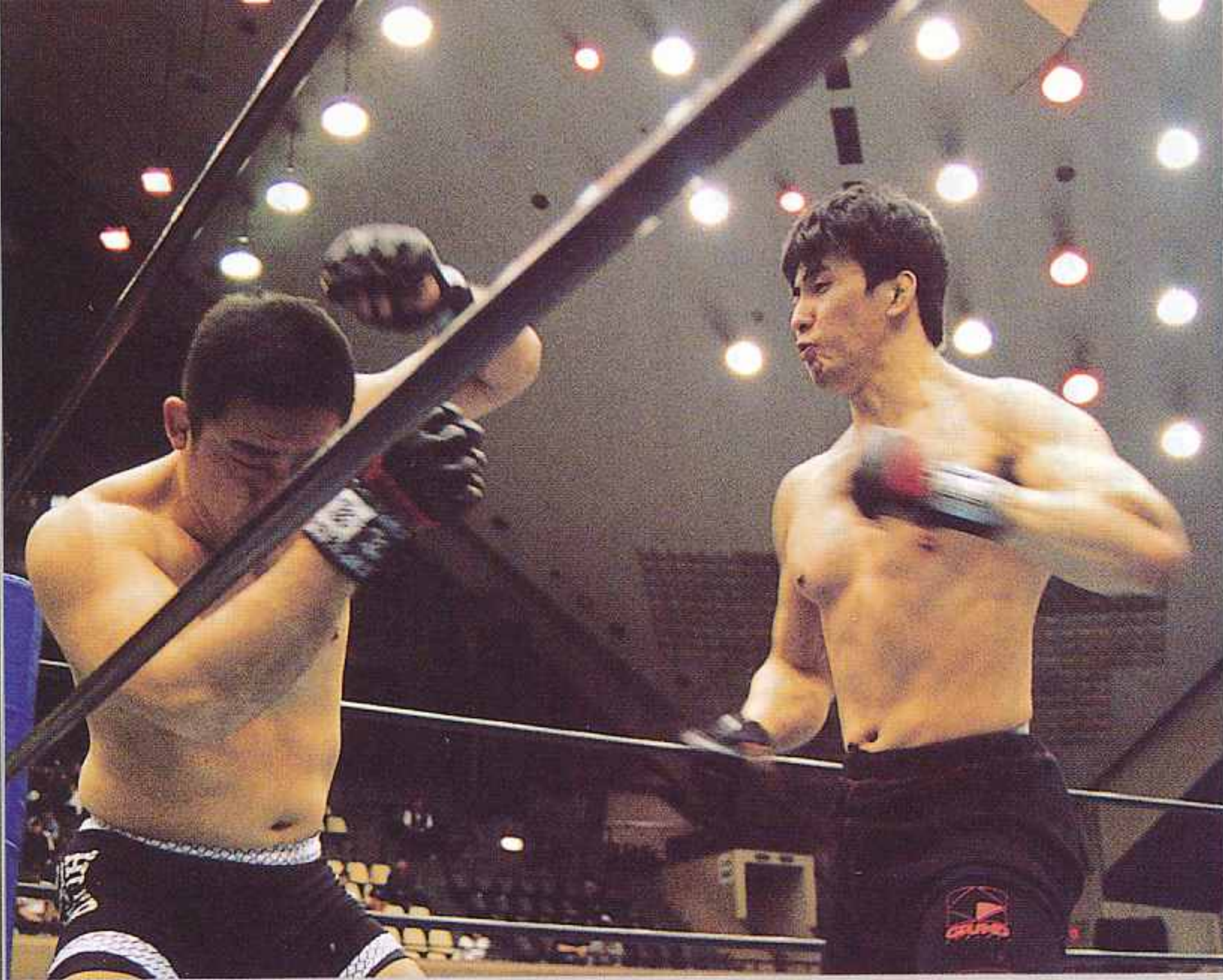
正梁基
Ryo Seiki
POWER OF DREAM

聞き手／チョロ
撮影／松本崇
designed by hisa (Two Three)

5・5パンクラス大田区体育館で行われたネオブラッド・トーナメント予選大会。この日の大会で観客に一番のインパクトを与えたのが今回『紙プロ』初登場の梁正基である。常に前へ前へとアグレッシブに攻め込んだ梁。最後は右ストレートで豪快なKO勝利を収め本戦出場を決めた。ヤマケンの一番弟子・梁正基の『パワー・オブ・ドリーム』な人生を読めーーッ！

「このあたりのレベルで負けるようじゃ、ランデルマンはブッ倒せないッスから！」

5・5パンクラス大田区大会でのネオブラット・トーナメント予選を豪快な右ストレートからのKO勝ちで本戦出場を決めたヤマケンの一番弟子、梁正基の発言である。

「一応、自分は第1回タイタン（ファイト）で優勝してるんで、予選負けしちゃったらみっともないじゃないですか（笑）」

5・5東京・大田区体育館で行われたネオブラット・トーナメント予選大会。師匠ヤマケンがセコンドに付く中、梁は打撃、寝技ともに優位に進め、最後は強烈な右ストレートでKO勝ちをおさめた。7月29日に行われるネオブラッド本戦が今から楽しみだ！

梁は、素手での顔面パンチもオッケーという過激なルールでお馴染みの『タイタンファイト』初代王者でもあるのだ。20名参加の素手ゴロワンデイ・トーナメントを勝ち抜いたという自信は大きいはずだ。その後『クラブファイト』でも勝利を収め、今回、パンクラスマット初参戦となった梁。

「今回のネオブラット予選では、自分が一番キャリアがないんで、別にどうにでもなれって思って（笑）。もちろん、出るからには本戦優勝しか考えてないッスけど」

格闘技経験は、わずか2年という梁だが、さすがビッグマウス（いい意味で）直系だけあって、かなりの自信だ。優勝しか考えていないという梁だが、試合直前に膝を負傷し体調は万全ではなかったという。

このあたりのレベルで負けるようじゃ、ランデルマンはブッ倒せないッスから！

「膝、壊しちゃって、まともに練習できなかったんで、そういう面での焦りはありましたね。ダサイ負け方はしたくないなぁって思ってましたね（笑）。まぁでも、今まで2年間、格闘技をやってきたことを信じてたんで。たった2年間ですけど、俺は、この2年間やってきたことは他の誰にも負けてないって自信がありますから！」

何度も言うようだが、梁の格闘技経験は『パワーオブドリーム』での2年間だけ。あとは高校時代、出席日数が足りなかったため、「なにか部活に入ったら赤点を取り消してやる」という先生の言う通りに入部した空手の経験だけなのである（その空手部も幽霊部員だったらしいが）。

学校にも行かず、部活もせずに、梁はいったい何をしていたのかというと？

「ホントに当時は、どうしようもないくらいボンクラでしたよ（笑）。ギャンブルとか酒飲んだり、ケンカしたり、遊びだけはハンパじゃなかったッスね」

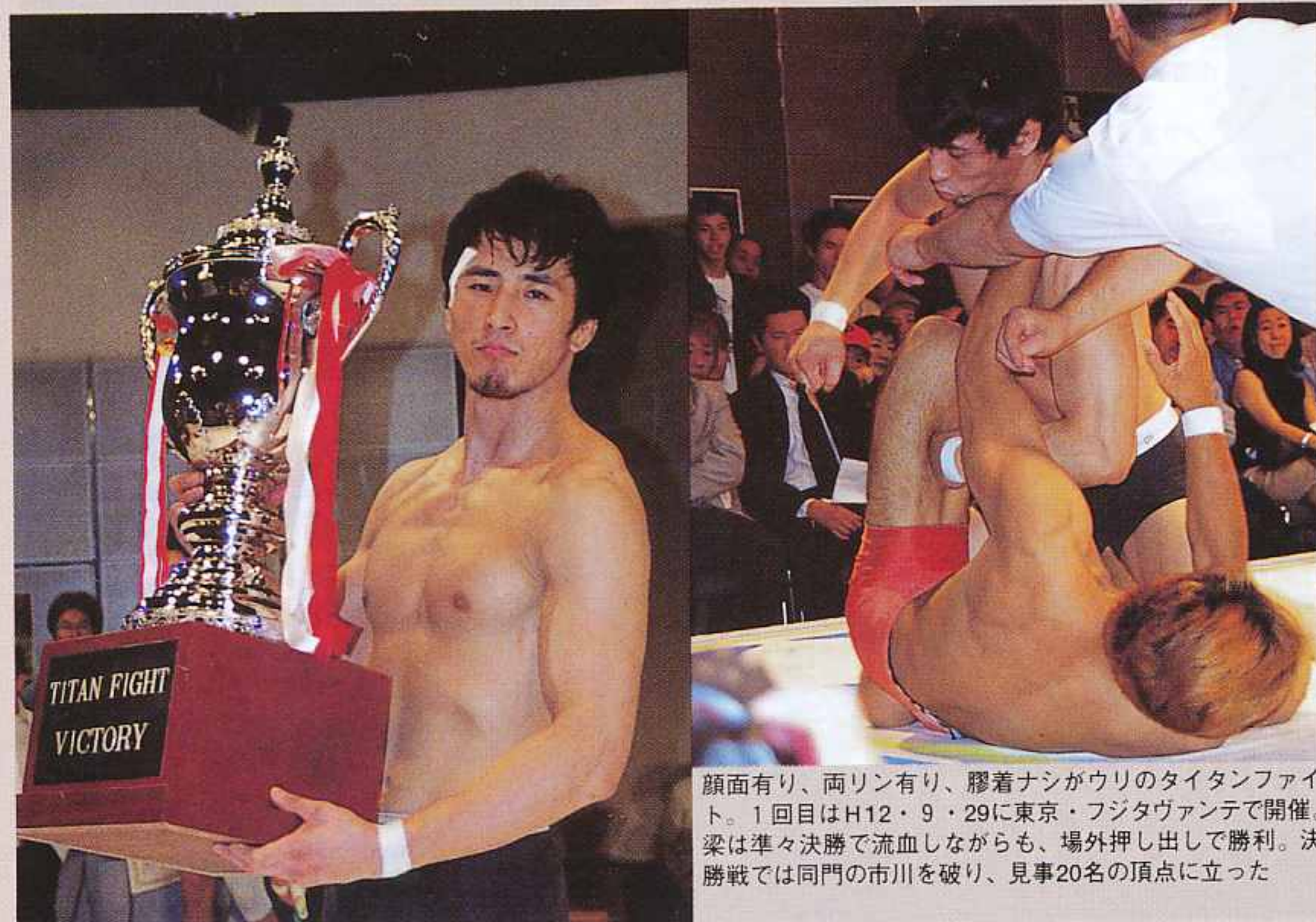
まさに『パワーオブドリーム』！　梁は、前田日明、ヤマケン直系の男だったようだ。

「女友達はそんなにいなかったですけど、ボクが行ってた高校は朝鮮高校っていって、みんなパンチパーマかけてるような奴ばっかりだったんで（笑）、遊びの方向も高1くらいからパチンコとか麻雀やって、勝ったら居酒屋行って『乾杯！』って感じでしたね（笑）」

「ケンカするにしても弱いもんイジメとか絶対しなかったッスよ。そういうところのプライドはあったんで、1人とか少人数を大人数でガーッとはやらなかったッスね。とりあえずは1対1でやって、それがなんか男の勲章だぜ！　みたいなとこがあって（笑）。あとは、酒いっぱい飲める奴が凄いとか、そんな感じでしたね」

そんな青春時代を過ごした梁は栃木の実家から東京まで往復5時間掛けて電車通学していたという。それがダルくてカプセルホテルによく泊まっていたというから、つくづくませたパワーオブドリームである。

当時の武勇伝をいくつか聞いてみた。

「喧嘩するにしても、モノとかは使わなかったですね。タイタンじゃないですけど、素手で（笑）。そんな力はなかったんですけど、そこら辺にいるヤツには気合いと根性だけは負けない自信があったし、どんなにやられても向かっていくっていう自負心っていうか誇り

顔面有り、両リン有り、膠着ナシがウリのタイタンファイト。1回目はH12・9・29に東京・フジタヴァンテで開催。梁は準々決勝で流血しながらも、場外押し出しで勝利。決勝戦では同門の市川を破り、見事20名の頂点に立った

はありましたね」

「でも、そんな数こなしてないですからね。よく言われる昔のワルみたいに何百戦とかしてないッスよ（笑）。ストリートファイトっていっても50回あるかないかくらいですから。結構、俺は危険を察知する能力があるんで（笑）。でも一回、高1の時、大人数に囲まれて、ボコボコにめった打ちされて、歯が折れて、鼻から蛇口みたいに鼻血ボーッって出たことがあったんですよ（笑）。もう何がなんだかわかんなくなって、自分の鼻血見てたら、バァーッと自分じゃない何かが乗り移ったんですよ！　そっから神懸かり的な強さを発揮して、みんなブチのめしたことがありましたね。あれが火事場のクソ力なのかな（笑）」

「そういう、荒んだ高校時代を過ごして、東京の立川にある朝鮮大学に行ったんですよ。マジメに勉強しようと思ったんですけど、結局そこでも高校の延長でした（笑）。一応、大学も卒業はしたんですけどね。自分は教師になりたかったんだけど、結局、教員免許も取れなくてボーッとしてるうちに周りはみんな銀行員とか先生とかになっていくんですよ。で、自分1人だけ取り残されて、栃木の実家に戻って、ズーッと松田優作の『探偵物語』を見てたんですよ。『俺は一体何やってんだ』って（笑）。ホント、ダメな男だと思いつつ、パチンコに行ったんですよ。そしたら、たまたま勝っちゃったんで近くの本屋に行ったんですよ。そこで偶然出会ったのが『紙のプロレス』なんですよ！」

全日系の外人（ロード・ウォリアーズ）&レトロレスラー（フリッツ・フォン・エリック、ディック・ザ・ブルーザー）が大好きだという梁だが、高校時代は遊びが忙しかったらしく、久々に手にしたプロレス雑誌が『紙プロ』だったという。

「エンセンさんが表紙の号なんですけど、そ

第3回タイタンファイト『KYORAKU杯』
4·30 アールンホール

場外パワーボム、両者リングアウトetc. タイタンファイトはプロレスで攻めろ！

ヤマケンvs.グラップラー刃牙実現！

準決勝後に行われた山本喧一対平直行のタイタングラップルルールの5分間エキシビジョンマッチ。どんな試合になるか注目されたが、上の写真のように派手に、互いにめまぐるしくタップを奪い合う展開に。今後は打撃限定のタイタンストライクルール（もちろん素手）も予定されている

タイタン名物（？）素手での頭部へのパンチは、普段聞き慣れない鈍い音が会場内に響き渡り場内が静まり返るシーンも【写真上】レスリング出身のブルファイター・清水優輝は相手を高々と持ち上げ場外へ放り投げるパワー殺法が爆発！【写真左下】ガードポジションを取っていたはずが、そのままパワーボム気味に場外に落とされる場面も【写真右下】

3回目を迎えたタイタンファイトの優勝者は全日本格闘技選手権優勝、武人杯優勝など数多くの実績を持つ真武館の奥田正勝。優勝賞金80万円を手にした奥田は優勝賞金1千万円のタイタンチャンピオン大会への出場権を手に入れた。

「憧れでもあるグラップラー刃牙のモデルの平さんと闘えて嬉しいです」とヤマケン。この日の会場には三島☆ド根性ノ助や桜井速人（お祝いの言葉）なども姿を見せていたが、是非とも次回のタイタンに出場してもらいたい。無理？

梁を生んだ舞台『タイタンファイト』3回目の頂点は奥田正勝（真武館）だ！

ヤマケン対平直行というエキシビジョンながら豪華カードが実現した今回のタイタンファイト。どのような展開になるかと思いきや、開始数秒で平の腕十字が極まり、ヤマケンいきなりのタップ。驚く暇もなく次の瞬間、カニ挟みからヒザ十字で今度は平がタップ。その後も両者は規定の5分間動きまくりの極めっこ合戦を繰り広げた。エキシビジョンと言わず、どこでもいいから正式な試合が見たくなる一戦であった。

しかし、このビッグネーム2人の闘いに負けない、いや上回るインパクトを残すのがタイタンファイトの面白さなのである。

タイタンルールと言えば、拳での顔面パンチ、場外転落で失格というのが二大看板。

しかし、今回から場外転落は2回で失格という新ルールが採用された。この場外転落というのは、UWFやリングスのロープエスケープと比較されるかもしれないが、むしろプロレスの道連れリングアウトやオーバー・ザ・トップロープといった趣なのだ。これがまた抜群に面白かった。

ガードポジション状態の選手を持ち上げパワーボム気味に場外に叩きつけ勝利。バックからスリーパーを掛けられそのまま後ずさりをして同体で場外転落など、プロレス的なシーンが続出。ゲーム性の高いこのルールに、素手での顔面パンチという看板が加わり一瞬たりとも目が離せない。

躊躇なく顔面を殴れるハートと、場外へ押し出すパワー（&ボム）を持った選手がテクニックを封じ込める可能性が高いルールなのだ。そこで、ふとあるプロレスラーが頭に浮かんできた。そう、あの男こそタイタンルール最強の男かもしれない。

相撲出身で容赦ないグーパンチ&顔面蹴り、トドメはパワーボム。そう、あの男だ。

エンセンさんが表紙の号なんですけど　そ

れを偶然見つけて今のボクがいるんですよ。家帰って読んでたら、山本さんのインタビューが載ってたんです。で、ジムを開いてるっていうのを発見して、たまたまボクはジムの近くに行く用事があったんで、ついでに見学してみようって行ったんですけど、『こういう世界があるんだ！』って思って。くすぶってた俺にはこれしかないんじゃねえかって直感があったんですよ」

ジムを見学し、速攻で内弟子となる決意を固めた梁は汗が床に溜まるぐらいの特訓を積み重ね、晴れて内弟子となった。しかし、その生活は生易しいものではなかった。

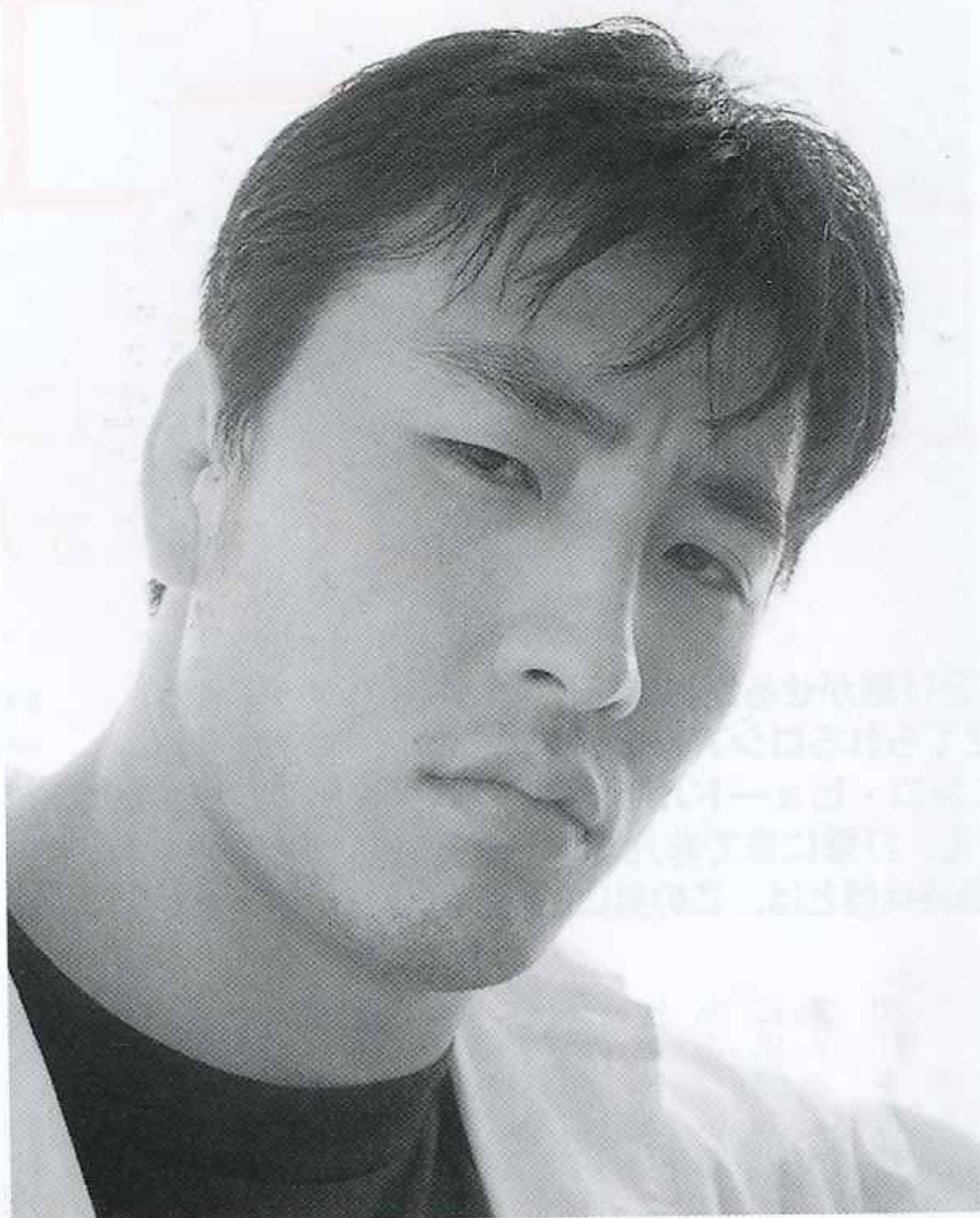
「自分の実力のなさとか、練習のきつさで何度も挫折しかけましたよ。昔のプロレスラーって16とかで入門してたじゃないですか。俺は入ったのが22だったんで、とにかく、その6年の開きを埋めようと、腕立てにしてもスクワットにしても、人の2倍3倍はやってたんですけど、ジム生とスパーリングすると負けたりするんですよ。俺と違って自由もあるし、練習さぼってもいいし、好きな時に来てもいいジム生に、なんで俺が負けるのかって思うと悔しくて悔しくて……」

ジム生が飛びつき十字などのカッコいい技を修得している横で、梁はひたすら基本的な技を繰り返し覚えさせられた。そういった地道な練習の積み重ねの中で『グラップリングの仕組みがわかってきた』という。そこからは驚くべき早さで成長を遂げていった梁。そして、アマ大会を数戦こなし、素手での顔面パンチ有りという過激ルールのタイタンファイトへの出陣が決定した。

「顔面パンチ有り、それも素手じゃないですか？　これは俺のための舞台だなって（笑）。逆に、ここでいい試合できなかったら俺はもう引退だなって思ってたんです」

本格的なデビュー戦の裏では、早すぎる引退も考えていた梁。悲壮な覚悟を胸にタイタンのステージへと向かっていたのだ。

「やっぱり、素手で顔面パンチ有りってルールは怖いですよ！　でも、俺が怖いんだったら相手も怖いだろうって。コイツらより俺の方が絶対に根性あるし、喧嘩もやってきたっていうのがあったんで、そういう意味での気負いはなかったです。それで、流血はしましたけど運良く優勝できたんで凄い自信になったんですよ。そういう意味では、今回初めてパンクラスに上がりましたけど、グローブ付けてるんで、怖さっていうのは全然感じなかったですね」

やっぱり男として目指すところは喧嘩世界一ですから！

Ryo Seiki

りょう・せいき■昭和51年10月21日、栃木県出身。183センチ、86キロ。AB型。平成12年9月29日、東京・フジタヴァンテでのタイタンファイトでデビューし、いきなりトーナメント優勝！／好きな有名人：吉永小百合／趣味：映画鑑賞／好きなミュージシャン：エリック・クラプトン／好きなプロレス団体：NOAH。内弟子時代、働いていた自由ケ丘のパチンコ屋には、木村健吾、永田裕志、三田英津子など、たくさんのプロレスラーが顔を見せていたという

あくまでも、今年の目標は年末に開催予定の優勝賞金一千万円のタイタンファイト・チャンピオンシップだと言う梁。その前に行われる、パンクラスのネオブラッド・トーナメントについて改めて意気込みを聞いた。

「予選の試合を見たら、1人2人結構やるなっていうヤツいましたけど、俺はネオブラッドの価値を高めるような派手な勝ち方で優勝しますよ。ただの若手の登竜門じゃないんだよっていうのをわからせたいですね。ボク、今年で25なんで（笑）」

そう、梁は現在、師匠のヤマケンと同じ24歳。世界に目を向けると、同年齢には、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ヴァンダレイ・シウバ、ビクトー・ベウフォートなど、そうそうたるファイターがズラリと並んでいる。冒頭でも名前を出したが、梁が対戦要望を出している相手は、あのケビン・ランデルマンなのだ。先のUFCではチャック・リデルにまさかのKO負けを喫してしまったランデルマンだが、梁のランデルマンへ対する想いは変わることはない。

「一昨年のUFCでランデルマンを間近で見て、生まれて初めて人を目の前にして足が震えちゃったんですよ。ランデルマン見てそうなっちゃった自分が恥ずかしくて、これは借りを返さにゃいかんと、勝手にリベンジを誓ったんです（笑）。この間のUFCで負けちゃったみたいだけど、アイツはホントの意味でノールーラーですからね。目潰し、金的、噛みつき、何でも有りだったら、ランデルマンかノゲイラが1番強いんじゃないですか？　本気で檻の中で何やってもOKだったら絶対強いですよ。喧嘩世界一って言っても過言じゃないと思いますね。自分も格闘技始めて、やっぱりテクニックではかなわないって感じる人とかいるんですけど、やっぱり男として目指すところは喧嘩世界一ですから！」

目指すは喧嘩世界一！　やっぱり男の子はこうじゃなくちゃいけない。

最後に梁から『紙プロ』読者へのメッセージをお届けしよう！

「よくファンのために膠着はしたくないって言うけど、俺は逆に自分自身のために膠着したくないし、常に面白い試合をしたいと思ってるんで。勝つために手堅い試合っていうは俺には合ってないし、そんなんで勝っても全然気分が晴れないんですよ。自分の試合は誰が相手でも絶対面白い試合になるんで、試合を見に来て下さい！」

7月29日、後楽園ホールで行われるパンクラス・ネオブラッド・トーナメントで3Aの太田洋平との対戦が決定している梁。21世紀版『パワー・オブ・ドリーム』を体現する男・梁正基。師匠譲りの、その熱すぎる闘い模様を、しかと見届けろ！

「ヒカルド・アローナ？彼には80％の力で勝つことができたよ」

アブダビ王者アローナを破ったヴォルク・ハンの魂を受け継ぐ男

エメリヤーエンコ・ヒョードル［リングス・ロシア／ヴォルク・ハン格闘術］

ヴォルク・ハンがその魂を弟子たちに受け継がせるために組織された道場「ヴォルク・ハン格闘術」。現在、最も幻想をかき立てられるロシアの戦闘集団の中で、実力ナンバー1と呼ばれるのが、このエメリヤーエンコ・ヒョードルである。“アブダビ2階級覇者”アローナを完封する組み技の強さに加え、打撃にまで非凡な才能を発揮。まさにヴォルク・ハンが残した最強の遺伝子。北の最終兵器とは、この男にこそ相応しいフレーズだ。

聞き手＆撮影／堀江ガンツ
designed by さおとめの事務所

まさに圧勝だった！

リングスが創立満10年目にして初めて「世界」の冠をつけたチャンピオンを決定するために、4・20代々木で満を持して開幕した『ワールド・タイトル・シリーズ』。

その1回戦で198㎝、135㎏という、巨大化したタンク・アボットのようなケリー・ショールを相手に、わずか1分48秒の間に真っ向からぶん殴り、サバ折りで倒し、腕十字で極めるという、「打・倒・極」全ての強さを見せつけたヒョードル。

「ヴォルク・ハン格闘術」の強さを示すと共に、昨年12月にあのヒカルド・アローナを破った実力が本物だということをまざまざと見せつけ、一躍「初代リングス世界ヘビー級王者の最有力候補」に躍り出た！

代々木大会翌日、そのヒョードルを早速直撃。リングでは決して笑わない男が、微笑みながら静かに語る言葉は自信に溢れていた――。

――昨日はヘビー級トーナメント見事1回戦突破おめでとうございます！　まずはその試合の感想を聞かせてください。

ヒョードル　昨日は試合内容より、ファンにあんなに熱く応援していただいたことに、非常に感動しました。ですから、この場を借りてファンに「ありがとうございました」とメッセージを送りたいですね。

――でも、あの歓声はヒョードル選手のファイトが素晴らしかったからこそですよ。ご自分でも会心の勝利だったんじゃないですか？

ヒョードル　いや、試合自体は「まぁまぁ」という感じです。

――あれで「まあまあ」ですか！

ヒョードル　ええ。常にベストを尽くそうとは思っているのですが、なかなか100％には至らないですね。

――見事な完勝劇に見えましたが、どこが足りなかったんですか？

ヒョードル　試合が長引いてしまったのが反省点です。

――「長引いてしまった」……って、わずか2分足らずじゃないですか！（笑）。

ヒョードル　試合時間の問題というよりも、ファーストチャンスを逃してしまったことが問題です。最初にかけた腕十字で本当なら極まっていたハズなんですけど、私のミスで逃がしてしまった。やはりプロの格闘家同士が闘うのだから、相手が隙を見せた瞬間に極めないと、次のチャンスはもうないかも知れない。だから、チャンスで極められなかったということに憤慨しているんです。

――はっは～、では昨日の試合に限らず、ヒョードル選手は勝ってもまったく表情を変えないところが印象的なんですけど、それは試合内容に納得がいってないからなんですか？

ヒョードル　いや、私はもともと気持ちを表に出さないタイプで、あまりリング上ではしゃぐようなことはしたくないんです。でも、勝って嬉しくないわけじゃなくて、ホントは心の中では飛び上がるような嬉しい気持ちでいっぱいなんですけどね（微笑）。

――ボクは「勝って当然」と思ってるから、笑わないのかと思ってました（笑）。

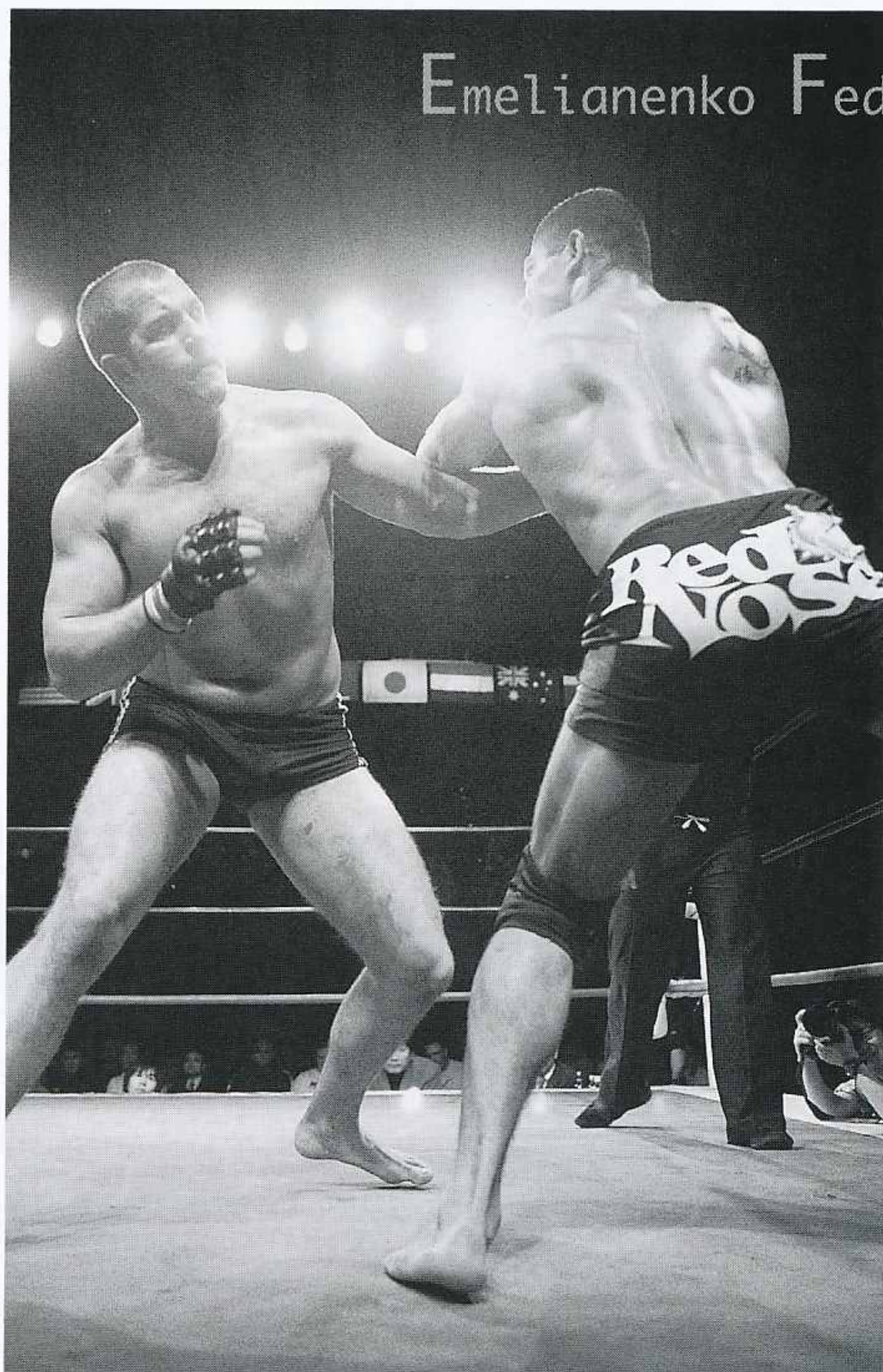
ヒョードル　「勝って当然」とは思ってませんけど、勝つための準備は常に万全ですよ。

――勝つための準備は万全ですか！　確かにヒョードル選手は組み技系の選手とは思えないくらい打撃が上手いから、どんなタイプの相手とでも勝負できそうですよね。

ヒョードル　言われる通り、私は常にオールラウンドの強さを求めています。ロシア語で選手の身につけていない部分を「白い穴」と言うのですが、プロのファイターなら「白い穴」があってはならないんですよ。特にリングスのようなトータルファイトなら、グラウンドがどんなに天才的な巧さでも、打撃がゼロだったら話にならない。闘いのレベルも高いので、打撃も組み技も両方バランスの取れた選手でないとなかなか勝てないんです。ですから我々「ヴォルク・ハン格闘術」の道場には、打撃の専属コーチを二人雇っていて、

リングス初代世界ヘビー級王者
最有力候補

Emelianenko

Emelianenko Fedor■1976年9月28日、ウクライナ共和国出身。96年柔道ロシア選手権優勝、97年サンボロシア選手権優勝、97年サンボヨーロッパ選手権優勝輝かしい実績を持つ。その後、「ヴォルク・ハン格闘術」に入門。いまやリングス・ロシアの新エース。

アローナの寝技は兄弟子ミーシャと比べると、一枚落ちますね

Emelianenko Fedor

2000・12・22大阪　第2回KOKの1回戦で優勝候補と目されていた、ブラジリアン・トップチームのヒカルド・アローナと激突。アローナの弾丸タックルを全て受け止め、終盤スタミナが切れたアローナをスタンドの打撃で追い込み、見事判定勝ち。

この二人から打撃を徹底的に仕込まれています。ですから我々のチーム全体が総合的に強くなっているんですよ。

——ヒョードル選手自身は、打撃はいつから練習してるんですか？

ヒョードル　9ヶ月前ですね。

——まだ9ヶ月なんですか！　すごい上達ぶりですね！

ヒョードル　ええ、頑張りましたから（微笑）。

——では、去年の9月に行ったヒョードル選手の日本デビュー戦は10秒でKO勝ちを収めましたけど、あの時は打撃習いたてだったってことですよね？

ヒョードル　確か2ヶ月ぐらいですね。

——か〜、凄いなぁ。あのときはもう打撃に自信はあったんですか？

ヒョードル　正直言って、「打撃は私の得意分野になるんじゃないか」と思いました。無理矢理教え込まれたというより、自然に身についていった気がするんです。ですから、これから打撃は私の大きな武器になるんじゃないかと思いますね。

——去年の12月のヒカルド・アローナ選手との試合（延長Rでヒョードル判定勝ち）でもかなり打撃が有効でしたよね。あの勝利で日本のファンにもヒョードル選手が「強い」というイメージが広まりましたよ。

ヒョードル　でも、あの試合は自分の打撃に対する自信が少し裏目に出てしまったんですよ。あのとき私はパンチでKOしようという作戦で、それにこだわりすぎた闘い方をしてしまった。本当ならアローナ選手ともっとグラウンドで真っ向から闘ってみてもよかったのだけど、その時はあまりにもスタンドにこだわりすぎたのが反省点です。

——ではグラウンドでもアローナに負けない自信があるわけですね？

ヒョードル　ええ、もちろん（キッパリ）。次にやることがあったら、思い切りグラウンドで勝負してみたいですね。

——二人の寝技合戦は絶対見たいですよ！　アローナは一週間前に『アブダビ・コンバット』という組み技世界一決定トーナメントと呼ばれる大会で優勝したんですけど、それはご存じですか？

ヒョードル　ええ、聞いています。その大会で優勝したように、アローナ選手は強く闘う価値のある選手ではあります。しかし組み技というのは私の世界ですから、細かいルールはよく分かりませんが、私が勝てないものではないでしょう！

——自信満々ですねぇ！

ヒョードル　ハイ（微笑）。なぜ私がアローナ選手に対して自信があるかと言うと、実際に闘ってみた感想として、普段スパーリングを行っている兄弟子の（イリューヒン・）ミーシャと比べると一枚落ちると感じたからです。

——アローナよりミーシャの方が上ですか！

ヒョードル　上です！（キッパリ）。これは私が闘ってみた感想でしかないですけど、ミーシャとやる場合は全力を出さないと私が負けてしまうけれど、アローナ選手の方は休み休み80%の力で闘っても勝てましたから。

——あれで80%とは恐ろしいですね。ハンの道場では、サンボ着を着ないでグラウンドの練習をしているんですか？

ヒョードル　ハイ、いまはもっぱら裸での関節技に磨きをかけています。

——柔道とサンボのチャンピオンだったヒョードル選手にとって、裸で闘うことは、戸惑いませんでしたか？

ヒョードル　戸惑いましたね（微笑）。でも、道着を脱いで練習すると、いままで私が見えなかったものが見えてきたんです。ですから私のグラウンド技術は、柔道、サンボの現役時代より確実に上回っていると思います。

——なるほど。では、このあたりから、ヒョードル選手の強さのルーツを探っていこうと思うんですけど、ハン選手と同じくトゥーラ市（ロシア）出身なんですよね？

ヒョードル　いや、もともと生まれはルベジンというウクライナ共和国の町の生まれです。そして2歳になってベルボロという、ロシアの南方にある、カスピ海と黒海に挟まれた町で育って、最近までそこで過ごしていました。ベルボロでは柔道、サンボをやっていて、ベルボロ州を代表してロシア選抜チームに入っていましたが、1年前にそこを抜けてトゥーラ市に住んでいます。

——なぜ総合格闘家に転向しようと思ったんですか？

ヒョードル　先ほど私が言いました「ヴォルク・ハン格闘術」のムエタイのコーチがいますよね。そのコーチが私とハンの共通の知人で「トゥーラにハンという面白い男が道場をやっているから会ってみないか」と言われたんで、行ってみたんですよ。そしたら、いきなりそこでハンの弟子と対戦させられたんです（苦笑）。

——見学のつもりがいきなり対戦（笑）。

ヒョードル　そうしたら試合後ハンに「非常に強いじゃないか。私が日本でプロ格闘家になれるように君を育て上げるから、すぐにベルボロからトゥーラに引っ越してきなさい」と言われたんです。

——それはまた急な話ですね（笑）。そのころヒョードル選手はリングスという競技はご存じだったんですか？

ヒョードル　聞いたことはありましたけど、それまではテレビでも見たことがなかったんです。でもハンは熱心に誘ってくれて、私を

リングス・ロシア大会の会場に連れていったんですよ。そこで初めてリングスを見た瞬間に「これは私の世界だ！」と思い、気持ちに火がついてしまったんです（微笑）。それですぐにトゥーラに引っ越して、ハンに弟子入りしたんですよ。

――要はヴォルク・ハンにスカウトされたわけですね。

ヒョードル　そうですね。いまになって考えれば、最初にハンの道場に行ったときから、私を弟子入りさせるためのハンとコーチの作戦だったんでしょう（笑）。

――それに見事にハマってしまった、と（笑）。

ヒョードル　でも自分の力を認めてもらえたことは非常に嬉しかったですね。

――ヒョードル選手から見て、ハン選手はどんな人物ですか？

ヒョードル　一言で言うのは非常に難しいですが、まず偉大な選手です。そして勝利に対する意地とこだわり。人生に対する意地とこだわり。それを非常に感じさせる、尊敬できる人物です。

――「勝利と人生に対する意地とこだわり」ですか！　それは我々のイメージ通りですね。実際にハン選手は練習でも厳しいと聞きましたが、普段はどんなトレーニングを積んでいるんですか？

ヒョードル　大体、一日に3回ぐらい練習しています。まず、朝はロードワーク、昼は体力を付けるためのトレーニングとサンボ、そして3回目はレスリングかボクシングを中心としたトレーニングをしています。それと一日に必ずキックボクシングの練習も欠かさないようにしています。

――それはハードですねぇ。あと、これはゼヒ聞いておきたかったことなんですけど、先日、日本のテレビ（ＷＯＷＯＷ）でハン選手のトレーニング風景が放送されて、そのときハン選手が雪の上でスパーリングをしている映像が流れたんですけど、ホントにそんなことをすることはあるんですか？（笑）。

ヒョードル　ええ、実際にロードワークの途中で突然スパーリングを始めることはよくありますよ（笑）。

――あれはホントだったんですか！（笑）。

ヒョードル　ハンは戦場で生きてきた人間ですから、雪の上だろうがどこだろうが、突然襲ってきたりするんですよ（笑）。

――まさに常在戦場！（笑）。でもハン選手は雪の上なんかでスパーリングしたために、ＫＯＫ決勝前に風邪をひいてしまったんじゃないかと、もっぱらの噂なんですけど（笑）。

ヒョードル　それは考えすぎですね（笑）。ハンが体調を崩した理由はオーバーワーク。練習をしすぎて身体の免疫が低下したときに、強いインフルエンザにかかってしまったですよ。

2001・4・20代々木　ヘビー級トーナメント1回戦でアメリカの巨漢戦士ケリー・ショールと対戦。体格差をもろともせず、相手の土俵である打撃で向かっていき、グラウンドに持ち込んでからは、柔道の国際レベルの実力を見せつけ、終始圧倒しての一本勝ち。

Emelianenko Fedor

ハンは「勝利と人生に対する意地とこだわり」を感じさせる人物です

――ヒョードル選手は主に道場でのスパーリングは誰とやってるんですか？

ヒョードル　誰とでもやりますけど、やはりハン、ミーシャ、アターエフが中心ですね。

――アターエフですか！　実はハン選手が「私の弟子でもの凄く強い男がいる」とインタビューで答えてから、アターエフ選手のことが日本で話題になっているんですけど、実際に練習しているヒョードル選手からみて、どんな選手ですか？

ヒョードル　非常にいい選手で、特に打撃が素晴らしいですね。パンチ、キックは破壊力だけでなく、コンビネーションがしっかりしています。そして目立ちませんが彼が最も優れいてるのは、立ち技での相手との距離、間合いを取るのが天才的に上手いことです。

――間合いが上手いというのは、実に重要ですね。

ヒョードル　いまハンがその彼の強みを活かして、さらにレスリング、サンボを教え込んでいる最中ですから、これから総合格闘家として完成していくんじゃないかと期待しているんです。

――ズバリ日本でも通用すると思いますか？

ヒョードル　通用すると思いますよ。なにしろ彼のこれまでの試合結果はふたつしかありませんから。

――ふたつだけというと、何と何ですか？

ヒョードル　ひとつはＫＯ勝ち。もうひとつは、相手に酷い怪我を負わせてのドクターストップ勝ちです（笑）。

――アハハハ！　恐ろしい結果ですね（笑）。

ヒョードル　私も彼とは同じチームで良かったと思いますよ（笑）。

――ヒョードル選手も日本だけでなくロシアでも試合をしてるんですか？

ヒョードル　ハイ。トゥーラで2試合、エカテリンブルグで1試合、そして日本で4試合、計7試合やってます。

――ちなみに戦績は？

ヒョードル　6勝1敗です。1敗は出血でドクターストップを取られたコーサカ戦（00・12・23大阪）ですね。

――じゃあ、ほとんど全勝みたいなもんですね！　では、現在ヒョードル選手はヘビー級チャンピオンを決めるトーナメントに出場してますが、最も強敵になりそうな人は誰ですか？

ヒョードル　これは難しい質問ですね。なぜなら、それぞれの選手に強みがありますから、いまはたくさんの選手と闘いたい願望があります。

――誰がきても大丈夫という感じがボクはするんですけど、ヒョードル選手に怖いモノってあるんですか？（笑）。

ヒョードル　怖いモノですか……う～ん。なければいいですけど（笑）。

ヒョードル　強いて言えば、怪我ぐらいですかね。前回のＫＯＫで負けたのも怪我のおかげだったし、それさえ気をつければ大丈夫だと思います。

――これは優勝宣言と受け取っていいですね？

ヒョードル　いやぁ、私はまだまだ全ての技術のレベルを上げる必要がありますから。まぁ、あまり負ける気はしませんけど（微笑）。

――やっぱり自信満々じゃないですか！（笑）。勝利に対する意地とこだわりを持って頑張ってください！

【01年4月21日／都内・某ホテルにて収録】

さらば、オーフレイム！　されどこの男がいる！

リングスのヘビー級とミドル級の初代王者を決定する『ワールド・タイトル・シリーズ』トーナメント。その1回戦のカードが遂に出そろった！

まず、なんといっても注目なのはミドル級の金原vsアローナ。アローナは先の『アブダビ・コンバット』でサウロ・ヒベイロ、ビクトー・ベウフォート、ジアン・マチャドら強豪をことごとく破り、見事98キロ以下級と無差別級の2階級制覇を達成！『PRIDE』への選手流出が問題となっているリングスとしては、組み技世界最強の金看板を背負ったアローナの凱旋は実に朗報だ。

この飛ぶ鳥を落とす勢いのアローナと相対するのは、KOKで日本人最高位となるベスト4入りを成し遂げた、事実上のリングス新エース金原！　肋骨骨折からの復帰戦がいきなりアローナとは、またしても金ちゃん恒例のボヤキが聞こえて来そうだが、いま最も旬な男であるアローナはある意味美味しい存在。この一戦を制して名実共に〝世界の金原〟になるチャンスだ。勝て、金ちゃん！

そしてヘビー級では、髙阪vsババル戦の日本vsブラジル、ヘビー級至高の技術戦が組まれた！　田村、金原を下し、ジャパン勢に立ちはだかる高い壁となっているババル。『アブダビ』では、アローナに僅差でやぶれたが、打撃が上手いババルだけに、『アブダビ』でアローナと接戦に持ち込めるだけでも驚異的。はたしてTKは、ジャパン悲願の打倒ババルをはたせるか!?

このように、いきなりミドル、ヘビー共に事実上の決勝戦がマッチメイクされた6・15横浜文体。これには、このところゴタゴタが続くリングスの意地を感じずにいられない。ヴォルク・アターエフという〝隠し球〟の投入もあり、いまリングスが揃えられる最高のカードが提示されたといっていいだろう。

6・15横浜。リングスの底力を見よ！

燃えろ　新エース
金ちゃん！

ミドル級トーナメント1回戦
金原弘光 vs R・アローナ
<リングス・ジャパン>　<ブラジリアン・トップチーム>

アブダビ2階級制覇“真”組技世界最強の男
ヒカルド・アローナ
リングス凱旋!!

6・15
横浜

金原vsアローナ、髙阪vsババル決定！
これが現在進行形リングス最高峰の闘いだ!!

ヘビー級トーナメント1回戦
髙阪剛 vs レナート・ババル
<リングス・ジャパン>　<リングス・ブラジル>

噂の“ハン最強の弟子”
遂に登場!!

ヴォルク・アターエフ vs メイサード・マルコム
<リングス・ロシア>　<リングス・オーストラリア>

FIGHTING NETWORK RINGS 10th ANNIVERSARY WORLD TITLE SERIES
2001年6月15日(金)横浜文化体育館開場　18:00／開始19:00
■入場料金　ロイヤルリングサイド￥20,000／アリーナリングサイド￥15,000
リングサイド￥10,000／SS（1Fひな壇）￥7,000
スタンドS￥7,000／スタンドA￥5,000／スタンドB￥3,000
学生特別優待席Ａ￥2,000／学生特別優待席Ｂ￥1,000
■お問い合わせ（株）リングス　03-3461-0257
インターネット予約受付　http://www.rings.co.jp/

その他の決定カード
ヘビー級
イリューヒン・ミーシャ vs ボリス・ジュリアスコフ
<リングス・ロシア>　<リングス・ブルガリア>
ミドル級
クリストファー・ヘイズマン vs アレシャンドリ・カカレコ
<リングス・オーストラリア>　<ファス・ＶＴ>

撮影／吉澤 晃
designed by matsu（Two three）

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

決して人生に保険を掛けることなく
その刹那、刹那を燃やし続けた男

阿修羅・原 人生劇場

ラグビー日本一、国プロ入団、借金、失踪
天龍同盟、全日解雇、札幌潜伏、SWS……
その生き様のすべてを語る!!

芸のためなら女房も泣かす、それがどうした文句があるか。そんな昔気質なプロレスラー像を貫いた男がいる。いつ何時でも阿修羅・原で居続けるために、酒を飲み、見栄をはり、やせ我慢を続ける。そんな刹那、刹那を燃やし続けた結果、莫大な借金を抱え、それでも阿修羅・原であることを貫いた。そんな男の人生劇場をお届けしよう。

聞き手／吉田 豪
撮影／堀江ガンツ
構成／中村カタブツ君
designed by matsu（Two three）

リングスの
を決定する
トーナメント
そろった！
まず、なく
の金原vsア
ビ・コンバ
トー・ベウ
豪をことご
差別級の2
への選手流
しては、組
アローナの

—え～、今日はラグビーの全日本代表から国際プロレス入りし、その後、全日、SWS、WARと渡り歩いた阿修羅・原さんの人生をたっぷり回顧していただきたいと思うんですけど（笑）。

阿修羅　（屈託なく）ん？　まあロクなもんじゃないんだよ。

—いや、そんなことはないですよ（笑）。

阿修羅　やっぱり昨日（5・5FMW川崎球場）も後輩たちと話したんだけど、結局いままでの生き方のツケがいっぱいあったっちゅうか。過去、どんだけひどい生き方したのかっちゅうか。もう、このまま死ぬまで懺悔すんのかな？

—リングネーム通り、修羅の道を歩いてきたというか（笑）。

阿修羅　そう、波乱万丈だったねぇ（笑）。いま思えば、阿修羅・原ってリングネームは、よくつけたと思うけど、そのレスラーになる前から、俺の人生っちゅうのは結局、修羅だったと思うよ。

—その原点のあたりまで振り返っていただきたいんですけど、子供の頃はどんなお子さんだったんですか？

阿修羅　スポーツに巡り合ってなかったら人様から後ろ指さされるようになってたかな（笑）。例えば、自分が「こうなりたいな」って思えるような人間に会ったら、それがヤクザであってもついてくっちゅうか。結局、二番手がいいんだよね。ペケは嫌なんだけど、トップも嫌で。

—常に片腕でありたいというか（笑）。

阿修羅　それだけの存在感を十分示しながら、責任はない、と。そういう立場が合うタイプっちゅうか（笑）。

—それが全日で天龍さんと巡り合って花開いたと。

阿修羅　天龍は年は下だけど、やっぱりハマッたね。いまだにそれを引きずって生きてるし（笑）。

—子供の頃は「片腕になりたい」と思えるような人はいたんですか？

阿修羅　いやいや、子供の頃からそんなこと意識してないよ。でも、いま思えばそういうとこがあったかな？　子供の頃、戦記ものが好きでさ、織田信長だ、家康だって、ああいう武将ものが好きで、その中でも陰に隠れてたのがいたわけじゃない。そういう人間に凄い魅力感じたんだよね。

—珍しいタイプですね。

阿修羅　だから、責任取りたくないんだよ（笑）。

—ダハハハ！　レスラーって「俺が、俺が」で武将になりたい人が多いじゃないですか（笑）。

阿修羅　俺はダメだったねぇ（しみじみと）。

—最初はなんのスポーツをやってたんですか？

阿修羅　最初は相撲とかを庭先でやってたね。体を使うことしかやることがないから。俺たちの時代っていうのは、大根とかニンジンとかガリガリ齧ってた時代だから。いまで言えばなんでもないプリンスメロンとか、そういうものも親とかお爺ちゃんの機嫌がよくないと食わしてもらえないんだよね。だから、遊びの中で相撲なんかしても、強かったりすると喜ばれて、そういうものがもらえるとかね。

—いかに親の機嫌を取るかっていう（笑）。

「阿修羅原」とはよく名付けたモノだよ
結局、俺の人生は修羅だったと思う

阿修羅　そうそう。親の機嫌がよけりゃ、ウマいもんにありつけるっちゅうことが、感覚的にあったんだよね。だから、誰かのために頑張れば、その結果がちゃんと自分に返ってくるっていうことを子供心に思ってたね。ハングリーさなんだろうけど。だから最初はスポーツって感覚じゃなかったね。で、本格的にスポーツをしたのが中学で始めた野球。だけど自分の中ではコンタクト系の、格闘系がやりたいっていうのがあったみたいでモノ足りないわけ、バット振って、ボール投げるっちゅうのが。だから1年間で辞めて。それからバレーボール、テニス、相撲、柔道、陸上、卓球か。

—また、まんべんなくやってますね（笑）。

阿修羅　それだけやったんだよ。それで全てレベル以上だったの、狭い地域の中だけど。そして、高校に入って柔道を始めたんだけど、1年生のときに3年生に負けなかったね。ま、勝つこともできなかったけど。でも、そうすると、レギュラーになれない上級生がイジメをしてくるわけ。そういうのは痛くも怖くもなかったけど、その体質が嫌で柔道部を辞めてブラブラしてたの。そこに、相撲部にいた同級生が「新人戦があるんだけど、メンバーが足りないから出てくれないか？」って言ってきて。だから、1週間だけ相撲の稽古をして出たの。

—付け焼刃で（笑）。

阿修羅　そう。で、個人優勝しちゃったの（笑）。

—凄いじゃないですか！　柔道で倒れない下地があるから、相撲でも大丈夫だったと。

阿修羅　だけど、そしたら相撲部辞められなくなってねぇ。そんな頃、体育の授業でラグビーをやったんだけど、俺は足が速かったし、コンタクトも強かったから、そこで目立ってたの。その体育の先生はラグビー部の顧問もやってたから「ラグビー部も手伝ってくんないか？」ってことになって、相撲の公式戦がない時期はラグビーも始めて。だから、その時期は相撲とラグビーを1日おきにやってたね。2年生の後半と3年生の後半は、そうしてたから、ラグビーをやってたのは2年間で正味3ヶ月。

—でも、そのラグビーで後に日本代表に選ばれるんですからね。

阿修羅　そう。大学は日大、農大、拓大、国士舘の相撲部と東洋大学のラグビー、あとなぜか中央のボート部の6つから勧誘があったわけよ。それで相撲よりラグビーの方がカッコよかったからラグビーに行ったの（笑）。

—ラグビーの方がモテそうなイメージがありますからね（笑）。

阿修羅　その頃はモテるっていうのもないんだけど、そこが一番条件がよかったっていうのもあってね。入学金免除、授業料免除だったから、親に対してもちょっとでも負担がない方がいいっていうのもあって。そして大学に入って本格的にラグビーを始めて、2年生の夏には日本代表に選ばれたの。

—そこまではスムーズな人生ですよね。ラグビーの世界にもかなり豪快な人がいるっていう伝説も聞きますけど。

阿修羅　俺、社会人では近鉄にいたんだけど、ずっと先輩の人で、酔っ払って「電車にスクラム組んでやる！」って言って、自分とこの電車に突っ込んで死んじゃった人がいるらしいんだよ（笑）。

—ダハハハ！　そういう気性が発揮されやすい場だったんですね（笑）。

阿修羅　スポーツなんて勝たなきゃ面白くないし、勝つためにやるもんだと思うわけ。ところがそれを超えた瞬間っちゅうのを自分で見ちゃった、ラグビー発祥の国イングランド代表との試合で。もう真っ白になれたの。で、プロレスに入ってからもそういう感覚を追い求めてるような感じがあって、イングランド戦に近いものを感じたのが天龍との試合。大分の小っちゃな体育館だったけど俺たちは目いっぱい出し尽くしたし、痛いも苦しいも、もちろんなかったわけ。お客さんもパラパラしかいないんだけど、そんなの関係なかったの。それで俺が天龍

撮影／吉澤晃
designed by matsu（Two three）

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

にハマッちゃったの、それをいまだに引きずってる（笑）。

――よっぽどデカかったんですね（笑）。

阿修羅　最初の10年近くかな？　天龍とそういう試合をするまでは、プロレスをしながらもスポーツという感覚がなかったのね。簡単に言えばバカにしてたっていうか。でも、天龍と出会って変わってきたよね。

――それはラグビーでのプライドが……。

阿修羅　プライドなのかなぁ？　国際プロレスに入って半年で海外遠征して、いわゆる下積みがなくて、だから余計に軽く見ちゃってたんだよね。でもあるとき、お客さんの拍手がおかしいと感じるようになったわけ。自分でビデオ見ても納得できるような試合してないし。で、わかったのはお客さんていうのは「この人のファンなんだ」っていうのがあれば、それが勝とうが負けようが、なにをしようが拍手するっていうこと。それで俺は「こりゃ、やり直さなきゃ」と思ってアメリカ修行に一人で行ったわけよ、1万円持って。

――1万円？

阿修羅　家を出る時は3万円持って出たんだけど、タクシーで成田まで行ったもんだから（笑）

――その時点でいきなり2万円も使っちゃったんですか（笑）。

阿修羅　だけど、成田で時計忘れたのに気がついたんだよ。時計がないと外国で不便だと思ったから6千円の時計を成田で買ったわけ。

――ムダ使いしますね（笑）。

阿修羅　だから飛行機乗ったときは4千円しかなくって（笑）。だけど、その飛行機が遅れて次の便まで5時間待ち。もう待ってる間に腹は減ってくるけど4千円しかないから我慢して。なにかあった時、電話ができるぐらいの金は持ってなきゃいけないから。で、向こうでは俺の友だちのジェイク・ロバーツが空港に迎えに来るっていってたんだけど、俺が遅れたから当然仕事に行っちゃったの。それでファンの女の子二人をニューオリンズに寄越してくれたわけ。それでさ、ニューオリンズで腹が減って、もう我慢できなくなってハンバーガー買ったんだけど、女の子もいるし、一人で食うわけにはいかないから、結局そこで4千円パーになって、目的地に着いたときはもうゼロになっちゃって（笑）。

S51年、プロレス転向。その看板の馬鹿デカさだけで、大物ぶりが伺える「原進プロレス転向記者会見」。和製チャールス・ブロンソンと呼ばれた男だけに実にカッコイイ。

――ホント、無計画というか、なんというか（笑）。

阿修羅　面白いっちゃ、面白かったけど（笑）。で、結局半年ぐらい行ってたのかな？　会社の状況や自分の家でもいろんなことがあって、帰ったんだけど。そのときに雪崩式のブレーンバスターっていうのを俺が持って帰ってきたわけ。それとトップロープからフライングのラリアットね。なんにもなかったら帰ってこなかったと思うけど。

――当時「和製チャールズ・ブロンソン」とか言われてましたけど、そのへんは意識してたんですか？

阿修羅　髪の毛が少し長くて、ヒゲが生えてたから雰囲気がなんとなく似てたんじゃないの？　そんだけの話ですよ。「俺はボロンソンだ！」って言ってたけど（笑）。

――ボロンソンって（笑）。国際に入ったのはグレート草津さんの誘いだったわけですよね。

阿修羅　そうそう。ラグビーの先輩で。当時、俺は両膝の靭帯がダメになって、もうラグビーできなくなってたの。で、会社もクビになって、東京に出てきて大学のコーチをやったり、ラグビーの専門メーカーのアドバイザーとかしてたんだけど、「それでもできる」って草津さんが言うから。当時90キロぐらいしかなかったからホントにできるわけないと思ったけどね。でも「できる、金も儲かる」って草津さんが嘘ばっかり言うから（笑）。

――嘘でしたか（笑）。

阿修羅　一回も儲かったことないよ。ま、それ以上使ったからだけど、残らなかっただけの話なんだけど（笑）。

――入ってくる以上に使ったと（笑）。草津さんはプロレスはどういうものだとおっしゃってたんですか？

阿修羅　なにも教えてくれなかった。「俺はなにも教えん、盗め」って。「あんたから盗むもん、なんにもない」って言いたかったけど（笑）。で、草津さんが引退するときには「俺の四の字固めをお前にやる」って言われて、「そんなもん、いらない」って思ったけど（笑）。

――「そんなもん、いらない」（笑）。国際でなにか盗みたいと思ったような選手っていたんですか？

阿修羅　（アニマル）浜口さんだね。あの人の姿勢ね。結局、国際にいた頃はね、手探りだったね。プロレスっていうのをわかってなかったよね。

――体力的には十分対応できたんでしょうけどね。

阿修羅　ただ、大きいのと当てられたらキツかったね。だから2度目のアメリカ遠征はウエイトを増やしたいとも思ってたのね。で、帰ってきたら120キロぐらいになってたから少し楽になったんだけどね。

――当時ルー・テーズが「あとはキャリアだけだ、他は申し分ない」みたいなことを言ってたみたいですよね。

阿修羅　ラグビーのときもそうだったんだけど、俺になにがあったかっていうと、まぁ足は速かったと。そんだけよ。スポーツの原点の部分だけでそこまで行けたと。演出することも余計な脚色もいらんというスタイルでやりたかったっちゅうのは、プロレスに入ってからも一緒だったね。だからこの前の天龍vs冬木戦の記者会見のときもそうだけど、どういう流れなのか知らなかったし、あえてそういうものを知らなくていいと思ってるから、聞きもしなかった。聞いたって、冬木の言ってることはわけわかんないから（笑）。

天龍同盟結成前は、ラッシャーらと、「国際血盟軍」としてのマッチメイクが多かった阿修羅。全日vsジャパンが白熱する中で、阿修羅のフラストレーションはたまっていた。

――天龍さんに出会うまで、プロレスラーとしてはどういうような生活を送ってたんですか？

阿修羅　どうなんだろ？　俺はエースとは違うし。当時は国際が全日本に吸収されて、俺が木村さんと組んで、向こうが天龍、馬場組とか、そういうタッグマッチがあったの。で、俺と天龍がバチバチバチバチーッってやるわけ。で、タッチして馬場さんと木村さんが当たると全く違う。それはそれで、いいのかもしれないけど、俺はあんまり納得できなくて、「これは絶対おかしい！」っていう消化不良

の状態がずっと続いてたんだよね、全日に入ってから。

――当時「ナマクラが多かった」とかってよく言われたみたいですね。

阿修羅　あの頃は長州たちが抜けてお客さんがガーンと落ち込んだ時だったんだよ。でも、他のレスラーは「危機感持ってないんじゃないか？」っていう試合でね。ただ、俺は「お客さんから5千円取ったら、少しお釣りをつけてリングの上から返せ」っていう考え方を持ってたから、ウチのプロレスじゃ絶対ダメだと思ってたね。だから天龍に「なんとかしよう」って言って、後楽園でビンタ張ってみたりね。

――テロリストやってみたり（笑）。

阿修羅　とにかくストレスでいっぱいだったね。いろんなプロレスがあるんだから、「俺が絶対正しい」とは言わないけど、俺自身は自分がやってることが一番正しいんだって思いがあるし、そう思ってやらなきゃできない部分っちゅうのがあるから。で、そういうプロレス観が天龍とはピッタシだったわけよね。

――ジャパンの選手たちが来たときっていうのは、どういう思いだったんですか？

阿修羅　あの頃は、最初俺はいなかったわけだから。家のことでゴタゴタしてて、「もういいや！」ってなって、2～3ヶ月行かなかったときだったんだよ。そのあと馬場さんが「戻って来いよ」っていうようなことを言ってるって誰かに聞いて戻ったんだよね。

――家庭の問題というのは、ぶっちゃけた話どういうことだったんですか？

阿修羅　よく言うじゃん、外面がよくて、家ではダメっちゅうか。そこらへんのケジメが俺になかったんだよね。だから夫婦仲がうまくいくわけなくて。で、女房は、俺が家に帰らないもんだから、会場に行けば間違いなくいるっちゅうんで来たりする。俺からしてみれば、そんなことは当然予想できることなのに、そういうことがあると試合に集中できなかったりと、そんなことが続くもんだから、お客さんにも会社にも迷惑かかるし、やってられないなと思って。

――で、「逃げた」と（笑）。その間の2～3ヶ月はなにをやってたんですか？

阿修羅　知り合いのオカマのとこで面倒見てもらってたの（笑）。

――は!?　オカマですか（笑）！

阿修羅　優しいオカマがいてね。誰が見ても「あいつ、原さんに惚れてるよ」って言うんだけど、俺はそんな意識、全然ないわけよ（笑）。その頃ちょうど全女の（長与）千種たちを可愛がってて、千種、大森ゆかり、ジャンボ掘とかによく飯食わしてやったりしてて、そのオカマのいる店にも行ってたの。そいつはギターの弾き語りやってたんだけど千種たちに言わせれば「絶対おかしいよ、原さん」て（笑）。

――長与さんたちにもわかるぐらいの電波をビンビン出してたわけですね（笑）。

阿修羅　だけど、俺はまったく感じてないわけ。だって、そいつが住んでたマンションで毎日寝てたんだから（笑）。そいつが仕事に出て行くときには、テーブルの上にお金置いて行くわけよ。

――それを生活費にして1日過ごして（笑）。

阿修羅　その時期は外に出なかったね。ちょっと本屋に行くぐらいで。俺、読むものと食い物さえあれば、1ヵ月ぐらい一歩も外出なくても平気っていうぐらいなんだよね。出だしたらダメだけど。その後で全日をクビになって3年間札幌にいたときも、知り合いの寿司屋の2階に居候してて、1日に1回飯食って、ずっと部屋にいても平気だった。たまにプロレスの情報が気になって、隣のコンビニに行ったら、いきなりプロレスファンに見つかっちゃって。それを『ゴング』の小佐野につかまれて。

S62年6月にスタートした天龍革命は、連日連夜、輪島をリンチ寸前まで痛めつけることから始まった。その激しすぎる試合は、UWFの前田に危機感を募らせ。間接的に“長州顔面蹴撃事件”を誘発するほどだった。

俺のプロレスが凝縮されているのが龍原砲時代の1年半だよ、いろんな意味で（笑）

――凄い人生ですねぇ（笑）。

阿修羅　一般的なことで言えば、とんでもないヤツだよね（笑）。でも、俺の性格っていうか生き方なんだよね。例えば、巡業中にホテルで若いのが朝飯食ってる、そしたら自分だけ別のテーブルで飯を食うっていうのは性格上できなかったわけ。若いのと一緒に食って、みんなの払わないと嫌だったの。自分がみんなの分払える金がないときは、「調子悪いから朝飯はいいや」とか言って。天龍もそういう人間だったし。夜なんかも試合終わってシャワー浴びて、下に降りると、若いのがロビーにウロウロしてるわけ。そういうときにどっか連れてってやれないってなったら「今日は具合悪いから、飯はやめるわ」って。

――つまり、男の見栄で生きてるっていうか。

阿修羅　そうしなくてもよかったんだろうけど、俺にはそれができなかっただけの話で。天龍と二人で、地方に出ればそれこそ冬木、川田、小川と新聞、雑誌記者と毎晩ドンチャン騒ぎしてんだから、当然使っちゃうんだよ。当時、こっちはマスコミもひきつけるっていうところでも勝負だったのね。別に、意識してマスコミを連れ歩いたわけじゃないけど彼らも俺らといる方が楽しかったんだよ。凄い前向きだし、燃えてるから、こっちは。

――リング上でもリング外でも闘っていたと。だけど、いくら金があっても足りないですよねぇ（笑）。

阿修羅　稼いだ分より出る方が多いんだよ。だから「天龍、いい加減にしてくれよ」って言いたいし、「こいつ、しぶといな」とも思いながら我慢して（笑）。そういう部分でも勝負してたから。

――当時の伝説はいろいろ聞いてるんですけど、飲みに行って、他の席に財布をなくした人がいたら「この場は俺に任せろ」って言って天龍さんが払ったとか（笑）。

阿修羅　そうそう。雑居ビルの飲み屋入って、「この階の店、全部行こう」とか「この店のヘネシー全部出せ！」とかさ（笑）。

――ホント豪快な話ですよね。しかし、全女の選手にまで奢ってたとは知りませんでした（笑）。

阿修羅　千種が同郷だったから。あいつらあの頃は年間3百試合以上やってて、苦しかったの知ってたから。だから東京でも地方でもスポンサーを紹介したりだとか。「招待券だけ渡せ、あとはこっちでセットしとくから」とか言って、俺のスポンサーに渡してね。六本木の叙々苑なんてよく行ったよ。あいつら、食うわ、飲むわ、凄いんだもん、禁酒なのに（笑）。

――女子だからって侮れないですよね（笑）。それで話を戻すと、オカマの方のところにいたときに馬場さんから連絡が来たんですか？

阿修羅　どうやって知ったんだろうねぇ？　もうその頃は、どっちでもよかったっちゅうか。

――天龍さんとの試合で燃える前ですらね。

阿修羅　（聞かずに）いまはお金に執着もないし、ラグビーだって、とりあえず日本の中では頂天に行ったし、プロレスも経験したし、自分自身のことでやり残したことはないわけ。ただ、そのために相当周りが犠牲払ってて。親を始め、女房、子供。特に子供のことなんだよね。子供が小学校、中学校時代の多感な頃に一緒にいてやれな

撮影／吉澤 晃
designed by matsu（Two three）

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス

スーパースター列伝

かったっていうのがあるから、いま近所の子供たちにスポーツを教えたり関わりたいわけよ。自分の子供にできなかったからってよその子っていうのも違うんだろうけど。

――罪滅ぼしってわけでもないんでしょうけど。

阿修羅　俺は大人の世界っちゅうか、駆け引きが嫌なんだよね。根回しをした談合文化だからさ、そういうテクニックが必要な生き方っちゅうのは、凄い嫌なんだよね。子供たちとは駆け引きいらないわけでしょ？　だから凄い気持ちよくいられるし。俺、できれば神様になりたいよ。

――神様ですか（笑）。

阿修羅　全ての人を嫌いにならないように心がけてるけど、嫌いなヤツっているから（笑）。実際、俺は年金暮らしで、経済的には親から面倒見てもらってるんだけど、食事の世話から、炊事、洗濯して、夕方から中学生と高校生をボランティアで教えて。でもそれは俺の自己表現だから。「俺は過去、日本代表のラグビーの選手だった、プロレスラーだった」じゃあ生きていけないわけ。いまなにしてるかが問題なの。だから俺はむしろありがたいと思ってやってるし。

――まぁ、やっぱり全ての人を好きになるのは難しいでしょうしね。

阿修羅　だから、子供たちはいいよ。中学生に教えて、帰りにみんなにジュース買ってやろうとしたら、「師匠はいつも同じ服着てるから」って遠慮するんだ。俺に金がないと思ってんだよ（笑）。だから一応「応援してくれる人がいるから、大丈夫だよ」って買ってやるんだけどさ、その子たちに「見返りを求めるな」っちゅう話をしてたらさ、こないだのバレンタインのときに女の子がチョコレートくれたんだよ。で、「ホワイトデーっちゅうのは、なにを返すんだっけ？」って聞いたら「いや、師匠、私たちは師匠にあげたいからあげただけ、お返しはいらない」っちゅうんだよ。だから子供たちと会うのが一番楽しいわけ。いつまで続くかわからんけど、それだけ過去がいい加減だったってことで（笑）。絶対バランスだと思うから。

――お子さんの大事な時期っていうのが、ちょうど天龍同盟の時期と重なるわけなんですか？

阿修羅　いや、そこも含めて、俺がいなくなって札幌でプータローしてた時期とか、いろいろ。でも息子は俺のことを凄い自慢してたみたいで。だから辛かっただろうと思うよ。毎日一緒にいたわけじゃなかったのに（笑）。

――天龍同盟時代なんていうのは、ホントに毎日飲んで、ギリギリの試合して、全国を周っての連続だったわけじゃないですか。そりゃあ家には戻れないですよね。

阿修羅　……戻れなかったねぇ。

――天龍さんも、あの頃は家族に迷惑をかけたって言われてましたけど。

阿修羅　俺なんかは、天龍にも家族にも迷惑かけたんだよね。でも、そういうのも修行のひとつだよね、いいように解釈してたけど。「俺はまだまだ人間として若い時期で、いまは修行中なんだ」って（笑）。

――当時は修行としてもの凄い量のお酒を飲んでたって話ですよね。

阿修羅　俺は基本的に酒好きじゃないから飲まなかったんだよ。でも天龍と組むようになってからは飲んでたね。試合終わったら、大ジョッキで10杯ぐらいビール飲んで、それからボトル1本を毎日飲んでもなんともない（笑）。それだけ汗もかいたし、目一杯仕事もしてたし、ホントに控室に戻ったら、立てなかったからね。腰も悪かったし。でもリングに向かうとちゃんとしてるわけよね。これはやった人じゃないとわかんないだろう

「ぬるま湯に浸かってる鶴田の目を覚まさせる」ために結成された龍原砲。地方のどんな小さな体育館でも連日20分以上という正気の沙汰でない激闘を展開。これが現在の四天王プロレスの礎だ。

さらば、オーフレイム！　されどこの男がいる！

リングスの
を決定する
トーナメント
そろった！
まず、なん
の金原vsア
ビ・コンバ
トー・ベウ
豪をことご
差別級の2
への選手流
しては、組
アローナの

けど、馬場さんだってリングに上がってたじゃない。普段なんか、「おい、おい」って感じだったんだけど（笑）。俺はいま自分自身のトレーニングもしてないし、膝もまだ悪いから、昨日なんて、いくらレフェリーといえども、リングの上ではどうなるかと思ってたの。でもね、やっぱり意識が違うんだね。物理的に完璧であるわけがないし、ない筋肉が動くわけないんだけどリングに上がると違うんだよね。楽太郎さんの奥さんがあとで電話かけてきたけど「よく動いてたよ、信じられない」って。いつも俺が歩いてるの見てるから。

――問題なくレフェリーやれてたって、評判でしたけど。

阿修羅　だけど、いま、暗くなると目がよく見えないの、石川に蹴飛ばされたツケで。目はね、当時から相当調子悪かったけど、いつものことだと思って放っといたの。でも1年経ってもおかしいから、眼鏡屋に行って度を合わせようと思ったわけ。そしたら「これはウチじゃなくて病院行ってください」って言われて、そしたら眼下底骨折してたの（笑）。

――つまり、骨折したまま1年ですか（笑）。

阿修羅　だから戻んなくなっちゃったの（笑）。いま、上下にピントが合わないわけ。で、暗くなったりするとダメ。

――いろんなリスクを背負ってきたんですねぇ……。

阿修羅　ラグビーのときに、すでに俺はスポーツで死んでもいいっていう思いでグラウンドに出たことあるから。あとは「もう俺はこれでいい」ってときに腹を切って死ぬかだな。

――全日時代に3年間いなくなったって話がさっきも出ましたけど、当時は借金問題だなんだって騒がれてましたよね。

阿修羅　そう、借金問題（キッパリ）。

――ズバリそうですか！　それは飲み歩いたツケってことだったんですか？

阿修羅　飲み歩いたツケもあったけど、一番大きいのは身内だったんだよ。長い間、ちょっとずつ借りてたのが、「これだけになった」って言われて。でも、俺に言ったってしょうがない。それで知らないうちに間にヤクザが入ってきて馬場さんに話がいっちゃって。それで俺は会社にこれ以上いられないと思って、高輪プリンスのロビーからスーっと消えたの。俺がいなくちゃ話にならんだろうと思って。

――会社に迷惑がかかるから、行方をくらますしかなかったと。

阿修羅　ホントはそれじゃ解決しないのに、その瞬間はとりあえず。で、身内だったから……。

――大ごとにもできないし。

阿修羅　ましてや、高輪プリンスホテルのロビーで変なことになったらまずいし。「とにかくこの場はかわさないと」と思って。で、その後に自分から訪ねて行けばよかったんだろうけど、そんな気になれなくて……結局は逃げたんだよね。それが一番よくない。だから無責任なんだよね、性格が。

――ただ、プロレスに対しての未練は当然あったわけですよね。

阿修羅　当時は、そんな個人的な問題を含めて、しょうがないって考え方っちゅうか。どうだっていいっていうか、破れかぶれで。でも自分では、そんなにマイナス的な意味での破れかぶれのつもりではなかったんだけど。でも、結局は逃げてんだよね。

――とはいえ、3年は長いですよねぇ……。

阿修羅　でも、プロレスにカムバックするために隠れてたわけじゃなくて。だからSWSのとき天龍から連絡があったときも、「同情だったらやめてくれよ」って言って。ただ、天龍からは「横浜アリーナでビッグイベントやるから、その1試合だけでも」ってことで言われたから、「少しでも役に立つんなら、その1試合だけ出るのは構わない。でも、可哀想だからなんとかしてやろうって意識があるんだったら、もういいよ」って言ったの。だって、その1試合に借金取りが押しかけてくる可能性もあるわけだから。「そういうリスク背負ってでも、本当に俺が必要だったら、その1試合は出てもいいよ」って言ったの。借金取りが来たらまた逃げりゃいいと思ってさ（笑）。

――そういうリスクもあったんですね（笑）。SWSってことで、たぶんギャラもいいだろうから、そのへんで助け舟を出したいっていう思いもあったんでしょうね、天龍さんには。

阿修羅　本心はきっとそういうのもあっただろうね。俺はもちろん天龍と合体したことで、自己表現の場がドーンと広がったし、そこそこ花も開いたわけだから、当然感謝もしてるし。それに当時、天龍はSWSの中で自分の思うようにこなせないっていうストレスがあっただろうから、俺が行くとちょっとはホッとするのかなって思ったけど。ただ、ホントにそれだけの理由だったら俺にお金払った社長が可哀想だと思って、「俺が出て来たからって、お金使わなくていいから」って言ったの（笑）。

――だけど結局、若い選手と一緒に飲んでたわけですよね（笑）。

阿修羅　天龍は若いヤツに「お前、飲めないの？」って感じだったんだよ。俺は「絶対無理するな」って言ってたんだけど。だから、若いヤツが天龍から言われたら、俺の顔見て「助け舟を出してくれ」って信号出して（笑）。俺は「飲みたかったら飲め、無理はするな」って言ってたんだけど。

――全日時代、SWS時代、WAR時代とずっと一緒に飲んできたりしたと思いますけど、どの頃が一番印象深いですか？

阿修羅　やっぱり、龍原砲時代が時間的にも、量的にも多かったよね（笑）。1年半に凝縮されてるけど。俺のプロレスが凝縮されてるのは、あの1年半だよね、いろんな意味で。

――リング上でも、リング外でも破天荒（笑）。

阿修羅　田舎のバス停の標識なんか、よく道路に投げてたから（笑）。

――酔った勢いで（笑）。

阿修羅　そうすると若いのがちゃんと元に戻して（笑）。でも、俺は酔っ払ったことは一度もないね。完全に自分の意識がなくなるようなことはない。やっぱり天龍があぁいう性格だったから、俺は常に気配り、目配りは欠かせないしね。

――そこでも右腕として（笑）。

阿修羅　そういう性格なんだよ。だから人といると疲れるわけ。「この人、ホントに楽しいのかな？」とか、そういう気配りをする方なんだよな。

龍原砲時代は毎日ブッ倒れるまで試合して、その後はビールジョッキ10杯、ボトル1本空けてた

――羽根を伸ばしきれないわけですね。いい意味で男の見栄の塊というか（笑）。

阿修羅　結局、俺はそれだけで生きてきたから（キッパリ）。自分でそうは言いたくないけどね。

――引退試合のときに、ご家族がリングに上がられて、天龍さんが「ずっとお借りしていた阿修羅を返します」って言ったのが感動的だったんですけど。

阿修羅　ただ、俺にしてみれば、結局はなにもしてやれなかったんだから。言葉ではなんとでも言えるけど結局、それは自分の気持ちだけの問題で、相手の役には立ってないって俺は思うから。

――その時点では奥さんとは別居状態みたいな感じだったんですか？

阿修羅　俺が一方的に家を出ちゃってるだけで。ホテルに泊まったり、全日の合宿所に泊まったりだけど、いまだに籍はそのままなんだよね。いまはなにもできないけど、もし俺が将来なにかできる

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

ことがあれば、女房と子供にはなんかしてやりたいってことで、籍はそのままにしてあるの。

――借金問題は解消されたんですか？

阿修羅　SWSのときに。

――それでチャラになったわけですね。

阿修羅　支度金をくれたから。天龍が一生懸命やってくれて。その支度金が全部そっちに行っちゃうもんだから、天龍が社長に「3年契約で、月30万返すから、あと一千万！」って。それを紙袋に入れて「いいよ」って社長が（笑）。

――さすが田中社長ですね（笑）。

阿修羅　でも、そういう金も、結局は税金のことなんか考えもしないで、若いヤツとバーッと使っちゃって。3年契約だったから、1年間ぐらいは思いっきり使って、あとの2年で少し貯めて、引退して田舎に帰ろうと思ってたんだけど、1年で……。

――会社が持たなくて（笑）。

阿修羅　で、メガネスーパーの社長の弟が長崎で眼鏡屋をやってるんだけど、「原さん、引退したらウチの会社に来てください」って言ってたんだよ。で「月給は百万ぐらいでいい？」とか言うから、長崎で百万もらえば、そんない話はないと思ってたの。そしたら、その会社も潰れるわ（笑）、SWSは潰れるわ（笑）。思い通りに行かないのが世の中だよ。いままでの自分の生き方っちゅうのが相当ひどかったんだと思うよ。だから7年経ってもこうなって。ときどき義理ごとに困るんだよね、決まった収入がないと。いまは親の年金が月に3万円で……タバコだけは吸うんだけど、月に1万5千円ぐらいかな？　俺とお袋と親父の食費なんていったら。

――え？　それだけですか？

阿修羅　農家だったから、田んぼあるの。3人が1年で食べる分の米は人に作ってもらってて、野菜は畑で作ってるから。この年になれば、親父もお袋も80だから、肉なんかそんなに食べたくないし、たまに魚食べるぐらいで。魚なんて釣れるし。高校にラグビー教えに行った帰りに、美味そうなもんあったら食いたいと思うけど「千円」て書いてあると「千円あれば、ヘタすりゃ俺たち3日生きていける」と思うと使えないよね。だから、結婚式だ、葬式だっていうのが困るよね。行ってやりたいけど、行けないとか。こないだも後輩の結婚式にお祝いをあげられなかったから、日本代表のネクタイをやったりして。そっちの方がどんだけ大事かわかんないけど（笑）。

――それも男気ですねぇ。

阿修羅　そんなカッコいいもんじゃないよ（笑）。

――引退後、IWAで一時期コーチをされてたって噂を聞いたんですけど。

阿修羅　コーチっちゅうか、「近くで練習やってるから見に来て下さい」って言われたから行ったら、あまりにもひどいから1～2回練習を見てやっただけの話で。正式にコーチやったとか、そういうんじゃないよ。

――ところでどうですか、いまのプロレス界は。たとえば昨日のFMWを見て。

阿修羅　全然見なかった。ある人が「一切見ない方がいいよ」って言うから（笑）。レフェリングも、俺はレフェリーなんかやったことないわけだから、かえって前の試合なんか見ちゃったら、難しくなっちゃうかもしれないから。ずっと控室にいたよ（笑）。俺は結局シリアスしかないから。

――ダブルメインはどちらもいい試合だったみたいですね。

阿修羅　そう？　でも、体調がよければ、俺でもできる試合内容だと思ったから。俺なんか、最後のWARのとき、ヘッドバットとチョップとラリアットぐらいしかしたことないもんね。

――新日と絡んだときも特に際立ちましたよね、そういう技数の違いっていうのが。

阿修羅　だって、俺は天龍のタックル一発受けただけで、お客さん引き付けられる自信あったもんね、受身で。

――いまのプロレス界は、単純にそういう説得力がなくなってきてるんですよ。

阿修羅　攻めることは素人にもできるけど、受けることは絶対素人

H3年8月、「源ちゃんにこの命預けた！」とSWSで2年10ヶ月ぶりの復帰をはたした阿修羅。いきなり谷津＆ハクやウォリアーズと激闘を展開。

H6年10月29日、天龍の「阿修羅を家族にお返しします」の名セリフとともに、完全燃焼で引退した阿修羅。しかし、阿修羅が家族の元へ帰ることはなかった……。

俺は天龍のタックル一発受けた受け身だけで客を引きつける自信があった

にはできないから、それだけの違いしかないと思うよ。それこそ大学あたりの器械体操の選手にプロレスやらせたら、とんでもないプロレスがいっぱいできると思うんだけど、空手チョップ一発でも受けられるかっていったら、それはできないから。素人とレスラーの違いはそこだけだろうと思うけど。

――冬木さんはいまエンターテイメントな方向で進めてますけど、そういうものに関しては？

阿修羅　俺は根っこの部分では、天龍も、冬木も、俺も、川田も、みんな同じもんが絶対流れてると思う。でも、天龍と俺をあれだけ見てたあいつが、あんなふうになるなんてっていうのは正直思うけど。冬木のことは、俺はいまだに坊やだと思ってるし（笑）。俺より半年遅れて国際入ったんだよ。その頃はまだリング屋さんで、スクワットと腕立てしかしてなかった（笑）。「高校でスポーツやってたの？」って聞いたら「なんにもしてない」っちゅうんだもんね（笑）。

――川田さんはどうですか？

阿修羅　昨日ちょっと天龍と話したんだけど「川田は変わったのか、もともと変わってるのか、どっちなんだろう？」って（笑）。

――昔はどんな感じだったんですか？

阿修羅　冬木より下の若手だったから、自分を出せる状況じゃなかったけど、やっぱり「変わってたんじゃない？」って結論で（笑）。

――そういえば小橋さんたちにも奢ってあげたりしてたみたいですね。

阿修羅　小橋、小川、菊池はね、俺、道場にいたから、そのときは金なくたって自分が飯食わせなきゃいかんと思って、自分が食いたい

さらば、オーフレイム！　されどこの男がいる！

リングスの
を決定する
トーナメン
そろった！
まず、な
の金原vsア
ビ・コンバ
トー・ベウ
豪をことご
差別級の2
への選手流
しては、組
アローナの

と思ったら「一緒に行こう」って、仕方なく（笑）。だから俺、Sで復活したときに、横浜に住んでたんだけど、横浜のクラブに行って小橋に電話したら、すぐ飛んで来てくれたもんね。嬉しかったよ。まぁ、飯を食わせたから来たわけじゃないんだろうけど（笑）。俺は見栄っちゅうか、人が喜ぶのが嬉しいんだよ。人の喜びを自分の喜びって感じられるようになりたいと思ってるから。

──プロフェッショナルな姿勢ですねえ。

阿修羅　WARと一緒にやってたLLの若い女の子たちは、よく可愛がってたから、あいつらが長崎に来ると、「ああしてやりたい、こうしてやりたい」って思うわけ。でも、それができないときは、会場に行けないわけ。ホントはそれじゃいけないし、あいつらも「原さん、私たちも頑張って、自分でちゃんと食べてるんだから、大丈夫ですよ！」って言ってくれるんだけど、俺は行けないんだよ。昨日も大向と、遠藤と、青野とAKINOが来て、一緒に飯食いに行ったんだけど、俺は若いヤツには自分がしてやらなきゃっていうのがあるもんだから、できないときは辛くてさ、飯が喉を通らないよ。これも性格だからしょうがないよね。

──天龍さんが当時、若い選手をクラブとかに連れてったのは「稼いだら、こういうことができるようになるんだっていうことを教えてあげたかった」って言ってましたけれど、そういう思いも？

阿修羅　そういう気持ちも当然あったけど。でも天龍も無理してたとこ、随分あるからね。

──天龍同盟が1年半しか続かなかったのも、しょうがないって気がしますね（笑）。

阿修羅　全日辞めるとき馬場さんにも7百万ぐらい借金あったんじゃないかな？　前借り、前借りで。「それ、返さなくていいから辞めてくれ」って言われてねぇ（笑）。

──チャラにしてもらえたんですね（笑）。

阿修羅　だから、スッと行けたの（笑）。

──いい話ですねぇ。馬場さんに対する思いっていうのは、いまはどうですか？

阿修羅　まぁ、馬場さんに対しては、迷惑かけてばっかりで、あの人にはいろんな意味で感謝してるよ。それだけしかない。

──じゃあ鶴田さんに対しては？

阿修羅　ジャンボのイメージは、簡単に言えば天才っちゅうか。天龍と俺は一生懸命稽古して、試合に臨む。で、試合終わって俺たちは10分経っても息が上がってたのに、あいつなんか試合終わった瞬間から涼しい顔して、稽古もどこでしてんだか、見たこともないし、パンパンの体もしてないのに、全ての面で、スタミナから、パワーから、テクニックから、天才だったよね。だから、彼は能力があまりにもありすぎたから、逆にマイナスになったちゅうか。でも、あいつは凄いヤツだったと思うんだよ。

──ボクはアメリカに行く直前に会ったんですけど、「天龍さんたちに顔をガンガン蹴られて、気持ちよく寝てたのを起こされた、でもそれは凄い感謝してます」って言ってましたけど。

阿修羅　そう？（うれしそうに）俺と天龍が、輪島に対しても思いっきりガンガン行ったのは、あのジャンボと輪島が起きたら全日本は凄くなると思ったからなの。だからあえてボロボロにやられるっていうリスクを背負いながらも、行ってたよ。俺たちなんかは、ホントに全日本のためにやってたの。特に輪島の場合なんか1年未満のキャリアで、俺たちと同じレベルでなんてやれるわけがない。じゃあなにを引き出すかっちゅったら、蹴るしかなかったのよ（笑）。それで、どう出てくるかって、それだけを引き出すために。でも輪島はいい人だったよ。

──ただ、あれだけ結束の強かったように思えた天龍さんたちが、みんな見事にバラバラになっちゃったわけなんですけど、これはどうしてなんですかね？

阿修羅　それは天龍に聞いてみなきゃわかんないだろうけど、ホントのところはなんだろうね？　俺もわかんないね。けど、基本のとこで同じものを持ってるし、つながってる部分っちゅうのはあるんだけど、表現の仕方がそれぞれ違うって考えるしか、しょうがないっちゅうか、俺にもわかんない。いろいろ言うヤツはいたよ。「俺にそんなこと言ったって無駄だよ。俺にとっては最高のパートナーだよ、公私ともに。だから、お前がなんか言っても俺は天龍を疑わない」って言ったことあるけどね。

──辞めた人たち何人かに話を聞いたんですけど、天龍さんの批判みたいなものは出てこないですからね。

阿修羅　そういうことだよ。

──いま、お子さんたちと接しててわかると思うんですけど、プロレスの知名度ってかなり落ちてるじゃないですか。

阿修羅　K─1は凄いよね。

──あと『PRIDE』とか。

阿修羅　やっぱりプロレスっていうものの原点に帰るべきだと思うけどね。話題であるとか、そんなものばっかりに走らないで、お釣りをつけて返してみろっていうこと。それでお釣りを返す試合をしたら、次につながるんだよ。いま、そんなに見てないけど……。

──お客さん呼ぶための小細工に力が入ってるんですよね。

阿修羅　そこじゃなくて、もっと原点に帰って、リングの上で見返せっていう考え方しか俺はできないんだけど。プロレスなんちゅうのは、リングの上で答えを出せばいいと思うよ。そこに思いっきり力を注いで、もう一回見直してみればどうかなと思うよ。それは当たり前のこととして、あるべきなんだと思うよ。まぁ、それをやってきたから俺なんてもう身体はボロボロで、歯もガタガタ。上の歯なんて一本しかないけどね。

──わ！　ホントに一本しかないんですね。なんで入れ歯とか作らないんですか？

阿修羅　金がねぇんだよ！（笑）。

──す、すいません！　ヤボなこと聞いちゃいました（笑）。

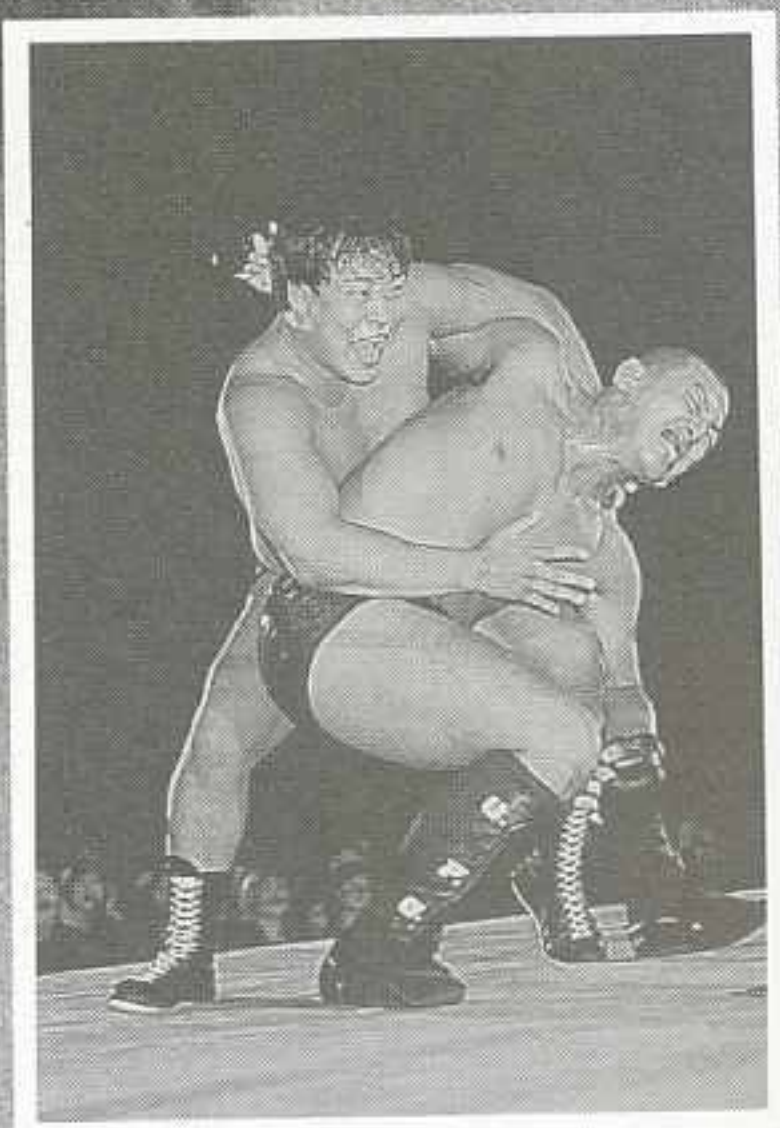
【00年5月6日／都内某ホテルにて収録】

昭和プロレスの凄みに触れる実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

天龍は俺にとって最高のパートナー　誰が何と言っても俺は天龍を疑わないよ

WAR（天龍）、引退（阿修羅）、全日本（川田）、FMW（冬木）、ノア（小川）と、いまやバラバラとなった天龍同盟。もう2度とこのメンバーが一同に会すことはないだろうが、天龍同盟はマット界に確かな足跡を残した。

S16年1月8日、長崎県出身。東洋大、近鉄とラグビーで活躍し日本人初の世界選抜に選ばれる。S51年に国プロ入り。国プロ崩壊後全日入り。身体の頑丈さには定評があり、新日本から移籍したばかりのハンセンが阿修羅との試合を連日希望したのは有名。誰よりもプロレスラーとしての生き様を貫いた男である。181cm、120kg。

撮影／吉澤 晃
designed by matsu（Two three）

5周年のバトの
"熱"を一番身近で
感じた男
島田"ノゲイラ"裕二が
スペシャルリポート!!

5・10 駒沢

5周年記念大会に バト魂(こん)は見えたか

俺の創ったバトラーツにそんな小細工はいらねぇんだよ クソッタレ!!

勢につけ!!

石川雄規を破った村上一成に向かって、試合終了後に大谷晋二郎が「逃げるか村上！　受けるか？　いま返事しろ！」と対戦要求。これに石川雄規が激怒！　写真の上のセリフを聞き取れない勢いで叫んだ！　情念！

最近よくバトの会場で聞かれていたのは、試合に熱がないとの声だった。確かに選手もキャリアを積み、みちのくから『PRIDE』まで、あらゆるリングに参戦してバトラーツブランドの名は上がってきた。その反面、選手の闘い方に変化が見え始め、バトラーツは危ないとの声もチラホラ上がってきた。

プロレスとは何か？　最近僕は石川社長と話をする。彼のプロレスに対する情念はまさに正気の人とは思えないほど熱い。これをリングで表現できたらと思っている矢先に、社長にもってこいの獲物が現れた。村上一成である。村上の狂気と石川の情念がぶつかりあえば凄い試合になるだろうと直感した。

去年の11月の駒沢で初の一騎打ち。僕の予感は、的中したのだ。この日までに溜めに溜めた二人の感情が激しくぶつかりあったため、レフェリーをしている僕でさえ、鳥肌の立つ試合となった。まさにそこには、石川の言う、語り合えるプロレスがあった。

しかし、見る方に届かせるにはまだまだ時間のかかる作業が必要であろう。バトラーツが何を見せたいのか、バトファンは何を望んでいるのか？　いま一番のテーマは、バトラーツ魂、略してバト魂（こん）は果たしてあるのか？　ということだ。

プロレスは、強じんな肉体と魂のぶつかり合い、あるいはアントニオ猪木氏の言葉を借りるならば〝怒り〟の表現の場であろう。

昔、旗揚げした時に見せた、チーム・タコに蹴られても這い上がり向かっていくアレクの顔。来る日も来る日も先輩に負けて悔し涙を流していたヨネ。バトラーツなんてすぐ潰れると言われ「絶対潰さない」と世間に噛みついた石川の思い。すべてがバト魂だった。不安がないとは言わないが、なぜか選手やファンに安心感が漂い始めたとき、いままであった緊張感は、なくなったのかもしれない。

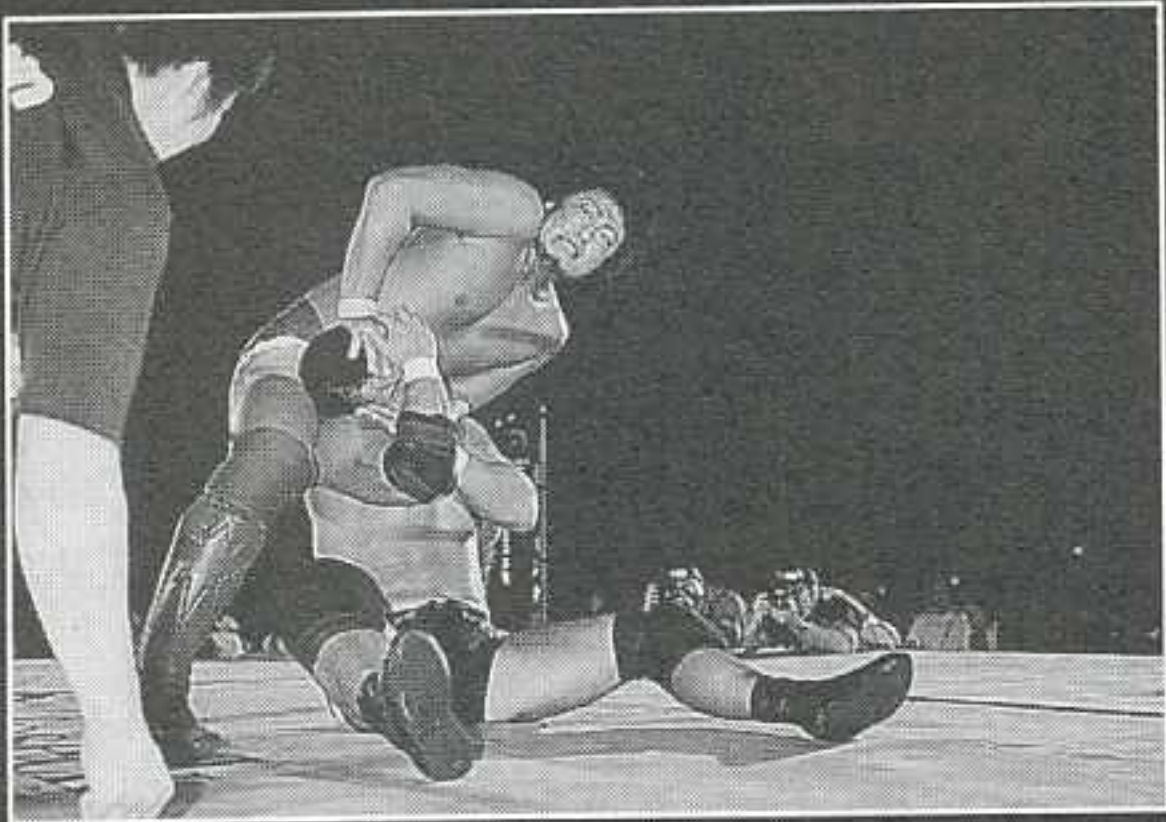
バトの放つ光が弱くなったのか、それとも見る側が、あたりまえのクリーンなファイトになり始めたバトに興味をもてなくなったの

石川社長との黄金対決を制した村上（セコンドに小路）は、大谷に挑発された後には「3年5年10年かかっても小川さんを超える」と驚愕の小川超えを宣言！　大忙しの夜だった

破壊王も来た!!

バト5周年を祝いに我らが破壊王がやってきた！　石川社長に花束を渡し、「プロレス界がほんとピンチです。みんなで力を合わせてね、盛りあがっていきましょう！」と爆（挨）拶！

バトに熱を運ぶ男・松井大二郎。4・29『KOTC』で勝利を収めた後の凱旋マッチで、カールとの『PRIDE』対決を制した。試合後はシウバ狩りをブチ揚げたが、5・27はペレと対戦

5周年を機にもうワンランクアップが望まれるヨネは、モーレッツでダイナミックなプロレスを田中将斗相手に展開し、文句なく一番沸かせた。もっと高度を上げろ、ヨネ！

〝エース〟アレクは、ZERO―ONE戦士となった大谷晋二郎を迎え撃つも、返り討ちに！　この日、バト勢は団体外の選手に全敗！　とんだ5周年を迎えてしまった

ただちに戦闘態

か。しかし、そんなリングは他団体ファイターには、自分が輝けるいい場所に見えるのだろう。

村上に始まり、長井、松井、平、ライダー、今回の田中や大谷など、他団体の実力者たちが、こぞってバトラーツを占拠しはじめた。バトラーツのスタイルを村上や松井がやっているではないか？　バチバチと言われた激しいファイトを繰り広げるうちに、バト魂が、選手に再び芽生えたのかもしれない。

ただ殴って蹴って、関節を極めるスタイルがバトラーツなのである。前回のホール。松井vs日高戦で、日高のバト魂&ジェラシーが爆発した。5月に行ったBルールで僕の予想を裏切って優勝した社長にも〝俺がもう一度叩き直してやる〟というバト魂が見えた。

駒沢で田中のエルボーを受けながら立ち上がるヨネにもバト魂はあった。大谷に負けどん底に落ちたアレクの遠くを見つめる目にもバト魂があった。久々にゴッチさんに会い、6月には『KOTC』に出る臼田にもバト魂がある。気がつけば、石川マジックでバトラーツの闘いの原点である緊張感溢れるバチバチファイトが駒沢にはあった。

5年もたてば、無くした物もたしかにあるだろう。だけど、それを拾いに行くんじゃなくて、新しい物を探しに行く旅をバトラーツは、いま選んでいるのかもしれない。

プロレス本来のもつ、大人から子供まで楽しめるエンターテインメント性や、普通の人ができない闘いをリングで魅せる熱いバトルがバトラーツのプロレスなのだ。

駒沢大会で見えはじめた、バト魂に大きなパワーを注入するのは、これからスタートする。確かに大谷や村上にリングジャックされたけど、やりたい奴にはやらせますよォ!!

バトのリングは、実力者が輝ける場なんだから、熱い心を持っている奴は大歓迎。いつでもバトラーツを利用してくれ。でも次回からは、そんなに甘くないことをバト魂でわからせてみせますよ。バトラーツの本当のファイトをみたい奴は、7月5日の後楽園ホールに来い!!

【島田〝ノゲイラ〟裕二】

本誌鬼畜編集長・山口日昇の超急造読者ページ

おまえらの思い通りにはしねェよっ、絶対!!

（三沢調）

五流のバカ・幸田珍、逮捕される素質バツグンの水戸泉、歯痛で泣きじゃくる戸高アビバ（だっけ?）など、2000年夏入社組が次々に脱落していった『紙プロ』の春（笑）。ついでに、4年以上のキャリアを持ちながら、精神面で悪化の一途を辿るスモーノブまでが離脱していった『紙プロ』の春（怒）。経営者として編集長として、この組織の乱れの責任を取れ! と言われたので、ワタクシ山口日昇がお忙しいスタッフのみなさんに替わって読者ページを担当します(泣)。まあ気分は、その昔、突然第1試合に出たアントンと言いたいとこなんですが、なんせ読者ページなんて出版界に入った最初の頃にやったくらいなので、実に13年ぶりです。なんだっけ、読者ページって。あ? イラスト載っける? 投稿載っける? あ、そ。は? 投稿にコメント付けんの?…………コメントなんてしねぇよ、絶対!! ンムフフフ。

中川画伯（埼玉県）ミニ絵画展

絶好調!!

HOSHINO IKUMA

高貴じゃないヒゲ

青木雄大（青森県）劇場!!

5月5日、橋本真也はどこに……

いのちがけのぉおしごとですぅ～

藤波社長の危機対策

新総理も見習って改革だ!

ワン ワン

いいぞ! ドラゴン

改革と言えばいらない者をリストラだ!

え～ 辞めちゃうの?

くぅ～ん

リストラ

中止だ!

たっつぁん（notドラゴン）ランド!

『へんなオブジェ』

ヘンゾ vs ヘンダーソン より

"LATINO HEAT" Eddie Guerrero

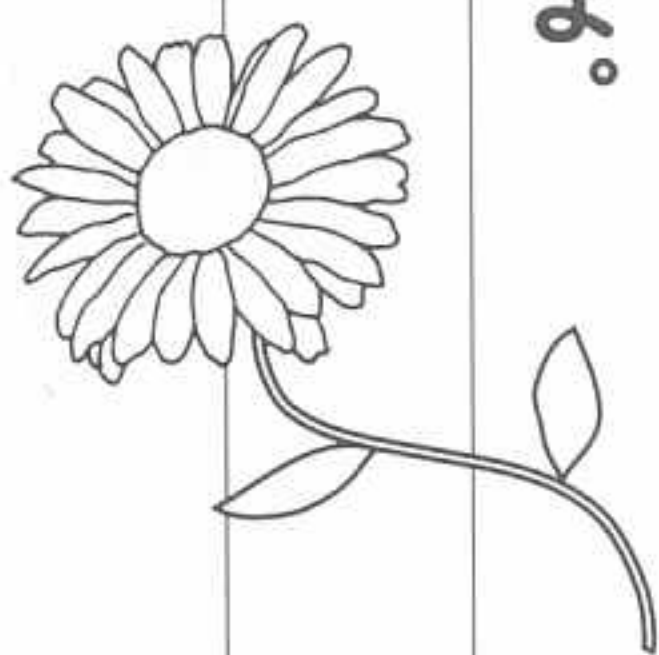
発見 小川と橋本が箱根で共闘!!

箱根を歩いている時見つけました。

【目黒区・安西直紀・20歳・学生】

『紙プロ』読者に新しい風!!

No37のアメリカ大特集超良かったデスヨ！
理由はとにかくロックを探してて…いや…
イナズマとかいう人たちのトークが面白い！
つまんなかったのは…日本のプロレス記事？
ごめんなさい（泣）。
日本のプロレスは知らないから
面白く思えなかった…。
WWFの事もっと取り上げて欲しいですね！
近況とか知りたいんで。
ぜひぜひよろしくお願いします…よ。

【神奈川県・渡辺愛・16歳】

『紙プロ』にやってほしい企画コーナー（原文ママ）

★アレキサンダー大塚の特集。
【香川県・山本達夫・51歳・地方公務員】

★村上一成さんと私をデートさせてください。
【岩手県・阿部香織・26歳・店員】

★『PRIDE』のジャッジを和田京平にやらせよう！キャンペーン
【福島市・岡田秀男・20歳・学生】

★読者ハガキの絵が素晴らしいので、『PRIDE.0』復活希望。作文に限らずイラスト、ポエム、写真、魚拓等、ノールール（not新日）で。
【千葉県・武田いづみ・20歳・在宅ホームレス】

★インデーの記事をのせてくだされ。
【神奈川県・神部達雄・32歳・僧侶】

★プロレスをダメにしてるのはコアなプロレスファンである！」みたいな特集をしてほしい。あと、「プロレスファンはどのくらいモテるのか?」みたいな企画を、他のモテねぇジャンルのファンと比べてほしい。
【岩手県・小笠原幸二・29歳・会社員】

★山口氏、『SRS』にはあまり出ないで下さい。出来れば紙プロを月2回に……。
【愛知県・野田浩史・28歳・会社員】

★各プロレス団体における『ベルト』という物、その意味と価値について、みなさんで話していただきたいです。
【静岡県・袴田真史・29歳・自営業】

★ガオーッ!!
【国籍不明・白覆面・35歳・プロレスラー】

MEMO ※スペースが空いたのでメモとしてお使いください

【北海道・谷藤裕行・28歳・会社員】

2001年度　第2回社員募集！即戦力求ム!!

前号で募集をかけたところ、いつもより随分応募が少ないなぁと思ったら、スモーノブが応募要領を入れ忘れたということが判明しました。
いま一度、本気で募集します。

1　IT事業部スタッフ

【業務内容】『紙プロ』HP作成とIT関係全般のお仕事です。
【資格】コンピューター関係に明るくて、出版とプロレス&格闘技に興味のある方。
【待遇】経験に応じて優遇します。
【学歴】不問
【年齢】35歳以下。
※来たれ!『紙プロ』をITで展開すれば面白いと思ってる熱のある人!

2　編集者

【業務内容】『紙プロ』及び小社刊行物の編集
【資格】編集経験2年以上の方。要普免。
【待遇】経験に応じて優遇します。
【学歴】不問
【年齢】35歳以下。
※来たれ!　なんでもいいから凄ェ本をつくりたいと思ってる人!

応募要領

希望職種を明記の上、履歴書と、「私と『紙プロ』」というテーマで400字×2枚の作文を下記まで送ってください。履歴書等は返却致しません。なお、面接に来ていただく方は、こちらから連絡致します。締切は6月20日です。
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス　人事部係

どすこいギョーム連絡
本誌編集力士 スモーノブ、廃業!!

どすこ〜い。4年以上にわたり本誌編集部に住んでいたスモーノブ（本名・坂井ノブ）は、痩せたために編集力士を廃業するに至りました。スモーノブファンの皆さま、長年にわたる声援、応援、罵詈雑言、誠にありがとうございました。スモーになりかわり、ワタクシ山口がお礼申し上げます。96年末の「ターザン山本追悼興行」で行われたバトラーツの6人タッグを見て人生最大の衝撃を受けたと言いつつ、本誌に入ってきたのが4年半前！　それ以来、この力士は、ワタシの言語を理解してくれたことは1度たりともありませんでした。上昇志向はあるものの向上心はまったくない、という万年十両のような力士でした。よく4年半も一緒にいられたものだと、ワタシは自分で自分を誉めてあげたい。今回、「旅に出ろ！」と言ったところ、「出ます！」と逆ギレ気味に言い放って小社を退社。でもなぜか毎日のように編集部に顔を出しています。社員の頃より頻繁に顔を見ている気がします。ま、辞めていくとなるとなんだか寂しいもので、こんな声をかけてあげたくなりました。「ノブ、外の社会の荒波を乗り越え、スケールアップして、また戻って……くんなよ、絶対!!」。はぁ〜、どすこ〜い、どすこい！

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間 AM11:00～PM7:00 年中無休

U.W.F.vs新日本全面戦争、伝説のスーパータイガー、新日・DOME DOME DOME…全作品オススメ！永久保存版がDVDで続々登場中！

U.W.F.vs新日本全面戦争 VOL.1&2

DVD

※VOL.2は6/13発売 ●200分各5,880円

1995年に開戦したU.W.F.インターと新日本プロレスの対抗戦をDVD化。(Uインターで行われた対抗戦を収録)プロレス史上最高の興奮を呼んだイデオロギー闘争、その試合の中での今では実現不可能な？試合や夢の対決が盛り沢山！VOL.1では現在リングスの金原と高田道場の桜庭がタッグで安田＆石沢と対決、パワーオブドリームの山健vsゼロワンの大谷、そして大注目は桜庭と新日本Jrの金本とのシングル対決。この試合はオススメです。VOL.2ではこの抗争時唯一行われた高田と長州のタッグ対決、今でも見応え十分なテクニックを披露した新人の頃の桜庭vs石沢。インタビューも入ってます！

●VOL.1収録試合

金原,桜庭vs安田,石沢、安生,垣原vs長州,永田(1995.10.11 大阪)山本vs大谷、金原vs高岩、桜庭vs金本、高山vs佐々木、垣原vs橋本、中野vs野上、安生vs蝶野(1995.10.28 代々木)中野vs長州、安生,高山vs蝶野,天山(1995.11.25両国)安生,高山vs山崎,飯塚、佐野vs武藤、高田vs越中(1996.3.1日本武道館)

●VOL.2 収録内容

金原vs木村、垣原vs斉藤、安生,山本vs小林,野上、高田,佐野vs越中,小原(1996.3.23 宮城県スポーツセンター)桜庭vs石沢、高山vs高岩、垣原vs永田、高田vs長州、金原vs佐々木(1996.4.19 大阪)金原vs野上、垣原vs越中(1996.5.27 日本武道館)高田,垣原vs藤波,藤原(1996.6.26 名古屋)垣原vs佐々木,佐野vs橋本(1996.9.11 神宮球場)

バトラーツ21世紀の幕開け

～UFOからの侵略者 バトラーツ大空襲～ ●120分5,040円

2001年1/7&3/1後楽園ホール。今回のビデオは昨年に引き続き、バトラーツを狙い続ける平成のテロリスト村上一成と迎え撃つバトラーツとの闘いを中心に収録。1/7では石川社長とタッグ対決、3/1では大暴走のあまりヨネとの無効試合を繰り広げ、後楽園に不穏な空気を漂わせた。他にもアレク、藤原組長のシングル初対決、インディペントワールドJrヘビー級選手権、大日本葛西＆関本登場、高田道場松井と日高の抗争と話題満載です。

伝説の虎戦士スーパータイガー

●2枚組カラー311分￥10,500

前田、高田、藤原、そしてタイガー

一騎当千の強者たちが激闘を展開！

【完全保存版DVD BOXついに完成】

☆16年前の収録素材を最新の技術でデジタル化。市販ソフトのリマスターではありません。(一部の試合を除く)

☆試合は出来る限りノーカット。前田が仕掛けた大阪でのシュートマッチも完全収録。

☆貴重な当時のインタビューや練習風景も収録。高田にキックを教えるシーンは必見。

金曜夜8時のゴールデンタイムに常時20%の視聴率を誇り、史上最高のプロレスブームを巻き起こしたスーパーヒーロー・タイガーマスク。人気絶頂にあったタイガーが突然新日本プロレスを辞め、格闘技としてのプロレスを打ち出していた第一次U.W.F.で復活。格闘王前田日明、現ミスタープライド高田伸彦、関節技の鬼藤原喜明らと、壮絶な闘いを展開した。従来のイメージを覆した本格的なキック、骨が軋むようなサブミッションによって作られたファイトスタイルは、プロレス界に大きな影響を与え、現在の格闘技ブームへと続いている。

収録内容

・藤原喜明戦(1984.9.7後楽園)・前田日明戦(1984.9.11後楽園)・藤原喜明戦(1984.12.5後楽園)・前田日明戦(1985.1.7後楽園)・高田伸彦戦(1985.1.20後楽園)・マッハ隼人戦(1985.2.18後楽園ホール)・マーチン・ジョーンズ戦(1985.3.2後楽園)・木戸　修戦(1985.7.8広島市体育館)・キース・ハワード戦(1985.7.13静岡産業館)・藤原喜明戦(1985.7.17大阪臨海スポーツセンター)・高田伸彦戦(1985.7.21後楽園)・前田日明戦(1985.7.25大田区体育館)・山崎一夫戦(1985.8.25岐阜産業館)・木戸　修戦(1985.8.29大宮スケートセンター)・前田日明戦(1985.9.2大阪臨海スポーツセンター)・高田伸彦戦(1985.9.6東京・後楽園ホール)・藤原喜明戦(1985.9.11東京後楽園)

NOAH DEPARTURE

～自由…そして信念～旗揚げ2連戦

2000.8.5&8.6ディファ有明 ●2本組320分￥10,000

2000.8.5～プロレスリング・ノア旗揚げ戦方舟伝説はここから始まった～森嶋vs橋、力皇＆百田＆R木村vs菊地＆泉田＆永源、金丸＆井上vs丸藤＆志賀、池田＆垣原＆小川vs浅子＆高山＆大森、メインイベント三沢、小橋、田上、秋山出場

2000.8.6～「ここは俺の色に染める！」今、秋山の言葉が現実に…浅子vs小林、橋＆百田＆R木村vs金丸＆菊地＆永源、森嶋＆井上vs力皇＆丸藤、泉田＆田上vs大森＆高山、小川＆三沢vs志賀＆池田、小橋vs秋山

NOAH GREAT VOYAGE

2000.12.23有明コロシアム ●120分￥5,000

NOAHの2000年を締めくくる偉大なる航海、いざ新世紀へ。小林健太＆菊地毅vs川畑輝鎮、橋誠＆百田光雄＆R木村vs浅子覚＆泉田純＆永源遥、杉浦貴＆力皇猛＆井上雅央vs森嶋猛＆金丸義信＆志賀賢太郎、WEWタッグ選手権試合～丸藤正道＆本田多聞vs黒田哲弘＆冬木弘道、池田大輔＆小川良成vs青柳政司＆斉藤彰利、田上明vs高山善廣、大森隆男vs橋本真也、三沢光晴vsベイダー、小橋健太vs秋山準

NOAH SPECIALSELECTION,2000

NOAH2000総集編 ●120分￥5,000

DEPATURE4大会(8.5～8.19)、EXCEEDINGOUR DREAMS20004大会(9.15～9.25)、NAVIGATION10大会(10.7～10.20)、OneNightNavigation2大会(10.22＆10.28)、NAVIGATION in November10大会(11.4～11.16)、The Final Navigation2000,10大会(12.2～12.15)、GREAT VOYAGE(12.23有明コロシアム)、Milenium Horiday in DIFFER(12.24)

アルシオン グラフィティ Jan-Mar 2001

～府川唯未 愛と感動の旅立ち～ ●120分6,930円

2001年1/5～3/20日本全国。コンプリートよりもより詳しく、大会ビデオより多くの試合を収録された「アルシオングラフティ」が登場！今回は2001年の1月から3月の試合を収録。奥津の引退、美幸のデビュー、アジャ、美幸の離脱と様々な事があった3カ月。その中でもみんなの心を感動させたのは府川唯未の引退セレモニーです。3/20のセレモニー＆引退試合は勿論、3/15～18のラスト4大会の府川選手に密着。近づく引退への府川選手の心がこのビデオで感じられます。他、大向選手とのオモシロ香港ツアーも収録。勿論、この3カ月に行われた名勝負の数々、V.I.P.の再編、Re:DRUGの内乱、大向、浜田、吉田、GAMI、玉田、AKINO、各選手の意識の変化等いっぱい収録。そして、アルシオンのライセンスナンバー0のアジャから45のレディ・アパッチェまでを紹介するライセンスナンバーグラフィティも特別収録。

収録試合　1/5～大向vs奥津、アジャ＆美幸vsラスカチョ他、1/27～日向vsマリー、浜田vsAKINO、2/10～スカイハイ選手権AKINOvs藤田、二上認定ツインスター選手権GAMI&玉田vsPIKO&PIKA、浜田＆大向＆マリーvsアジャ＆吉田＆日向、2/12～大向vs美幸、ツインスター選手権ラスカチョvsアジャ＆吉田、クィーン選手権浜田vs日向、2/25～三田＆下田＆大向＆府川＆JvsGAMI＆玉田＆PIKO&PIKA＆高瀬、吉田vsAKINO、大向＆玉田vs吉田＆GAMI、3/3二上認定ツインスター選手権GAMI&玉田vsAKINO&藤田、ラスカチョvs浜田＆マリー、3/20ツインスター選手権ラスカチョvs大向＆J、府川vs吉田　他沢山。

プライド13

DVD VIDEO

●ビデオ5/25発売9,970円　●DVD6/8発売5,040円

2001年3/25さいたまスーパーアリーナ。グラウンド状態の相手への顔面キックOKの新ルールが施行されたPRIDE13。いつも以上な過激な試合となった。一番の話題は格闘技界の救世主、桜庭がまさかの敗北、それも1R1分38秒の秒殺。桜庭だけでなくヘンゾ、ゴエスと柔術の実力者のKOシーンは衝撃！PRIDEの新しい流れとなるこの大会は要チェック。

収録試合　桜庭vsシウバ、コールマンvsゴエス、ヘンゾvsヘンダーソン、テリグマンvsボブチャンチン、メッツァーvsイーゲン、安田vs佐竹、ビクトーvsソースワース

DOME DOME DOME

DVD VIDEO

●各約168分ビデオ各10,290円、DVD4枚組21,000円

1989年から2001年1/4の東京ドーム大会の名勝負を収録。

●VOL.1～1989/4/24ベイダーvs蝶野、橋本vs長州、ベイダーvs橋本、ライガーvs小林、ハシモコフvsビガロ、猪木vsチョチョシビリ～1990/2/10ウィリアアムスvsハシミコフ、M斉藤vsズビスコ、ベイダーvsハンセン、北尾vsビガロ、猪木＆坂口vs蝶野＆橋本～1991/3/21ヒガンテvsヒューズ、ムタvsスティング、長州vsシン、藤波vsフレアー～1992/1/4猪木vs馳、スティング＆ムタvsスタイナー兄弟、ルガーvs蝶野、長州vs藤波～1993/1/4ライガーvsUドラゴン、スティングvs馳、ムタvs蝶野、ヘルレイザーズvsスタイナー兄弟、藤波vs石川、長州vs天龍～1993/5/3タイガーvsライガー、藤原vs馳、ホーガンvsムタ、藤波＆猪木vs天龍＆長州～1994/1/4ヘルレイザーズvsヘルナンデス＆ノートン、スタイナー兄弟vs馳＆武藤、ホーガンvs藤波、橋本vs蝶野、猪木vs天龍～1994/5/1ライガーvs佐山、ルードvsスティング、蝶野vs藤原、長州vs馳、橋本vs藤波、猪木vsムタ

●VOL.2～1995/1/4猪木vsゴルドー、Hウォリアーvsノートン、猪木vsスティング、馳＆武藤vsスタイナー兄弟、橋本vs健介～1995/5/3サブーvs金本、越中＆ファンクvs冬木＆蝶野、北尾＆猪木vs天龍＆長州、武藤vs橋本～1995/10/9石沢＆永田vs桜庭＆金原、大谷vs山本、長州vs安生、垣原vs健介、橋本vs中野、武藤vs高田～1996/1/4石沢＆大谷＆永田vs山本＆桜庭＆金原、冬木vs安生、猪木vsベイダー、長州vs垣原、高田vs武藤～1996/4/29サスケvsライガー、トリプルウォリアーvsノートン＆スタイナー兄弟、ムタvs人生、蝶野vsルガー、天龍vs藤波、橋本vs高田～1997/1/4蝶野vs中牧、M斉藤vs小鹿、猪木vsウィリー・ウイリアムス、ライガーvsUドラゴン、パワーvsムタ、橋本vs長州～1997/4/12ライガーvsサスケ、猪木vsタイガーキング、ムタvs蝶野、藤波＆木村vs長州＆健介

●VOL.3～97.5/3.サムライ＆保永＆サスケ＆デルフィン＆浜田vs金本＆大谷＆東郷＆テイオー＆中島、ジャイアント＆ルガーvsノートン＆バグェル、武藤＆スタイナー兄弟vs蝶野＆ホール＆ケビン、猪木＆タイガーvs藤原＆ライガー、長州＆健介vs小島＆中西～97.8/10.フライvsウォルシャム、中西＆小島vs山崎＆健介、長州vs藤波、橋本vs天山～97.11/2.大谷vsペガサス、フライvs山崎、橋本vsヌムリック、武藤＆蝶野vs天龍＆藤波、長州vs健介～98.1/4.長州引退試合、橋本vsデニス、越中vs蝶野、健介vs武藤～98.4/4.ライガーvsカシン、武藤＆蝶野vs橋本＆西村、健介vs藤波、猪木vsフライ(引退試合)～98.8/8.ムタ＆カブキvs後藤＆小原、健介vsフライ、大谷＆高岩vs金本＆ワグナー、橋本vs天龍、藤波vs蝶野、～99.1/4.ライガーvs金本、健介vs大仁田、天龍＆越中vs天山＆小島、ノートンvs武藤

●VOL.4～99.4/10.蝶野vs大仁田、高岩vs田中、山崎＆藤田vs石川＆大塚、健介＆越中vs藤波＆天龍、武藤vsフライ～99.10/11.藤田vsマッコリー、永田vsキモ、健介vs天龍、武藤vs中西～2000.1/4.山崎vs永田、藤田vsキモ、ノートンvsフライ、武藤vs蝶野、天龍vs健介～2000.4/7.永田vsカシン、金本vsフライ、大谷vs小島、ムタvs蝶野、健介vsライガー～2000.5/5.真壁vs健三、ライガー＆田中＆CIMA&フジニ千vs金本＆カシン＆大谷＆高岩、藤波vs蝶野、パワーvsムタ～2000.10/9.藤波vs橋本、飯塚vsフライ、天山＆小島vs中西＆永田、ノートンvsウィリアムス、蝶野＆Mr.Tvs渕＆越中、健介vs川田、金本＆田中vs真壁＆高岩、飯塚vsカシン、IWGP争奪トーナメント

Explosionin Osaka & Kobe

●5,000円

2001年1/13大阪府立体育館&2/25神戸ワールド記念ホール。2001年の幕開けの関西でのビッグマッチを収録。ついに三沢と橋本が激突。NOAHvsZERO-ONEの頂上決戦！

収録内容

小川＆三沢vs大塚＆橋本、田上＆小橋vs秋山＆ベイダー、(1/13.大阪府立体育館)小川vs佐野、田上vs秋山、力皇＆三沢vs高山＆大森(2/25.神戸ワールド記念ホール)

ストーリー・オブ・ザ・F 7

DVD VIDEO

●DVD・VIDEO各140分¥8,000

FMWの激闘を記録した大好評の年間総集編ビデオ「STORY OF THE F」の第7弾。2000年5月5日の駒沢大会でHがハヤブサに戻りFMWの原点に戻る魂の闘いを制して田中もFMWへの想いを取り戻す。そしてこの日冬木が力ずくWEWシングルのベルトを獲り復権へ向けて次々と大デモを敢行する！拉致監禁。ダイナマイト爆破。超大型(超大物？)ハヤブサ出現！超常現象マッチ。富士の樹海置き去りマッチ。クッキングマッチ。15,000Ｖ放電爆破金網マッチ。鉄人マッチ。恐怖の呪いのベルト。等など衝撃的事件が次々にFMWマットを襲う！プロレスを超えた(？)ジェットコースター型スポーツ・エンターテインメント！収録試合および衝撃映像はすべて初ビデオ化！

収録内容

・2000.5.28[荒井社長、Hと決別宣言]・6.16[仰天！3代目ハヤブサ登場！正体は天龍!?][拉致監禁されたリッキー・フジ　ダイナマイトで爆破！]・6.21[Hとハヤブサがタッグ結成大暴れ！]・7.23[NOAHとの交流戦スタート！][ハヤブサ復活！しかし盟友・新崎人生 ハヤブサを裏切る！]・7.28[リッキー・フジ「富士の樹海置き去りマッチ」]・7.28[前代未聞！奇想天外！「クッキングマッチ」][人が消える？UFOがやってくる？「超常現象マッチ」]・8.20[怨霊、新宿鮫FMWマットに登場！]・8.28[世界的有名ラップアーティストがプロレスデビュー][将軍KYワカマツUFO軍団結成!?][遺恨再燃?ハヤブサVS雁之助]・9.17[冬木が中山にまさかのピンフォール負け！]・9.21[北海道発の電流爆破マッチは凄絶！冬木病院送り]・9.26[雁之助が痛烈会社批判！永久追放処分に！][日本初のアイアンマン・マッチ！ハヤブサVS冬木]・10.29[「呪いのベルト」出現に騒然！]・11.12[完全決着!?ハヤブサVS冬木][え？マジ？ミスター雁之助負けたら即引退スペシャル・マッチ][愛憎劇に終止符!?荒井薫子争奪マッチ]

新日本プロレス名鑑 上巻&下巻

DVD VIDEO

●DVD&ビデオ5/23同時発売 上巻154分・下巻160分各6,090円

プロレス史上初！レスラー名鑑、遂に登場！旗揚げから30年間、新日本で活躍した数多くのレスラーたちを時代順に紹介！新日本レスラー133名の膨大なデータを全2巻に集結！上巻には日本人を72名、下巻には61名を収録。選手の戦歴・得意技等のプロフィールデータも試合、名勝負名シーンを収録。

●VOL.1日本人篇～猪木、豊登、小鉄、木戸、藤波、浜田、藤原、小林邦明、カーン、健吾、坂口、星野、ストロング小林、マサ斉藤、長州、大木、馬之介、ジョージ高野、前田、平田、ヒロ斉藤、ヒロ・マツダ、保永、ブラック・キャット、初代タイガー、高田、谷津、高野俊二、山崎、後藤、佐野、コブラ、橋本、スーパー・ストロング・マシン、武藤、蝶野、AKIRA、船木、越中、飯塚、健介、ライガー、小尾、青柳、小原、ムタ、金本、天山、西村、小島、斉藤彰俊、サムライ、3代目タイガー、大谷、高岩、永田、中西　他全72名

●VOL.2外国人篇～ゴッチ、テーズ、シン、パワーズ、アンドレ、クラップ、ラッド、バーナード、ロビンソン、ルスカ、モラレス、グラハム、ハンセン、マスクド・スーパースター、カネック、バックランド、チャボ、アグアヨ、ブリスコ、ローデス、ダイナマイト・キッド、ホーガン、ブッチャー、ボック、マードック、ベンチュラ、初代ブラック・タイガー、アドニス、デイビー・ボーイ・スミス、バンディ、ブロディ、スヌーカ、ケビン、ケリー、ウィリアムス、ビガロ、リック・スタイナー、スコット・ホール、オーエン・ハート、ベイダー、ワグナーJr.、ハシミコフ、ザンギエフ、ワイルド・ペガサス他全61名

コンプリート アルシオン 6

～女子大空中祭から浜田姉妹対決まで～ ●120分6,930円

2000年7月～12月日本全国＆ハワイ＆メキシコ。大人気シリーズコンプリートアルシオンの第6作、今回は2000年後半の大総集編。クィーン、ツインスター、スカイ、P☆MIXの2000年後半の全てのタイトルマッチ、ツインスタータッグリーグ全戦やスペシャルマッチが収録。特に今回は府川、奥津、ソチ引退、JWPからPIKO&日向の参戦、山縣デビュー、浜田家族問題、文子のアジャ越え等など様々な事があり、アルシオン史上でも最も重要な半年だったと思います！是非この激動ぶりをビデオで振り返って下さい。勿論、藤田＆AKINO＆文子のハワイ珍道中、水着撮影、ファンの集いなどオモシロ映像も沢山収録。

収録試合　○クィーンタイトルマッチ～アジャvs下田、アジャvs文子、文子vsソチ○ツインスタータイトルマッチ～大向＆下田vsアジャ＆吉田、大向＆下田vsGAMI&玉田、GAMI＆玉田vs吉田＆ASARI、GAMI&玉田vsラスカチョ(12/3&12/17)○スカイタイトルマッチ～マリーvs文子(8/12&10/27)、文子vsASARI、文子vsAKINO、AKINOvsASARI○スペシャルマッチ～アパッチェ親子vs文子＆AKINO＆マルビン(7/30京都)、アジャvsAKINO、浜田vsリンクス(8/20なみはや)、9/29文子メキシコ凱旋試合、ソチ浜田シングルカウントダウン、大向vs吉田(12/8福岡)、奥津札幌引退試合(12/16&17) 他

バトル・レヴォリューション序章

●120分5,040円

2000年8/9ディファ有明～2001年1/18後楽園。団体の枠を超え、真の本流を歩み始めた「PRO-WRESTRING NOAH」。歴史的旗揚げ戦からこれまでのメモリアル・マッチの数々を満載した永久保存版ビデオ！

収録内容　・ノア設立記者会見・8/5&8/6旗揚げ2連戦(有明)三沢＆田上vs小橋＆秋山、小橋vs秋山・8/19有明～秋山＆金丸vs小橋＆力皇・10/8横浜～小橋＆大森vs秋山＆高山、三沢＆小川＆丸藤vsベイダー＆スコーピオ＆スリンガー・10/11愛知県～小橋vs大森・12/23有明～小橋vs秋山、三沢vsベイダー、橋本vs大森・1/13大阪府立～三沢＆小川vs橋本＆大塚、ベイダー＆秋山vs小橋＆田上

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本の場合￥500、2本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい。

1,000円お買い上げごとにスタンプを1つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる！(店頭・通販共)※割引きもあり。

【通信販売お申し込み方法】 ●郵便振込口座番号　00180-8-65236　レッスル通販

住所・氏名・TEL希望商品名を明記のうえ、現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。※振替通販の問合せは池袋店まで。また代金引換(税込￥5,000以上)に限りハガキかFAXでの注文となります。(手数料￥315がかかります)

レッスル渋谷店　店頭TEL.03-3464-0078　通販部＆FAX.03-3464-1780
〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂1-17-2　第2野々ビル5F

レッスル池袋店　店頭TEL.03-3989-0056　通販部＆FAX.03-3987-7817
〒170-0013　東京都豊島区東池袋1-36-3　池袋陽光ハイツ306

南口徒歩4分
第2野々ビル3F
(1F茜屋)

東口徒歩5分
豊島区役所真向かい
池袋陽光ハイツ3F
(1Fうどん屋)

●レッスルスタッフを募集しています！(女性限定、渋谷・池袋勤務)履歴書を渋谷店までご郵送下さい。●

“人間失格”チョロの 米国不手際日記 その2

ただいま、5月19日午後10時27分。ズバリ言って締め切りはとっくに杉田かおる……って全然笑えない。今号からいなくなってしまったスモーノブからは「なんで８Ｐも原稿落としたチョロはクビなんねえんだよ！」と何度も言われた。また言われそうだ。人間的には嫌いだったけど俺も頑張る。お前も頑張れ。また明日生きる象！

前代未聞の不祥事連発小僧。チョロなら何をやっても許されるのか？ いや許されるわきゃない。頭丸めて出直せ！

も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。**原稿落とし王座防衛!!**も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。**原稿落とし王座防衛!!**も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。**原稿落とし王座防衛!!**も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。**原稿落とし王座防衛!!**も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。**原稿落とし王座防衛!!**も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。**原稿落とし王座防衛!!**も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も～いっぱいいっぱいです。ゴメンナ

あぁ～、アメリカでは宇野クンに間違われてサインしてあげたり、ちょっとしたアイドル気分を満喫できたのになぁ。この間のＵＦＣでは負けてしまいましたが「アメリカ帰りは大成する」の言葉通り、ユニクロの顔になってましたね。カオカオ

米国では、前ＵＦＣ-Ｊの坂田代表にも会いました。「紙プロ」にはよく書かれないからなと言うことでしたが、やっぱり悪かったみたい。逮捕されちゃいました

サイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。**原稿落とし王座防衛!!**も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。**原稿落とし王座防衛!!**も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も〜いっぱいいっぱいです。ゴメンナサイ。も

中止

続きまして…

“悲しき天才”ジニアス君の 米国不手際日記!?

チョロに続き、と言ったら怒られるかもしれないが、ジニアス君の米国不手際日記も行ってみよう。すでにご存知の人も多いと思うが、ジニアス対レイス戦は中止となってしまった。裏では様々な駆け引きがあったのだろう。今回はその理由をジニアスに直撃してみた。

——ジニアスさん、残念ながら、期待されていたレイス戦が飛んでしまったということなんですけども。

ジニアス 今回のレイス戦だって『東スポ』とかも、レイスの「レ」の字も載らないでしょ？ ちゃんと報道しようよって思うんだけど、マスコミの方針だからしょうがない。団体が成長するわけがないし、知名度なんか上がるわけがないよ。はぁ〜……（ため息）。やれるもんなら表紙にしてみろ！ 受けて立つ！

——レイスに変わる代替選手はいなかったんですか？

ジニアス レイスの代替をある選手に打診したんだけど……この最悪の状態のオレを体で受け止めてくれるのはあの人しかいないと思い……ナポレオン橋本の復帰戦のように……。

——エッ、それって藤波さんですか!? 藤波さんに打診したんですか？

ジニアス ……O、H、K、S……でもみんなそれぞれ立場や事情があるから……最終兵器は『つ●●人』だったんだけど……。

——エッ、レイスの代替がつ●●人ですか!? そ、それ暴動起きますよ！

ジニアス ……足がダメだから……実は、ニキタ・コロフの来日が内定していたんだけど……。去年から交渉しているんだけどスケジュールが合わなくって……持っていかれちゃうな。もう外人は呼べなくなっちゃったね。発表しても、また来ないんじゃないかって思われちゃうもんね……。

——レイス来日中止の真相を100万人の『紙プロ』読者に教えていただけないでしょうか？

ジニアス 負けた。伝説のNWA世界ヘビー級チャンピオンをもう一度日本のファンに見せてあげたい、夢を与えたいという一心でしたが……レイス来日中止はコメントできない前代未聞状況で……察してくれ……。

——初めから来日の約束がなかったのではないかという噂もありますけど。

ジニアス 条件は全て飲んだ。試合の承諾、契約内容、ギャラ、条件等レイスとの会話は全てテープに録音してある。必要ならば公開する用意がある。どうして来ないのか……察してくれ。

——察してくれと言われても……何か目に見えない圧力とか妨害があったんですか。（ここでテープを止めて前代未聞という状況についての話が）

——エッ……（絶句）。そ、そんな……それと左下肢神経機能不全症というリリースが入ってきたのですが、これは何なんですか。

ジニアス これは、いわゆるエコノミークラス症候群の一種で、狭い座席に長時間座っていた為起こってしまったんだけども、チケットのトラブルでエコノミークラスに無理矢理詰め込まれたんだよ。両腕、両肩はみ出して、下半身は狭いシートに挟まれて12時間、血が止まっちゃったんだね。成田のクリニックで診察受けて、2、3日経っても治らなければ整形外科に受診しろと言われて、整形行ったら、左下肢神経機能不全症で長ければ6ヶ月以上かかるとの診断。

——だ、大丈夫なんですか？

ジニアス 分からん！ エコノミークラスの座席は消防法違反じゃないのか。狭すぎて非難できないぞ。馳先生は早急にこの問題を国会本会議で取り上げるように。取り上げないのなら辞任しろ！ 国民の声を少しは聞け！

——アハハハ。エコノミークラス症候群を馳先生にふりますか（笑）。

【完】

5・13後楽園ホール1階にてジニアスの緊急記者会見が行われた。杖を付き足を引きずりながら現れたジニアス。全治6ヶ月の重傷だという

先日のReMixで見事に勝利を収めた星野育蒔ちゃんは背伸びをしても全然グンダレンコには届かない!! たくさん勝って大きくなれよ!!

あの内館牧子が絶賛?

こんなに小さい育蒔ちゃんが大きくなるまで『紙プロ』本誌は半額セール!!

試合中はお化粧がくずれないか大変気になるグンダレンコさん。次回のReMixでは昔のボブチャンチンのテーマ曲で入場してくれ!!

紙のプロレス 美女列伝 PART.1

第8号
特集 さらば新日本プロレス

ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

50%

第17号
特集 実況パワフル北朝鮮

猪木×永島のナマハゲ対談(©大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」

50%

パンクラス公式読本[盾]

97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

50%

第13号
特集 道場破りとは何か?

安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場

50%

第19号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

50%

極真とは何か?

不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

50%

第14号
特集 神秘とは何か?

佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

50%

第21号
特集 幻的格闘技

古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場

50%

紙の前田日明
インタビューという名のエネルギー史

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

第15号
特集 インディペンデントの逆襲

インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

50%

第22号
特集 この人が喝っ!!

巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号

50%

第16号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談

50%

パンクラス公式読本[矛]

97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

50%

気になる申込み方法

●その他の号、『猪木とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』『大山倍達とは何か?』は完売しました。どうしても欲しい方は旅にでも出て探して下さい。ただし間違っても編集部に探しに来ないように。冷たくあしらいます。
●お値段の方は半額セールのため、8号は700円→350円、11号～22号は780円→390円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円→630円、『極真とは何か?』は1530円→630円、『紙の前田日明』は送料込みでサービス価格の2000円となります。
●送料は1冊＝310円、2冊＝380円、3～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上は700円となります。

★50%OFFセール特別設置店★
アイドール新宿店、大山アメリカン、プロレスマニア館、チャンピオン東京、チャンピオン大阪、リングパレス、バディスラム、タコシェ

【郵便振替振込先】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※必ず希望の号数、本誌かRADICALかを明記してください。

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場
書評の星座

しばらくコーナー縮小が続いていたところ、読者の方々から「物足りない！」との声が多数届いたので、今回は久しぶりに通常版でお届け。すっかり紹介する機会を逃したままになっていたアミューズブックスの袋綴じムック・シリーズと、ターザン本を一気に紹介させていただく次第なのである。なお、『月刊松山 SAGA』（アミューズブックス／500円）の第2号に馬場と松山千春との対談が再録されているものの、構成が佐々木徹なので要注意。……というスーパーバイス も決して忘れない書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉

『Missing Person』
（橋本真也／アミューズブックス／500円）

小川直也に潰されて以降、しばらく鳴りを潜めていた破壊王の映画版ジャイアンばりに無茶なキャラクターがZERO－ONEの成功で解禁となったのが本気で嬉しくてしょうがない今日この頃。

当然、そんな破壊王の本なら誰が作っても爆発的に面白くなるはずが、なぜか**「本書の最大の目的は橋本の口から『空白の185日間』を聞き出すことにある」**というどうにも不可解なテーマを設定し、**「あの約半年間、橋本はどこでなにをしていたのか。そして、なにを考えていたのか」**なんてことばかり追求しようとしてしまったから、これがまた驚くぐらい期待外れな一冊と化してしまったのであった。

どうせなら、長州体制を批判したせいで無期限出場停止処分になったはずなのに、なぜかいきなりリングに上げられて小川に潰されたことなんかについて話を聞くべきじゃないのだろうか？

「中西は会社に焚き付けられてものを言ってただけ。違う？」

「健介なんて惜しいんだよ。あいつがさ、長州さんに牙を剥いたら、それこそ俺たち三銃士さえ超える男になると思うよ」

これらの発言からも見えてくる新日内部の派閥抗争的な部分にスポットを当てていくのが、純プロレスをいつまでも楽しんで見続けるコツだとボクは思う次第なのだ。

そもそも、この本を構成した佐々木徹氏（代表作は『禁談・前田日明対談集』など）はインタビューの受け答えにかなりの捏造を加えて面白おかしく構成しがちなタイプだったりもするのだが、そのやり方は橋本という最高の素材をただ無駄にするだけという気がしてならない。

なにしろ、**「小川の本のタイトルって『反則ですか？』なんだ。じゃあ、俺の本のタイトルは『反則ですよ！』にしておいてくれる？」**という橋本的には非常にどうってこともないギャグに対して、**「これには笑った。そうだよ、そのセンスだよ、と橋本のでっかい背中をバシバシと叩きたい気分だった」**と大絶賛してしまうだから、ボクはもう閉口するばかりというか。

読者の方々ならわかるだろうが、橋本の面白さはそんなもんじゃないのである。

まあ、『負けたら即引退スペシャル』&折り鶴復帰運動について突っ込まれても、**「負けて散ってもゴールデンタイムの生放送中に塵となるわけだから（笑）。それはそれでいいじゃん（笑）」**だの**「今度は逆に『頼むから辞めてくれ』運動が起きるまで辞めねえよ（笑）」**だの**「あの運動がたとえテレビ局の書いたシナリオであったとしてもだよ。あの子たち、あの兄弟の俺に復帰してほしいという気持ちは本物だっただろ？」**だのと、相変わらず「呑気が一番」な受け答えで返す破壊王には一切、ボクに文句なんかあるわけもない。

欠場中、前田日明が**「よかったらウチに来いよ」**と言ってきたことや大日本の小鹿社長から電話がきたことなども開けっ広げに打ち明けまくる姿勢もいつも通り最高であり、偽装解雇と噂されたZERO－ONE旗揚げに至る流れについても当時の時点でここまで素直に告白していたのだから、やっぱりもう完璧なのであった。

「裸一貫でやってもいいよ。でも、それだと一から土台作りをしなければならないだろ。土台から始めて夢を実現するのには一体、どれくらいの時間が必要だと思う？だから、利用できるものは最大限に利用してさ、そこから新しいムーブメントを作り出すことができればね、ファンの期待にも充分に応えることができるはずなんだよ」

「だいたい、対抗戦がどうのと言ってもさ、試合している連中が同じ道場で練習してたら説得力がないだろ。世間はバカじゃないんだから。本当の敵と言えばいいのかな、『ZERO－ONE』をそういう敵に仕立て上げれば、それだけスリリングな興行を回せるわけでしょ」

結局、橋本&藤波の間ではZERO－ONEがノアとも新日とも闘える開放的な無我とでも言うべき、新日傘下の対抗戦用組織になるはずだったのだろう。

しかし、それが最終的には結果オーライになったとはいえ、長州&永島ラインとのシュートな揉め事に巻き込まれたことから当初のプランが一気に崩れたことだけは、まず間違いないわけなのである。

「権力を握っている連中は、例えばこれは絶対に面白いアイデアだとか、こうすれば会社はもっとよくなるというような意見が下から出されてもね、おや、もしかしたら自分の座を脅かそうと思って、そういうことを言い出したんじゃないかと頑なになる。そうなると、建設的な意見なんてものは一向に汲み上げられなくて、常に握り潰されてしまう状況になるわけだ」

つまり、ボクが勝手に要約すると、看板しか残っていない全日との交流を重視する長州&永島体制にノアとの交流プランを握り潰された橋本は外へ出ていくしかなくなったとのことなのだろうが、果たしてなぜこのプランが失敗に終わったのか？

「藤波社長の決断が遅かったんだよ。今から言うと卑怯になるかもしれないけどさ、あの時、社長がこうするからな、と決断力を見せてブッカー側を抑えていればなんとかなったかもしれない」

なんと、またもやクーデターの失敗が藤波の責任だったことが橋本の証言によって明らかになったから、藤波幻想は無限に膨らみ続けるばかりなのであった。

『プロレスの創り方』
（永島勝司／アミューズブックス／500円）

ノア&音楽周辺で活動する長谷川博一氏が構成した新日本プロレス企画本部長・永島のナマハゲ本が、遂に登場。

猪木との闘魂二人三脚時代ではなく、大多数のファンが彼にボンヤリとした不快感を抱きつつある時期のリリースなだけあって、やっぱり腹立たしい発言がたっぷり詰まっていたから、さすがなのであった。

まずは、**「プロレスとは、リング内外の終わりのない壮絶な闘いである」**などとそれらしく定義付けてみせたかと思えば、その理由としてこんなことを言い出すこと自体、まず許し難いばかりだろう。

「片方が完全な勝利を成し遂げたら、もう一方は完璧な敗者になってしまいます。その後の選手生活だったり団体の運営だったり、大きな傷がついてしまうのです。一人勝ちを望むのは、ハナから野暮なことなのです」

……って、違うだろ！　猪木が圧倒的なスーパースター足り得たのは、どれだけ野暮であろうとも「闘魂＝人の誠意を踏みにじる覚悟」（Ⓒ新間寿）で一人勝ちを続けた

からであり、それに比べて藤波がスターになり損なったのはヘビー級転向によって一人勝ちできない状態となった上、長州の踏み台にされたからだったはず。
それに比べて近頃のプロレスがつまらなくなったのはバランスを重視してトップクラス全員がそれなりに光る複数スター制の弊害だとボクはこれまで口を酸っぱくして主張し続けてきたのだが、そうなるに至った悪の元凶が永島のナマハゲだったというわけなのだ。
「一流のレスラーならば試合の勝ち負けなんていう、私の立場から見れば些細なことにいつまでも頓着しないこと。勝ち負けばかりにこだわる選手を見ていると、私ならこんな風に思います。ああ、じゃあ今回のチャンスは違うレスラーにあげよう。あいつが頑固でいたいなら、第一試合からまたやり直せばいいんだ、なんてね」
それでも、小川がいまプロレス界でも頭ひとつ抜けたスターの座に就いている理由は、他のレスラーと比べて誰よりも勝ちにこだわったからこそだとボクは思う。
「最近の新日の若い選手には、ピ〜ンと張り詰めた殺気が足りないかもしれない。いわゆる全日本的な　いい試合　をやろうという気持ちが強すぎるみたいなんだよね」
永島はそんな不満を口にしているが、ボクに言わせれば新日の選手から殺気が消えたのは、勝ちにこだわらない物分かりのいいレスラーばかりに会社がチャンスを与えてきたからに違いないのである。
思えばドーム大会開始直前の88年に新日へ入社してたりと、闘魂二人三脚ではなくむしろ悪名高き平成ドームプロレスと二人三脚で歩き続けてきた彼氏。
かつて『東スポ』記者だった頃は、猪木に**「じゃあここで、3人まとめて相手にしてみたら?」「拉致されなよ」「相手の頭、蹴っちゃいなよ」**などと無責任かつ素晴らしいアドバイスを送ったり、専修大学の後輩・長州に帰国を勧めて**『噛ませ犬』発言**」のアドバイスも送ったりしていたそうだが、いまや猪木に**「お前のやること全て先が見え見えで、何も面白くない!」**と言われるようになってしまったのだから、まったくお話にもならないだろう。
それでいて、他団体との交渉では**「立場の優劣はつけないこと」**と**「相手の立場に立ってモノを考えること」**を肝に銘じているなどと、高田や大仁田に名指しで批判されたとは到底思えないことだって断言。しかし、**「嘘をつかないこと。その度に本音で話して、誠心誠意でやっていく。私と猪木さんが似た所は、そういう部分だと思うんです」**なんて不可解なことも言い出すから、もはや自分で嘘吐きだと証言しているようなものなのであった。
「橋本真也。彼はもう、ハートが足りない。この一言。アントニオ猪木や私が続けてきたスキャンダラスなプロレスの面白さがまだ理解できないんだよね。残念だよね」
そんな批判にしても何かと思えば、川田とのシングルマッチで電撃復帰するプランを橋本に蹴られたことについての恨み節でしかないみたいなのだから、それのどこがスキャンダラスなのかボクにはもちろんサッパリ理解できないのである。
「長州もね、ある年の蔵前での猪木戦、あれはプロレスのルールの中ならば何をやってもいい、という試合でした。他にも彼なら経験があるでしょう。だから長州なんかPRIDEの人気に平然としてるでしょう。ちっとも怖いと思っていない」
この発言も競技としての怖さとライバル団体としての怖さを混同して答えているからもちろんサッパリわからないんだが、それでも総合格闘技への対処法は考えているみたいだから、さすがはキング・オブ・スポーツ。腐っても新日である。
「ヒクソンがロスに道場を持っていますね。そこに新日の選手を入門させて、柔術の稽古をつけてもらう。そんなことも考えています」
そういえば新日の若手で「小川さんみたいになりたい」との思いから総合系の選手と技術交流している奴がいるって噂も聞いたのでこれは期待できると思ったら、**「ロスに行くのは健介か、もしくは飯塚クラス。それくらいじゃないと、面白くはならないよね」**と、まったく面白くないプランをブチ上げてみせるのだから、もう完璧すぎ。この永島と藤波が交渉事の窓口に立ったりするのだから、そりゃあ新日が面白くなるわけもないのであった。
まあ、いい。
それでも全日との**「友好ムードの中に、アチャーと水を差してくれた事件がありました。藤波社長のおかげです(笑)」**と唐突なノアとの交流宣言について嫌味を言われていたり、長州対大仁田戦が決まっても**「そこで何をやるのか、藤波社長にはまだ内緒だったんですよ。社長は2人の対戦に慎重な考えだったし、あらかじめ知ってたりしたら余計なこと言っちゃうから(笑)」**とのことで社長なのに箝口令を敷かれていたりと、いちいち情けなくて面白い藤波は和製ビンス・マクマホンに最も近い男だと痛感させられた次第なのであった。

『プロレスLOVE論』
(浅草キッド&ターザン山本／東邦出版／1333円)

なぜかまえがきの時点で**「私は自分以外の人間に対して『VIP待遇しろ!』と言いたいのだ。金のあるヤツ、地位のある人間は俺のことを最高にもてなせ。つまり、『うまい物を食べさせろ!』と私は言っているのだ」**と猪木以上に格闘ホームレスらしいことをしてブチ上げてみせたりなど、プロレスへのLOVEが一切感じられないターザンが自己愛ばかりアピールしまくる一冊。
ターザン転がしの名手・浅草キッドが、プロレス以上に無茶苦茶なターザンの人生(最初の結婚では13年間毎日ファックしていたことなど)について本人も交えて語り下ろした対談集なのだから面白くなって当たり前のはずだろうが、脚注の入れ方や**「※一同笑い」**なんてフレーズが登場する対談のまとめ方、そしてエッセイや年表が唐突に入ってくる本自体の構成などにセンスが一切感じられないから、残念ながら笑いを消すこと山の如しなのであった。
まあ、ターザンが前払いで破格のギャラを貰ったまましばらく放置していたせいでわずか数日で作り上げたという裏事情を考えれば十分に健闘しているのも事実ではあるし、三島由紀夫自決報道を聞いて**「三島の生まれ変わりとして、俺が三島の分まで生きてやる」**と当時すでに20歳を過ぎていたのに勝手に確信したという、明らかに当時から気が狂っていたとしか思えないエピソードが収録されているだけで、ボクは満足できた次第なのである。

『プロレスがわかるのは俺だけだ』
(ターザン山本／KKベストセラーズ／533円)

ついつい「プロレスがわかってないのはお前だけだ!」と容赦ないツッコミを入れたくなる人も多いであろう不遜なタイトルが実にターザンらしい、書き下ろし文庫本。
書き出しが**「この本を手にした君は、大変に幸運だと思う」**というだけでボクはすでにお腹一杯なんだが、あれだけ大絶賛していた全日本の四天王プロレスに対してもいまさらこんなことを言い出すハシゴの外しっぷりがまたターザンらしくてたまらないのであった。
「三沢や川田はレスラーというよりも、普通の〝兄ちゃん〟なのだ。健介や橋本もその意味ではみんな同じ。四天王のプロレスは別名〝あんちゃん〟のプロレスと言ってもいいかもしれない。あれは確実に〝あんちゃん〟のプロレス。彼らは背広を着た姿が格別に似合うわけでもなく、格好いいとも言えない」
そんなこと、背広が似合わないどころか冬でも『デラプロ』特製Tシャツを着て常に腹を出していた(『プロレスLOVE論』情報)ターザンにだけは絶対言われたくない台詞だと思うんだが、大橋巨泉に対しても「むかつくおっさんである。自分の下品さをよく鏡を見て、反省しろと言いたくなった」と平気で毒突くターザンに、そんなことは言うだけ無駄なのだ。
他にも**「日本のプロレス史においては、いろんな事件があったが、私は1996年に起こった新日本による『週刊プロレス』の取材拒否によって、日本のプロレスは終わったと考えている」**との発言で、近頃のターザンが「プロレスは終わった!」と触れ回っているのは「死なばもろとも」な姿勢ゆえだったらしいことも、これで発覚!
挙げ句の果てには**「PRIDEは私の考えを代弁しているような組織である。PRIDEの出現は私の考えが正しかったことの証明だと、そう考えている」**とまで言い出すから本当にとんでもないのだが、確かに膠着しまくった挙げ句に「金返せ!」と観客に言われたりもするという意味で、当たり外れの異常に大きなPRIDEはターザンそのものなのかもしれないのである。

初夏の超大型暴走連載

ターザン山本公式HP『マイナーパワー』の人気連載『往生際日記』が今月も『紙プロ』を襲撃!

『2001年往生際日記の旅』

「『紙プロ』用に、マイナーパワーとは別に日記を書きますよォォォォ!」そんなターザンの一言で始まった『2001年往生日記の旅』であるが、始まってみたら、案の定ほとんど同じ!　しょうがないから、日本一『往生際日記』を楽しんでいる男・吉田豪が面白い日記だけを選んで掲載します。

★4月23日（月）

午後2時半、エンターブレインの編集部に行く。松林氏に2時間、インタビューされた。

プロレスにはなぜ哲学が必要なのか？　そういう大それたテーマである。こういう時に、相手が「いやあ面白かった！」といってくれる一言だけが私の救いである。それがなかったら会う意味はない。

吉田豪ちゃん、斉藤雄一、松林氏の3人はいずれも会話でプロレスができる人たち。

こういう人材は本当に数少ない。

私は私のことをたまらなく好きなひとだけをとにかく、無条件で愛す。それが私の生きてる喜びである。その点、やはり女性は視野が狭い。

★4月24日（火）

双葉社（『プロレス激本』）、ローデス（『SRS―DX』）、ダブルクロス（『紙のプロレス』）にそれぞれ電話して、2日後（26日）に出る新しい本をくれるように頼む。

私は友人にその3つの本を取りに行かせた。『SRS―DX』は散々嫌味を言ったようだ。

すでに山本さんの所には本を発送したので、来月からは直接本を取りに来るのかそれともこちらから発送するのか、どちらかにして欲しいといいう。お前はアホか？　私が今『SRS―DX』に執筆拒否をしているからこそ「どうぞ、どうぞ何冊でも好きなだけ持って行って下さい。ところでターザンさんは元気ですか？」とそれぐらいの愛想は言えよ。全然プロレスができないバカ野郎。話しにならん。

サダハルンバ谷川に忠告する。そいつを即刻、クビにせよ。

これで私と『SRS―DX』の距離はさらに100倍遠くなった。

★4月25日（木）

『紙プロ』のチョロから電話があった。私の知り合いのファンが紙プロで仕事したいと売り込んできたようだ。チョロには「オレが保証人になるから…」と言ってやった。彼は大阪から出てきてなんとしてもプロレスマスコミで仕事をしたいと、執念を燃やしていたのだ。採用になったかどうかは知らない。東京にこいと言って彼をけしかけたのは私。

そのあと何もフォローしてないので、『紙プロ』に入ってくれれば私は大助かりなのだが…

★4月27日（金）

日刊スポーツを見たら小泉内閣の顔触れが紹介されていた。趣味とか5つの項目に対して、経済財務担当の竹中平蔵は「プライベートなことに関することはすべてノーコメント」といって、空白になっていた。まったくふざけた野郎だ。竹中氏にいっとくが、お前の顔がテレビに映るだろう。その顔が一番プライベートなんだよ。プライベートを拒否するなら、覆面をかぶって人前に出ろ。こいつは何もわかってない。

テレビに大橋巨泉が出ていた。ムカつくおっさんである。自分の下品さをよく鏡を見て、反省しろといいたい

★4月29日（日）

K―1大阪大会をTVで見る。つまらない。思い切りつまらない。K―1は完全に終わっている。アナウンサーには放送作家をつけた方がいい。言葉が余りにも陳腐だ。解説もひどすぎる。チャンネルをカチャカチャまわしながら見た。そしてまた寝た。

★5月4日（金）

朝からWINS後楽園で競馬。それが終わって羽田空港で博多へ。5・5福岡ドームは、午後2時から試合が始まるので、前日入りするためだ。羽田空港に行ったら、どういうわけか午後6時の便が欠航になっていて、7時の便に乗ってくれという。それはないよ。それならそうと連絡してこい。勝手に決めるな。違うよ。理由をきくと整備上の問題とか。7時の便は100人しかいなくてガラガラ。

そのために6時と7時の便に2つにして、飛行機を飛ばさなかったのでは。そうとしか考えられない。食事券をくれた。そんなものでごまかされたくないが、ラーメンを食べる。

テレビを見ていたら大橋巨泉が出ていた。日本に住んでない巨泉に、とやかく言われたくない。ふざけるなである。ハイセイコーのこともボロクソ。むかつくおっさんである。自分の下品さをよく鏡を見て、反省しろと言いたくなった。

★5月5日

無事、バスを出してくれた。アリーナに行こうとしたらまたしても〝GK〟金沢編集長に会う。「昨日午前3時までキャバクラに行ってたねぇ」何、博多まできてキャバクラは許せない。

次に企画宣伝部長の倉掛さんにあいさつをする。「プロレスは終わっていません」と皮肉を言われる。「倉掛さん、あれはパラドックスとしていってるんだから」とわたしは言い返した。

★5月6日

朝の5時に起きて福岡空港へ。午前7時10分の羽田行きだったが、30分遅れて出発。遅れてきた人には、みんな一言謝って欲しい。それが礼儀というものだ。離陸したらコーヒーなど飲ものをサービスしてきた。え、飲みものだけなの？　それはおかしいと思ったのでスチュワーデスにその件について文句を言った。以前はたしかサンドウィッチなどが付いていたではないか。

いくらなんでもこんなに朝早い便なのにコーヒーだけというのは間違っている。第一それを出す側も恥ずかしいとは思わないだろうか？　サンドウ

ターザン山本の

自分でも驚くべき夢を見た。別れたカミさんが夢の中で登場。これ以上ないほどに美化されて、彼女が目の前に現れたのだ

イッチとまではいわない、せめてお菓子とかはだすべきだ。JAＬだけの話なのか、それも気になった。気付いたことはすぐに言う。間違っていないと思ったらその場ですぐに言うべきなのだ。

★5月7日（月）

午後4時、歌舞伎町にある喫茶『スカラ座』で斉藤雄一氏と会う。映画『スターリングラード』と『ハンニバル』について語る。これは斉藤氏のホームページに載る。

たぶん私の映画論は最強だと思う。誰も気づいてないことを語っているからだ。おそらく読んだ人たちはバックドロップを食らった気分になって、受け身をとることだろう。

★5月8日（火）

自分でも驚くべき夢を見た。別れたカミさんが夢の中で登場。それも今回は恨みとか未練とかのネガティブな夢ではない。これ以上ないほど美化された形で、彼女が私の目の前にあらわれたのだ。

「なぜキミはボクの所から去って行ったの？」と私が聞くと「Uインターが新日本につぶされた時からあなたはダメになった。だから私はあなたの所から逃げたの」と言った。

私はうなだれたまま何も言えない。「そこか、そうだったのか、オレが悪かったのだ」とそんな心境になっていた。

★5月9日（水）

渋谷駅に着いた所で便意をもよおす。だがトイレがない。別にガマンできないというわけでなく、ちょっと便意を感じただけ。ロータリーを渡ろうとしたら偶然、そこに公衆トイレがあった。中にはいってしゃがんだらウンチが出た。トイレに行かなかったらこのウンチが体の中に残っていると思ったらぞっとするではないか？

渋谷駅から歩いて7分程度にの所に新日本事務所があった。田中リングアナをインタビューするのだ。田中リングアナは私を藤波社長に会わせた。ニコニコ顔なのだ。「〝マイナーパワー〟読んでますよ。見方が実に鋭いですね」と藤波さんがほめてくれた。最後に私が「田中さん、私はここ数年、新日本について、ひどいことを書いてきたんだよね」と言ったら「やっぱり自分でひどいと思っていたんですか？」と切り返された。さらに「こうして新日本を取材したら、あいつまた手のひら返しやがってと言われるんだよ」と言うと、「いいじゃないですか、手のひら返して下しよ」とそこでも私は一本取られてしまう。

家に帰ると『ＳＲＳ—ＤＸ』が届いていた。これはひどい内容だ。みんな馬脚をあらわしてきた。それが彼らの真の姿のだから、別に私は何とも思わない。

★5月10日（木）

午後5時半、水道橋の焼き肉屋で元『週刊プロレス』の浜部編集長をインタビューした。浜部さんは非常に頭がいい人。バランス感覚に優れた人。これまでさんざん私はボロクソに言ってきたが、それは間違いだった。正直な人である。心打たれた。私の尻拭いをして『週プロ』の編集長になったのだから、よくやってくれたと今は私も感謝の気持ちしかない。

http://www.nifty.ne.jp/minorpower/

一揆起こすんだ!!　ターザン山本の 一揆塾

やった、やったぞ。ついに俺は長年の夢を実現さすことができた。平成の時代に“寺子屋”を作ったからだ。今、日本の出版界はバカばっかりだ。ロクな奴はいない。

一プラス一が二と信じている普通の人間が、編集をやってどうするんだ。編集とはこの世界を、新しくデザインし直すことを第一目的とする。それなのに何を勘違いしたのか、天下の大バカ野郎たちは、デザインを絵を描くことと思いやがった。

今や編集者はすべてデザイナーの奴隷だ。そんなもの糞でも食らえだ。この世界に新しい設計図をかくのはこの俺様だ。そう思わない奴は、編集者を即刻やめろ。

俺は格好よい本作りとか、奇麗な本作りなど、これっぽちも思っていない。汚くてけっこう。泥臭くてけっこう。だが、それはセンスがないということとは絶対に違うのだ。

とにかくどいつもこいつもガマンできない。今、そう心に思っていない奴は見込みなどあるはずがない。とはいうものの俺は今回の『一揆塾』で“いい拾いもの”があったらいいなと思っている。これは一つの希望である。

どうだ、お前たち、ターザンが思う“いい拾いもの”になってみたいと思わないか？

育てることより“いい拾いもの”に出会うこと。それが俺の最終目的だ。この一揆塾の企画は今年の始め、俺の方から『ＳＲＳ・ＤＸ』に売り込んだ。だが彼らは何もしなかった。そうしたら今回、ロックウエストの方から俺の方に話があった。

テーマは一つ。“心に一揆を”である。もう誰かが蜂起するしかないだろう。最後にかつて後出しマガジンである『ＳＲＳ・ＤＸ』に編集訓・五箇条の鉄則を伝えたことがあるので、それを紹介しておきたい。

一、我々は読者の記憶を甦らせます
一、我々は読者をシュートします
一、我々は読者の記憶をイレギュラーさせます
一、我々は読者の記憶を修正させます
一、我々は読者の記憶を再確認させます

以上、もし気が向いたら来たい奴だけ来い！

ターザン山本のプロレス・格闘技ライター養成講座【一揆塾】が開講することになった。
優秀な塾生にはライターとして活躍するチャンスがもらえるらしい。ターザンになりたい人は絶対応募だ！　なお体験講座も開催されるのでプチターザンになりたい人もどうぞ!!
（体験講座は５月24日31日のみ　参加費￥1000）

【期間】６月７日～９月27日　毎週木曜日開講
【参加費】　１カ月　￥15000　計￥6000
【お問い合わせ】03-5459-7988■ロックウエストまで

MAY.2001

BEST OF THE スーパーコラム™

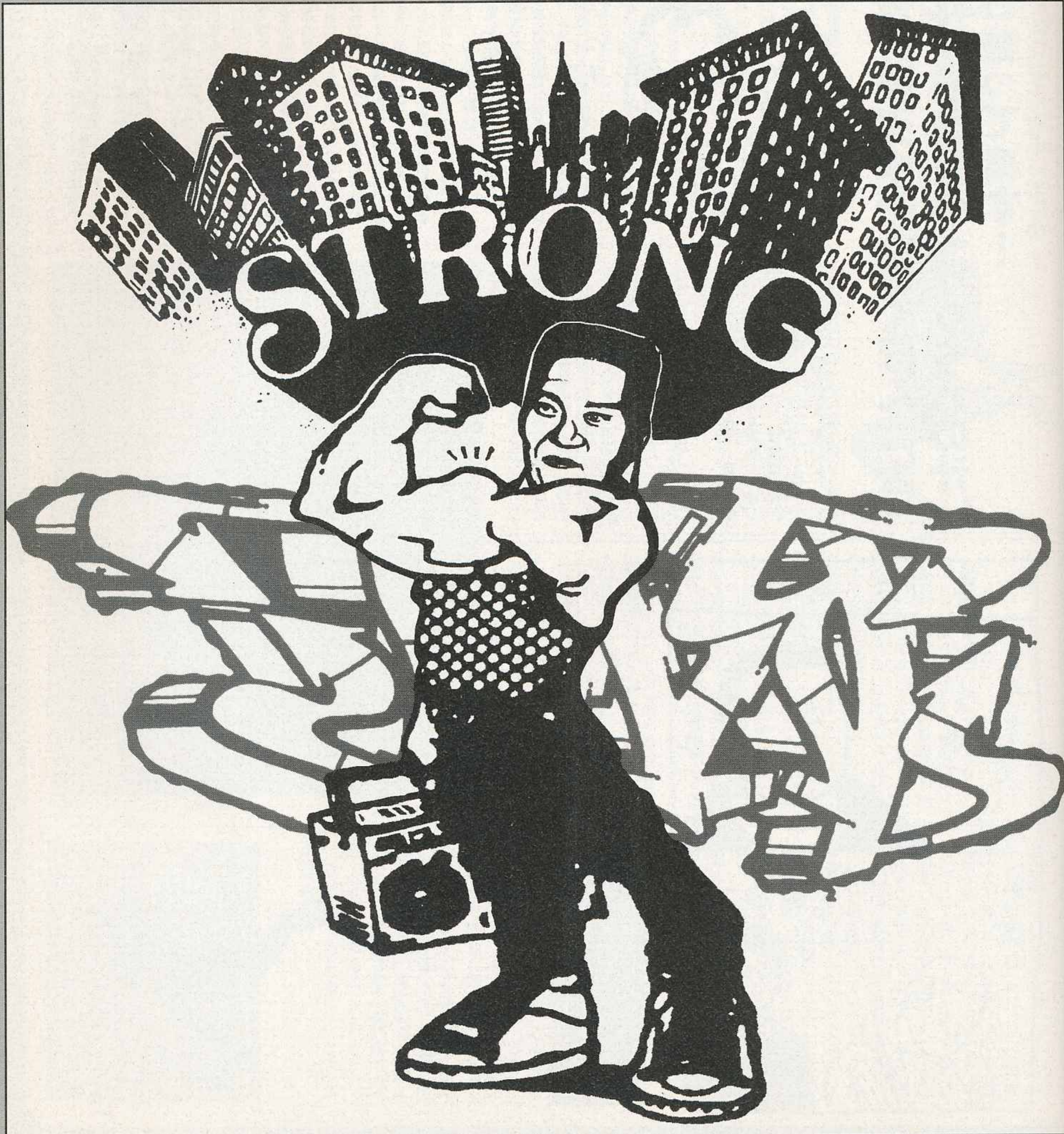
コラムページ担当の坂井君が千秋楽。金剛からスーパーコラムは、よりストロングに生まれかわります♥

★今号のラインナップ★

※武田いづみちゃんの『ディスカバー・シンニホン』は今回お休みします。次回にご期待ください!!

STRONG

Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

BEST OF THE スパコラム

『ヤンマガ』の編集後記（電車で拾って読んだ）から遠い外国の王子様クラスまで幅広く波乱を呼び熱く語られる『PRIDE』新ルールですが、私も一言もの申したい。『PRIDE』新ルールに、ぜひこれをひとつ加えてほしい！

「辻（よしなり）を『PRIDE』に近づけんな!!」ってね。最近サムライTV見てっと、辻が司会の『PRIDE』番組の宣伝がよく流れてんだけど、あんな腹立つもんはないね！　モーニング娘。で保田のハ

チャーリーズエンジェルDVD発売やった一♥

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

ジニアス

リキリぶりもTVで見ててムカムカするけど（あとTVタックルの田嶋や大槻教授、俺って単純!!）同じくらい、いやそれ以上に腹立つよ（ちなみにいま私のささやかな夢は、大槻教授の目の前で超能力使えたり、UFOを呼ぶ人が出現すること）。テレビ局にすぐ抗議電話するクソババアの気持ちが、ちょっぴり（6％）判ってきたそんな今日この頃です。辻と柴田の黄金コンビは新日の枠だけで電波流してくれ。外に漏れないでくれ！

それはそうと、今年もアブダビはやってくれた。植松とバレットが当り、さらにその勝者に矢野卓見が当るかもしれない組み合わせをネットで見た時には、一瞬脳みそ止まり瞳孔は開き、口元はだらしなく緩んで客観的にみればそーとーヤバイ顔してたと思う。家族に見られないでよかった！

また今年も言うはめになった、「王子、あんた最高だよ！」と。何度も言わせやがってコンチクショー、来年も言わせてくれよ。あと来年は、大ノゲイラ＆小ノゲイラ参加させてね。

その小ノゲイラが負けた。勝田はまたあの戦法で勝ったが、俺的にはやっぱつまんないなあの勝ち方。みんながあれやりだしたらどうしよう？　あとあの試合を会場の雰囲気に流されずに引き分けとジャッジした鈴木レフェリーは冷静だと思った。30－27と大差付けてた人もいたけど、どうかな？

アブダビ級に大会前からワクワクさせんのが今度のコンテンダーズ。ライト級トーナメントのメンツ凄すぎる。バレット・矢野・戸井田などに柔道の小室、これに植松が加わればカンペキなんだけどなあ。バレットvs矢野か戸井田見たいね。あと矢野や戸井田らが足関で小室に勝つのも見たいな、可能性あると思う。

そんで鈴木みのる参戦だ。SAWのアマチュア選手と試合したり、ずいぶん敷居が低くなったね。ビックネームなだけにリスクありすぎだが、呑気に見てるこっち側にしてみりゃ楽しみが増えて大歓迎。宇野と鈴木のカラミに注目集まっているが、むしろ注目なのは高瀬と鈴木のカラミでしょ。シングルで見たいね。

健介・橋本・天山小島らも敷居を低くして格闘家とリアルな勝負して欲しいと、こないだテレビ（相撲最強説を検証する番組）見ててつくづく思った。この番組は、相撲最強を唱えるデーモン小暮と、それに反発するプロレスファンの図だった。あいかわらず相撲を語る時のデーモンはどんな仕事よりも生き生きしてる。相撲最強に諸手を挙げて賛成する気はないけど、デーモンの言うことはしっかりしてたし、プロレスファンからの反論に対する受け答えも完璧だった。それにくらべてプロレスファンのトンチンカンなこと。節穴にも限度があんだろ!?　あんな人達がまだまだ20万人ぐらいいんだよね日本には、これからも永遠に。新日や『ゴング』は正しい、彼らのニーズにあわせてるだけか。そんな世界にちょっぴりショックを与えたい、健介『PRIDE』出場・橋本UFC出場・天山小島アブダビ出場……見たい。

あとサスケ凄い！　さっき日テレで一茂が司会のスポーツ情報番組見てたんだけど、K-1戦士などがよくやってるキックして衝撃計るコーナーにサスケが挑戦してさ、キックじゃなくてプランチャやトペをブッぱなしてとんでもない数値を出しちゃってました。いいモン見れた。ほんとはこの時間、後楽園ホール行ってりゃ美濃輪vs佐々木という凄え面白い試合やってたんだけど、同じくらい凄えモン見れたから、まあいいか……。いくないよ!!

とにかく辻とshowはかんべん！

好評発売中の『さくぼん』には花くま先生の「サクラバの汁」も載ってます！

事情あり

小路

プライド14でシウバとやらせてください！

桜庭と再戦した後ならいつでもいいよ

やっぱり…

ピュ

サスケ凄え！

はなくま・ゆうさく■33才になってからチョロQ集めに目覚める。米倉涼子にも目覚める。6月に単行本「野良人リサイクル」発売。

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

いなら自分の素性を明かして入国した

ナイ男だという話である。

BEST OF THE スパコラム

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

楽☆勝ちます

『密航せよ！ 2001』の巻

金氏はダメな大人代表・ターザン山本イズムの体現者なのである！

密航せよ！ 風呂屋の番台をかいくぐり、女湯へと密航せよ（由利徹）！ 密航せよ！ お座敷列車を青春18キップで乗り継いで自殺の名所巡りツアーへと密航せよ！

密航せよ！ 使い古したお母さんのパンストを頭にかぶって「学生帽です」と言い切り、大手を振って赤門を突破し、最高学府の学食へと密航せよ！

というワケで、世の中猫も杓子も密航流行りで、このままだと流行語大賞もターザンが受賞しかねない非常ベル鳴りっぱなしの昨今。ブームは国内だけにとどまらず、海の向こう側の彼国からも「密航」という甘美な響きに魅せられて、マジすぎる不法入国者がやって来た。

金正男——キム・イルではなくキム・ドクでもないキム・ジョンイル総書記の息子が、東京入国管理局にアッサリつかまったのは周知であろう。全身をルイ・ヴィトンで固めた今時大阪人でもやらないような超絶金満ルックの嫁、フェンディーのサングラスがギラギラしてるシロガネーゼ風秘書、そして思い切りコブつきという、愛人込みの家族旅行のような複雑な家庭環境スタイルで「サイトシーンです」なんて言い張って通ると思ってるところがなんともズルムケで、彼国の底力を見せつけられて大層微笑ましかったんだが、もっと重要なのは知られざる金正男氏の素性だった。北にある自分家じゃあ世界各国のTV番組視聴し放題、スカパーなんかも内緒でキッチリ見てるらしく、日本の事情にも精通。好きな日本人スターはと聞かれて「アントニオ猪木と千葉真一」と即答するあたり、非常になにか、こう、他人とは思えないものを感じてしまったのは俺だけじゃないだろう。

きっとこの人も、プロレスファンという名のダメな大人なんだろうなぁ、と。しかも密航という言葉に極端な偏愛を持つあたり、金氏はダメな大人代表・ターザン山本イズムの体現者なのである！

正々堂々と入国しようと思えば楽勝でVIP待遇だったものを、なぜパスポートを偽造してコッソリ渡航する必要があったのか？ それは当然、「密航せよ！」というターザンの名言に偏動され、得体の知れない後ろめたさを背負って入国することに、プロレスファンとしてのカタルシスを感じてるからに違いないんである！ 一部報道では今回の渡航理由を「ディズニーランドへの観光」だとしているがそんなもんはツアーのオプション。

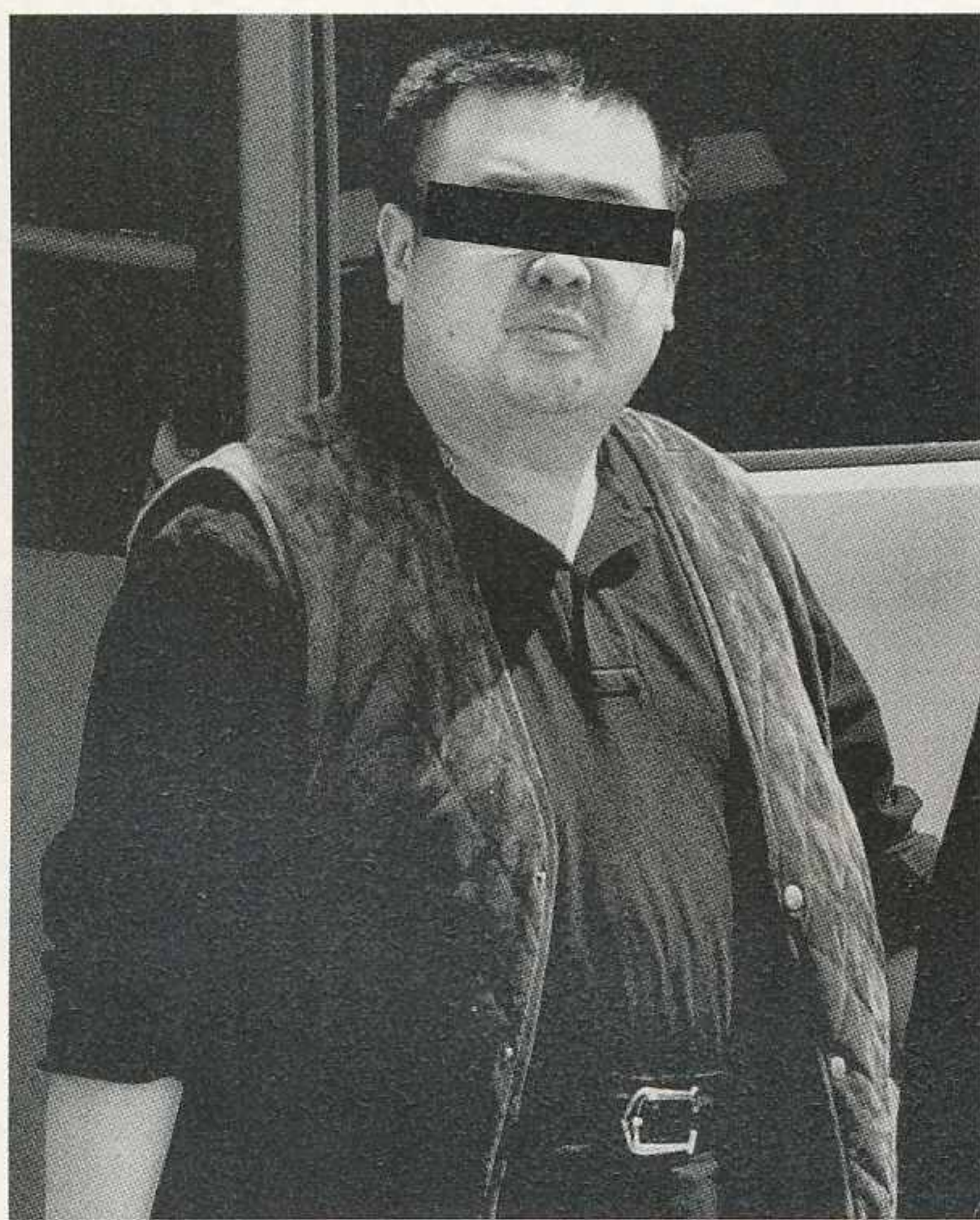
確かに嫁はんと子供への家族サービスとして、ディズニーにはマジで行きたかったんだとは思う。だがそれならなんでG・Wなんていう観客動員のピーク時にわざわざ来る必要があんの？ サラリーマンじゃねぇんだから平日の午前中にでもいきゃいいじゃねぇか？ 大好きなミッキーやミニーを独占したいなら自分の素性を明かして入国した方がディズニー貸し切ったりも出来ていいんじゃないの？

真の目的は違う。ホントは新日5・5『レスリングどんたく』観戦が第一であって、それに合わせて家族サービスしただけに決まってんじゃねぇか!! 密航は目的を明かした時点でその甘美を半減させてしまうのだからして、アッサリ「新日観に来ました」なんて口を割るのはナンセンス（大体正直に言ったところで信じてもらえない）。

実は金氏一行は昨年にも10月に1度、12月には2度密航に成功していたという事実がある。10月といえば10・9東京ドームでの橋本の復帰戦！ 折り鶴兄弟ストーリーにもらい泣きしたクチとしては、会場で橋本復活の勇姿を観なきゃしょうがないでしょ。12月は敬愛するアントンのお祭りもあったことだし当然密航するっきゃないでしょ。もう1回は…なんだろな、多分タイタンファイトかなんか。まぁ、そんくらいプロレスが好きで好きでタマラナイ男だという話である。

小川直也はかつてヤマノリに対戦要求された際、「こんなカードじゃ世間に届かない」とバッサリ切ってとっていた。じゃあ、ロートルメスカブト相手にすんのが対世間ってことなの？ と非常に疑問に思っていたんだが、世間どころか海の向こうの金正男にまでビンビン届きまくっていたのだから問題なし！ 世間とプロレスするという猪木イズムを体現する小川、そして猪木の後継者・小川を影ながら支援する金正男……純プロレスNOT DEAD！ 猪木のビッグマッチには必ず『燃える闘魂』の旗を持ち、小川の新日参戦時には『暴発男』の旗を振っている人物がいることを皆さんは知っているだろうか。あの〝のぼりオヤジ〟の正体も実は金正男である可能性大！ さすがは猪木、タニマチがデカイにも程がある。今回は惜しくも強制送還されてしまったので、多分いつもと違う人物がのぼりを挙げていると思う。確認されたし（報告の必要は一切なし）。

5・5福岡ドームは結果こそ中西が村上を破ったというものだったが、誰の目にもイビツに映る試合展開は長州政権の崩壊を意味していたように思う。1・4事変にはじまるイノキルネッサンスが暴発した夜、金正男氏はビデオの予約録画に成功しただろうか。

嗚呼、今日も玄界灘にイノキコールが鳴り響く……。

※写真はズバリ言ってイメージです。

おきて・ぽるしぇ■5月31日（木）渋谷クアトロにて『ロマンポルシェ。のはぐれニューウェイヴ純情派3』を強行開催！ 対バンにはなんと80年代のイコンこと戸川純バンドが参戦！（しかもドラムは吉田達也！）ヤバイぞ！ チケットはぴあ又はローソンで！ 当日券もバリバリある！ いいからとにかく急げ～!!

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

実録 最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K

PROFILE

No.14 SCAFULL KING
（左から、アキラ、タダアキ、タガミ）

高校時代の仲間同士で90年に結成。以来、地道な活動で着実に力を付け97年にデビュー。現在は、ブラフマン、バックドロップボム、先月このコーナーに登場してくれたLOW IQ 01などと東京を中心に精力的にライヴ活動をしている。スカとパンクをベースにしたサウンドで多くのキッズをトリコにしている6人組だ。その複雑な展開を見せるサウンドは、まさに練習のたまもの。それていてキャッチーなメロディラインがたまらなくいい。パンク好きのみならず、他のジャンルのアーティストからも多くの支持をされるのは、表現される音に様々な音楽性としっかりとしたバックボーンがあるからだろう。昨年リリースしたサード・アルバム『SCAtegory』には、FISHBONEのヴォーカル、アンジェロ・ムーアがゲスト参加しているぞ。センスの良さはバツグン。ライヴもムチャカッコ良い。人柄も最高にナイスな彼ら。現在新作へ向けての準備中というから、期待して待とうじゃないか！

さて、スカコアの枠にとどまらない幅広い人気を集めるスキャフルキング。そのメンバーの中に、ツアーバスで高速走行中、新日本の選手バスを発見し運転手に抜かず見失わずの指示を出すほどのプロレス好きがいるという。ドラムのタダアキくん、トロンボーンのアキラくんだ。さらに、最近のは全然知らないというヴォーカルのタガミくんも登場だ。

「新日、好きですねー。放送時間遅いじゃないですか。今、つまんないって分かってるんですけど起きてて見ちゃうんですよ（笑）」（タダアキ）

のっけから辛口＆愛に満ちた新日評で幕をあけたぞ。対するアキラくんは小さい頃から全日派だった。

「お兄ちゃんに見せられてたのがきっかけで。鶴田が星条旗パンツで、ハリー・レイスとか出てた夕方の頃からですね。全日ばかりだったから、ジェット・シンやハンセンが新日にいたのも『列伝』読むまで知らなかった（笑）。ずっと鶴田が好きで、長州・谷津vs鶴龍の頃とか。あと僕暗いのが好きなんですよ（笑）。全日の分裂は残念でしたね」（アキラ）

「オレ全然分かんないな〜。小4、5くらいは見てましたけど、リングは長方形だと思ってたんだから（笑）。覚えてるのは藤原喜明が長州襲ったのとか、猪木が舌出してたヤツとかですね。オレ、小学校の頃、早寝だから、7時半くらいで寝てたんですよね〜（笑）」（タガミ）

えらい！　早寝は少年の鏡。ということで、タダアキくんが見始めた新日は、猪木vs国際軍団、タイガーマスクの時代。その後、ブランクを経て、鶴田vs三沢超世代軍頃の全日でプロレス復帰したという。

「そのあとハマったが新日とUインターとの対抗戦。第一試合の石沢・永田vs金原・桜庭が好きですね。それまでのブランクは全部ビデオで見返しましたね」（タダアキ）

「ルチャはいいね（笑）。単純に飛んだり跳ねたりがスゲーなって（笑）」（タガミ）

唐突なストレートな答えに納得。こういうシンプル意見が大事なのだ。そんなタガミくんが、プロレスと疎遠になった理由も子供ならではの出来事がきっかけだ。

「田上って最初スゲー弱くて、名字の漢字が一緒だからすげーバカにされて（笑）。それでプロレス嫌いになった。余計なの出てきた〜って（笑）」（タガミ）

「でも最近は強いよ」（タダアキ）

「ホント！　何でも10年くらいやってると形になるもんですね（笑）」（タガミ）

田上選手の成長と、スキャフルの成長がここでみごとにつながった。キャリアの重要性を噛み締めよう。さてアキラくんは新日の会場で良いものを買ったことがあるという。

「チャリティで平成維新軍の連判状を500円で買ったんです。そうすると握手してくれたんで。でも、越中とかそんな大きくないなって思いましたね（笑）」（アキラ）

今回はピュアなスレスレ感いっぱいでお届け中。さてお気に入り選手は。

「永田ですね。あと意外と健介がヒクソンに勝てるんじゃないかって話も一時期してたことがあるんですけどね」（タダアキ）

「それと武藤は試合も面白いしカッコいいじゃないですか。ただ……おもしろい人ですよね（笑）」（アキラ）

「イイですよねー（笑）。IWGPで高田に負けた時も、その前々日にくらいに『われめでポン』に出てたり（笑）。それが印象に残ってますねぇ」（タダアキ）

さて、いまアメリカでは社会問題にまでなってるバックヤードレスリング。その先取りのごとき、ハードなプロレスごっこに勤しんでたようだ。

「小学校の頃、バックドロップやったら友達が腕骨折しちゃったんだよね（笑）。中学の入学式来れなかったんだよな、あれは悪いことをしたな（笑）」（タガミ）

「学校で、河津掛けが流行って（笑）。友達が、コンクリートの角に頭ぶつけましたね」（アキラ）

「ベルト作ってプロレスやってました。タンスの上からフライングボディプレスとか。小学校の時、友達にボストンクラブかけられて、ずっとギブしなかったら思いっきりやられて。それ以来腰痛めて、小6から脊髄分離症に悩まされてます（笑）」（タダアキ）

なんと小学生の頃から小林邦明と同じ症状に悩まされていたとは。早めのギブアップを忘れずに！　そんな彼らは大のプロレスゲームフリークでもある。

「プレステで選手育成するクソゲーあったじゃないですか。最後のヒクソンまで倒したんですけど、そのまま何にも出てこないで終わっちゃいました（笑）」（タダアキ）

「いつかファイヤープロレスリングの大会をやりたいですね」（アキラ）

さて、2人は会えて嬉しいレスラーに蝶野選手を挙げたのだが、最後に、突如タガミくんが『プロレススターウォーズ』仕込みのタッグチームの名前を口にした。

「オレは顔塗っててタバスコ飲む人、ウォリアーズに会いたいっすねぇ」（タガミ）

そんなスキャフルの今後に期待だ！

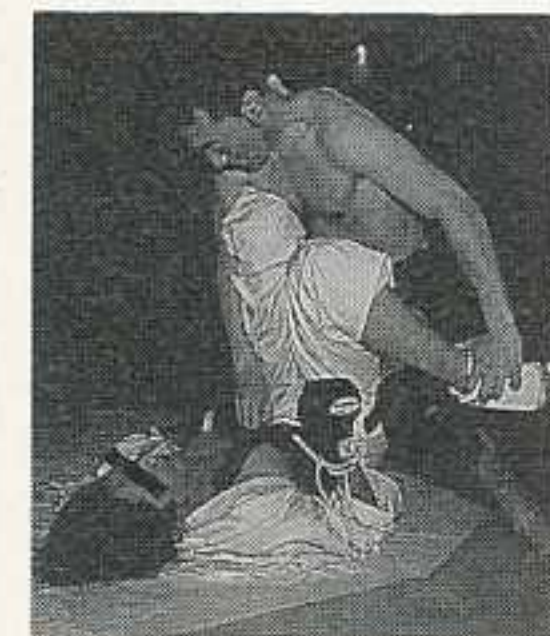
プロレスとエロどっちも裸のおしごとです

文・大坪ケムタ

エロ・サムライ

vol.5 女空手家vsレイプ魔の巻

「新・女必殺拳！欲獣たちの熱い淫棒が空手美少女達の貞操を蹂躙する！」と実話誌か志保美悦子の映画か、てな感じで始めたくなるのが今回のネタ。

今月はいつものインタビュー形式をお休みして、先日横浜の某クラブで行われたレイプAV「女空手家vsレイプ魔」の撮影模様を今回はお伝えするのだ。

まずこのビデオが撮られるまでの背景を説明せねばなるまい。昨年「映像で表現出来るレイプビデオの限界！」の売り言葉で一本のAVが発売された。それが『女柔道家vsレイプ魔』。世間にレイプAVは山ほどあるが、マジモンとなれば当然皆無、そりゃ犯罪ですからね。そこでストリートファイトをスポーツ化したのがヴァーリトゥードならば、レイプをスポーツ化出来ないものか？　と監督が考えたかどうかは知らないが、ヤる事は前提である男優とAV女優をリアルファイトさせたら？　そのかわり女は全局面でのヒジ・噛みつき・金的アリのノールール！　男は組みついて脱がすだけのハンデ戦。そして女は5分間逃げ切り、またはKO・一本を取れば勝利、しかも5人抜きで50万円！　対する男は女を全裸にすればレイプする権利！　このゲームバランスが上手くいってか、前作は「レイプAV」というより「格闘ビデオ」の良作に仕上がっていた。その好評を受けて制作されたのが、この第二弾・女空手家編なのだ。

今回チャレンジするのは沖縄空手出身で歴はなんと13年！　という美山千春ちゃんと、歴は2年と短いものの「血とか見たいですねー、指とかも折りたい」という魂はゴルドー級の永井絵理香ちゃん。共にフルコン系ということで打撃には躊躇ナシ、いや〜しかしオープンフィンガーグローブに空手着の女のコって凛々しくてヨイですなっ！　AVの撮影ってのを忘れちまいます、マジで。

そして第一回戦、美山vs男優一号。男は脱がすためには道着の上下の紐を解き、脱がした上で下着を剥がさなければ「全裸一本」にはならない。男側の定石としては一気に組み付いて倒し、グラウンドで紐を解く→脱がす、となるのだけれど……一回戦、不用意に組み付いてきた男の股間に金的蹴りがヒット！　一発でダウン、苦悶する男の背後からマウントパンチの連打、そして首を取ってスリーパー！　彼女も絞め技は素人とはいえ男優も格闘素人、たまらず男優1号タップアウト！ファウルカップは付けてるとはいえ、総合で金的が殆ど認められないのが分かる気がしますな。畏怖！

一方の永井選手、空手歴の短さと倉木舞衣をキツめにしたよなルックスの良さから、すぐヤラれっちまうかな〜と思ったらこれが超意外！な闘いっぷり。特にこの日のベストバウトの第二戦。男優2号の巧いポジション取り（といってもレイプ目的）に上下の道着の紐も解かれ、ブラジャーも破られるなどDカップの胸も尻も見えまくり。レイプが始まったら彼女の顔面に即ブッかけようと待機している周囲の汁男優たちの歓声も一層ヒートアップ！　必死のロープブレイクで、スタンド状態から再開。低めに組み付いてきた男優2号、だがその刹那！永井が男の首を抱え込み一気に締め上げてフロントネックロック！　この秋山かノゲイラばりな技に、たまらず男優2号キャンバスを叩いてギブアップ。オイシイ所まで脱がしての逆転勝利、まさにAV版「風車の理論」、脱ぐ前から負ける事を考える奴がいるかよッ！　しかし永井選手、殴る時ホント楽しそうなんですよね。サドっ気というか、やっぱゴルドー入ってます……。

しかし美山は戦前から靭帯を痛めていたらしくこの後はハードな闘いが続く。永井も徐々に脱がされギリギリの逃げ切り勝ちが精一杯。二人は5人抜きを果たし50万円を手にすることが出来るのか、それとも男優達の生け贄と化してしまうのかッ！っと一応『紙プロ』は一般誌なのでエロ場面はヌキのご報告。しかしなんつったってノールール、技術こそ劣れどその緊張感と迫力は新日ノールール戦の数百倍、桜庭vsシウバ戦にだって見劣りナシ。18歳以上のよいオトナは一見の価値アリです！

最後にレイプに成功した男優氏、脱がせるだけでゼーゼーで、そこからナニを立たせるのにまた一苦労。っつーことでレイプは現実にはかなり難しいのでヤメましょうね。

おおつぼ・けむた■今回のエロ版は『問題実話』（桃園書房・6月7日発売）で、お父さんウハウハの恥辱写真満載！

➡今回紹介した「女空手家vsレイプ魔」はソフトオンデマンド（株）から6月7日ビデオ＆DVDで同時発売。前作『女柔道家vsレイプ魔』は好評発売中です。

ラーメン王・石神秀幸の 闘魂★たべある記 特別編

VOL.4 ラーメン王、宮戸優光に会う

プロレス界で一番の料理通と言われる宮戸優光が、実は超のつくラーメンフリークだと言うことが判明! ガチンコ対談敢行!

石神(以下石)　いつ頃から食にこだわるようになったんですか?

宮戸(以下宮)　子供の頃から料理が好きだったんだけど、先輩達からちゃんこを誉められるようになって特に意識しましたね。「今日は宮戸が当番か、じゃぁ食ってこう」ていう人も多かったからね。安生や中野が当番の日はみんな嫌がるんだけど(笑)。それからゴッチさんの朝食を作ったときに「オマエの目玉焼きは今まで食べた中で一番ウマい」と言わましたね。

石　神様公認だ(笑)。本当に上手なんですね。単純な料理ほど技術がハッキリ表れますからね。

坂井ノブ(以下坂)　Uインター出身の人達によると、宮戸さんは練習と同じくらい料理の指導も厳しかったそうで。

宮　ハハハ。練習の後、楽しみって食事くらいでしょ。不味いと頭くるんですよ。でも今強くなってる奴はみんな料理上手かったですよ。タムちゃん(田村潔司)と桜庭、ヤマケンの三人は上手でしたねぇ。でも桜庭を誉めたら高山が「コイツ普段は手を抜いてヒドいんスよ。上の人がいないとちゃんと作らないんです」って(笑)。桜庭らしいと思いましたよ。

石　料理は人柄がでますからね。どんなラーメンが好きですか?

宮　綺麗にスープをとったシンプルなラーメンが好きですね。

石　具とかでゴチャゴチャ飾り立てて誤魔化すのは簡単だけど、柱である麺とスープが最も重要ですからね。

宮　石神さんはスープを舐めて店を当てたり、味覚の鋭さを実証してるところが凄い。料理学校の○○先生とかも「本当に分かってるのか?」て感じだし。

石　料理評論家もいい加減な人が多いんです。TVで有名な料理記者歴何十年の○○なんて超ヘビースモーカー。それで人様が作った料理を批評するなんて言語道断ですよ。格闘家だって肉体をいじめて練習するわけでしょ? 偉そうなこと言うなら自分に対しても厳しくしなきゃ。

宮　それはあらゆる職業に共通することだよね。

石　格闘技って技術革新が激しいじゃないですか? 少し前まで絶対だったグレイシーの技術が今はアベレージになってる。料理も同じで、次々と新しい技術と味が生まれてる。料理人も食べ手も、格闘家も観客も勉強しなければ取り残されてしまう。

宮　特にラーメンの世界はなんでもありだもんね。和食あがりの人がいたりフレンチあがりの人がいたり。柔道ベース、空手ベースじゃないけれど、スープだけ見てもいろんなベースがありますもんね。

石　格闘技やラーメンで自己表現する人が増えていると思うんです。昔と違って最近は若い人が憧れる職業になってるんじゃないでしょうか。

宮　そうかもしれないね。昔は球技とか他のスポーツに比べると、格闘技は暴力的であか抜けないイメージでみられてたと思う。

石　ラーメンも専門の料理人からみると、基本がメチャメチャみたいに言われた時代がありました。

宮　でも今は一つのジャンルとして認められてるし、若者の憧れの職業になってきてるよね。そういう意味で格闘技とラーメンは共通項を持ったジャンルだね。

石　発展途上ですけど、まだまだ伸びる魅力あるジャンルですよね。

坂　ところで、噂ではこの一週間で喜多方と佐野に行ったとか?

宮　佐野では二軒行って、東京に戻って三軒行きました。

坂　一日にですか?

宮　それでも石神さんから見れば少ないでしょ?

石　少なくないです(笑)

宮　ラーメン道は厳しいですよ、大食いの要素も持ってないといけない。

石　そう、でも食べ過ぎると味が分からなくなっちゃう。

宮　もっと食べたい、でもこれ以上食べても味が分からない、そこがジレンマだよね。

石　だから有名な料理記者で、食べたらすぐに持参してる袋に吐き出す人がいるんだけど、料理人に対して失礼だと思う。

宮　作ってる人が知ったら悲しむね。

石　格闘家の人が食べたいラーメンてどんなのですか?

宮　脂分が多すぎるのは避ける選手多いよね。だからといってヘルシーなラーメンを狙うのも違うと思うし。だから石神さんにはレスラーでも気にせず食べられる、脂が少な目だけど美味しい店を紹介して欲しいね。

「蛇の穴」でガッチリ握手する宮戸とラーメン王・石神秀幸

スペースローン・ワイフ 真下純子の ひりきな奥さん

VOL.4『叶姉妹に学ぼう』の巻

「わわわ〜、あ…あれでも人間かよ、ゴクリ…」(©みのもけんじ)。

唐突ですがみなさま、叶姉妹はお好きですか? わたしは大好きです。チビッコが改造人間ヒーローに憧れるような感覚でわたくしは彼女たちに憧れます。

「ジャングルを守るよりジャングルを作れ!」ならぬ「乳が足りないなら乳を作れ!」。できるもんならやりたいっつーんですよ。鼻も目も顎も全とっかえしたいですよ。

今のプロレス界に失われているものが叶姉妹にはあるような気がします。胡散臭さ・嘘っぽさ・作り物臭さ、よろしくチューニングしまくった肉体美。ロード・ウォリアーズがTシャツを引きちぎって肉体を誇示するように乳尻半出しドレスをまとい、赤じゅうたんの上を前のめり(乳が)。ウォリアーズがネズミを食べたりタバスコを一気飲みするように彼女たちはスッポンを食べコラーゲンをオーバードゥース。いつもつやっつや。顔面ペイント(化粧というより特殊メイク)も怠りなく。見る者に威圧感・恐怖感すら与える佇まいはまさしく平成のロード・ウォリアーズです。

「あんなものはステロイド打って見せ掛けだけだ」とウォリアーズは断罪されましたが彼女たちも「サイボーグ」だの「ニューハーフ」だの叩かれがちです。しかし、あの肝のすわった美への執着心、どん欲さ、自分LOVEさ加減は凡人には真似しようとも真似できません。

「気迫、気合い、そういうものが最終的に女性の美しさをつくると、わたくしは思います」

恭子さんの言葉通り彼女たちには今のレスラー達にない気迫・気合い・貫禄・オーラがあります。さらに恭子さんは著書にこう書き記しています。

「美しさとは。それは絵画のように、言葉を持たない訴えかけ。人の心の奥深くに、強く響き、感動を引きこすものだと思います」

この「美しさとは」というのを「闘いとは」とか「プロレスとは」に置き換えてみたら、なんだかものすごくしっくり来ませんか? 渋いわ恭子さん!

妹の美香さんは某週刊誌に肩書き・経歴詐称疑惑、家系の謎等を暴露された際、「ふざけんな、編集部に殴り込みかけてやる!」と発言。まるで「クソぶっかけてやる」なその姿勢、大変かっこようございます。渋いわ美香さん! セールスポイントだったミス日本(藤原紀香も受賞)を本当に受賞したのか?と突っ込まれた際、恭子さんはこう言いました。「受賞したとかしないとかは、プランクトンのように小さいことです」。どうです、この猪木ばりの「どうってことねぇや」精神。こんな切り返しのできるレスラー、最近ではとんとお目にかかっておりません。この堂々たるインチキくささ、如何ですか!!

プロレス界の地盤沈下になんなんとする昨今、叶姉妹のようなわけのわからない得体のしれないとてつもないレスラーが、どこからか沸いてきてくれるとおもしろいなあと思うのですが、ちょっと強引すぎました? もう世間様は彼女たちに飽きてます? そういえば最近ワイドショーでも見なくなってるし。改造してるのかしら、カルガリーとかで。

ました・じゅんこ■坂井ノブさんには大変お世話になりました。世界知的所有権機構がオーストラリアにあるということやグレープフルーツの痩身効果、沢田亜矢子の旦那が『ホストクラブ愛』で働いてるということなど、沢山のことを教えていただきました。年男で厄年で真顔の坂井さん、いつまでもお元気で。

ザ・検証
プロレス点と線

今回のザ・検証のテーマは、担当編集の坂井君がいなくなってしまったのはなぜか？　というのは真っ赤な嘘。今号で明らかにされるはずだった「死神Tシャツ」ですが、それも真っ赤な嘘。いや、次号では公開しようと思ってます。検証スタート!

ザ・検証

【今月の検証】ドラゴンの「ホントに来た　大再会スペシャル」

by 椎名基樹

少し前のことになってしまうが、「うるるん滞在記」の「ホントに来た　大再会スペシャル」なるものに出演した、藤波社長が、これでもかというくらい、ドラゴンイズムを爆発させていたので、今回の検証してみたい。

まず、番組は6年前に、パプアニューギニアのオロパ族の元に、ドラゴンが訪れた時の模様から放映された。「大再会スペシャル」と名付けられた通り、過去に訪れた土地に行き、再会を喜ぼうというのが、番組の趣旨だ。標高2100メートルに住む、オロパ族の村に徒歩で向かう、6年前41才のドラゴン。もちろん、まだ社長の座はゲットしていない。

「ダメ～、ダメ～。もう近いの？　もう近いだろ、これだけ歩いたら」

と、さっそくスタッフに泣き言をいうドラゴンから、映像はスタート。

やっと村にたどり着き、出迎えをうける。村長のマルンバさん。世話になる家の家長バリさん。奥さんのパマンダさん。その孫のワタくんなど紹介される。どいつもこいつも、まさに部族。泥だらけで痩せていて、目だけギラギラしている。人というより、半人半獣。当然、ビビる、ドラゴン。そして、家の中に通されて、3食同じという主食の芋を食わされる。

「さっぱりとした芋」

と、引きつりながら、ドラゴン一言。あまりのマズさにそれ以上のコメントなし。

翌朝。

「一睡もできなかった、ただ腹が減ってねえ」

と、青い顔色でつぶやくドラゴン。あんまり、ドラゴンが嘆くので、村人がごちそうを取りに連れていってくれる。しかし、それがまた険しい山道。ドラゴンまた根を上げる。そこに《毎日1kgのステーキを平らげる、プロレスラー藤波。芋一個では力が出ない》と悪意に満ちたナレが被る。

そして、やっとの思いでたどり着いたごちそうは、カブトムシの幼虫大の芋虫。大好物だとパクつく孫のワタくん。ドラゴン一言「ダメ」。次はキリという果物、かぶりついて、ゲーゲーとえづくドラゴン。最後はサワガニ。生きたままバリバリ食う、現地の人たち。そして、ついにキレる、ドラゴン。

「今日から出てくる物を食わなきゃ。だってそうしないと、食うもんがないんだもん（両手を広げてNOのポーズ）。普通は用意してるでしょう。藤波さんお疲れさまでした。それでは、食べ物は用意してますからって（一人芝居）。いつまでたっても出てこないから、待てよこれは本気だぞと思って……」

と、テレビとは思えないシュートなことを言い出す、ドラゴン。

翌日。なぜか、バリさんと弓矢で対決するハメになる、ドラゴン。お互い至近距離で弓を引いたまま、グルグルと回る。《バリさんは村一番の戦士。かつて、敵に殺された弟のカタキの首を噛みちぎった勇者》とまたもや、悪のりナレが被る。疲れてしゃがみ込むドラゴンに「立て！」と言って蹴り入れる、バリさん。「休憩！　休憩だっていってんだろ！」と冗談半分、マジ半分で応える、ドラゴン。

そんな、ドラゴンの唯一の友達は孫のワタくん。その夜、いっしょの寝床で戯れる二人。腹を指して「ストマック」。耳を指して「イヤー」となぜか英語を教える、ドラゴン。

翌日。ドラゴンを見かねた、村人が、ブタを料理してくれることになった。蒸し焼きされただけの素朴なブタ料理を食う、ドラゴン。

「一週間ぶりの肉～！　うめ～！　一週間ぶりのあの肉の感触……。見ている人は、あのブタ肉を食べた時〝え～あれを口にするの〟と思ったと思うんだよね（差別発言）。でも、俺から言わせれば〝冗談じゃないよ！　あのブタ肉の味はあなたたちにはわからないよ〟っていうね……」

と、言って言葉を詰まらす、ドラゴン。そして、ついには、嗚咽し涙をこぼす、ドラゴン。誰も〝え～あれを口にするの？〟とは思わないが、〝え～お前泣くの？〟とは思ったハズだ。その素っ頓狂な感情の高ぶりは、過去の「髪切り事件」「こんな会社辞めてやる事件」を思い起こさせる。

別れ際、やしの苗を植えてもらい、それを藤波な名付けてもらう、ドラゴン。そして、おみやげにと、子豚を手渡された時、露骨に迷惑そうな顔をするドラゴン。最後に《子豚は村で育ててもらうこととなった》というナレで閉められる。

あれから6年。ステーキハウスで昔の携帯電話くらいある、肉の塊ステーキを食っているドラゴン。いくらなんでも、そんなに食わないだろう。悪のりに乗らされる形で「あれから肉を食うと、あそこを思い出す」と、心にもないことを言わされ、また旅立つこととなったドラゴン。

《今度はヘリでやってきた》と嫌味なナレでドラゴンを出迎える、村人。「みんな俺を知ってるみたいだな、俺は全然わからないけど」

とドラゴン。みなが藤波、藤波と連呼すると、気をよくして「なんか地元に帰ったみたいだな」と、部族に囲まれ喜ぶ、ドラゴン。

バリさんの家に行く。「バリ、あんたの息子が帰ってきたよ」と村人に呼ばれ出てきた、バリさん。杖がないと歩けないくらいヨボヨボになっている。バリさんは「帰ってきた、帰ってきた、藤波、我が子よ」とほとんど、放心状態で感激。あまりの熱さに戸惑いながらも、まんざらじゃない、ドラゴン。「俺は年を取った」というバリさんに対し「大丈夫、明日からボクが芋を掘りに行きます」と一週間しかいないくせに応える、ドラゴン。村長のマルンバさんも大声を上げて飛んでくる。その姿はまるっきりエガちゃん。興奮してドラゴンの周りをグルグルと回る。引きつり笑いのドラゴン。

翌日。

「滝の上までいってくれ、そこにはおいしいものが、たくさんある」

と、明らかに、テレビスタッフに命じられたと思われる、ミッションをドラゴンに伝える、バリさん。また険しい道を行くこととなった、ドラゴン。途中「あなたは休んでばかりいる。バリが食べ物を待っている。だから頑張りなさい」と注意される、ドラゴン。「はい、頑張ります」と応えるもののすぐに「こっちのすぐそこは、ひと山こえて向こうだもんね」と愚痴るドラゴン。さらに、滝登りの急斜面では「登れないよ」と言ったものの、結局登らされ《プロレスラー藤波は110kgの巨体。みんなで引っ張り上げる》というナレを被されてしまう。藤波式呼吸法を漏らしながらなんとか、登る。

「本当の強さはなんだろうと考えさせられたよ。俺は四角いジャングルは強いけど、本当のジャングルは弱いね」とは、ドラゴンの弁。

その夜、ドラゴンのプロレスビデオを村人全員で観ることに。感激した村人。一躍ヒーローになるドラゴン。皆に担ぎ上げられ、満面の笑み。両手を広げるいつものポーズで歓声に応える。

翌朝。ドラゴンに挑戦してくる、子供達が続々と。本気で殴り、本気で蹴ってくる子供達。またもや引きつった笑いで応じる、ドラゴン。ビデオ「マッチョドラゴン」の中の「ドラゴン体操」で、悪のりした子供にズボンを下げられ、半ケツを晒す、ドラゴンを思い出す。

ここで番組はスタジオに。プロレスの試合を見せて、ヒーローになったことへの感想を求められて。「ビデオを観た夜、（村人が興奮して）寝ないんですよ。あれだけ興奮させて、あの夜ボクも一睡もしていないんです。（村人に）襲われたらどうしようと思って」と、感動を売る番組を一切無視したコメントに出演者全員、愛想笑いで凍る。

最後の日。「今度、お前が帰って来た時は、俺はあの世にいってるだろう」そして「息子よ帰らないでおくれ」といって足にしがみつくバリさん。何やらどこかで見たシーン。それは、名著『ドラゴン炎のカムバック』の中写真だ。腰痛で長期欠場していた、ドラゴンが後楽園ホールで久しぶりにファンの前に姿を現した時に、興奮した熱狂的ファンに足にしがみつかれている、あの写真だ。パプアニューギニアにて、またもや、男性ファンの霊に取り憑かれてしまった、ドラゴン。合掌。

別れの時、いつまでも、見送りで後をついてくる、バリさん。それを、「もういいから。ワタ、バリを連れて帰って」と犬ように追っ払うドラゴン。ワタくんも察して「ジイちゃん、行っちゃダメ」と、バリを止める。そこには、他の人の滞在記と違い、何の感動もないのであった。

どうです？　散りばめられた、ドラゴンイズム。もうなんの説明もいらないでしょう。

ドラゴン！　一生ついていきます！

前担当編集・坂井ノブ（千秋楽）の
線路歩いて絵を描いて……vol.8

ザ・検証

【今月の検証】平成維震ニシン軍

by せき詩郎

新日本の会場で石を投げると蝶野のそっくりさんに当たると言われている。それほど蝶野人気は絶大であり、蝶野コスプレをした男達が大勢いる。

一方、Jd'の会場で石を投げるとどうなるであろうか？　もちろん卯木代表を狙って絶妙なコントロールで投げたならば代表に当たるであろうが、そういうことではない。Jd'の会場で石を投げるとある選手に当たることであろう。というより、生真面目に自ら進んで当たりにきたかのように、ごく自然に当たってしまうだろう。そんな想像がかきたてられてしまう選手、それが西千明だ。

そんな人間いるわけが無い、誰もがそう思う。だが実際、西をみるとそれが間違いであったことに気づく。西ならありえると。無造作に投げた石は全て西に当たるのではないかと。それはそうあるべきだったとさえ思えてくる。そして彼女のナチュラルさ、いわゆる天然ぶりが偶然を必然に変える。

「あっ、観覧車だ♥」とはしゃぐ西選手。さあ、楽しいデートの始まりだ

駆け足で向かった遊園地には「本日は定休日」の看板

天然と言うと、もう一人広田さくら（現・悪良）というレスラーを思い浮かべるかもしれない。本人の意思とは関係なく何かと比較されてしまうことだろう。しかし広田の天然さには人工的なものを感じてしまう。温泉は温泉だが、ぬるいので旅館が沸かし直したお湯に似たものを。もしくは東急ハンズのパーティグッズで身をかためてアピールするおもしろさに似た感じ。西は違う。西の温泉は熱すぎて入れない、もしくは成分的に入浴許可が出ない。おもしろグッズは一切使わず、たださりげなく、しかも無意識に巨人軍の帽子を被っているだけ。

西の天然ぶりに人々は魅了され、やがて感嘆のタメ息をつく。いつしか視界には西しか入らなくなる。西がフットスタンプを失敗すれば、悪いのは相手に逃げるスペースを与えた広いリングであり、必殺技「グルグルナックル」が相手に当たらなければ「相手が小さ過ぎるからだ」と言う。いつしか西ファンになった者たちにとって常に西が正しくなる。スポーツ歴ゼロの「得意な科目は国語と数学です」と答えてくれた彼女の試合が終っても、観客は西を追いつづける。自分の試合よりも忙しく動き回り雑用をこなす、まだレスラーとは言えないか弱い体型の西の一生懸命さを暖かく見守りつづけることが使命となる。場外で乱闘が繰り広げられている中、一人でリングを拭き、ロープを調節し続ける西をみるためだけにチケットを購入するであろう。

そういうわけで、私は西ファンになった。「西に会わせて～！」と子供のようにダダをこね、周囲を困らせ、西を取材させてくれたら勉強を頑張ると嘘の約束をして、なんとか西の取材にこぎつけた。取材当日、横浜は快晴。絶好のデート日和だ（仕事意識ゼロ）。

どこへ行きたいか西に尋ねると「遊園地がいいです」との答え。反論するわけなどない。すぐさま遊園地へと向かう。が、しかし、なんと遊園地は定休日であった。いきなりデート（仕事）がつまずく。西と一緒に観覧車に乗り、告白（じゃなくてインタビュー）する予定が狂ってしまった。仕方無い、取りあえず食事だ。食事をしながらの楽しいお喋り（インタビュー）でまずは二人の距離を縮めるとしよう。

「干支はなんですか？」

「猪です」

猪!?　私の知ってる猪年は同級生か一つ下の猪。こんな若い猪年がいるなんて。未知なる猪だ。

「大人になったら何をしたいですか？」

「遠くへ行ってみたいです」

「遠く？　アムステルダムやバリとかですか？」

「いいえ、自転車で海とかに」

17歳の西選手に合わせ、お水で乾杯。デートっぽくパフェの交換もしてみたり。あれっ、Jd'って三禁だっけ？

大人になったら自転車で遠くへ。どこも間違ってはいない。大人ではないのに自転車で遠くに行ったら危ない。事故にあったら大変だ。

「最近何かと話題の長州はどう思います？」

「引退したのにまた出てきたらダメだと思います」

まったく西の言う通りだ。レスラーの引退ほどあてにならないものは無いというが、引退したのにまた復帰したらだめだよね！

などと、唐突で脈絡のない話題をふる私と、それに対して一生懸命答えてくれる西の距離が1ミリほど縮まったところで、今回の取材で何があっても訊かなければいけない質問をぶつけてみる。西の好きなタイプだ。

ここで私は大きな挫折を味わうことになる。西の好みは〝マッチョ体型〟で〝年齢が自分より10歳上まで〟。なんてことだ！　神のイタズラか、いじわるばあさんのイタズラか、恋のキューピットが放った矢は、アメリカワールドカップ決勝のロベルト・バッジョのPKのようにゴール（私）から逸れ、公園の池の鴨に刺さってしまった！　かつて矢ガモが大きな問題となったように、いやそれ以上の大問題である。どちらの条件にも私は当てはまらないではないか。私は日に日に痩せて行く不健康にもほどがある生活を後悔し、昭和45年というベビーブームを呪った。もはやこの恋（じゃなくて仕事）は諦めるしかないのか!?

しかし、ここである事件が起きる。西が注文した料理。大好きなから揚げ、そして、ほうれん草のなんだか。このほうれん草のなんだかを食べようとした西が、塩をかけようとした。だが天然さがそれを阻んだ。なんと塩と間違えて砂糖をかけたのだ。塩と砂糖を間違える、こんな古典的なドジをみたことがあるだろうか。そういうドジがあることは知っていた。しかし実際にみるのは初めてだ。きっと朝食のトーストを焦がすに違いないし、アイロンを使えば服を焦がし、親父が手土産にとくれた私の好物のカラスミをわざわざまた煮て駄目にしてしまうに違いない。さだまさしの曲「朝刊」に登場する奥さん並だ。かわいいにもほどがある！　私の闘魂は再び燃え上がった。

食事を終え、場所を西が好きだという海へと変える。海沿いの公園に植えられていたツツジの花を一輪取り、私は西にインタビュー最後の質問をする。

「第一印象から決めてました。友達から始めてくださいませんか？」

ツツジの花言葉は「自尊心」。自尊、それは自分で自分を偉いと思いこむこと。……なんだなんだ、全然恋愛に関係ないじゃないか。困ったなあ、違う花にすれば良かった…　…などと考えながら顔を上げた瞬間、西のぐるぐるナックルが……！

玉砕。そして取材終了。

かつて平成維震軍が私たちに教えてくれたこと。ダメそうだとわかったら意外と簡単にあっけなく、かつうやむやにして諦めるということ。その教えを実践すべき時なのか。いや、彼らもサバイバル85で負け越したけれど、その後もわりと頑張ったではないか。よし、私もそこそこ頑張ろう！　私と西のサバイバル85の始まりだ（一方的に）。次こそは負けるものか。そういうわけで、次回は西の大好きな横浜ビブレに誘うとしよう（反省ゼロ）。

そして今回の検証結果。

「プロポーズから始まる恋はない」。

「友達から始めてくださいませんか？」との丁寧な告白に必用以上に驚く西選手

人生2度目の告白に動揺したか、いきなりのぐるぐるナックルがうなりをあげる

頭を垂れ丁寧にツツジを差し出し続ける、せき詩郎とぐるぐる回し続ける西選手

長期戦にしびれを切らしたか、せき詩郎が顔を上げた瞬間ぐるぐるナックルが…

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

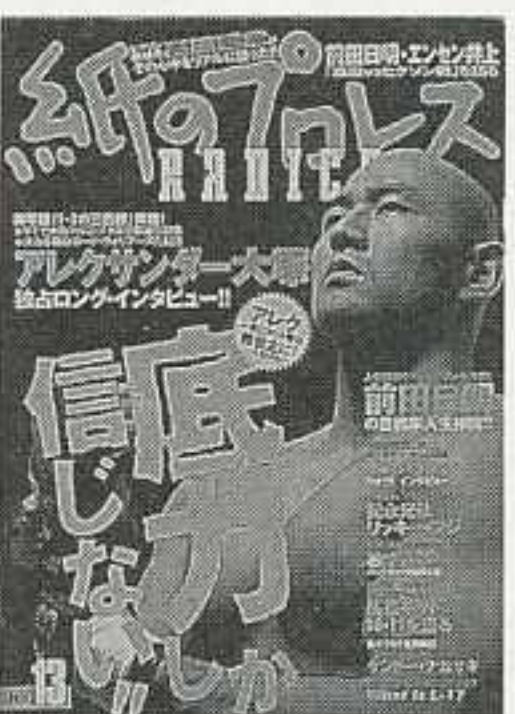
オイ!! おまえの一番読みたい本を用意するから送ってこい!!!

No.5★徹底検証! 高田延彦×ヒクソン戦直前大特集号
ドン荒川&藤原組長/前田日明/柳澤龍志/ディック東郷/サスケ/佐山聡

No.7★田村潔司、『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
木村健悟/サスケ/前田日明/冨宅飛駈/垣原賢人/モハメドヨネ/冬木弘道

No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号!
高田延彦/谷津嘉章/サスケVS松永高司/北沢幹之/冬木弘道/T・山本

No.11★衝撃対談第二弾! 高田延彦vsエンセン井上
前田日明/佐山聡/福田雅一/ザ・グレート・カブキ/アポロ菅原/石川雄規

No.12★高田延彦、2度目のヒクソン戦直前特集号!
浅草キッド/アポロ菅原/サク/アレク/前田日明/菊田早苗/八木淳子

No.13★アレクサンダー大塚、『PRIDE.4』で大ブレイク記念号
高田延彦/前田日明/谷津嘉章/浅草キッド/ケンドー・ナガサキ/松永光弘

完売間近
No.14★世紀の大一番!前田日明×カレリン戦大決定記念号
山本美憂・聖子/金原弘光/高田延彦/サク/村上一成/宇野薫/小路晃

No.15★小川直也、橋本を破壊! 1・4ドーム大激震号
前田日明/カレリン/馬場さん追悼特集/語ろうマサ・サイトー/佐野なおき

No.16★猪木! 前田! エンセン! ロングインタビュー連発号
田村潔司/坂田亘/高阪剛/山本喧一/コールマン/語ろうジャンボ鶴田

No.17★UFO襲撃三昧! オーちゃん大特集号!
桜庭和志/高田延彦/アントン/前田日明/山本宜久/成瀬昌由/T・山本

No.19★ケアー 戦直前! いま一度高田延彦に大注目号!
小川直也/前田日明/ドン荒川/エンセン井上/上田馬之助/「世界のプロレス」

完売間近
No.20★小川直也特集! 人間UFO咆哮三昧号
前田日明/アレク/高田延彦/語ろう藤波辰爾/小路晃&宇野薫/内藤恒仁

No.21★小川直也、橋本を返り討ち! 恐怖のプロレス大魔王降臨号
大仁田厚/前田日明/鶴見五郎/桜庭和志/CIMA/田中健一/平直行

No.23★1・4新日&『PRIDE』GP2大ドーム特集号
高田延彦/大仁田VSエンセン/前田日明/ヒクソン・グレイシー/ヘンゾ

No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE』GP特集号
桜庭和志/田村潔司/堀辺正史/サスケ×矢追純一UFO対談/守山竜介

No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之『紙プロ』初登場記念号
田村潔司/前田日明/小川直也/村上一成/石川雄規&小路晃/ミスター高橋

No.26★世紀の大一番ホイス戦直前! やっちゃてくれサク!
本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!前田日明&田村潔司/小川直也/大仁田厚

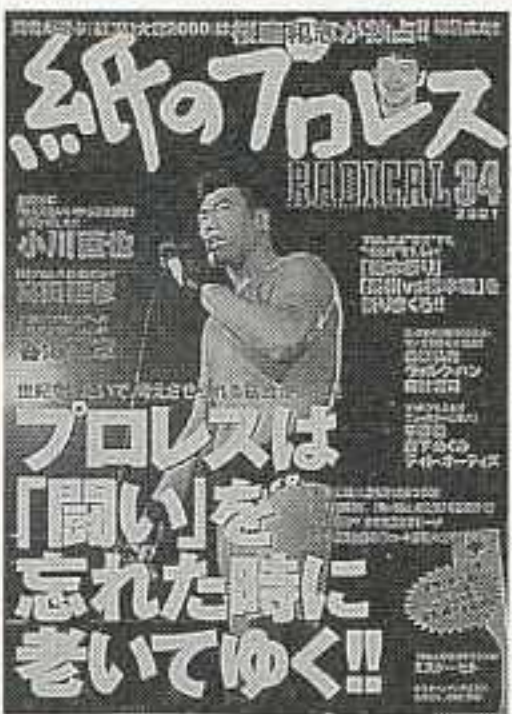
No.28★オーちゃん、ヒクソン襲撃準備完了記念号
前田日明/田村潔司/鶴田夫人/ヘンゾ・グレイシー/TKおかん/堀辺正史

No.29★「格闘環境」は激化する! ノア勢『紙プロ』にフル登場!
秋山準/三沢光晴/丸藤正道&金丸義信/桜庭和志/仲野信市/里村明衣子

No.30★『PRIDE.10』直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
村上一成/小川直也/石沢常光/「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り/高阪剛

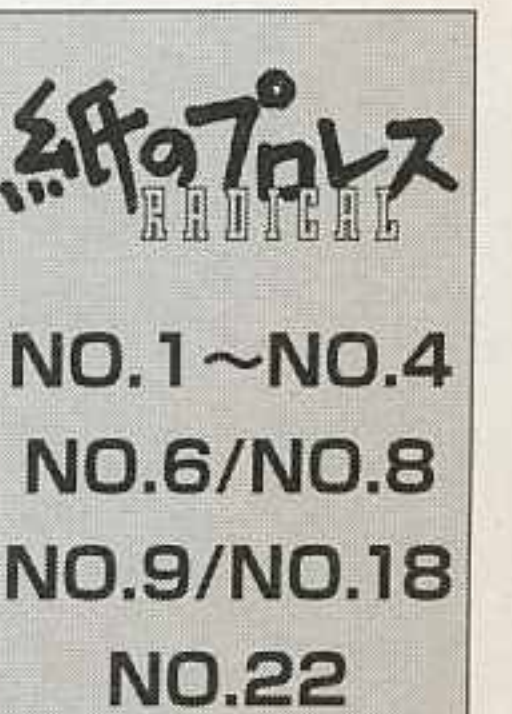
No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也/サク&TK/永源遥/ユセフ・トルコ/川田語録/田村潔司

No.32★リングスvs新日! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
小川直也/高田延彦/サク/前田日明/金原弘光/藤波語録/ラッシャー木村

No.33★リングス、『PRIDE』、猪木祭り、世紀末イベント大検証号
小川直也/橋本真也/谷津嘉章/ミスター・ヒト/山本宜久/前田日明

No.34★「猪木祭り」、「長州vs橋本戦」を斬りまくり! 特大号
小川直也/高田延彦/『紙プロ大賞2000』発表!/金原弘光/ヴォルク・ハン

No.35★「純プロレス」を考え倒せ! 「純プロレス」徹底検証号
橋本真也/大仁田厚/馳浩/杉浦貴/ジョー樋口/リングスKOK大特集

No.36★面白きなきを面白く! 純プロレス復興記念号
橋本真也/三沢光晴/高山善廣/前田日明/桜庭和志/金原弘光/鍋野ゆき江

No.37★小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻号
小川直也/橋本真也/安田忠夫/村上&小路/田村&ヘンゾ/アブダビ

紙のプロレス RADICAL
NO.1～NO.4
NO.6/NO.8
NO.9/NO.18
NO.22
NO.27は、
完売!!!!

【バックナンバー申し込み方法】

- ●お申し込みは郵便振替でお願いします（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
- ●用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130−3−769154（株）ダブルクロスまで。代金は、NO.5～NO.10=680円　NO.11～NO.19=780円　NO.21、NO.24～NO.32、NO.35=840円　NO.20、NO.22～NO.23、NO.33、NO.34=880円　NO.36、NO.37=840円　送料1冊=310円　2冊=380円　3冊～4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
- ●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
アイドール新宿店、、新宿ファイター、大山アメリカン、プロレスマニア館、チャンピオン東京、チャンピオン大阪、リングパレス、バディスラム、タコシェ、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、書泉ブックマート、書泉ブックタワー、書泉グランデ、ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）、グレート・アントニオ

4.18ZERO-ONEで遂に解禁された

NOAH 秘密兵器3連発

マット界最後の秘境に ダイアモンドの原石アリ!

「お前らの思い通りにはしねぇよ、絶対！」そんなZERO－ONE旗揚げ戦での三沢のマイクの通り、見事に破壊王の思い通りにいかなかった4・18の対戦カード。当初は三沢が出してきた、新人ばかりのメンバーに不満の声も上がったが、その新人たちが、予想を遙かに超える試合をやってのけた！ 力皇、杉浦、丸藤。そう！“マット界最後の秘境”と呼ばれたノアが、隠していた秘密兵器こそが、この3人だったのだ！

構成／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

デビュー１年の男が
あのオーちゃんと真っ向勝負！！
ノアの秘密兵器、力皇。
その強さの
源流に迫る！！

小川さん、ノアには
こういう男も
いるんでよ!!

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

力皇猛

TPGリーダー（？）

「力皇っていいレスラーだよな」「ああいう若手、ハッキリ言って新日本じゃいないから！」4・18ZERO－ONE武道館大会の後、あの小川直也にここまで言わせた男・力皇猛！某現場監督でさえ弱腰になる暴走柔道王に敢然と立ちはだかるその姿は、ノア恐るべし！を感じさせる十分だった。今回はそんな力皇の強さのルーツに迫ります。イケイケですよ！

――ZERO－ONE武道館大会（4・18）は空前の盛り上がりでしたけど、中でも「力皇さんが凄かった」という反響が一番多かったんですよ！

力皇　ホントですか!?　それは嬉しいことですね。久しぶりの武道館で、しかもメインでしたから、気合いだけは入れていこうと。それだけを心がけていたんですけどね。

――力皇さんにとって初の対抗戦だったと思いますけど、気持ち的に普段とは違いましたか？

力皇　いや、同じですよ。対抗戦といっても会場の雰囲気が「ほとんどノアのファンじゃないの？」って感じでしたし、自分としても普段通り出来たと思いますしね。逆にあれだけ応援していただいたんで、イケイケでしたよ！

――イケイケですか！（笑）。イケイケというと、その最たるモノが、小川（直也）選手への強烈なぶちかましシーンだと思うんですけど。

力皇　そうですか？　あれは（三沢）社長がマウント取られたんで、タッグチームとしては当然のことをしたまでなんですけどね。

――いや、あれはカットプレーの域を超えてます（笑）。

力皇　なんかコーナーにいたら小川選手の背中に「ぶちかましてください」って書いてあるような気がしたんですよ（笑）。

――ガハハハ！「ご自由にぶちかまし下さい」（笑）。

力皇　だから「これはもう行くしかない！」と思って突っ込んで行きました（笑）。あれは小川選手も多分、息つまってると思いますよ。

――さすがの暴走柔道王も、元幕内力士に後ろからぶちかまされた経験はないでしょうからね（笑）。とにかく今回は、小川選手に対してもまったく気後れしない力皇さんの頼もしさが目立ちましたよ。

力皇　でも自分としたら小川選手と絡んだ時間も短かったし、そんなに人から「スゴイ、スゴイ」って言われるほど、何やったのかなあって感じはあるんですよ。

――小川さんにあそこまで真っ向からいった選手って、いままでほとんどいませんでしたから。それをデビュー1年の力皇選手がやってのけたところがやっぱり凄いですよ。

力皇　気持ちだけは負けちゃいけないと思ってましたからね。そういう部分でも良かったと思うし。多少殴られても倒れない自信はありましたから。それとやっぱりノアを代表して出ていくわけですから、よそ行って「なめられちゃいけない！」っていう思いはありましたね。「なめんなよ！」っていうね。

――普段闘ったことのない選手に対する緊張感っていうのはありましたか？

力皇　緊張感っていうか……何て言うんですかね、小川選手と村上選手は寝技も上手いですけど、基本的に殴る蹴るでしか攻めてこないと思ってましたから。それだったらまぁ、殴られるのは昔から慣れてますし。これ以上顔も腫れて大きくならないだろうから（笑）、「殴るなら殴れ！」っていう気持ちでしたね。

――まさにノーガード戦法ですね（笑）

力皇　お陰でイイの何発ももらいましたけど、それは気合いで何とかなりましたよ！

――こういう大きな舞台で三沢さんのパートナーに指名されたということに関してはどう思いましたか？

力皇　これは嬉しかったですね！　自分はデビューして1年も経ってないわけですから。選んでくれたっていう社長の気持ちが凄いうれしいですよね。

――三沢さんは武道館でメインを張るということの重要性を最もわかってる方じゃないですか、その人に選ばれたんですからね。

力皇　そういえばそうですよね。いま言われて初めて気が付きました（笑）。

――アハハハ、いま気付きましたか（笑）。では、この試合はやる前からスゴイ注目を浴びてましたけど、変にプレッシャーを感じることもなかったわけですね？

力皇
小川さんに殴られたって、これ以上顔が大きくなる心配はないから（笑）

小川さんの背中に「ブチかましてください」って書いてあるような気がしたんですよ（笑）

オーちゃんにとっては、まさに追突事故にでもあったような力皇のぶちかまし！　これ以外でもパンチを放つオーちゃんに、「もっと打って来い！」とアピールするなど、まったく気後れしてない姿は、実に頼もしく感じられた。

力皇　注目浴びてるのは三沢さんと小川さんの話であって、ボクはカレーに付いてる福神漬けみたいなモンですからね（笑）。

――でも福神漬けはカレーに絶対必要なものですよ（笑）。

力皇　まあ、新聞見たって見出しは小川さんvs三沢さんでしょ。そんで、ちっちゃく「力皇」って（笑）。だから自分的にはなんのプレッシャーもないわけですよ。ただ、小川さんは試合前に「三沢さんしか見えてない」って言ってましたけど、「ノアにはこういうのもいるんだよ」というのを見せれればいいなとは思ってましたね。

――それは十二分に達成できたでしょう！　力皇さんの活躍を通してノアの底力を感じましたからね。というわけで、今回はZERO―ONEでブレイクした力皇選手の強さの秘密に迫りたいと思いますので、よろしくお願いします。

力皇　はい、よろしくお願いします。

――まずは相撲時代からのお話をうかがいたいんですけど、力皇さんは相撲には15歳で入ったんですよね。どういう経緯で角界入りしたんですか？

力皇　スカウトですね。親方がちょうど鳴戸部屋を起こすというときで、「一番弟子だから上からもいじめられない」とか、甘い言葉に乗せられて入ちゃいました（笑）。

――先輩がいないとはいえ、部屋を起こしたばかりの時って、親方も気合いが入ってるから稽古は大変だったんじゃないですか？

力皇　そうですね。あの時期、二子山部屋の若貴兄弟が1日100番近く稽古を取ってるっていわれてましたけど、自分は300番ぐらい取ってましたから！

――300番！　極真の百人組手っていうのがありますけど、300番稽古っていうのもすさまじいですね。

力皇　ホントに平気で3、4時間やってましたよ！　まあ、ある程度息が切れたら高い心拍数に体が慣れちゃうんで、そんなに苦しくはないんですけどね。

――それは苦しくないというより、苦しいのを通り越すってことですね（笑）。それを毎日ですか？

力皇　毎日ですよ！　ホント、いつになったら終わんのかなと思ってましたよ（苦笑）。でも、この稽古量ですから、鳴戸部屋は親方の言う通りに稽古してれば嫌でも強くなりますよ。

――そんな厳しい稽古の中、力皇選手は門限破りの常習犯だったと聞いたんですけど（笑）。

力皇　門限破りは、しょっちゅうでしたよ！　バレなきゃいいと思ってたから！　でもバレるんだよね（笑）。3回やったら3回バレてましたから！

――素晴らしい確率です（笑）。

力皇　同期の部屋のヤツはバレないんだけどね。自分は間が悪いっていうのか、鈍くさいのかなあ（笑）。

――幕下時代に門限破りの罰として、親方の目の前で髷を切り落としたっていうエピソードもあるらしいですね（笑）。

力皇　目の前じゃないんですけど、下の部屋でバリカンでやりましたよ！　もう1回や2回の門限破りじゃないからしょうがないですよね（笑）。

――何度バレても門限を破るくらい遊びが大好きだったんですか？（笑）

力皇　そうじゃないですよ！　だって門限9時半ですよ!!　しかも松戸で。

――松戸で9時半！　いまどき高校生でもいませんね（笑）。

力皇　とても東京なんかに遊びに行けないですよ！　ただね、「門限破るぐらいの根性なきゃ相撲なんか務まるか！」と思ってましたから。

――アハハハ！　いい根性ですね（笑）。ちなみに力皇選手はどんな遊びをしてたんですか？　安田（忠夫）さんは「飲む、打つ、買うは相撲取りの基本だ」と言ってましたけど（笑）。

力皇 飲むといってもボクは女の子のいる店は行かないですよ。友達がショットバーをやってるんで、そこに行って仲間内でワイワイやってると朝の5時ぐらいになちゃうんですよ（笑）。

——門限が夜9時半なのに、朝の5時！（笑）。それじゃあ、朝稽古は……？

力皇 あのね、ぶちゃけた話、帰ったらみんな稽古してたときありましたよ！（笑）。でも昔はそのまま寝ないで稽古しても全然平気だったんですよ。だから18、19の頃は毎日のように朝5時頃帰ってきて、寝ないで稽古してましたね。

——寝ないで朝まで遊んで300番稽古ですか！ 力皇選手の強さの秘密がわかる気がしますね（笑）。同期にはどんな力士がいたんですか？

力皇 同期は若貴、曙、魁皇。今、幕内にいる若の山ぐらいじゃないですか。

——蒼々たるメンバーですね！

力皇 自分たちの同期は9人ぐらい十両以上に上がってますから、非常に多いんですよ。そのうち3人は横綱ですからね。

——力皇さんもその黄金世代のひとりだったわけですね。実際に部屋初の関取ですから周囲からかなり期待されていたと思うし、もうちょっとで三役というときに辞めたから、驚かれたと思うんですけど。

力皇 そうですね、辞めたときはスポーツ新聞の一面にもなりましたからね。でも番付とかはね、あんまり自分としては意識はしてないです。たまたま幕ノ内で辞めたから大袈裟になったわけで。

——辞めた原因は肝機能障害ということですけど。

力皇 当時のスポーツ紙や週刊誌には「駆け落ち」とか書かれたりもしましたけどね（笑）。

——角界に未練はなかったんですか？

力皇 辞めたことには悔いはないですけど、今まで応援して頂いた後援会の方々やファンの人達に満足に辞める挨拶も出来なかったわけですから、そういう部分では凄く悔いが残ってますね。

——相撲を辞めてからプロレス入りするまでに期間が空きましたけど、その間は何をしていたんですか？

力皇 遊んでましたね（笑）。

——遊んでた（笑）。すぐにプロレスに入ろうとは考えなかったんですか？

力皇 やりたいという気持ちは多少なりともありましたよ。実際辞めたときにあるテレビ関係者と食事したんですけど、そのときに「プロレスやらないか」って話が来てるんだけど、どう？」って話があったんです。でも「相撲取りが辞めて安易にプロレスに行く」っていうイメージで見られるのは自分としてはイヤだったんですよ。それはプロレスラーに対しても失礼なんじゃないかとも思いましたし。そういうイメージってあるじゃないですか、相撲がダメだからプロレスにいくっていうのが。

——悪い言い方をすると「相撲崩れ」とか言われたりもしますよね。

力皇 そうそう。ただ、自分の場合は落ちぶれて辞めたわけじゃなく、全盛期で辞めてますから！ やりたい気持ちはあったんですけど、「プロレス入りしたら、またマスコミが面白おかしく書くんだろうな」と思って、ほとぼり冷めるまで少し様子を見ることにしたんです。そしてそれまでの間、もう少し遊ぼうかなと（笑）。

——そのあと全日入りするわけですけど、入るときは誰と会われたのですか？

力皇 入る前に三沢さんと色々と話させて頂きました。そこで話をする中で、三沢さんの人間性の部分で引かれる部分がありましたね。帰るときなんかも三沢さんに車で駅まで送っていただいたりしたんで、「この人いい人だな」と思ったり（笑）。相撲のときとは違って冷静に判断できる年齢でしたから、入って頑張りたいなという気持ちが強くてお願いしました。

——相撲で成功したというプライドなんかは、プロレスをイチからやる際には邪魔にはなりませんでしたか？

力皇 自分はプライドなんかないですよ！ プライドあったら相撲辞めてませんよ（笑）。そうでしょう？ 給料は良いし、どこ行っても「関取、関取」ってチヤホヤされて、車代だってもらえるし。こんないい世界ないですから！（笑）。

——それはプライドがなくても辞められない気がします（笑）

力皇 ただね、そういういい部分だけを経験したくはないと思ってたんですよ。自分の10年後を考えたときに人間としてね、一周りも二周りも成長してたい気持ちがあったんです。それを考えたら、このままずっと続けていても、無駄な時間になるんじゃないのか。それよりも「この人」という人を見つけてついていった方が、贅沢は出来なくても価値ある時間が過ごせるんじゃないかと思ってスパッと辞めたんですよ。

——人生の決断だったんですね。

力皇 自分はこうだと思ったらスパッと決めちゃうから。後先考えないから！（笑）。

——決断力もイケイケなんですね（笑）。でも実際に新人としてプロレスでやり直すとなると、予想以上に大変だったんじゃないですか？

力皇 大変ですよ、本当に!! 相撲は入ったときはキツかったですけど、相撲を辞める頃は幕内で身の回りのことは付き人がやってくれて楽だったわけですよ。それが今度は自分が新弟子になるわけですからね。だから「相撲とプロレスどっちがキツイ？」って、よく聞かれるんですすけど、心境としてはプロレスの方がキック感じるわけですよ。実際キツイんですけど。

——肉体をまた違ったモノに作り直すわけですからね。

毎日朝まで遊んでそのまま寝ないで300番稽古ですよ！

力皇

小学6年生のときに身長175cm 体重100kgありましたから！

力皇

力皇 そうですね。実際に入ってみて、レスラーの身体能力の高さにはビックリしましたから。自分なんかはブランクがあったから体力も落ちていて、最初は基礎練習について行けなかったんですよ。何から何まで、もう10段階あったとしたら1も出来てなかったですから。横で小林（健太）なんかヒョイヒョイできてるんで「うらやましいな」なんて思いながらね（笑）。

――小林選手は全日入門の同期生に当たるわけですね。

力皇 そうですね、自分のほうが1シリーズ早かったですけど。あのとき6、7人ぐらい新弟子が入ったんですけど小林しか残ってないですね。だから小林とは苦しいときとか大変なとき一緒に頑張って来たんで、絆は強いと思いますよ。小林はどう思ってるか知りませんけど（笑）。

――当時の若手のコーチ役は小橋さんだったんですよね？

力皇 そうですね。

――小橋さんと言えば練習量がプロレス界ナンバー1と言われるくらい定評がありますけど、指導の方はどうだったんですか？

力皇 小橋さんには色々よくしてもらいましたね。もし小橋さんがいなかったら、デビュー前に自分も辞めてましたよ！

――そこまで大きな存在ですか！

力皇 ホントそうですよ。練習中に「このまま死んだ方がマシだ」と思ったことも何度もありましたから。そんなときに小橋さんは親身になって励ましてくれるんです。自分が辞めずにすんだのは、そのおかげですよ。

――そんな大変な思いをして晴れてデビューをはたして、もうもうそろそろ1年ですよね？

力皇 5月21日で丸1年ですね。

――あっと言う間の1年という感じでしたか？

力皇 早かったですね。自分なんか毎シリーズ毎シリーズ勉強ですから。自分のことだけじゃなくて他の選手の試合にセコンドについて勉強していかなきゃなと思ってますから。

――いまセコンドというお話が出ましたが、今年1月の大阪大会での三沢、小川組vs橋本アレク戦のあとの乱闘のとき、セコンドの力皇さんは見事にケンカ腰でしたよね（笑）。

力皇 やっぱり乱闘は血が騒ぐんですよね（笑）。

――たしか安田さんとやり合ってたと思いますけど。

力皇 別に相撲取り同士だからってわけじゃないですよ（笑）。乱闘になると気持ちが『この野郎！』って感じになるんですよ！ もう「どけどけどけー」って、体が勝手に行っちゃうんです（笑）。

――アハハハ、杉浦さんも「乱闘は楽しい」って言ってましたけど、力皇さんは昔からケンカはよくやられてたんですか？

力皇 ボク、ケンカなんてしないですよ。そんな野蛮なことしません！

――本当ですか？（笑）。

力皇 しないっていうか、誰にもケンカを売られなかっただけでしょう。

――それならわかります（笑）。昔から体は大きかったんですか？

力皇 デカかったですね。小学校6年のときに身長175センチ、体重が100キロちょっとありましたから。

――デ、デカイ！ 体格だけならそのままデビューできそうじゃないですか（笑）。それじゃ誰もケンカなんかは売りっこないですね。

力皇　中学校でもソリコミ入れた番長みたいなのがいたけど、ボクに危害はなんもなかったしね。

――それじゃ乱闘というかケンカに巻き込まれたこともないんですか？

力皇　それもないですね。性格はイケイケなんですけど、普段は極めておとなしいですから。ただ、モノを考えたときに、いくか、いかないかってなると「いっちゃえ！　いっちゃえ！」って感じになるですよね。

――あんまり引くってことはないんですね（笑）。

力皇　いってダメだったら結果だから仕方ないんでけど、いかなくて失敗してたら凄く悔しいじゃないですか。（頭を掻きむしって）『カーッ』ってなりますよ。

――『カーッ』ってなりますか（笑）

力皇　もうね、なんでもかんでも飛び込めと！　イケと！

――そのままイケイケで『ＰＲＩＤＥ』に出たい」とかはないんですか？（笑）。

力皇　『ＰＲＩＤＥ』ですか？　ん～、それはイケイケっていう気持ちになんないですね。出るか出ないか迷う以前に、自分は本職のプロレスがまだまだ未熟なわけですから、他を見る余裕はないですよ。トップの高山さんとか秋山さんなら見れる余裕がありますからやってもいいんでしょうけどね。だから自分はＴＶ観戦でいいです（笑）。

――外に目を向けるより、もっと大事なことがあるわけですね。

力皇　そうですよ。いまはノアの中で自分の立場を作ってきたいと思って必死にやってますから！　そのために森嶋（猛）さんと軍団作ってね、上の人たちにガンガン喰らいついていこうと！

森嶋（猛）さんとのコンビは『ＴＰＧ（たけしプロレス軍団）』ってよくいわれるんですよ（笑）

りきおう・たけし■昭和47年12月20日、奈良県桜井市出身。平成12年5月28日、東京・後楽園ホール、VS秋山準＆森嶋猛戦（パートナーは井上雅央）でデビュー。大相撲での最高位は前頭4枚目で皇つながりの魁皇は同期で初土俵も一緒の間柄。とにかく前へ前へのイケイケファイトが魅力。昨年は東スポプロレス大賞新人賞を受賞。191センチ、130キロ。

――力皇猛と森嶋猛の『猛（たけし）軍団』ですね！（笑）

力皇　ちょっと待って、まだ正式名称じゃないから。もっとカッコいい名前考えようとしてるから（笑）。

――森嶋選手とはライバル関係だったわけですがタッグを組んで抵抗とかはないんですか？

力皇　あるとしたら向こうじゃないですか？向こうは自分に負けてるわけだから。ただ、自分と森嶋さんがやり合うっていうのもいいと思うんですけど、若手同士が組んで上に噛みついた方が、活性化できると思うし、いいと思うんですよ！

――ノアの底上げにもなりますよね。

力皇　秋山さんにしても『どうなるかわかってんだろうな！』ってコメントしてるわけじゃないですか。上の人に『あの野郎！』って思われれば、こっちにしてみれば絶好のアピールチャンスですからね。こっちは挑戦者ですから怖いモノなんてないですから!!

――２人ともガタイもデカイし見栄えもするしいいタッグですよね。

力皇　イケイケですよ！

――やっぱりそこにいきますか（笑）。あとは正式なチーム名を決めるだけですね（笑）。一部で言われている『Ｗタケシ』もピン来ませんか？

力皇　来ないですね～（笑）。

――来ませんよね（笑）。やっぱり英語のチーム名の方がいいですか？

力皇　英語？　よく言われるんですよ、『ＴＰＧ』って（笑）。

――ガハハハ！　ＴＰＧ＝たけしプロレス軍団ですね！（笑）。

力皇　でも『猛軍団』とか『Ｗタケシ』っていうチーム名はマズいでしょ？

――どっちもお笑いコンビみたいですよね（笑）。

力皇　でもそのふたつぐらいしか考えつかないんだよなぁ（笑）。だからもう、好きなように書いてください！

――いずれリボルバー制作の『猛軍団』Ｔシャツなんかも出来るかもしれませんね（笑）。

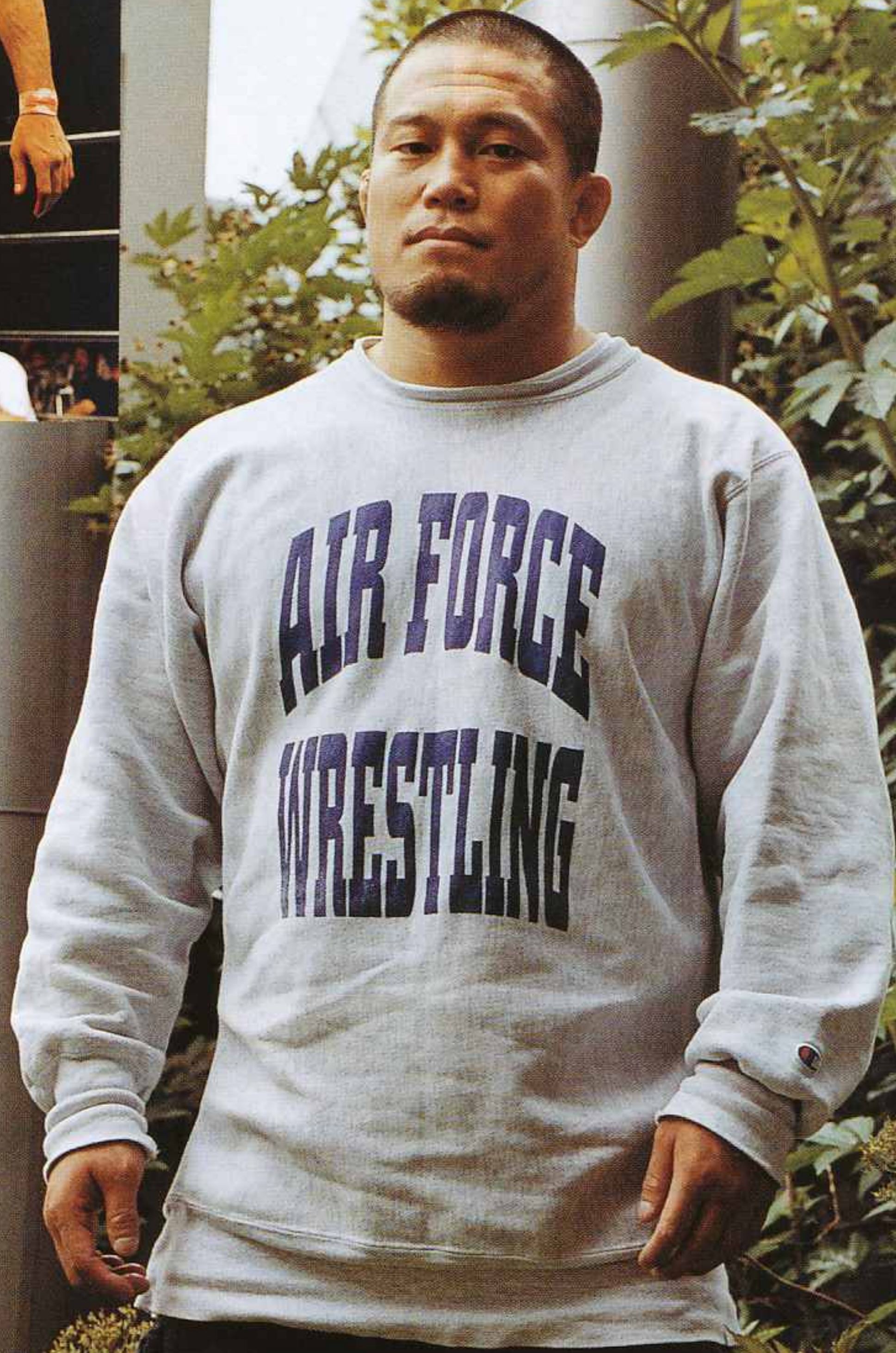
力皇　あんまり嬉しくないですね（笑）。社長の『ＷＡＶＥ』とかノーフィアーとかみんなかっこいいのに……。というわけで、いいチーム名がありましたら、「プロレスリング・ノア」事務所までご一報下さい！（笑）。

【00年5月2日／プロレスリング・ノア事務所にて収録】

ノアの森に潜む野獣がアレク戦で遂に本性を露にした!!

（4・18ZERO－ONE）

杉浦 貴

“デビュー4ヶ月の新人”がアレクを内容で圧倒

「強ぇ！」おそらく4・18ZERO－ONEを見た人なら、誰もがそんな声を上げたろう、インパクト抜群の試合をやってのけたのが杉浦だ。あのアレクを相手に、グレコの技術、パワー、そして顔の怖さで圧倒！　こんな男が前座に控えているノアは恐ろしすぎる！

構成／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

—今回はノアの若手特集ということで、杉浦選手に早くも2回目の『紙プロ』登場をしていただくことになりました！

杉浦　ハイ。でも若手……っていうか、（歳は）中年ですからね（笑）。

—アハハハ。でも杉浦選手は、全然中年らしくないですよ。

杉浦　じゃあ、もうちょっと出した方がいいですかね、中年らしさを（笑）。

—中年らしさを出すというのもよく分からないですけどね（笑）。まぁ、年齢はともかく、ただの新人じゃないなっていうのはZERO—ONE（4・18武道館）で杉浦選手を初めて見た人でも、誰もがわかったと思いますよ。

杉浦　そうですか。

—リングに上がったときの佇まいだけで「ただ者じゃない感」は伝わってきましたから。しかもアレク選手という、『PRIDE』でも名を馳せてきた選手相手に、「強さ」というインパクトでは完全に勝っていたような試合でしたし。

杉浦　でも『PRIDE』の選手って言っても、中堅ですから。

—中堅！（笑）

杉浦　人のこと「デビュー4ヶ月」って言いながら、向こうは中堅じゃないですか。中堅と中年で釣り合い取れてますよ（笑）。

—ガハハハ！　試合後の「デビュー4ヶ月のヤツなんかとやらせるな！」っていうマイクは、やっぱりカチンと来ました？

杉浦　そうですね。それを言うなら自分は中堅のくせに（三沢）社長とやらせろなんて言うなって！

—確かに（笑）。

杉浦　社長はプロレス界のトップじゃないですか。人のことを新人扱いするなら、自分だって社長の名前を出せる立場じゃないだろうって！

—三沢さんはあのマイクを「池乃めだか」って言ってましたからね（笑）。

杉浦　言ってましたねぇ（笑）。

—だからあのマイクが池乃めだかの負け惜しみギャグに聞こえるくらい、試合内容では杉浦選手が圧倒していた印象を受けたんですよ。

杉浦　まあ、スタンドもグラウンドもそんな負ける気はしなかったっスね。しかも向こう血だらけですからね。ボクは頭が硬いんですよ。だから頭突きをされたときも「何をしとんのやお前は」って（笑）。

—でも「中堅」とはいえ、アレク選手はビッグネームじゃないですか。それでも気負いとかはありませんでしたか？

杉浦　そうっスね。べつに普通ですね。

向こうは中堅、自分は中年
中堅と中年で釣り合い取れてますよ

—じゃあ、やる前のアレク選手のイメージっていうのはホントに「たんなる中堅」だったと。

杉浦　いや、テレビのバラエティとかによく出てますからね。そっちの印象の方が……（笑）。

—イメージは「テレビでよく見かける人」ですか（笑）。『PRIDE』をテレビで見たりとかは？

杉浦　見てますね、はい。

—『PRIDE』でのアレク選手の試合はどんな感想をお持ちですか？

杉浦　マルコ・ファスとの試合の時は、「おぉ、凄いなぁ！」って思いましたね。あと昼にプロレスやって、その夜ボブチャンチンとやったりしてるじゃないですか。だから「凄い人だなぁ」と思ってます。

—凄いけど、「まぁ負けねぇな」と？

杉浦　まぁ、そうですね。……とか言って、負けてますからね、ボク（笑）。

—あ、そういえば試合には負けたんでしたね。忘れてました（笑）。

杉浦　あんまり言うとボクも池乃めだかになりますから（笑）。

—でも試合の結果は負けでしたけど、杉浦選手自身、負けた気はしないんじゃないですか？

杉浦　まあ、そうっスね。マイッタしてないですからね。

—マイッタしてない！（笑）。じゃあ、あのタップはどんな意味が？

杉浦　あれは微妙に震えてただけですから。（いやらしい手の動きをしながら）中指をこう微妙にね（笑）。

—ガハハハ！　逆に「気持ちいい」ぐらいの（笑）。

杉浦　「もっとして」ぐらいの意味ですから（笑）。

—そんなバカな（笑）。気を取り直して試合を振り返りますけど、開始早々にグレコ式の攻防でまず優位に立ちましたよね。

杉浦　まあ、自分の得意なのやれば負かせますから。

—ああいう攻防になるとやはり、片や全日本チャンピオン。そして片やアレク選手はレスリングは高校まで。ここは譲れないという感じですか？

杉浦　そうですね。

—ファーストコンタクトでレスリングに持ち込むというのは、最初から狙ってたんですか？

杉浦　いや、最初は池田（大輔）さんにアドバイスをいただいてたんで、その通りに行こうと思ってたんですよ。

—アレク選手とは因縁浅からぬ池田選手で

試合中は常に有利なポジション取って余裕な顔してやろうと思った

すか（笑）。どんなアドバイスだったんですか？

杉浦　ジャイアントスイング狙えたら先にやっちゃいなさい、と。

――あくまでも相手に恥をかかせる作戦なんですね（笑）。

杉浦　やっぱり対抗戦なんで、目立ったもん勝ちですから。相手のいいところなんて見せなくていいですからね。だからボク、試合中は常に有利なポジションを取って余裕な顔してやろうと思ってたんですよ。

――観客にも対戦相手にも自分の方が強く見えるように。えげつないですねぇ。

杉浦　アピールしたもん勝ちっスよ、ええ。

――逆に今やってるノアっていうのは、お互いのいいところを出し合って練り上げていく試合を見せてるわけじゃないですか。それがいざやるとなったら、こんなツバぜり合いもできるところにノアの懐の深さを感じましたね。

杉浦　でもノアの懐は深いですけど、ボク自身は浅いですからね。どっちかって言ったらツバぜり合いだけですから（笑）。

――でもノアの強さっていうのは杉浦選手みたいな選手がいることにあると思うんですよ。局面局面で切り札になりうる選手がいるということで。

杉浦　いやぁ、切り札なんて…そんなことないっスよ（笑）。それにあれは対抗戦だからちょっと盛り上がるんであって、毎回あんなことやってたらお客さんも飽きてくるだろうし。むずかしいですね、ハイ。

――でもプロレス界で強いとされてる選手と、ああいう感じの杉浦選手がどんどん当たっていったらファンは痛快だと思うんですよ。他団体で誰かやりたい相手とかいますか？

杉浦　ボクが目立てる人なら誰でもいいですよ。また「デビュー4ヶ月」って言われちゃうかもしれませんけどね（笑）。

――根に持ってますね（笑）。個人的には小川（直也）選手とやったら凄く面白いんじゃないかと思うんですけど。

杉浦　相手してもらえないんじゃないですか？「杉浦、誰それ?・」って。

――でもメインの後の乱闘で小川さんのこと殴ってましたよね（笑）。

杉浦　蹴りましたね（笑）。池田さんがパーッと行ったから、「出遅れたー」っと思って。

――出遅れたわりには一番最後まで殴ってませんでしたか？（笑）。

杉浦　それはボクも「ヤベぇ」と思いました（笑）。

――小川さんは「ノアの野郎、人数集めてきやがって！」って言ってたんですけど、ビデオをよく見直すと、やってたのはほとんど杉浦さんだけだったという（笑）。

杉浦　最初は止めようと思ったんですけどね（笑）。やっぱ社長がやられるとなっちゃあ、助けにいかないと。「助ける」っていうのはおこがましいですけど。

――ああいう乱闘の雰囲気というのは体験してみてどうですか？

杉浦　（満面の笑みで）楽しいっスね～（笑）。

――ガハハハ！　ホントに楽しそうですね（笑）。

杉浦　セコンドついててもね、普段のノアではけっこう、ボ～っとしてることもあるんですけど（笑）、対抗戦になると自分も闘ってるみたいな気持ちになりますよね。

――あの時の会場のムードってもの凄いものがありましたからね。やっぱり燃えてきましたか。

杉浦　そうっスよ！　客席にグラビアクイーンの小池栄子も来てましたからね。巨乳に燃えてしまいました（笑）。

――ガハハハ！　そっちですか！（笑）。

杉浦　ちょっといいとこみせたいと思いまして（笑）。

――素晴らしいモチベーションです（笑）。

打撃も関節技も身につけて、どんな相手でも対応できるようにしたい

杉浦　でも丸藤さんとかにもっていかれるんですよね。華麗な、華麗なファイトスタイルで（笑）。

――ガハハハ！　魅了しますからね（笑）。対抗戦とは別にバーリ・トゥードみたいなものには興味はないんですか？　アレク選手とのああいう試合を見た後だと、どうしても期待しちゃうんですけど。

杉浦　興味はありますよ。でも、いまはちょっと難しいですね。プロレスの方がまだまだですから。

――今回、高山さんが挑戦しますけど、それについてはどう思いますか？

杉浦　頑張ってほしいですね。ホント応援してます。凄いですよ、シリーズに出てその二日後にやるんですから。尊敬しますね。

――高山さんには結構かわいがられてるみたいですね。

杉浦　お世話になってますね、いろんな意味で（笑）。

――ガハハハ、いろんな意味で（笑）。高山さんもすごい杉浦さんのこと気にいってるみたいで、リングスの金原さんに「今度"変態"連れて練習に来ます」って杉浦さんのこと言ってたらしいですよ（笑）。

杉浦　なんかインタビューでもボクのこと言ってるらしいですね（笑）。

――高山さんは杉浦選手の変態エピソードのストックがたくさんあるらしいですからね（笑）。

杉浦　でも高山さんが知らないこともたくさんありますから（笑）。

――ガハハハ！　まだまだそんなもんじゃない（笑）。

杉浦　ボクは自衛隊時代から変態ですから、いくらでもありますよ（笑）。

――ガハハハ！　衝撃のカミングアウト、「ボクは変態です」（笑）。でもそういうエピソードや豪快なイメージ、そして確かな強さももちろん含めて、デビュー4ヶ月でこんなにプロレスラーらしいムードを漂わすのも杉浦選手ぐらいですよね。

杉浦　肝心なプロレスはしょっぱいですけどね（笑）。

――自分で落としますか（笑）。となると当面の目標は、やはりプロレスラーとしての技術をもっと高めていくことですか？

杉浦　そうですね。試合をこなして、体ももっと大きくしてヘビー級でガンガンできるようにしたいですね。（傍らに力皇がいることに気づいて）とにかく力皇さんみたいになれるように、少しでも力皇さんに近づけるように頑張ります（笑）。

――ガハハハ！

杉浦　あと、年齢が年齢ですから、人よりは早く駆け上がりたいですね。

――周りに左右されない強さを得たい、と。

杉浦　そうですね。まぁいちいち左右されてたらしょうがないですからね。

――いい意味でマイペースっていう？

杉浦　はい。

――やっぱノアのなかでも杉浦さんが一番マイペースな感じなんでしょうか？

杉浦　態度はデカいって言われますね（笑）。でもまだ下ですからね。そんなにマイペースは出してないですよ。出したらも一っと大変なことになる（笑）。仕事とかなくなったらもっとマイペースでいきますよ。

――オレのマイペースはこんなもんじゃない、と（笑）。

杉浦　ホントに（笑）。道場の練習もこないかもしれないですよ。

――トップに駆け上がるためには、練習も周りに合わせてられないということですか？

杉浦　やっぱり、いろんなとこ行っていろんなもの習って吸収したいっスねぇ。打撃もやってみたいし、関節とかも習いたい。総合的なプロレス技術を身につけて、どんな相手でも対応できるようにしたいですね。

【00年5月2日／プロレスリング・ノア事務所にて収録】

Takashi Sugiura

すぎうら・たかし■
昭和45年5月31日、愛知県名古屋市出身。
平成12年12月23日、
東京・有明コロシアム、VS志賀賢太郎&
金丸義信&森嶋猛戦（パートナーは
井上雅央&力皇猛）でデビュー。
95年グレコローマン・レスリング全日本
王者。ZERO-ONE対抗戦では
結果以上に存在感を残した、
恐怖のデビュー5ヶ月中年。

NAOMICHI MARUFUJI

初代タイガーマスクを超える天才・遂に現る！
その至高のプロレスをノアファンに独占させるな！

PRO-WRESTLING NOAH WAVE

丸藤正道

NAOMICHI MARUFUJI

「なんでも出来てしまうんで、ついつい技を出しすぎてしまう。それが悩みです」

ノア若手特集の最後を飾るのがこの丸藤。力皇、杉浦が対抗戦用の“秘密兵器”なら、丸藤は、どこに出しても恥ずかしくない、ノアの“自信作”である。これまで「ポスト・初代タイガー」と呼ばれた選手は数多くいるが、その誰よりも才能を感じさせるのがこの男であり、その至高のテクニックをノアファンに独占させておくわけにはいかないだろう。

構成／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

——いきなりなんですが、丸藤選手はモテますよね？（笑）。

丸藤 まーね！

——会場での女性人気もバツグンだし。

丸藤 まーね！

——今回はそんな丸藤選手の女性人気に便乗して、インタビューとピンナップに登場していただこうと思いますので、よろしくお願いします（笑）。

丸藤 あ、はい（笑）。

——その人気者の丸藤選手ですけど、ZERO—ONEというノア以外のファンもたくさん見に来る舞台に2回出たことによって、さらにファン層が広がったんじゃないかと思うんですけど、周囲の反応はいかがですか？

丸藤 そうですね、会場にはボクの試合を見たことなかった人もたくさん来ていただろうし。そういう人たちにも評判が良かったという話も聞いたりするんで。まあ、自分にとってはかなりプラスになってると思いますね。

——どちらかというと総合格闘技寄りのファンが多い『紙プロ』読者からも「丸藤って凄い」と評判ですよ。

丸藤 本当？（懐疑の眼差し）

——本当ですよ（笑）。

丸藤 やっぱりボクらはまず試合を見てもらわないと始まらないから。ボクの名前やノアっていう団体は知ってても、実際に見たことない人はまだまだたくさんいると思うんですよ。そういう人たちに一人でも多くノアやボクの試合を見てもらうという意味で、ZERO—ONEは良いきっかけになりましたよね。

——試合自体の感想はいかがですか？　結果は負けてしまったわけですけど。

丸藤 負けたこと自体は悔しいっちゃ悔しいけど、負けても自分が納得出来る試合が出来たんで、結果は別に気にしてないですね。

——そのZERO—ONEでは2回とも第1試合でしたよね。新団体の第1試合というのはかなり重要だとは思うんですが、そこは意識しましたか？

丸藤 みんなそう言いますけどね。ボクはなんも気にせず、普段の自分の試合ができればそれでいいと思いましたから。やっぱり新団体の第1試合に選ばれたということは、普段やってきたことが評価されてるっていうことですからね。それは凄く嬉しいし。普段やってきたことが見せられれば、ご期待にも沿えると思いますから。

——ノアの選手はその普段やっていることへの揺るぎない自信が素晴らしいですよね。それは対戦相手がZERO—ONEの選手でも変わらないと。

丸藤 そうですね。ボクは誰が相手でも関係ないです。誰とやってもいい試合ができる力を持つことが目標ですから。

——では、ドンドン外に出て経験を積みたいという欲求もどこかにあるんですか？

丸藤 それはありますね。まあ、出てみたいというよりも色々な選手とやってみたいという方が大きいんですけどね。

——昨年、AAAのジャパンツアーに参戦しましたけど、あのときなんかはどうでしたか？　結構やりにくそうに見えましたけど。

丸藤 やっぱりメキシカンは間合いとか動きとか違いましたからね。だから、ルチャはもう1回やってみたいですよ。

——あのとき闘龍門、新日、ノアの選手が参加してましたけど、ルチャドールと闘うことで、それぞれの団体の特色が出ていて面白かったですけどね。

丸藤 どんな特色出てました？

——まず闘龍門の選手はもちろんメキシコでやってるから、相手に合わせてましたよね。それで新日本の選手なんかは自分たちのスタイルを崩さずに闘って。そして丸藤選手はどうかというと、相手に合わせるわけでもなく、自分を貫くわけでもなく、まず相手の技を受けてから試合を組み立てていたところに美学を感じましたね。

丸藤 ああ、それは体に染みついてるモノなんでしょうね、多分。

—しかも技を受けてなおかつ自分を出していたじゃないですか。ボクは高岩選手との試合でも、それを感じたんですよ。高岩選手が攻めてても、受けにまわっている丸藤選手の方に目がいってましたから。攻めてても目立つし受けた時にも目立つという（笑）。

丸藤　やっぱりそれが理想の形なんじゃないですか？　どんな体勢でも自分を魅せられるというのは大切なことですから。この間の試合でそれが出来ていたって言われれば、それは凄く嬉しいですね。

—だからよく言われますけど、やっぱり丸藤選手は天才的なんだなと思いますよ。

丸藤　天才天才言いますけど、大したことないですよ、別に。

—いやいや、リング上での身のこなしは初代タイガーマスクとか、武藤選手と同系のモノを感じさせますよ。

丸藤　そう言ってくれると嬉しいですけどね（微笑）。

—嬉しい反面、悩みとかもあるんですか？

丸藤　嬉しいけど……ボクは自由にやってるだけだから。

—まあそう言う意味では、佐山さんも武藤さんも自由な人ですからね。後は太ったり、頭髪が寂しくなったりしないように気をつけると（笑）。

丸藤　ボクにも何かがあるんですかね？　ヤバイ（笑）。

—天才には何か障害があるんですよ、きっと（笑）。

丸藤　もう天才じゃなくていいですよ（笑）。

—アハハハ、もう逃れられませんよ（笑）。だって丸藤選手は何でも出来ますからね。グラウンドも出来るしルチャっぽい動きも出来るし。

丸藤　でも、何でも出来るというのも逆に難しいんですよ。

—お！　天才ゆえの悩みですね。技が多すぎて、どの技を出したらいいかわからなくなったりするんですか？

丸藤　そうそう。あと技の出しすぎとかですよね。出来ちゃうからついついやってしまうんですよ。

—そうなると自分をいかにうまくコントロールしていくかが重要になってきますよね。

丸藤　そうですね。自分が持ってる技をなるべく使わないで、上手くつなげて勝てれば良いんですけどね。つなぎもなくて、ただバンバン大技出しても単調な試合になって、結局勝負につながらない場合もありますから。ここが難しいところですよね。

—丸藤選手が凄いなと思うのは、どんな技でも出来るというのも当然あるんですけど。一番凄いと思うのは、どんな技を使ってもどこか他の人とは違う部分、オリジナルな部分があるところだと思うんですよ。誰もが使う技がオリジナル・ホールドになるっていうのは、なんでもできる以上に凄いことですよ。

丸藤　それはプロとして必要なことだと思うんで、意識的にそうしてますよ。同じ技でも高さが違うとか、掛け方や入り方が違うとか。やっぱりプロである以上、人と同じことをやっても目立たないですからね。

—丸藤選手も目立ちたい願望は強い方なんですか？

丸藤　目立ちたがり屋というわけじゃないんですけどね。素顔のボクは陰でひっそり生きてくような男ですから。班長じゃなくて副班長みたいな（笑）。

ボクはグラウンドだけで試合を組み立てることだってできますよ

—学級委員じゃなくて給食委員みたいな（笑）。

丸藤　あっ！　ボク給食委員3年間やりました（笑）。

—ホントにやってましたか（笑）。でも素顔の丸藤選手は給食委員かもしれませんけど、リング上ではプロである以上目立ちたがり屋なわけですよね。

丸藤　まぁ、人のマネをしても楽しくないですからね。ちょっとでも工夫することによって自分を出せれば楽しいし。お客さんも楽しんでもらえると思いますから。

—丸藤選手はファンの声とか、割と気にする方なんですか？

丸藤　う～ん、ファンに何か言われたから自分をガラリと変えようとは思わないですけど、聞き入れることも必要だと思いますね。ファンから学ぶことっていうのも多いんじゃないですか。

—その反面ファンは残酷というか、贅沢な部分もありますよね。丸藤選手に対しても飛び技系のスタイルを求めつつ、「プロレスラーは強さを感じさせないといけない」っていう意見もあるじゃないですか。

丸藤　まあ、それはある意味当然ですから。ボクはまず「なめられたくない」っていうのが一番ですからね。この仕事をやってる限りは客席からなめられたらお終いだろうし。「強さ」でファンに憧れを感じてもらうぐらいじゃないとダメだと思いますよ。

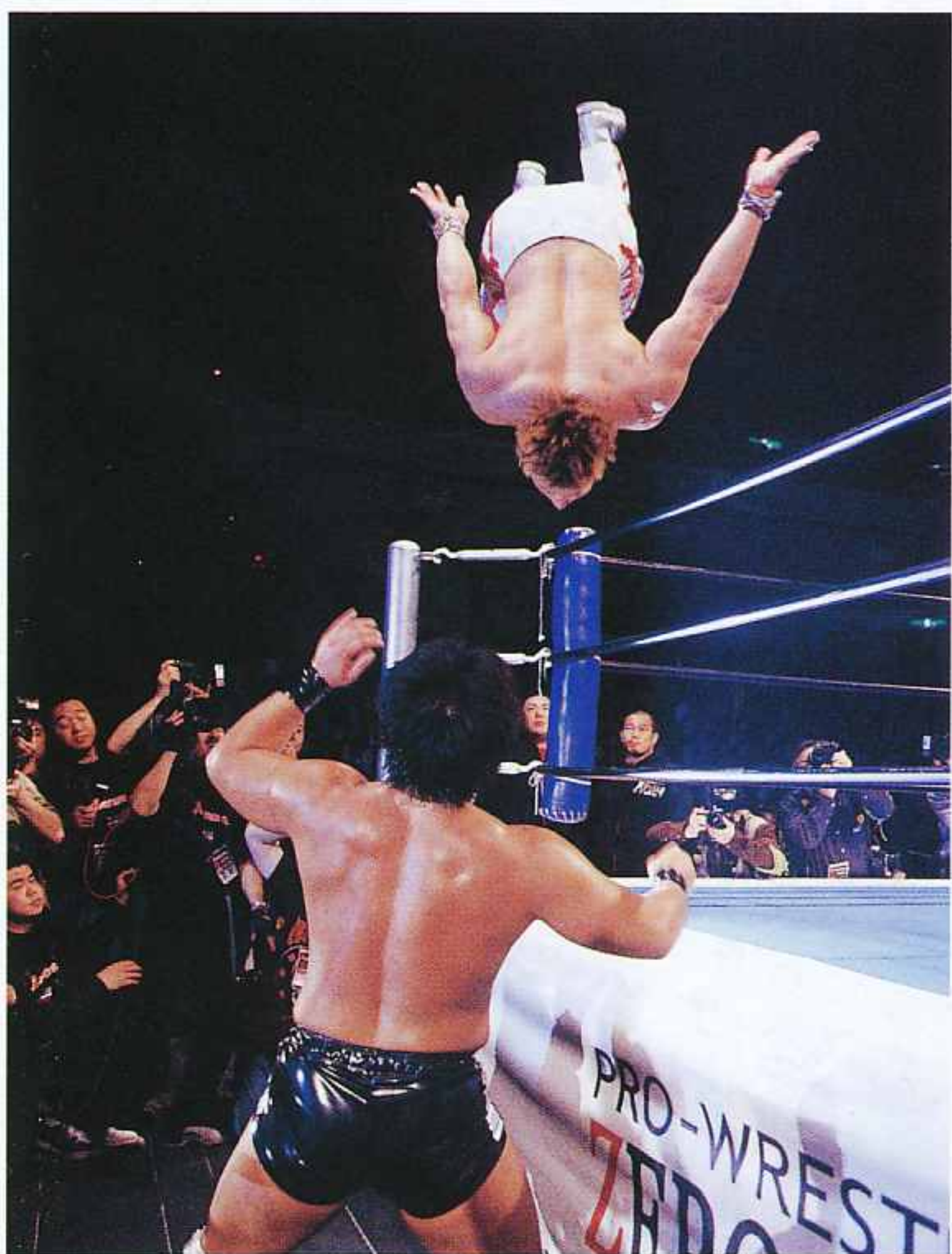
—それは頼もしいですね。丸藤選手の試合は一見ハデなようでいて、ファーストコンタクトではタックルをズバッと決めたりと「強さ」の部分も見せてますもんね。やっぱりこれは高校時代にレスリングのインターハイで優勝した経験が……

丸藤　（すかさず）優勝してないよ!!（笑）。出場しかしてないよ。

—し、失礼しました！　さっき杉浦選手のインタビューをしたばかりなんで、いろんなことがゴッチャになってしまいました（笑）。

丸藤　以後、気をつけるように（笑）。

—ハイ（笑）。アマレスは高校から始めたんですか？

丸藤　ハイ、そうですね。だからやってたの

は3年間ぐらいです。

——やはりプロレスラーになりたくて？

丸藤　ハイ、中学生のときに「プロレスラーなりたいな」と思って、そのためには高校でアマレスやっとこうかなと。まあガキんちょの単純な考えだったんですけど、高校でやってきたことはプロでも役に立ってますね。

——プロレスラーになりたいと思ったときは誰のファンだったんですか？

丸藤　（三沢）社長とか……社長（笑）。

——社長のみ！　ホントですか？（笑）。

丸藤　社長のみってわけじゃないけど……。

——主に全日本が好きだったんですか？

丸藤　実はそういうわけでもないんですけどね（苦笑）。（小声で）武藤さんとか好きだったんですよ。カッコ良かったですからね……なかなか言いにくいですけど（笑）。

——まぁ、ファン時代の話ですから（笑）。

丸藤　でも不思議ですよね。あの頃は「三沢ー!!」とか言って呼び捨てにしてたわけですからね（笑）。

——それが今では三沢さんの付き人ですもんね（笑）。やっぱり三沢さんと身近にいると色々教わることは多いですか？

丸藤　試合でも私生活でも教わることはいっぱいありますね。

——一番三沢さんが凄いなと思うところはどこですか？

丸藤　人を引きつける力っていうのが凄いッすよね!!　どんなに強くても、カッコ良くても人を引きつける力がない人っているわけじゃないですか。その点、社長からはカリスマ性を凄く感じますよね。社長を見てると、ホントついて行こうっていう気になります。

——そうですよね。ZERO—ONEでのノア勢の活躍を見てると「三沢一家」って感じがしましたよ。三沢さんが上でドンと構えてて、力皇さん、丸藤さん、杉浦さんたちが、適材適所で才能を発揮するという。

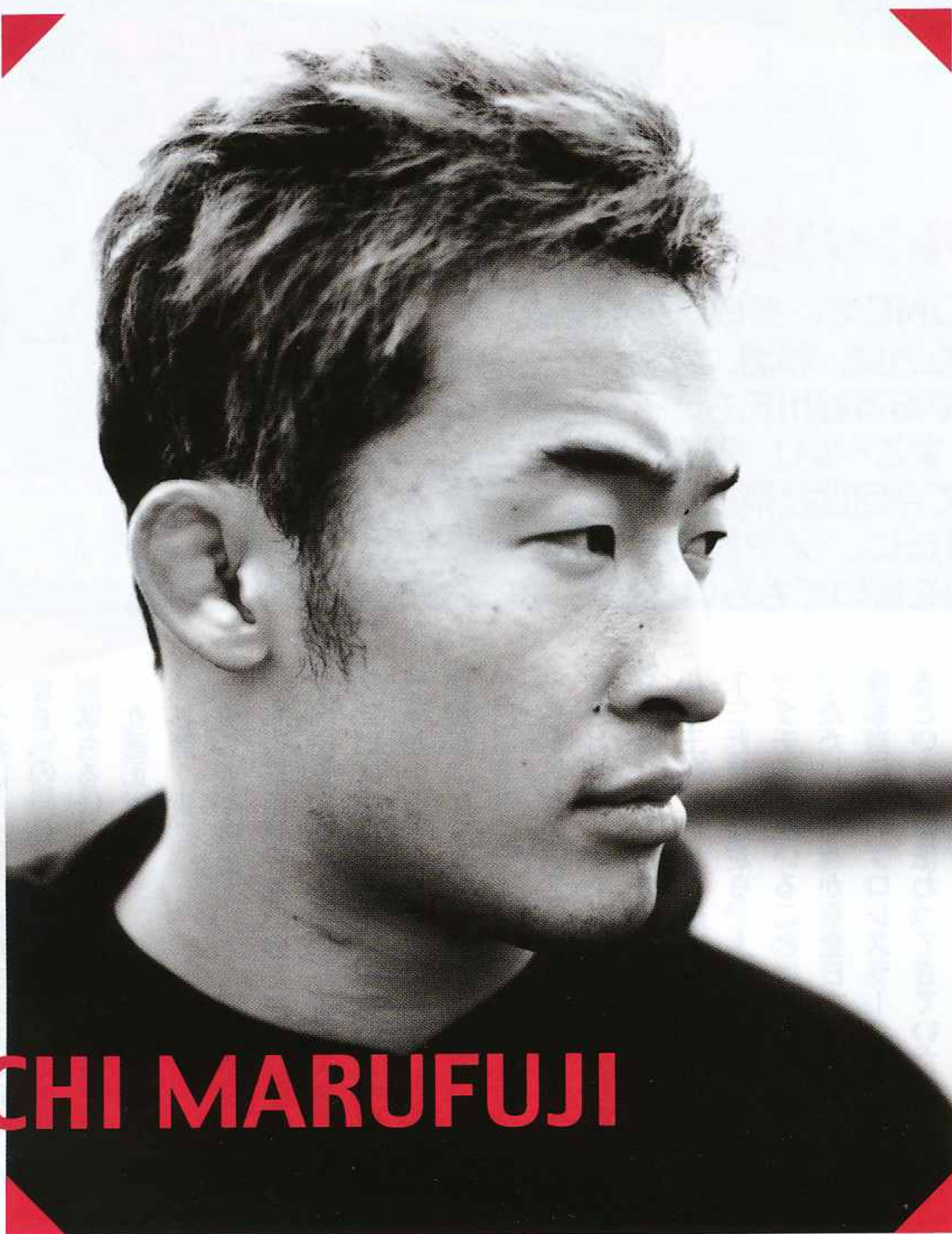
丸藤　やっぱりノアはプロレスを楽しんだり、知ってもらうっていう面では一番良いと思いますよ。色んなモノを兼ね備えた人間が揃ってるから。格闘技色が強い人がいれば、ボクみたいに飛ぶ人もいるし。

——ホントに人材が充実してますよね、ノアは。その中でも丸藤選手はひとりで色んなモノを兼ね揃えてますよね。

丸藤　そうですかね？　まぁ、ボクが目指しているのは、そういうオールラウンドな選手ですけどね。

——色んなモノを身につけたいというと、海外修行にも行ったみたいと、一時期言ってましたよね？

丸藤　それは今でも行きたいですね。

——具体的に行きたい国はあるんですか？

丸藤　メキシコとアメリカですね。だって凄くファンが楽しそうじゃないですか！「試合見てんのか？」ぐらいに楽しんでますよね。あの雰囲気の中でやってみたいですよ！

——WWFなんかは、もう別世界のようですもんね。

丸藤　あういう中で試合をしたら気持ちいいだろうなって思いますよ。なんとか機会を作っていつかは出てみたいですね。決して不可能じゃないと思うし。やっぱり日本だけじゃなくて海外とかでも評価されたいですね。

——志が高くていいですね！　日本ではああいった雰囲気はなかなかないとは思うんですけど、ZERO—ONE以外で日本の他団体に出てみようっていうのはないんですか？　去年はIWAジャパンとか出ましたけど。

丸藤　そんなこともあったなぁ（笑）。あのときは相手のコメント聞いて、かなりカチンと来たんですよ。今度やったらグラウンドだけで終わらせてやろうかな（笑）。

——おぉ！　やっぱり丸藤さんは華麗なだけじゃなく、そういう怖さも持っていることが魅力ですよね。

丸藤　ボクは別に飛ばなくてもいいですからね。今は自分で楽しいし、お客も楽しんでくれてるから飛んでますけど、別に飛ばなくても試合は組み立てられますから。

——それじゃ、この先違ったスタイルもありえるわけですか？

丸藤　突然グローブ付けて出てくるかもしれないですよ（笑）。

——おぉ！

丸藤　まぁ、それは自然の流れじゃないですか。自分で必要ないなと思ったモノは排除していくし、新しいモノもどんどん追加されていくでしょうしね。

——丸藤選手はまだ21歳ですから、無限の可能性があると思いますけど、プロレスラーとして最終的な目標はあるんですか？

丸藤　最終的なモノなんてないですよ！　すべてに納得できる日なんて来ないんじゃないですかね？　プロレスっていうのは常に新しいモノが生まれてくる世界だと思いますから。だからボクも常に新しいものを求めていきたいですね。

【00年5月2日／プロレスリング・ノア事務所にて収録】

NAOMICHI MARUFUJI

まるふじ・なおみち■
昭和54年9月26日、埼玉県北足立郡出身。平成10年8月28日、愛知県・岡崎市体育館、VS金丸義信戦でデビュー。高校時代はアマレスでならし、インターハイ出場。新人らしからぬ強心臓と華麗な空中殺法で女性ファン激増中。必殺技の不知火は一見の価値あり。その天才肌はまさに三沢2世。

なぜだ！　サダハルンバが無意識にノアの凄さを分析！

有名格闘評論家が見た 4.18 ZERO-ONE 感想文

文・サダハルンバ谷川（『SRS・DX』編集長）

4・18ZERO－ONEで、普段ノアを見ない人たちの度肝を抜いた力皇、杉浦、丸藤。日本一有名な格闘技評論家である谷川氏も、そんな彼らの活躍に「すごい、すご～い」を連発していたひとりである。そこで今回は技術論、ジャンパー論に定評がある谷川氏に、ノア論の執筆を依頼。「んあ～」な観戦記を書いてもらいました。

のあ～

紙プロ読者の皆様、こんにちは。わたしはこう見えても〝格闘評論家〟を名乗っている男である。

そんな私から今回、プロレスファンの皆様にも言っておきたいことがある。それは〝ノアの若手は本当に素晴らしい〟ということだ。

それは、2度にわたる「ZERO―ONE」の興行を見て、私自身、目から鱗が落ちるほどの衝撃を受けた。

丸藤正道。

杉浦　貴。

そして、泉田！

本当に申し訳ないのだが、この中で私が名前を知っていたのは泉田ただ1人。ノアには相撲出身の泉田という中堅レスラーがいるというのは、週プロなどを見ながら、なんとなく頭に入っていたからだ。

もともとノアというのは、四天王プロレスというイメージがある。全日本プロレスから脈々と流れるプロレス・スタイルの王道、そして最近では〝ノーフィアー〟と言いながら、人に指差す下品なタッグチームがいることは知っていた。

ただし、前々から全日本プロレス系には本当に強いプロレスラーがゴロゴロいるという話は伝わってきていたので、私自身も一目置いているようなところがあった。

今のように桜庭、藤田が『PRIDE』で活躍する前、何人かの人に「プロレスラーで誰が一番強いと思いますか？」と質問されると、私は迷わず〝本田多聞〟でしょう！と胸を張って答えていた時代があったほどだ。

「本田多聞・最強説！」――これは私の中でいまだに強く残っている。そして、秋山準が出てきてからは、秋山こそ『PRIDE』向きの男だと、ひそかに注目していた次第である。

しかし、そんな四天王プロレスやノーフィアーや、最強・多聞や秋山ではなく、ノアには凄ェ奴らがいた。まさか、まさか泉田という選手があそこまでやるとは思ってもいなかったのだ。

4・18日本武道館。「ZERO―ONE」旗揚げ第2戦で、わたしが最も衝撃を受けたのは、アレクサンダー大塚VS杉浦貴の試合だった。

あれ？　ノアにも藤田がいる。そう見えた杉浦は一目見ただけで強そうな感じが伝わってきた。しかし、聞くところによるとプロレスを始めてまだ4カ月だという。それなのに、強さでアレクを圧倒し、4カ月目のグリーンボーイが試合を引っぱっているではないか。

それに対してムキになるアレク。しかし、アレクがキレてヘッドバットをし、逆に自分で額を切ってしまう始末。なんか、わたしがプロレスに夢中になっている頃の新日本プロレスの前座を見ている頃を思い出し、ゾクゾクした。

プロレスは強く見えなければお話にならない。杉浦からはその強さが十分伝わってきた。

そして、その強さに対してムキになるアレクとの意地比べ。わたしが好きなプロレスはこういう試合だった。

「ZERO―ONE」旗揚げ第1戦か

有名格闘評論家が見た

4.18 ZERO-ONE

感想文

ら、これは凄ぇと思っていたのが丸藤正道だ。その身体能力の高さは、初代タイガーマスクの佐山聡を見た時と同じくらいのインパクトがあった。

しかも名前が〝正道〟。私がよく知ってる正道会館には、これほどの運動神経を持ったヤツはいない。武蔵とはえらい違いである。きっと、こういうタイプが格闘技をやっていても凄い人気が出たんだろうなあと思うタマである。

そして泉田！　この日、泉田はメインで三沢光晴とタッグを組んで、UFOの小川・村上組と対戦した。だが、橋本や安田、ゲーリー・グッドリッジや佐竹には感じなかった、小川を圧倒する力を見せつけてくれたのが泉田だった。

こんなオーチャンを見るのは初めてだ。泉田って、凄ぇぇー！　そんなふうに思っていたら、あとからその選手は〝泉田〟ではなく、〝力皇〟だということが分かった。私はノアの相撲取りイコール泉田っていう先入観に捉われていたのだが、あの凄い男は力皇という名前の人だったのだ。

力皇は相撲時代、泉田よりも遥かに実績のある力士だということも分かった。ちなみに現役プロレスラーの中で、元力士として活躍した実績で言えば安田が一番。あとは天龍、立刀光、力皇と続き、泉田はそのずっと下の番付けだったらしい。

そえにしても、泉田じゃない力皇が素晴らしいかったのは、小川を圧倒する体格だけではなく、相撲である程度の限界を感じて転向したタイプではない若さが伝わってきたことだ。なぜノアに入ってきたのか事情は知らないが、私の中ではいっぺんに〝力皇・最強説〟膨らんだほどである。全日本プロレスの王道を継承するノアは、これまでに他の団体との交わりを避けてきたため、その実力や個性が私まで伝わって来なかった。しかし、未開の地を掘り起こしてみたら金脈がザクザクと埋まっていた。そんな印象がしたのがZERO―ONEでのノア勢だった。しかも日頃マスコミ・ネタとしては一歩も二歩も猪木軍団に話題をとられがちのノア勢のジェラシー。そして意地みたいのなものがひしひしと伝わってくるような試合ばかりだ。これはまさしく猪木時代の新日本プロレスそのもの。

「闘魂とは他者に対するジェラシーである」と発見した1日でもあった。

昔、私がよく見ていた頃の新日本は、それこそ〝いざ〟という時に、どんな敵をもぶった斬る凄腕の浪士たちが集まっているような雰囲気があった。特に猪木の異種格闘技戦では、セコンドにいた藤原喜明やドン荒川、永源遙といった中堅レスラーが思わぬ凄玉に見えたものだ。また、若手の佐山聡や前田日明といった面々も……。今回、ノア勢から伝わってきたのは、そんな凄味である。

ああ、あんなヤツらの『PRIDE』の試合が、ぜひ見てみたい。秋山、杉浦、丸藤、そして泉田……じゃなくて力皇！　ぜひ『PRIDE』のリングに1度上がってくれっ！

旧体勢を破壊し、真世紀を創造する、人生相談誕生。

IMPALA

人生のHome L…

いつ何時誰の相談でも受ける!!

橋本真也の破壊王的人生相談 其の壱

「人生ケサ斬りチョップ」

一刀両断!

一つ、人の生き血をすする――、二つ、不埒な悪行ざんまい――、三つ、醜い浮き世の古タヌキを――、退治てくれよう破壊王! どうだ。俺のポエムは。猪木さんの詩集に負けない感動があるだろ。でも、これは『桃太郎侍』のパクリだ。いいかーーッ! 俺はいつ何時、誰の相談でも受ける! 老若男女……特に女! いつでも構わん! ハガキか封書を送ってこ〜い!

構成／赤覆面X
撮影／松本崇
designed by さおとめの事務所

Q.

橋本さん、こんにちは。28歳独身のOLです。

最近、自分の性格にはほとほと嫌気がさしてます。たとえば観葉植物を買うと、愛情を注ぎすぎて水をやりすぎてしまって、結局は根を腐らせて枯らしてしまう。職場ではみんなに気を使いすぎて八方美人になってしまい、陰口を叩かれる。付き合う男性にはさんざん貢いだあげく、浮気をされ逃げられて、飼うペットはすべて肥満になってしまう。自分の濃すぎる愛情によって幸せを逃してしまってるように思えるんですが、橋本さん、私はどうしたらいいでしょう？

【宇和島のコリーダ・28歳・OL】

A. 破壊王~~弁当~~返答

これは愛の押し売りや！　愛を与えるのはいいけど、与えすぎて相手の心を肥満にしてしまってる！　愛にもバランスがあるわけだよ。自分も愛されるようにならないとダメだ！　愛されるというのは、愛することの裏返しなんや。そこがポイントだ！

俺も『紙プロ』読者には愛されてるって話だけどな、これはヤバいぞ！　『紙プロ』読者に愛されると一般人には通用しないからな。困ったもんだ。ダーッハッハッハッ！

俺が愛される秘訣？　やっぱりなんでも正直に素で行ってるからやろ！

この子もな、相手のことを観察しながらやっていかないとダメだ。与えてれば与えられるってもんじゃないんだよ。与えられることも与えるうちなんや！

「私はあなたが幸せだったらいいわ」なんて嘘つけって話だろ！　そんな嘘を言ってないか？　自分も幸せじゃなきゃ嫌だろ！　自分のことをもっと大事にしろ！　自分に正直になれ！　与えたいという気持ちの裏側には、与えてもらいたいという気持ちがあるはずなんや！　それを隠すな！　隠して後からバレるよりは、最初からさらけ出せ！　そこから何か生まれるはずや！

以上！

破壊王弁当の爆発的な売り上げやZERO―ONE株急上昇と比例して体重の方も増え続ける最近ちょっぴり太めな破壊王。先日、外国人発掘のために行ったアメリカで見学したユニバーサルスタジオで興行をやってみたいと発言。夢も世界規模だ！

Q.

好きになる人が、ことごとく人のもので困ってます。すでに彼女がいる人ぐらいなら、まだいいんですが、妻も子もいる人となると、自分も相手もメチャクチャになりそうで言い出せません。このままじゃ辛いです。私はどうするべきなんでしょうか？

【宮本ヒトミ・21歳】

A. 破壊王~~弁当~~返答

この子はね、凄くヤキモチ焼きで、欲深いんだろうな。ハンデがないと自分が燃えないんだろう。すんなりいく恋愛が面白くないんだよ。

でも言っとくけど、不倫っていうのは、もの凄い力がいるからな！

21歳っていうと、ちょうどその頃は年上に憧れたり結婚に憧れるもんや。妻子ある男は、落ち着いて見えるし、包み込んでくれるような感じがするだろ。家庭を持った人は包容力という「力」があるんだ。独身の男にはないその「力」の分だけ女を呼び寄せられる！　そういう方程式なんだ！

実感こもってるって？　正直に言うぞ！　体験者は語れるんだよ。俺も20歳ぐらいの時に不倫してた！　それも2人や！　相手には旦那がいた！　相手か？　30歳ぐらいだったな。

女とはいえ、相手も家庭持ちだから、包容力という「力」に俺がおびき寄せられたんやな。

不倫現場で男とハチ合わせしたことか？　もちろんある！　かなり危なかった。1回、ドブ川伝いに逃げたことあったな。「俺は『影の軍団』の忍者か？」と思ったよ。ダーッハッハッハッ！

その時は、ヤバいと思うんだけど、それでもまた、その女のとこに行ってたな。しまいには「お前がちゃんと愛してやらないから悪いんだ！」って男に言ってやった。俺もヒドイこと言うよな。

その夫婦も、いまはどっかで幸せにやってんじゃないか？　だいたい、そういうのは元に戻る。よけい絆が強くなるもんなんだ。だから、結論を言うと、俺はその夫婦の役に立ったいい人なんだよ。以上！

なに？　答えになってない？　この子に言っておく！　そういうのは2～3年もしたら治る！　以上！

破壊王人生相談発進記念！本誌スタッフ・ジャイ子が巨大な悩みを告白!!

栄えある破壊王の大型人生相談、第一回目の特別企画として行われる、破壊王生（なま）相談。相談者はこちらも大型の本誌スタッフ・ジャイ子！　日頃から、破壊王大好きっ娘を公言しまくり、どこで聞いたか破壊王の取材日を入手し、編集部員をクネクネ光線で強引に口説き、第一回の生（なま）相談者になったのだった。

明け方まで悩んだ勝負服（＆パンツ）も決まり、いつもより多めにアクセサリーを付け気合い十分で、ジャイ子はＺＥＲＯ－ＯＮＥ事務所へと出向いたのだった。

さすがの橋本真也も、ジャイ子をひと目見て、その気持ち悪さに卒倒するだろうと思いきや、さすが破壊王！

「今日はこんな綺麗な子を連れてきてくれてありがとう！」といきなり編集部の人間に握手を求めてきたのだ！　見てみ、この大物っぷり！　破壊王生（なま）相談開始ッ！

橋本　（ジャイ子の風貌と、勝負用アクセサリーを眺め）お前は魔術かなんかやってんのか？

ジャイ子　（クネクネしながら）む〜。やってません。

橋本　（スカートのスリットから覗くジャイ子のナマ足を眺め）このスカートはいい！　素足もいい！

ジャイ子　そ、相談ですぅ。あのぉ、編集部でいつも「気持ち悪い、気持ち悪い」って言われるんですけどぉ。

橋本　……。まぁ、大きさが西洋的だよな。ただな、近くに来られちゃうと、これがまたいいんだよ（満面の笑み）。だから、ジャイ子！　お前のことを「気持ち悪い」なんて言うヤツはな、自分が見劣りしてることに気付いてるんだよ。それをごまかしてるだけだ。そう思った方がいい。（藤原）紀香だってデカいんだから。みんなはおまえに見劣りしてるってことをわかってんだよ。

ジャイ子　（満足げな表情を浮かべ）グフフフゥ。

橋本　男が女より背が低いっていうのはコンプレックスだからな。それで悔しいから、どっか欠点見つけてやろうとしてるんだからさ。喋ってりかけてくるってことはいいんだよ。本当に嫌だったらさ、喋んねぇよ。みんなジャイ子のことを気にしてんだよ。

ジャイ子　と、ところが全然男ができないんですけどぉ。

橋本　やっぱりか！

編集部　アハハハ！　性格がねじ曲がってるんですよ。

橋本　どうひねくれてんの？

編集部　人の幸せが許せないタイプなんですよね。たとえば橋本さんが綺麗な女の人と歩いてるのを見たとしたら「なに、あのブス！」とか言うタイプなんですよ。

ジャイ子　むぅ〜、そんなの言ったことないじゃん！

橋本　あ、気持ちわかるよ。可愛い子がさ、変なオッサンと歩いてたりしたら、「俺の方がいいのに」とか思うもんな。友だちの、高知（東生）と高島（礼子）が結婚したときも「高知より俺の方がいいのに」と思ったからな。

編集部　高島礼子大好きでしたもんね。

橋本　高島だけじゃないよ、世の中の綺麗な女全部テメエに欲しいやろ！　だからジャイ子普通だよ。

橋本真也の 其の壱 破壊王的人生相談「人生ケサ斬りチョップ」一刀両断！

ジャイ子　イェーイ、ワタシ普通だぁ！

橋本　「私も幸せになりたい」っていう願望の裏返しなんだよ。彼氏、2メートルぐらいじゃないとダメなんじゃないのか？　身長いくつなの？

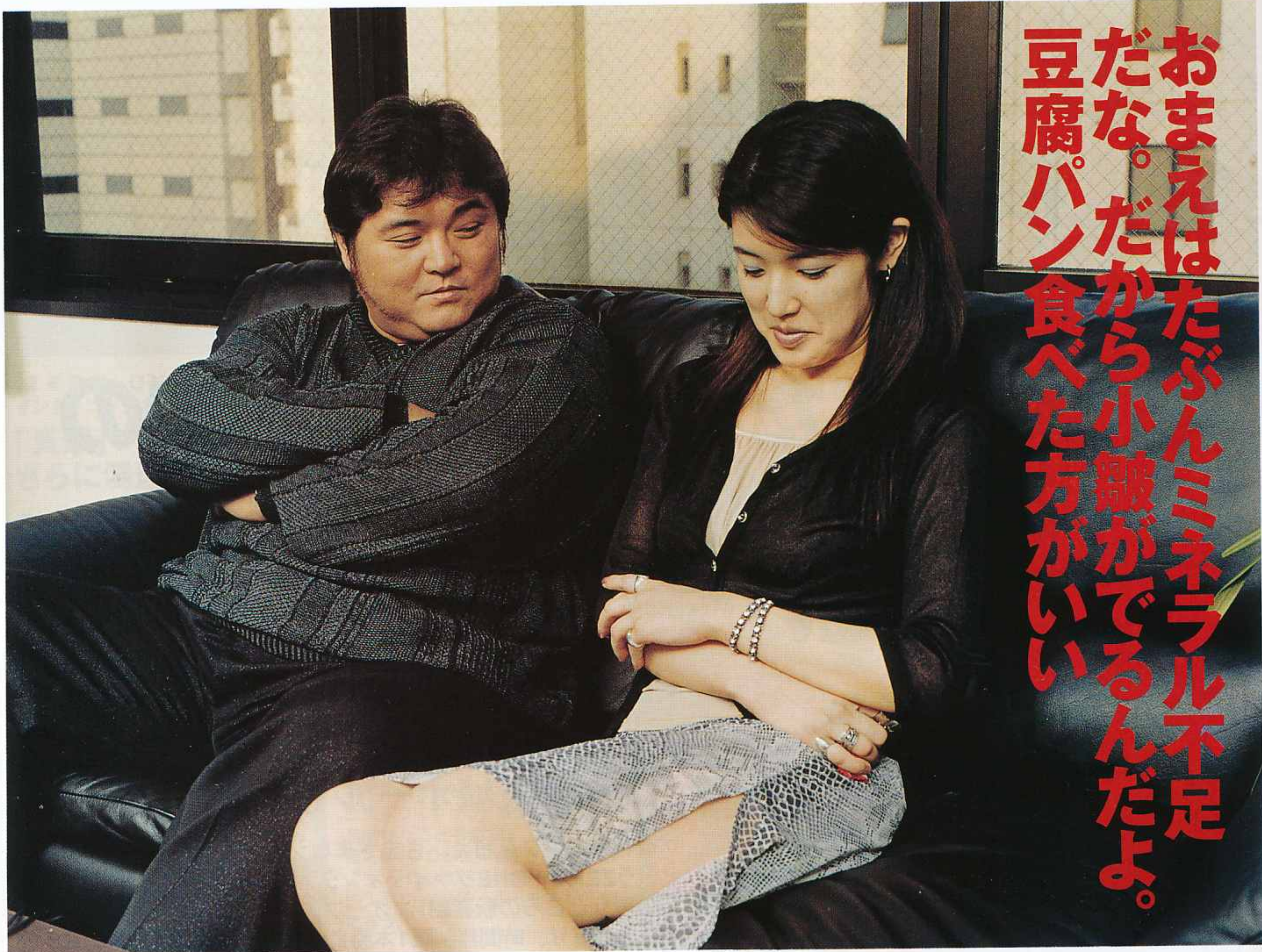
ジャイ子　ひゃ、１８０センチです！（キッパリ）。

編集部　まあ公称ですけど（笑）。

橋本　この前さ『笑っていいとも！』で一緒に写真撮った外人が2メートルぐらいあったから、紹介しようか？

ジャイ子　チビッ子でもいいんですけどぉ。

橋本　あ、そうなんだよな。デカいヤツは小っこいの好きなんだよ。１６０セン

おまえはたぶんミネラル不足だな。だから小皺がでるんだよ。豆腐パン食べた方がいい

チぐらいのヤツでもいいの？

ジャイ子　全然いいですよぉ。

橋本　もうちょっと痩せりゃ、スーパーモデルに見えるわなぁ。

編集部　でもこいつは胸がないんですよ。

橋本　（ジャイ子の胸をチラッと見て）Cくらいあるやろ。

編集部　いや、詰め物ですよ。

橋本　あ、詰め物か。

編集部　だからコンプレックスが異常に強いんですよ。

橋本　大きい人って目立たないようにしようとして、猫背で歩くやろ。

編集部　坂口（征二）さんみたいに。

橋本　坂口さんは、染色体が違うんだよ（笑）。逆に胸張って堂々と歩いた方がいいんだよ、近寄り難いような感じで。

ジャイ子　近寄って欲しいんですけどぉ……。みんなに愛されたいんですぅ。

橋本　欲張りな女だなぁ。彼氏はどれぐらいいないの？

ジャイ子　1年弱？　でも、もうあとがないんですよ。

橋本　いまいくつだよ。

ジャイ子　23歳です（キッパリ）。

橋本　（即座に）嘘つけ！　目尻の小皺でわかるよ、そんなもん。で、いつもなに食ってんの？

ジャイ子　破壊王弁当です。

橋本　体に悪いぞ、あれ（笑）。

編集部　そ、そうなんですかぁ？

橋本　冗談や！　おまえはたぶんミネラル不足だな。だから小皺が出るんだよ！　豆腐パン食べた方がいい！

編集部　今日は「橋本さんを喜ばせる格好をして来い」って命令したんですけど。

橋本　そんならさ、今日はバドガールの格好とかで来てほしかったなぁ。

編集部　橋本さんがクラクラする格好っていうのは？

橋本　普通の格好。普段、掃除してるときの格好とかさ、あれがいいんだよ。俺はOLとかの方が好きだな、警察官とか。

編集部　け、警察官？

ジャイ子　制服がいいんですか？

橋本　好きだねぇ。（突然ジャイ子に）脱げ、コラ〜ッ！

編集部　ガハハハ！

ジャイ子　なに言ってんのぉ！　あービックリした。

橋本　でもね、彼女は眺めてぇな（ニヤリ）。

編集部　な、眺めたい？

橋本　デカいテーブルの上に四つんばいにさせてさ、俺はワイングラス持って眺めるんだよ。

ジャイ子　（急に赤面して）は、は、恥ずかしい〜。

橋本　こういう子こそ変わるんだよ。そういうの似合うよ。

ジャイ子　に、似合うぅ？

橋本　たぶん、俺、このまま口説いてたら、ホントにもうすぐ脱がせるよ。ダーッハッハッハ。

ジャイ子　（慌てて）も、もう性の問題はいいです。

橋本　もうやめるか。俺も『紙プロ』でネタにされたら困るからな（笑）。

編集部　これはあくまで人生相談ですから（笑）。

橋本　違う！　チン性相談や！（笑）。

破壊王への逆人生相談

Q. 橋本さん、『真撃』って一体何をやるんですか？

A. 俺もまだわからん！ いまのところ決まっているのはこれだけや！

『真撃』第1章
6月14日(木)
大阪・大阪城ホール（試合開始19：00）

プロレスのワクを超え、さまざまなジャンルへ挑戦しつづけるというZERO－ONEファイティングアスリート部門『真撃』（蝶野の言うところの新喜劇）。オープンフィンガーグローブ着用、顔面攻撃有り、時間無制限1本勝負というのが真撃ルール。そして、気になるカードの方はこの号が出る頃にも明らかになっていなさそうだが、現時点で酔拳の達人や元プロサッカー選手からオファーが入っているというから、なんだかとてつもない夢をカマし上げてくれそうだ。「いまの俺はプロレスファンに戻った！」と言い切る破壊王の無邪気で刺激的なカードがズラリと並ぶこと間違いなし！ 『紙プロ』読者のみんな、大阪城ホールに進撃だーッ！

【チケット料金】
RS:¥20000／SS:¥10000／S:¥6000／A:¥3000
【主催】毎日放送／ステージア
【お問い合せ】ステージア TEL06-6344-4441
【出場予定選手】橋本真也、大谷晋二郎、謙吾、その他強豪選手

運が良ければ白覆面も質問に答えるぞ！
とにかくお前らドンドン相談しろ!!

ウガーッ

「まじめな質問はお断りや！ 女だったらいいけどな！ 人には言えない悩みがあるんじゃないのか？ オレにすべてを打ち明けろ、すべてをさらけ出せ、裸にになるんやー!!（ワインを片手に絶叫）。ところでおまえは人妻か？ ナニ、人妻じゃない!? だったら、出てけー！ オレは他人のモノを取るのが燃えるんや～！ 愛人が欲しいんだ!!」

というわけで破壊王が熱く燃えてしまうような相談（特に女性の方）、おハガキお待ちしています（どうなっても編集部は知りません）

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
ダブルクロス編集部 『テーブルの上で四つん這い』係まで。

紙の新聞

●マット界の1ケ月丸わかり●

編集長／堀江ガンツ
助手／フリテン君

4/20 ➡ 5/16

この春、めでたくスポンサーが降りた、ターザン山本のWEBマガジン『マイナーパワー』。その中の「落武者炎上日記」を読んでいたら衝撃的な記述を発見！　それは……「『"マイナーパワー"読んでますよ。見方が実に鋭いですね』と藤波さんがほめてくれた。」というもの。東スポしか読んでないかと思われたドラゴンが、文字通り「マイナー」なメディアを見ていたなんて！　もしや、このページも読んでいるのか……!?　くわばらくわばら。

リニューアル

4/23

【ZERO−ONE】
インターコンチネンタルホテル

「真撃」さらに混迷深まる

どんなルールなのか、誰が出るのか、さっぱりわからない、ZERO−ONEが放つ謎の格闘技イベント「真撃」の記者会見がこの日、破壊王と謙吾が出席して行われた。謎のイベントらしく、破壊王、謙吾ともに、対戦相手はおろか試合スタイルも伏せられた（っていうか決まってない）。結局この日、わかったことは破壊王の相手はどうやらプロレスラーになりそうということだけ、なぜか会見終了後、馳のコスプレをした神無月が現れるなど、最後まで訳が分からない「真撃」なのであった。

4/21

【新日本プロレス】

武藤錯乱！「藤波にLOVEを感じる」

団体の垣根を超えて、ひたすらプロレスLOVEを求める男・武藤。これまでその愛の力で太陽ケア、馳、ライガーなどデタラメにメンバーを集めてきたが、そのデタラメぶりに拍車がかかる事件が起こった。この日、人生と組み、ドラゴン＆西村の無我師弟コンビと対戦した武藤は、試合後よりによってドラゴンにLOVEを感じたことを激白！　ドラゴンと言えば、プロレスへのLOVEというより、プロレスへの執着心とかおり夫人へのLOVEと言った方が正解だろう。

4/25

【PRIDE】
東京プリンスホテル

『PRIDE.14』藤田vs高山戦決定

「PRIDE.14」藤田vs高山戦が決定した。ベルト問題や日本人ヘビー級対決、激しい舌戦もあってか話題性は十分だが、イマイチ乗り切れないファンもいるのも事実だ。一体何が原因なのか？　藤田と高山を海よりも深く見ることで、彼らの背景に何が浮かび上がるのか探ってみた。【藤田】→強い→アマレス→五輪不出場→五輪出場→【長州】・【高山】→ノア→Uインター→回顧→【宮戸】　どうですか!!　お客さん!!　高山が勝って宮戸が喜ぶのは良いが、藤田が勝って長州が喜ぶのは我慢できねえんです!!　ズバリ言ってそういうことです!!（フリテン）

4/22

【新日本プロレス】
三重・津市体育館

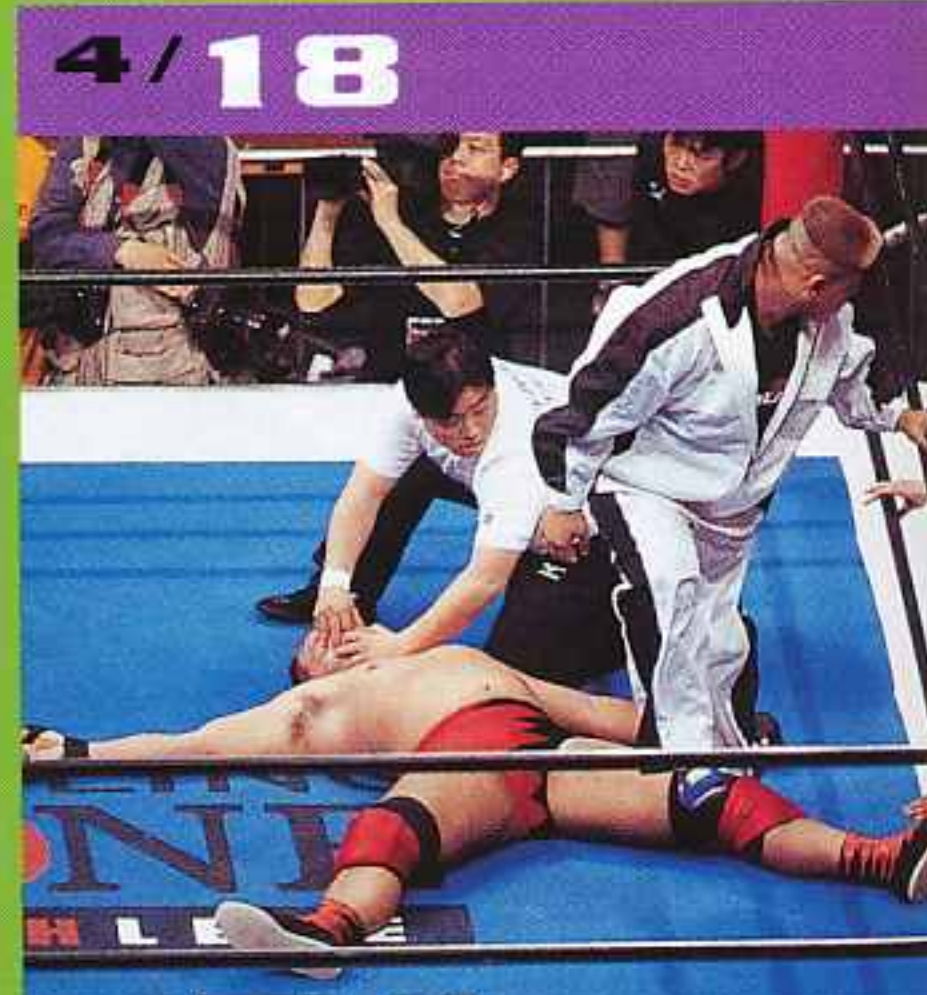
ドラゴン、どさくさに紛れてG1出場宣言

「引退カウントダウン」スタートからはや一周年。最近では開き直ったのか、カウントをちっともダウンさせずに普通に試合に出ているドラゴンが、よせばいいのに猪木軍団への反抗をアピールした！　まずドラゴンは長州、健介欠場を口実に「休んでられない」とシリーズ合流。ドラゴンのトンデモ発言目当てに集まった記者の期待に応えるかのように「猪木プロデュースは5・5まで」と、いつものように、なんの根拠もなしに断言した。さらにドラゴンは、一足早すぎる夏のG1出場宣言までする始末。春先のドラゴンは手がつけられない。

4/19

【新日本プロレス】

健介、傷心のシリーズ全休

「新日本プロレスのエースはオレ」でお馴染み、我らが健介が、4・9大阪ドームでの破壊王戦完敗の精神的ショックで、風邪で学校を休む子供ばりに電話で欠場を申し出た。破壊王がオーちゃんに敗れて、試合を欠場していた時は、「プロ失格」だのなんだの、散々いっていたにも関わらず、エースを自認する男が「しばらく休んで自分を見つめ直したい』というだけの理由で、アッサリ欠場。「俺たちの時代」を叫び、「俺自身が新日本プロレス」などと言っている男ならば、試合を休むときは「正直、スマン!」と観客にお詫びの挨拶をするのが筋であろう。

4/18

【ZERO−ONE】
日本武道館

大谷、またしても失神KO負け!

新日本脱退以降、村上に襲われて血だらけになりながら昼下がりのオフィス街で絶叫したり、ZERO−ONE旗揚げ戦では大方の予想を裏切り、その村上に失神KO負けを喫したりと、なにか弾ける予感が漂うこのところの大谷晋二郎。ZERO−ONE第2戦のこの日は、なぜかマッコーリーと対戦。これまた予想を裏切り、失神KO負けを喫してしまった。しかし、そのあとが大谷の大谷たる所以。控え室に戻り蘇生すると「試合はどうなったんだぁ!?」とわめき散らしながらリングへカムバックを試みようするなど大暴れ！　いま、日本でもっともWWFに近い男が大谷である。

5/3

【ReMix】
代々木第2体育館

なぜだ！　石立鉄男が『ReMix』に現る！

いまやバリバリのメジャーリーガーとなった新庄が解説をつとめたりと、芸能方面との交流に人一倍力をいれている「ReMix」。この日もボール師匠がプレゼンテーターを努めたりと、不思議な芸能界とのパイプを感じさせたが、客席が最も沸いたのはこの人が登場したときだった。「わ～かめスキスキ～、わ～かめスキスキ～」でお馴染み石立鉄男！女子総合格闘技との接点などありそうもない彼氏。なんで来たのかはわからないが、とりあえず盛り上がったのでよかった、よかった。次回は勝利者賞として「わかめ一年分」を渡す役をやっていただきたい。わ～かめスキスキ～。

【PRIDE】

「PRIDE.侍」スタート！

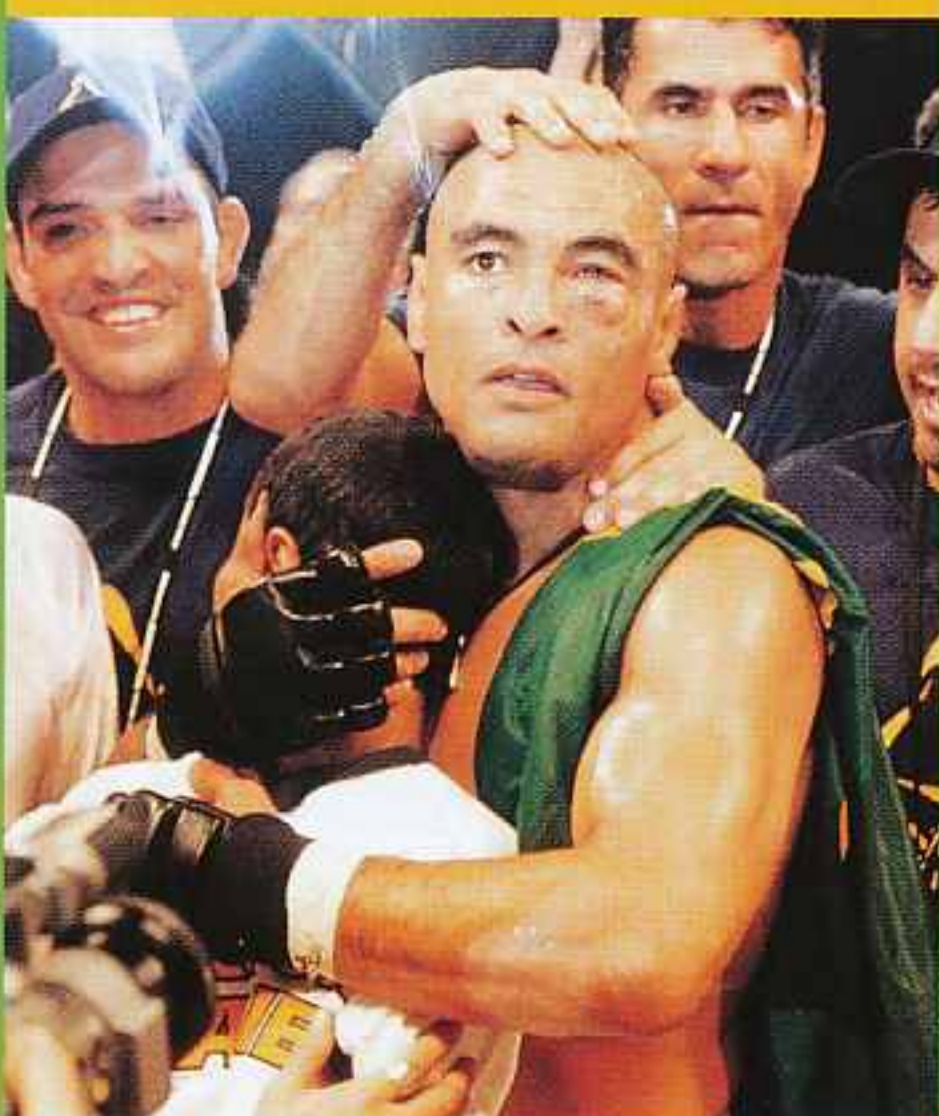
辻よしのりが司会を務める「PRIDE」情報番組「PRIDE.侍」の第1回目の収録が都内スタジオで行われた。ゲストの高田や藤田、アレク、松井がどんなに熱く語ろうと「ヒース・ヒーリングは全然ヒーリング（癒し系）じゃないですよ!!」ぐらいの事しか言えない辻や、ゲストがプロレスラーだったせいか異様なローテンションで解説する近藤隆夫などいつ降板させられてもおかしくないこの2人だが、逆風吹きつつある「PRIDE」で勝手にこの2人がスケープゴートの役を果たしてくれるかと思うと十分必要なのだと思うのだ。
（フリテン）

4/30

【新日本プロレス】
新東京国際空港

アントン、タイソンに魔性のスリーパー！

タイソン招聘をブチあげているアントニオ猪木が、タイソンとの直接交渉に成功するも火事により中断となった。この日ラスベガスで、タイソンに自ら接触をした猪木。ケンカの話やスリーパーを掛けるなど意気投合!!　招聘の実現性は極めて低いと言われているが、2人が組んだら出来ない事は何もない。そう、火のないところに煙りは立たないというが、この2人は火がなくても立つどころか自分で火を付けるのだから（しかもガソリン付き）何が実現してもホントおかしくない。そう考えると今回火事がおきたことも、ナンの不思議ではないのだ。（フリテン）

5/2

【コロシアム】

ヒクソンvs小川戦、11・3は消滅

いつになっても練習を再開しない、世界一呑気な格闘家、ヒクソン・グレイシーさん（41）の復帰戦が来年春以降になることが、コロシアム関係者から明かされた。この関係者によるとヒクソンは、「年内のファイトは無理。来年でも20～30％」と、誰もがいいかげんにしろ！とつっこみを入れたくなるほどの、呑気すぎる復帰プランを語った。これによって、11・3に予定されていた小川戦は事実上無期限延期。「来年の秋以降。日本シリーズが終わったあとにはやりたい」と語った、コロシアム側も、ヒクソンに負けず劣らず呑気だと感じた次第。

4/29

【K－1】大阪城ホール

ブラガ、K－1で草津にKO勝ち！

"船木をボコボコにした男"エベンゼール・・フォンテス・ブラガがK－1に緊急参戦！　あの"阿修羅原に四の字固めを譲ろうとしたが断られた男"グレート草津の息子、グレート草津（Jr.）と対戦した。当初は大半の関係者、ファンから「草津売り出しの噛ませ犬」と思われたブラガだが、まさかまさかの大活躍。ボブチャンチンでも勝てなかったK－1のリングで見事にKO勝ちを収めた。試合後、KO負けした草津は「パンチは全部見切ってました」「最後までギブアップしなかった」とあくまで強気なコメントを残した……という話は伝わってきていない。

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

奇跡！　謙吾が悲願の新曲発表！

新日本プロレスの歌うスカウト部長、キムケンこと木村謙吾。これまで「デュオ・ランバダ」等、購買ターゲットをどこに設定しているか誰もわからない独特のムード歌謡を、発表し廃盤を連発させるほどの人気を誇った彼氏。その反省点をふまえ、今回の「稲妻伝説」という、「橋本元年」級のタイトルのミニアルバムは、ズバリ「若者に自分のメッセージを伝えたい」と熱く語った。恐らく今回がラストアルバムになるであろう健悟は、売り上げに関しても慎重。いつもなら「大晦日は予定を空けておく」とまったく必要のない準備は万全だったが、今回は「売り上げは度外視」と実に謙虚。健悟兄ィ、そりゃらしくもないぜ。

4/26

【しのき祭り】クラブATOM

星野育蒔ひっそりプレデビュー

5・3「ReMix」でロシアのタチアナをKOし鮮烈デビューをはたした星野育蒔。そんな彼女が、実はこの日ひっそりとプレデビュー戦を行っていた。相手はナナチャンチン。「身長は150センチないくらい」というが、ハッキリ言って140センチくらいの超ミニミニファイターだった。星野はこのナナチャンチンにスタンドだけでいどみ、見事KO。ほとんどイジメのようなマッチメイクだったが、ナナチャンチンのやられっぷりもある意味見事だった。このような試合はここクラブATOMで毎月一回「スマックガール」として行われる。オススメだ。

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

ドラゴン、勝手に馳を大臣に指名！

いつものように世の中を東スポで知ろうとしたドラゴンの目に突如飛び込んできた「馳入閣OK」の文字。要は馳が「文部科学大臣をやってみたい」と言ったただけなのだが、これにドラゴンは過剰反応。スポーツ省設立の必要性を熱弁し、その大臣に馳を勝手に指名。「馳のアマレス、五輪、教員というバックボーンに比べると、江本さんは野球だけにみえちゃう」と関係ないエモヤンに一方的に大臣不適任通告をするなど、ゴーゴードラゴン状態に突入。さらに「常にウチ（新日）と国政をダブらせてみてきた」と、明らかに東スポの読み過ぎ状態のドラゴンは、「新日にも小泉さん的な発想が必要」と新日構造改革に強い意欲をしめしたが、残念ながらドラゴンはその失言癖といい、森前首相タイプだったりするのだ。

5/14

【PRIDE】

藤田、高山は眼中になし!

「PRIDE・14」での高山戦を11日後に控えた藤田が都内で会見。高野拳磁ばりのデカい態度で「練習はしてません。向こうはしてるだろうけど」と高山など眼中になし、とアピール。すでにその目は6月にIWGP王座を掛けて闘う永田。そして新日本参戦を宣言した秋山に気持ちはすでに飛んでいた。秋山に関しては「永田がIWGPを取ったら挑戦したい」という発言が気に入らないらしく、「オレに挑戦してこい」とアピール。高山がいくら「ベルトかけろ」と言っても無視を決め込んだ藤田が、秋山に関して「ノアに乗り込んでもいい」と異常に積極的。はたしてこの危険カードは実現するか!?

5/13

【パンクラス】後楽園ホール

山田学、ハンディキャップを告白し引退

パンクラスの山田学がこの日、シューティング時代の同期、朝日昇とのエキシビションマッチを最後に引退した。引退式には川口健次や桜井マッハ速人など修斗勢も来場。最後の挨拶では、自分が10歳のとき、原因不明の病気にかかり(のちに糖尿病の一種と判明)、ごはんが50グラムしか食べられないような、食事制限を受けており、現在も糖尿病の加療中だということを告白。ラストは「ボクは世界でもっともハンディキャップを背負った、世界でもっとも心の強い格闘家でした」と発言。パンクラスの仲間たちに囲まれ、胴上げで送り出された。

5/7

【新日本プロレス】
東京プリンスホテル

「人生のホームレス」出版記念パーティ

表紙が乞食スタイルという、前代未聞の写真集「アントニオ猪木写真集～人生のHome Less」(ぴいぷる社発行、5,000円)の出版記念パーティーが行われた。この日集まった著名人は千田光男、トカちゃん、サッチー、稲川淳二ら実に「ワイドショー色」の強い面々。これにアントンが加わるのだから、ほとんど「路上なら警察沙汰」状態である。こんな豪華メンバーに囲まれアントンは、サッチー以外の署名人全員に闘魂を注入したり、写真家の橋本田鶴子さんにポエムをプレゼントしたりと、いつものアントンでいることに追われていた。

5/6

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

ダークドラゴン激白「小川教育なってない」

"パーマ頭の呪術師"ドラゴンが、久々に自らの暗黒面、ダーク・ドラゴンぶりを全開。4・9大阪ドームでは、小川に挑発された際、TV解説者のクセして自分から張り手を見舞ってしまうという"キレる40代"ぶりを発揮したドラゴン。おかげで東スポ柴田記者ともども5・5では放送席にすら座らせてもらえなかったが、その怨念は翌日爆発した。まず「小川はこの業界で生きていく、すべての教育がなってない」と小川を断罪。「百歩譲っても将来新日マットに上がるかわからない」と事実上の「小川追放」を宣言。その後も延々と小川&アントンへの恨み節を綴るという、恐怖の呪術師ぶりを見せていた。

5/15

【新日本プロレス】

ドラゴン、小川追放案ちゃっかり撤回

朗報! 毎日毎日、我々ドラゴンウォッチャーを楽しませてくれるドラゴンの社長続投がほぼ決定! すっかりゴキゲンのドラゴンはこんなことを言い出した!「大事なのはファンが望むカードを実現すること。小川の参戦は当然考えられるでしょうね」と呪い殺す勢いで追放を要求していた人間と同一人物とは思えないほどいけしゃあしゃあと発言。「百歩譲っても、将来の新日本マット参戦は難しい」とまで言っていた、小川を今度は7・20札幌ドームの目玉にしようと画策。だからコンニャクだと言われるんだって!

【DEEP2001】
後楽園ホール4階踊り場

『DEEP』第2弾、8・19横浜文体で開催決定!

今年1月8日に愛知県体育館で第1弾興行を行い、村浜vsホイラー、美濃輪vsリボーリオなどの好カードを組んで好評を博した「DEEP」の第2弾興行が8月18日横浜文化体育館で開催されることが発表された。この日は、パンクラスの近藤、謙吾、U-FILEの上山の参戦を発表。さらに謙吾の相手としてアメリカ、アジア、ブラジル、ヨーロッパ、ロシア以外の超大物選手の参戦を予定しているという。また、年末には両国国技館進出も内定しており、「PRIDE」に次ぐイベントに育つか!?

【新日本プロレス】
東京プリンスホテル

アントン一喝!「藤波は何がやりてぇんだ!」

なごやかに進む「アントニオ猪木写真集出版記念パーティ」の席を少しの外し、アントンがプロレス誌、スポーツ紙向けの会見を行った。話題の中心はもちろん新日本プロレス。前日、ドラゴンに「猪木、小川追放」案をブチ上げられたことには、まず「そういう次元の低い話をするのはウンザリ」とドラゴンを「低レベル」と断罪。さらに「記者のみなさん、藤波社長に聞いてやってください。指揮官としていったい何がやりてぇんですか!って」「オレとケンカしてぇなら、してみなよ!そんだけ」と痛いところを見事につくアントンであった。

5/7

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

ドラゴン案、たった一日で却下!

ドラゴンがパーマ頭をふるわせながら「小川追放」を宣言した翌日、新日幹部会が開かれ、そこでドラゴンの「小川追放案」と営業的見地とファンのニーズを盾にした「小川起用案」が真っ向から対立。「僕らは現場の人間として可能性を追求する。論議する場では相手が社長でも対等に話し合う」と倍賞鉄男専務取締役が語る通り、4時間に渡る激論の末、結局、「追放」はとりあえず見送りとなり、ドラゴンが吠えに吠えた「小川無用論」は事実上たった一日で棄却された。嗚呼、ドラゴン……。

特報

【6月11日 ZEPP TOKYO】
G.C.M. The CONTENDERS M-1

コンテンダーズ、豪華カード発表!!

バレット・ヨシダ vs 五木田勝
矢野卓見 vs 戸井田カツヤ
阿部裕幸 vs 若林次郎
山本“KID”徳郁 vs 小室宏二

宇野薫&高瀬大樹 vs 鈴木みのる&伊藤崇文
(和術慧舟會東京本部) (パンクラス横浜)

その他のカード

廣野&漆谷 vs 石井&阿部
上山龍紀 vs 石川英司
星野勇二 vs 五味隆典

回を重ねる毎に、メンバー、対戦カード、イベントのクオリティーがグレードアップしていく、組み技格闘イベント『コンテンダーズ』の全対戦カードが決定！　一瞬アブダビ王子が主催なんじゃないか?と思うくらいの豪華メンバーが揃った！　中でも注目は宇野&高瀬vs鈴木&伊藤。慧舟會のツートップとパンクラスのキャッチレスリング師弟コンビが激突！　10分3本勝負ということで、力の差がハッキリと出る可能性もあり、見逃せない。さらに8人参加のライト級トーナメントは、マニア失神寸前のヨダレものメンバー。バレットvsヤノタク実現なるか!?
問い合わせ■03-3538-5801

5/16

清き一票をよろしくお願いしま〜す！

【掣圏道】

押忍！ 佐山が参院選に出馬！

押忍（敬礼）！　我らが愛の格闘家、佐山サトル館長が、なんと夏の参院選に自由連合（代表・徳田虎雄、虎つながり!）の比例代表候補として立候補することが明らかになった！　いつものスーツ型道着ではなく、普通のスーツで会見に挑んだ佐山は「武道を通じたモラル形成、礼儀のある社会の実現に取り組みたい」と掣圏道の道場訓のような抱負を述べた。選挙期間中は「ただの布きれ」こと虎のマスクを被っての運動も考えているというから、実にたのしみ。何事も10年早い佐山のこと、選挙への出馬も10年早いなんてことにならないよう、いまは祈るのみだ。清き一票よろしくお願いしま〜す。

ちょっとだけな♥

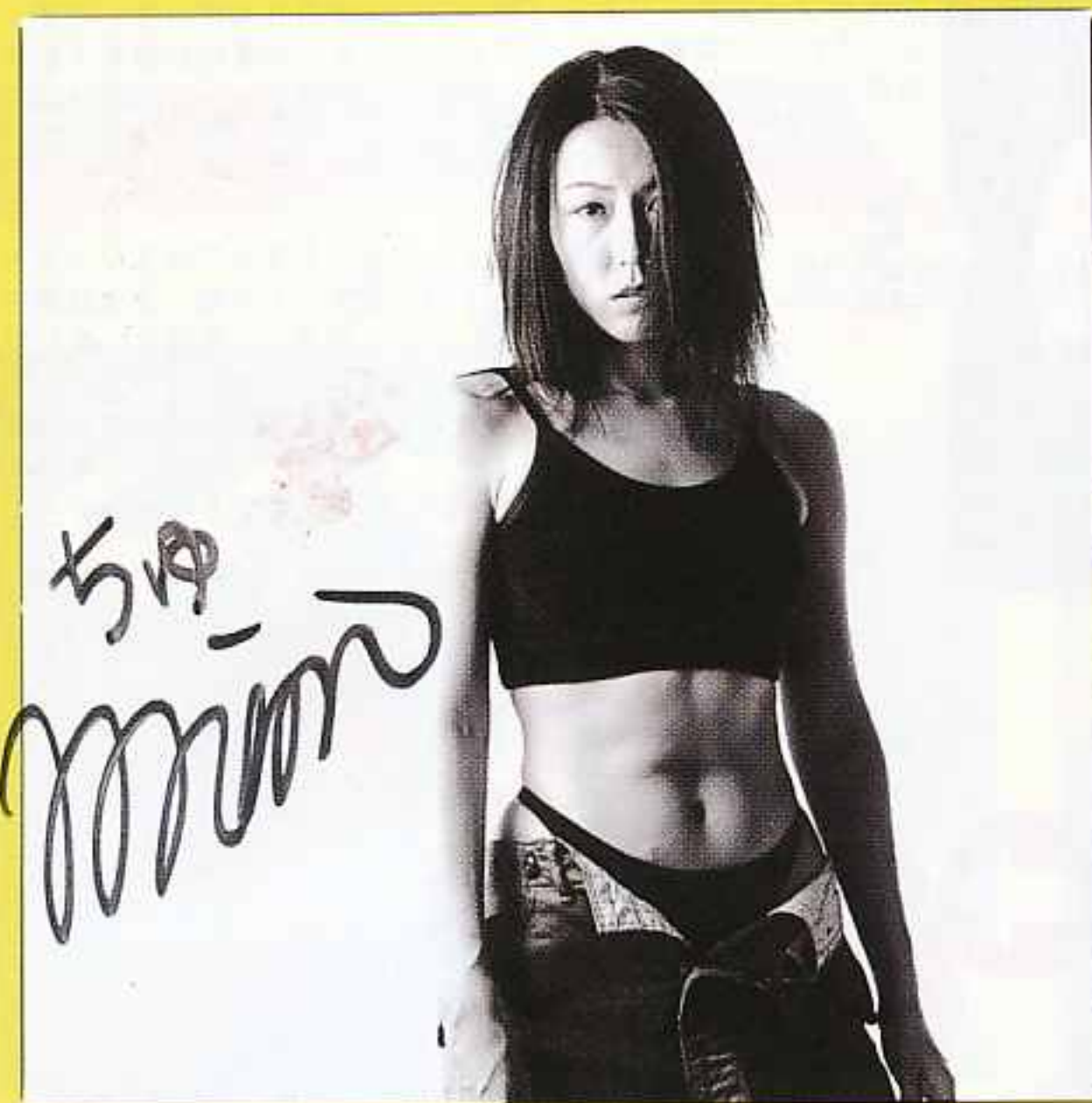
ジャイアント・セクシー♥サービス vol.4

ⓒ中川画伯

キミのハートに直撃DDT♥

ナオミ・スーザン

未公開ポートレート（キスマーク入り）

1名様

未公開、キスマーク入りのポートレートはDDTの会場でも販売してねえんです!! ナオミ・スーザンのオトナのオンナの魅力を心ゆくまで味わえ!!
【ナオミ・スーザン提供】※カメラマン菊野輝之

今月のくやしいけれどお前に夢中

吉岡美穂 オフィシャルカードコレクション

3名様

さくら堂提供によるオフィシャルカード・コーナー♥ 今月はレースクイーンの吉岡美穂ちゃん（２２歳）が登場だ。このカードには限定ながらレター交換カードが入ってることだ!! 美穂、ボクに悩みを打ち明けてごらん♥
【さくら堂提供】
※お問い合わせ03-56686-7651

HEY! HEY! おまえと殺りた〜い!

キャット・ファイター・『猫の穴』

PP―7ちゃん 1日デート券

1名様

話題沸騰のキャット・ファイター・『猫の穴』PP-7ちゃんの1日デート券をプ・レ・ゼ・ン・ト♥ このデート券は読者だけではなく、レスラーや関係者からも幅広く応募をお待ちしています。ちなみにPP－7ちゃんの好きな団体はノア♥。ノアが好きな方、詳しい方は大変有利ですよ。それではたくさんの応募をお待ちしてますよ。

なぜかDSE石黒様より
WWF『レッスル・マニア』リングサイド椅子

1名様

大会日やカッコいいWWFのロゴが入った『レッスル・マニア』リングサイド椅子をなぜかDSE広報・石黒さんよりプレゼント!! アメリカではこれの取り合いで暴動が起きてしまうほど、もの凄くプレミア度が高い椅子なのだ。手に入れたら、さっそく学校や職場に持ち込んで、どんなに凄い椅子なのかを座りながら自慢しよう(カート・アングル風に)

ボブチャンチンは『紙プロ』がダイスキデ〜ス!!

突然のボブチャンチン・グッズ・ラッシュ

Tシャツ・白 3名様 SIZE L

ステッカー 5名様

『PRIDE』のおみやげにハラショー!!

PRIDE銘菓「ボブさんクッキー」『PRIDE.14』より発売!!

SRSがファステングなら『紙プロ』はボブさんクッキーです！というわけで栄養満点のボブさんクッキーの食用効果を下記7分の1ページでお届けする(SRSのファスティング記事ははは7ページ)

5名様

ところがボブさんクッキーを食べた途端、骨太野郎に大変身!!『本隊は、新日ジュニアはオレが守る！』と無闇に吠えながらも、覇気の方も十分に!! スゴイぜ！ ボブさんクッキー!!

食べる前

7年間、麻雀牌より重いモノを持ったことのない『紙プロ』見習いの斉藤フリテンくん。体も貧弱なばかりか覇気もない。まるで観光気分で来日したムエタイのタイ人の様だ。

食べた後

設立記念グッズをあげる!!

格闘探偵団バトラーツ5周年記念駒沢大会パンフレット&5周年記念ビデオ

ナーシャ!! 見ないヤツは馬鹿なんだ!! やるから見てみぃ!!【バトラーツ提供】

各2名様

リングス設立10周年記念・公式テーマ曲集

聞けばリングスの歴史がキミの脳裏に甦る！ 近所迷惑になるぐらい前田コールを叫べ!!

【ポリスター提供】

お問い合わせ03-5721-3215

サクラ・サク!! サク・プレミアムグッズプレゼント

2名様

桜庭読本(サクラバ・トクホン)

桜庭のステキなショット満載のとっ〜〜〜てもレアな「トクホン」特製グッズ『桜庭読本』をプレゼント!! ここでダメなら直接「トクホン」に応募だ!!

【応募先】103-0023 東京都中央区日本橋元町4-1-2 トクホン「トクホンVダッシュ」新発売キャンペーン係

hhp//www.sakutoku.net【トクホン提供】

リングス滑川&兄貴分 福健慈さん提供

「さくぼん」が欲くて編集部までやって来た、滑川選手と物々交換した品がこれ!! 滑川選手の兄貴分の福健慈さんもありがとう! みんなありがとう!! ワーイ ワーイ(河口仁の様に)

1名様

ブルース・リーキーホルダー

1名様

ストーン・コールドパンチング人形

何度でも頭を下げる。だから着てくれ!! Tシャツ特集

バンバンビガロ イベント限定レアTシャツ

トランスフォーマ風・黒

トランスフォーマ風・白

インベーダー・青

インベーダー・黄

これらの他にまだまだビガロにはカッコイイTシャツがたくさんあるぞ!! ビガロTシャツのローテーションが1週間は組めるぐらい買い込もう!!【バンバンビガロ提供】
※お問い合わせ03-3460-1145
http://www.bambam88.com/contents.html

のものも提供 IRON GIANT Tシャツ

各2名様

各3名様

な、なんと、のものも姉さんが突然Tシャツを大量プレゼント!! のものも姉さんからプレゼントされたらもう春夏秋冬、着続けるしかない!

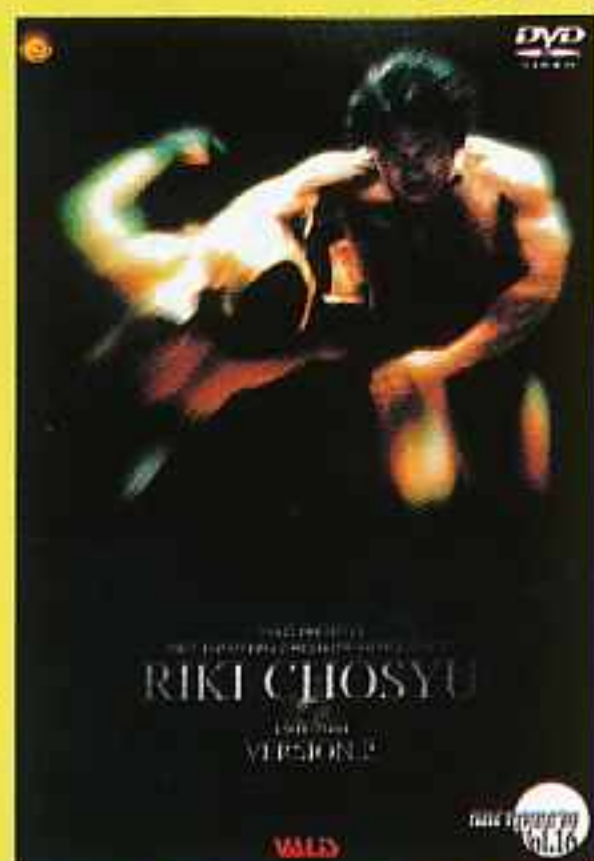
セキュリティTシャツ
プロレス・格闘技の興行をスムーズに運営サポートするジャッジ・サポート・スタッフ限定Tシャツ
【ジャッジ・サポート提供】

キック・トランス
「RAVING HIGHT THE WALL」
イベントTシャツ
【FLAG・Z提供】

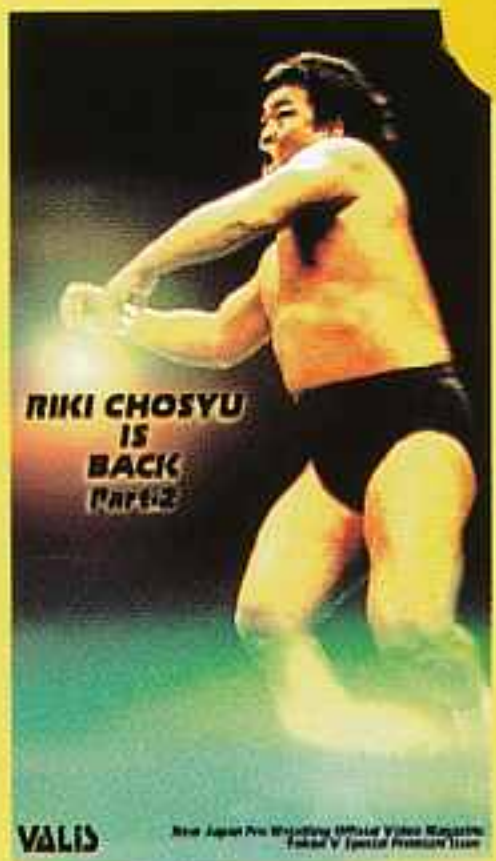
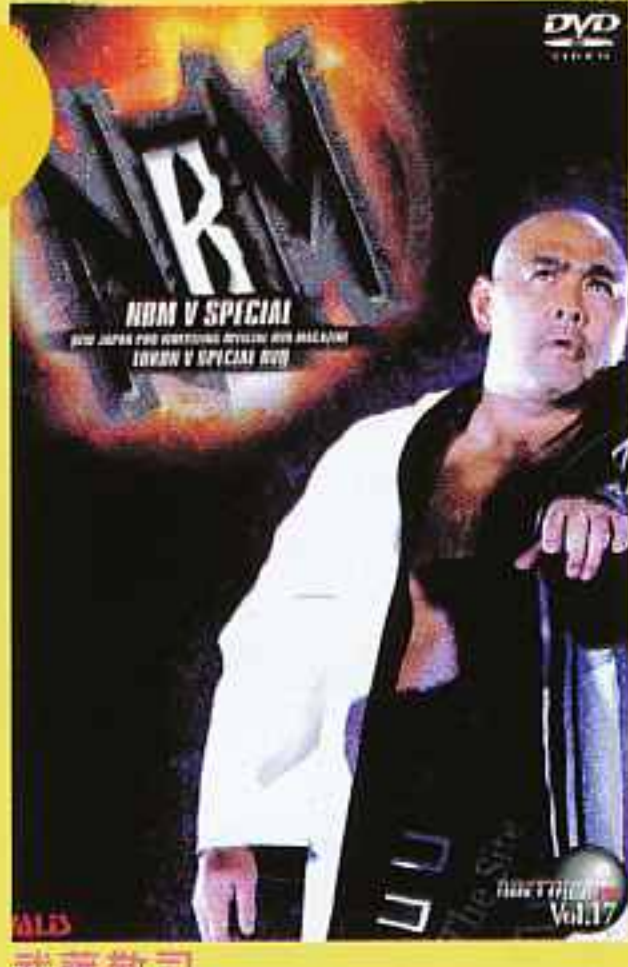
DVD・ビデオでもう一丁!!

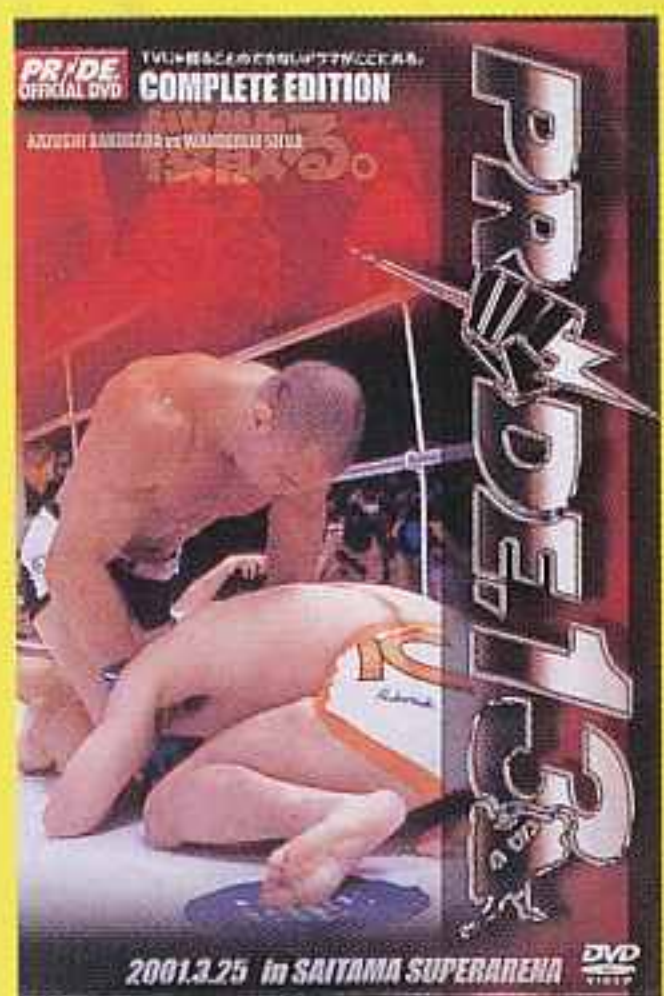
長州力の大洪水を喰らえ!!

各3名様

長州力1991-2001（DVD）

復活!! 長州力Part.1（ビデオ）

復活!! 長州力Part.2（ビデオ）

3本とも復活後の試合も収録しており、ハイスパートレスリングマニアにはたまらない長州特集。ヒクソン戦も噂される長州だけに、これを見てヒクソンにガードポジションからクソぶっ掛……いやサソリ固めをかける姿を妄想しよう。
【ヴァリス提供】

武藤敬司
NBM V SPECIAL（DVD）
武藤のトークバトル9連戦!! マサや永島などの対談者の中にナント我らがドラゴンが! 当選者は感想レポートをお願いします!! 【ヴァリス提供】

PRIDE.13 ビデオ・DVD
サクラ、チル…。衝撃だった『PRIDE.13』の桜庭の敗戦。もう1丁脳裏に焼き付けて3代後まで語り継ごう! 感動の安田人生劇場・佐竹戦も収録!（涙）
【メディアファクトリー提供】

応募要項

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼あなたが知りたい噂の真相は何でしょう?

応募券

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「G・読者サービスvol.4」係まで
※締切は2001年6月00日（ ）当日消印有効

いつ何時、何にでも付けろ!!

5名様

オーちゃん
目を覚ましてくださいピンバッジ
オーちゃん定番キャラはまだまだ大活躍! キミは何種類持ってる? 【小川直也提供】

こんなフィギュア見たことない!!

2名様

藤崎忠優
「地を這う豪傑」フィギュア
一度手にしたら忘れられないの藤崎忠優「地を這う豪傑」フィギア!! 黄金バージョンもたまらないぞ。セットで買うぞ!! 【ZERO-ONE提供】
お問い合わせ・高円寺ショットガントイ
03-3315-4161

真の参議院とは

3名様

佐山聡 ブレイブ・オン・ハート 真の勇者とは
先号の「書評の星座」にも登場した掣圏道・佐山総帥の真の勇者になるための著書。虎戦士、UWF、修斗と常に時代をリードしてきた佐山の未来予想図を感じよう。
【ビジネス社提供】

5月18日付でリングスを円満退団

成瀬昌由 フリーに!!

今号の締め切り間際。ヤマノリ、成瀬が10周年記念大会を前に、リングスを離れフリーに!!　という電撃的衝撃的なニュースが飛び込んできた。どうするどうなるリングス！　どうするどうなるヤマノリ&成瀬！

構成／編集部
designed by さおとめの事務所

5月18日の午後6時過ぎ、締め切り間際でドタバタの編集部に、（株）リングス代表取締役・前田日明名義で、一通の書面がFAXされてきた。まずは、時候の挨拶から入る文面の、その後をそのまま掲載してみよう。

『さて、5月期からの選手契約更新にあたり、リングスの第一期生でもある山本憲尚選手、成瀬昌由選手と本日まで種々話し合いをしてまいりましたが、本日、平成13年5月18日をもって、円満退社となりましたことを御報告申し上げます。

両選手は、「先の短い選手生活の将来を考え、自由な立場で今後の選手活動を送りたい」との意志が大変強いため、弊社も両選手のこの意思を尊重し、「フリー」になることを承諾致しました。

なお、山本選手、成瀬選手にはリングス在籍10年の経験を糧にし、更なる活躍をしてもらいたいと願っております。

最後になりましたが、今後とも両選手の活躍に皆様の御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます』

山本、成瀬といえば、本誌前号で対談をしてもらった同期の桜コンビだが、まさか対談から退団へ繋がるとは思いもよらなかった。

両選手は、最後の前田日明直系の弟子といっても過言ではないため、8月のリングス10周年記念大会を前にしてのフリー宣言は唐突な感じは否めない。2人とも、4月いっぱいで前期の契約は切れており、5月に入ってでも今期の契約は保留という形になっていたのだが、前田総帥の秘蔵っ子と言われたヤマノリまでが退団を決意した裏では、リングス内で何かとてつもないことが起こったのではないかと勘ぐる向きがあってもおかしくない。

山本 成瀬 フリーに!!

リングスが旗揚げした翌年にデビューしたヤマノリと成瀬。この2人の、リングスへの愛着は人一倍強かったのだが、今回リングスの外へと旅立つこととなった

実際、4・20の代々木大会の試合後のバックステージでは、前田総帥がヤマノリを殴打する場面がマスコミ、関係者に目撃されているのだから、なおさらだ。

しかし、どうやら送られてきた文面にある通り、両選手は、リングスと話し合いの上、円満退社という形になった模様だ。

本誌編集部は、リングスから書面が流れてきてから、すぐに両選手のコメントを取りに走った。成瀬は掴まらなかったが、運よくヤマノリからは退団の理由を聞くことができた。

以下は、ヤマノリのコメントである。

「4・20の代々木の控え室で、前田さんに小突かれたのは事実だけど、それが直接の退団理由じゃないです。あれは師匠と弟子の範囲内の出来事ですから（笑）。前田さんは、いまでも僕の師匠だし、リスペクトしてます。

今回、僕が退団を決意したのは、どうしてもリングスという自分が育った場所にいると甘えも出ちゃうし、ここは10年というのを区切りに、フリーになってファイターとして自分のやりたい闘い、面白い闘いがしたいと思ったからです。そんなにあと何年もできる職業じゃないし、いまのうちにできることをやっときたいんですよ。

前田さんとは、5月の頭に一度ジックリ話し合って、その後、正式に15日に辞表を提出して再度話し合ったんですよ。前田さんも僕の気持ちを理解してくれて、最後に『10年間お世話になりました』と言ったら、『うん』と言って、気持ちよく送り出してくれましたね。残る選手やスタッフの人たちと離れるのはなんかシンミリしちゃう部分もあるけど、自分の意志を伝えて、みんなにも納得してもらいましたから。リングスでやってきたことを誇りに思って暴れますよ！」

リングス側に確認しても、「きな臭い話はいっさいなしで、気持ちよく送り出した」ということだ。8月11日に有明で開催される10周年記念大会には、「フリー」の山本、成瀬に出場オファーをすることもあるという。

ところでヤマノリは、話の最後に力強くこんな爆弾発言をカマした。

「リングスで悔いが残ってることが一つあるんですよ！　小川直也！　あいつと一度やるやらないとなったことがあったでしょ。それを俺は忘れてない。リングスに所属してたら彼とは闘えない。それなら俺が外に出て追っかけるしかないでしょ。それも退団理由の一つです。いまは接点もなにもないけど、必ず追い詰めて、男と男の勝負をしてやりますよ！」

高田の〝忘れ物〟に続いて、ヤマノリの〝忘れ物〟も小川直也だったのだ!!

モテモテの小川は、この執念の挑戦に対し、どんな返答をするのか？　残念ながら小川にコメントを取ろうにも、間に合わなかった。

「橋本さんも格闘技のほうに進出する話があるみたいだし、『PRIDE』にはリングスの元チャンピオンのアイブルもいる。燃えられる相手を徹底的に追いかけます！」

話をこう締め括ったヤマノリの動きは、早くも活性化していきそうな勢いだ。

一方、2・20にヘルニア地獄から生還し復帰戦を飾った成瀬も、リングスではできなかった闘いに挑んでいく可能性は高そうだ。次のステージはどこか、これも要注目である。

ある意味で団体の核ともいえる山本、成瀬両選手を欠いたリングスだが、6月15日の横浜大会は予定通り開催する。金原、滑川は今期も契約し、残る契約保留者は、5月18日現在、田村潔司だけだという。

これを機に、〝団体〟という概念を超越し、リングスは本格的な〝場〟へと変貌するのか。それとも所属選手が少なくなったことで求心力を失っていくのか。今後の前田日明の手腕にも注目が集まる

電撃!! これから いったい何が起こるのか!?

慟撃!!

進撃!!

山本憲尚

ヤマノリは小川直也に挑戦状

紙のプロレス RADICAL
No.38
2001年6月25日発行

No.39は 6月下旬発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

●編集兼発行人
山口日昇

●編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ（千秋楽）
松澤チョロ
堀江ガンツ
八木賢太郎（GWメチャクチャ忙しかったため非番）

●編集見習い
斉藤フリテンくん
片山クン

●スーパーバイザー
吉田豪

●助っ人
中村愚乱
金田謙太郎
中村カタブツ君

●アートディレクター
出田さん（TwoThree）

●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
ミネ（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）

海老沢勇（Zero graphics）

古賀ゆきえ

●出前
出前持ち入江（TwoThree）

●カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和

●試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

●河愛かすみ大好き！
ジャイ子

●お勘定＆衣料部
林ヘックション一枝

●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

●印刷
図書印刷株式会社

●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社　〒160-8580　東京都新宿区内藤町一番地　TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元●株式会社ダブルクロス　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　TEL.03-3403-5188（編集・制作）

SS Tシャツ長ソデ、リングおじさんトレーナー、バトTシャツ、ジャイ子Tシャツの通販分は完売しました。下欄外の直販店でお求め下さい。

U.M.F. Tシャツ〈黒×黄〉

¥3,800　S or M or L（SOLD OUT）

左ソデに光るワンポイント

ストーンコールド様の座右の銘は誰も信じるな! ……でも紙プロTシャツだけは信じろ!

くまゆうさく先生書き下ろしのイラスト大好評「U.M.F. Tシャツ」新色Tシャツ!!　なんといっても左ソデのワンポイントがたまらない。左肩を出し気味に歩こう!!

紙のプロレスRADICAL　おもいっきりロゴT

¥3,800　S or M or L（SOLD OUT）

後ろのロゴが重要だぜ! なんたってストーンコールド様がそう言ってるのだからな!!

2001年を記念して作られた、21世紀初の『紙プロ』Tシャツをあなたに!　背中には本誌ゆかりの関係者が、格闘技Tシャツばりに総登場!　これは要チェックだ!!

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500　S or M or L（SOLD OUT）

すっかりおなじみSSTシャツ!! 持ってる方もプレゼント用、保存用、観賞用にとりあえずもう1丁!

オースチン3章16節いわく、夏は紙プロTシャツ!!

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500　S or M or L（SOLD OUT）

やっぱり某団体よりもこっちのが方がカッコいい!!　ホンモノがわかるあなたにピッタリ!!

SS Tシャツ長ソデ、リングおじさんトレーナー、バトTシャツ、ジャイ子Tシャツの通販分は完売しました。下欄外の直販店でお求め下さい。

紙プロネックピース

¥~~1,200~~→大特価¥600

大処分特価のため人気集中の紙プロネックピース!　品切れ間近なのでお早めに!

【紙プロウェアが常備のデキルお店】通販以外のお求め方法はチャンピオン東京店（TEL.03-3221-6237）、チャンピオン大阪（TEL.06-6645-5186）、岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）、宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）、大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）、東京（神保町）グレート・アントニオ（TEL.03-3219-9550）で借金してでも買え!!

必読!! 通販方法が変わります

通販方法

希望商品の代金＋送料¥500（何枚でも:ネックピースだけなら¥300）を郵便振替で、下記住所まで送ってください。あなたの郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）を通信欄に必ず記入すること!　これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのTシャツやパーカーと一緒の申し込みもOKですよ。

■郵便振替の宛先

00130-3-769154

（株）ダブルクロス
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷3-11-3-702

お問い合わせ先（株）ダブルクロス TEL03-3403-5188

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 176
2001 NO.38
小川直也は是か非か!!
平成13年6月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体800円＋税

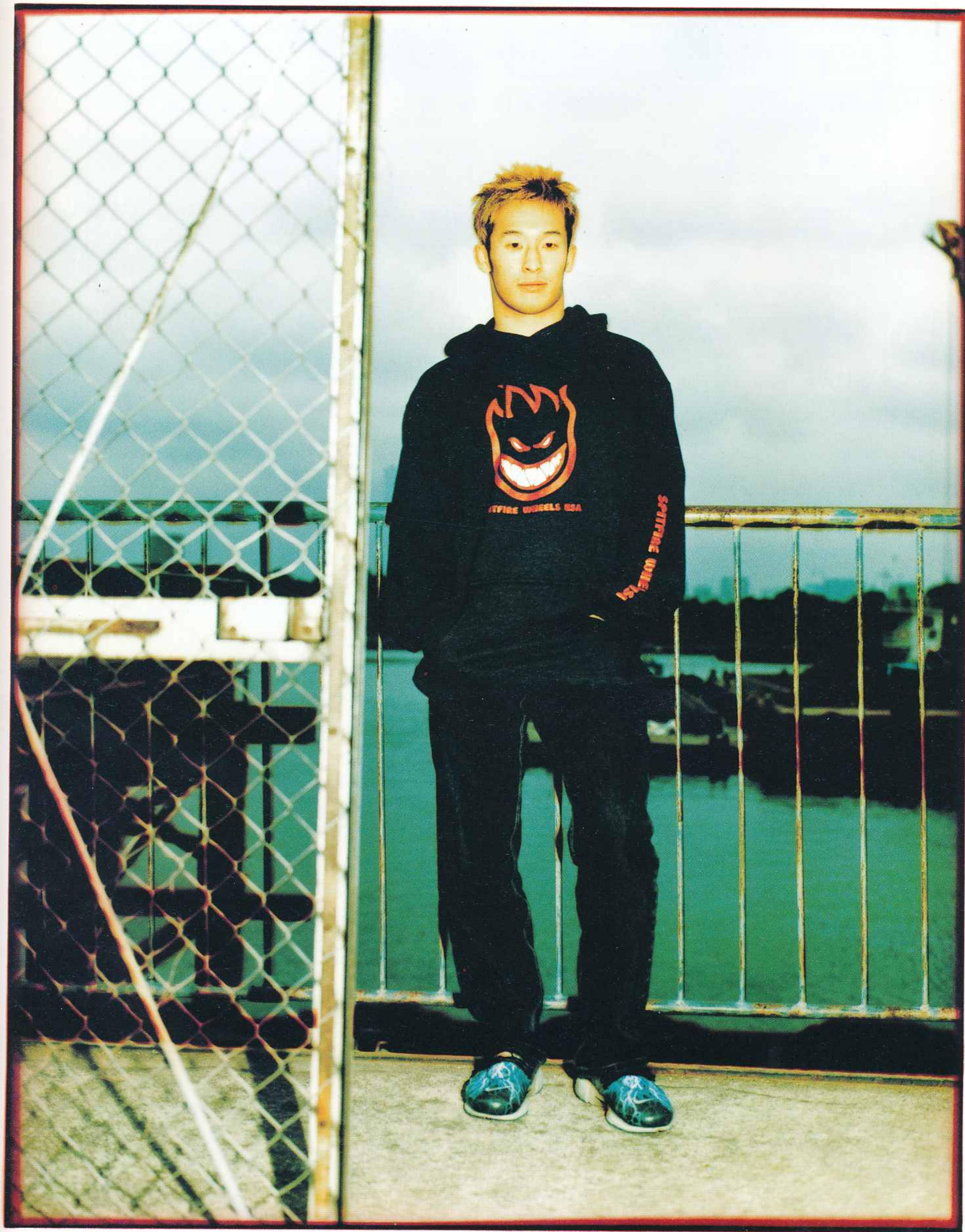
9784898296578
ISBN4-89829-657-2
C9476 ¥800E
1929476008008
雑誌 69862-76

印刷：図書印刷株式会社

TLINDEX

団体	電話	住所
全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
高田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワールドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8 TOWA元町ビル901
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3 大北ビル3F
ZERO-ONE	03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F−E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	03-3312-0328	〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21 ハイネス梅里201
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
K−1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-5725-7338	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10 エビスユニオンビル202サステイン
GCM COMUNICATION(和術慧舟會、A³GYM、RJW)	03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
シュートボクシング協会	03-3843-1212	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1〜3F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	03-5473-3148	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd’	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
エヌ・イー・オー	03-3796-7461	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-19-13 ドミシール平野503

FujiMaru

PRO-WRESTLING NOAH

姑息に女性ファン拡大企画『紙プロ』初！ 正統派ポートレート　丸藤正道

春さん、次はアラブの大富豪 ダーーーッ!!

モデル上／5・5新日本福岡ドーム大会でドン・フライのセコンドとして突如登場したアラブの大富豪。なんでも新日本の株を買い占めに現れたという。モデル左上／4・22バンバンビガロ（洋服屋）北沢タウンホール大会に姿を見せた人生のホームレス.闘魂棒もブンブン振り回していました。正体は言うまでもないので言いません。1・2・3ダーーッ!

春一番！

元気が一番！
元気があれば
ホームレスもできる！

春さ
次は
ダー

CAL CALENDAR

)

)

00)
ホール(18:00)

(18:00)

)
00)

8:30)

(18:30)

明(19:00) ♠
ー(18:30)

9 SAT.

ノア■東京・ディファ有明(18:30)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(18:00)
アルシオン■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
みちのく■岩手・西根町ゲンデルランド(19:00)
闘龍門■静岡・アクトシティ(18:30)

10 SUN.

ノア■山梨・アイメッセ山梨(15:00)◎
FMW■埼玉・越谷市西体育館(17:00)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)
コンテンダーズM－1■東京・ZEPP TOKYO(16:00)◆★
大阪■兵庫・明石公園(12:00)
アルシオン■北海道・伊達市体育館(13:00)
みちのく■宮城・鹿島台町鎌田記念ホール(14:00)
闘龍門■東京・後楽園ホール(12:00)
全女■東京・ディファ有明(12:30)
Jd'■東京・ディファ有明(18:30)

11 MON.

全女■愛知・岡崎市体育館(18:30)

12 TUE.

ノア■長野・長野運動公園総合体育館(18:30)
IWA■山形・米沢市営体育館(18:30)
みちのく■青森・六戸町総合体育館(18:30)

13 WED.

IWA■山形・酒田市営体育館(18:30)
アルシオン■北海道・室蘭市体育館(18:30)
みちのく■山形・平田町民体育館(18:30)

14 THU.

ZERO-ONE■大阪・大阪城ホール(19:00)
IWA■山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)
アルシオン■北海道・旭川市大成市民センター体育館(18:30)
みちのく■山形・尾花沢市民体育館(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)

15 FRI.

リングス■神奈川・横浜文化体育館(19:00)◆★
ノア■新潟・新潟市体育館(18:30)
アルシオン■北海道・留萌市スポーツセンター(18:30)
みちのく■福島・塩沢町体育館(18:30)

16 SAT.

闘龍門■神戸・チキンジョージ(19:00)
ノア■宮城・宮城県スポーツセンター(17:00)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(18:00)
アルシオン■北海道・釧路市コミュニティー体育館(18:00)

17 SUN.

みちのく■北海道・月寒グリーンドーム(15:00)
ノア■栃木・小山ゆうえんちアメリカン・ビレッジ(17:00)
バトラーツ■東京・半蔵門・TOKYO FMホール(14:00)
大阪■大阪・フェスティバルゲート(16:00)

20 WED.

ノア■東京・後楽園ホール(18:30)

21 THU.

ノア■富山・富山産業展示館テクノホール

22 FRI.

新日本■長岡市厚生会館(18:30)

23 SAT.

新日本■神奈川・小田原アリーナ(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(18:00)
みちのく■宮城・ニューワールド仙台(19:00)
大阪■京都・JR京都駅ビル7F広場(16:00)
バトラーツ■埼玉・越谷桂スタジオ(18:00)
闘龍門■豊橋市総合体育館第2会場(18:30)

24 SUN.

新日本■山形・山形市総合スポーツセンター(15:00)
JWP■東京・ディファ有明(12:30)
ノア■名古屋・愛知県体育館(16:00)
大阪■大阪なんばマザーホール(未定)
K－1■宮城・グランディ21(14:00)
闘龍門■山口・海峡メッセ下関(17:009

26 TUE.

パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)

28 THU.

新日本■宇都宮市体育館(18:30)

29 FRI.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(19:00)
アルシオン■大阪・大阪市立体育会館第2競技場(18:30)

30 SAT.

新日本■岐阜・岐阜産業会館(18:00)
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(未定)

7 July

1 SAT.

新日本■鳥取・鳥取産業体育館(16:00)
闘龍門■神戸・ワールド記念ホール(16:00)

5 THU.

バトラーツ■東京・後楽園ホール(18:30)

6 FRI.

新日本■岡山・岡山県体育館(18:00)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)◎

7 SAT.

新日本■大津・滋賀県立体育館(18:30)
闘龍門■埼玉・越谷市桂スタジオ(18:30)

8 SAT.

新日本■岸和田市総合体育館(15:00)
闘龍門■東京・ディファ有明(15:00)

11 WED.

新日本■盛岡・岩手県営体育館(18:30)

RADICAL CALE

5 May

THU.

のく■鹿児島・国分市屋内運動場 (18:30)
ACK　GIRL■東京・渋谷clubATOM (19:00) ♠
■埼玉・クイック羽生イベント広場 (18:30)

FRI.

■神奈川・横浜文化体育館 (18:30)
のく■福岡・アクシオン福岡 (18:30)
シオン■水戸・茨城県立武道館 (18:00)
本■福島・ビックパレット福島 (18:30)
W■長野・塩尻市立体育館 (19:00)

SAT.

本■神奈川・海老名運動公園総合体育館 (18:30)
■東京・北沢タウンホール (18:00)
■新潟・新潟フェイズ (19:00)
のく■福岡・甘木市甘木青果市場 (18:30)
本■岩手・岩手県営体育館 (18:00)
W■神奈川・伊勢原 (18:00)
門■三重・津ドーム (18:30)
■東京・ディファ有明 (18:30)
A■大阪・梅田ステラ (18:30)
W■東京・後楽園ホール (19:00)

SUN.

本■東京・後楽園ホール (12:00)
■宮城・蔵王町勤労者体育センター (15:00)
グルプロ■栃木・小山市文化センター小ホール (13:00)
『PRIDE.14』■神奈川・横浜アリーナ (15:00) ★
A■名古屋・千種スポーツセンター (13:30)
■東京・ディファ有明 (12:30)
本■青森・黒石市中央スポーツ館 (17:00)
本■静岡・グランシップ (15:00)
門■兵庫・神戸チキン (19:00)
■栃木・佐野ジャスコ (18:30)
W■長野・諏訪湖スポーツセンター (18:30)

MON.

■東京・後楽園ホール (18:30)
■東京・葛飾区金町地区センター (19:00)
本■仙台・宮城県スポーツセンター (18::30)
本■岐阜・岐阜産業会館 (18:30)
■群馬・伊勢崎市民体育館 (18:30)

TUE.

■東京・後楽園ホール (18:30)
本■青森・むつ市民体育館 (18:30)
本■金沢・石川県産業 (18:30)

WED.

本■秋田・大館市民体育館 (18:30)
■長野・アピタ伊那 (18:30)

31 THU.

DDT■東京・渋谷club　ATOM (19:00)
大日本■新潟・上越厚生南 (18:30)
アルシオン■新潟・亀田町 (18:00)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
◎ 斎藤フリテン君

6 June

1 FRI.

新日本■香川・高松市総合体育館 (18:30)
アルシオン■金沢・石川サンアリーナ (18:30)
全日本■静岡・アクトシティ浜松 (18:30)
大日本■福井・三国町民体育館 (18:30)
全女■東京・後楽園ホール (18:30)

2 SAT.

バトラーツ■石川・石川産業会館第2 (18:00)
全日本■兵庫・神戸サンホール (18:30)
新日本■島根・平田市湖遊館 (6:00)
大阪■大阪・フェスティバルゲート (18:00)
全女■静岡・沼津市体育館 (18:30)

3 SUN.

バトラーツ■所沢・くすのきホール (17:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール (12:00)
全日本■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館 (18:00)
GAEA■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール (18:00)
新日本■岡山・津市総合体育館((15:30)
新宿プロレス■東京・歌舞伎町クラブハイツ (18:00)
大阪■大阪・フェスティバルゲート (16:00)
闘龍門■三重・伊賀ゆめドームうえの (15:00)
全女■東京・全女事務所ガレージマッチ (12:00)

4 MON.

全日本■島根・松江市総合体育館 (18:30)
新日本■大阪・大阪府立体育館 (18:00)
大日本■長野・松本めいてつショーホール (18:30)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部 (19:00)
ルチャエイド■東京・後楽園ホール (18:30)
LLPW■滋賀・長浜市民体育館 (18:30)

6 WED.

新日本■東京・日本武道館 (18:00)

7 THU.

アルシオン■北海道・北見市立体育センター (18:30)
全日本■群馬・高崎市中央体育館 (18:30)
全女■千葉・千葉公園体育館 (18:30)

8 FRI.

全日本■東京・日本武道館 (18:30)
白鳥智香子引退記念興行■東京・ディファ有明 (19:00) ♠
アルシオン■北海道・岩見沢スポーツセンター (18:30)

9 SAT.

ノア■東京・ディファ有明 (18:30)
大阪■大阪・フェスティバルゲート (18:
アルシオン■北海道・札幌テイセンホー
みちのく■岩手・西根町ゲンデルランド
闘龍門■静岡・アクトシティ (18:30)

10 SUN.

ノア■山梨・アイメッセ山梨 (15:00) ◎
FMW■埼玉・越谷市西体育館 (17:00
IWA■東京・後楽園ホール (18:30)
コンテンダーズM－1■東京・ZEPP TO
大阪■兵庫・明石公園 (12:00)
アルシオン■北海道・伊達市体育館 (1
みちのく■宮城・鹿島台町鎌田記念ホ
闘龍門■東京・後楽園ホール (12:00)
全女■東京・ディファ有明 (12:30)
Jd' ■東京・ディファ有明 (18:30)

11 MON.

全女■愛知・岡崎市体育館 (18:30)

12 TUE.

ノア■長野・長野運動公園総合体育館
IWA■山形・米沢市営体育館 (18:30)
みちのく■青森・六戸町総合体育館 (1

13 WED.

IWA■山形・酒田市営体育館 (18:30)
アルシオン■北海道・室蘭市体育館 (1
みちのく■山形・平田町民体育館 (18:3

14 THU.

ZERO-ONE■大阪・大阪城ホール (19
IWA■山形・山形市総合スポーツセンタ
アルシオン■北海道・旭川市大成市民セ
みちのく■山形・尾花沢市民体育館 (18
修斗■東京・北沢タウンホール (18:00)

15 FRI.

リングス■神奈川・横浜文化体育館 (19
ノア■新潟・新潟市体育館 (18:30)
アルシオン■北海道・留萌市スポーツセ
みちのく■福島・塩沢町体育館 (18:30)

16 SAT.

闘龍門■神戸・チキンジョージ (19:00)
ノア■宮城・宮城県スポーツセンター (1
大阪■大阪・フェスティバルゲート (18:0
アルシオン■北海道・釧路市コミュニテ

17 SUN.

みちのく■北海道・月寒グリーンドーム (
ノア■栃木・小山ゆうえんちアメリカン・
バトラーツ■東京・半蔵門・TOKYO FM
大阪■大阪・フェスティバルゲート (16:0

20 WED.

ノア■東京・後楽園ホール (18:30)

21 THU.

ノア■富山・富山産業展示館テクノホー

22 FRI.

新日本■長岡市厚生会館(18:30)